

堺市  
男女共同参画に関する  
市民意識・実態調査  
報告書

2026年（令和8年）3月

堺 市



# 目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査項目.....	1
3	調査対象.....	1
4	調査期間.....	1
5	調査方法.....	1
6	回収結果.....	1
7	調査結果の表示方法.....	2
8	調査の精度.....	3
II	回答者の属性.....	4
III	調査結果.....	13
1	男女の役割や地位に関する意識について.....	13
2	家庭生活について.....	35
3	こどもの教育について.....	47
4	介護について.....	56
5	仕事について.....	57
6	地域・生活全般について.....	79
7	様々な暴力について.....	89
8	配偶者や交際相手等からの暴力について.....	98
9	防災対策について.....	134
10	男女共同参画に関する言葉や施策について.....	135
11	自由意見.....	138
IV	調査結果からみられる現状と課題.....	139
V	調査票.....	152



# I 調査の概要 .....

## 1 調査の目的

この調査は、「第5期さかい男女共同参画プラン」の実施期間の評価と、新規計画の策定に向け、現状及び課題を整理することを目的として実施しました。

## 2 調査項目

- (1) 男女の役割や地位に関する意識について
- (2) 家庭生活について
- (3) こどもの教育について
- (4) 介護について
- (5) 仕事について
- (6) 地域・生活全般について
- (7) 様々な暴力について
- (8) 配偶者や交際相手等からの暴力について
- (9) 防災対策について
- (10) 男女共同参画に関する言葉や施策について

## 3 調査対象

母集団 堺市在住の満18歳以上の方を無作為抽出  
(令和7年7月1日時点で18歳以上の方)

標本数 4,000人

抽出方法 区別人口比・性比に合わせ令和7年5月末の住民基本台帳人口（外国人住民を含む）から無作為抽出

## 4 調査期間

令和7年7月16日（水）から令和7年8月7日（木）

## 5 調査方法

郵送配布、郵送またはインターネットによる無記名回答

## 6 回収結果

発送数	未着数	実発送数	有効回収数		有効回収率	
4,000通	20通	3,980通	WEB	372通	計1,365通	34.1%
			紙	993通		

## 7 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・回答があっても、少数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、図表には「0.0%」と示している。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・図表においては「全体」「女性」「男性」それぞれの数値を示しているが、性別の回答には、「その他」及び「無回答」が含まれるため、「女性」と「男性」の数値の合計は「全体」の数値とは一致しない。

## 8 調査の精度

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいですが、実際には適切な数の標本を抽出して調査を行うことになります。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となります。

その精度は、以下の式で表される標本誤差を算出することで把握できます(信頼度は95%とします)。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N：母集団（満18歳以上の市民694,276人） n：標本数（回答者総数1,365人）

P：測定値（回答比率）%

### 【信頼度95%における主要な%の標本誤差】

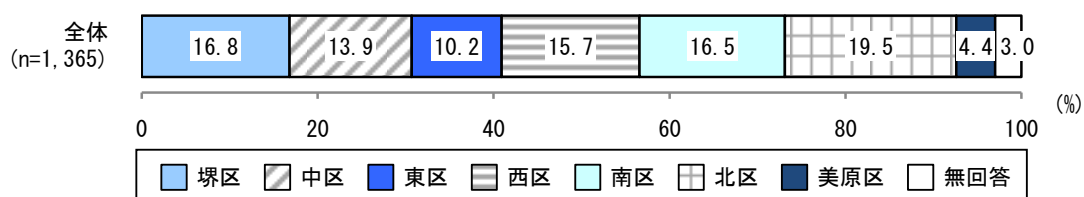
	n	p(%)										
		5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%	
		95%	90%	85%	80%	75%	70%	65%	60%	55%	50%	
総数	1,365	1.2	1.6	1.9	2.2	2.3	2.5	2.6	2.7	2.7	2.7	
<性別>												
男性	723	1.6	2.2	2.7	3.0	3.2	3.4	3.5	3.6	3.7	3.7	
女性	477	2.0	2.7	3.3	3.7	4.0	4.2	4.4	4.5	4.6	4.6	
<年代別>												
女性 29歳以下	67	5.3	7.3	8.7	9.8	10.6	11.2	11.7	12.0	12.2	12.2	
30歳代	70	5.2	7.2	8.5	9.6	10.4	11.0	11.4	11.7	11.9	12.0	
40歳代	101	4.3	6.0	7.1	8.0	8.6	9.1	9.5	9.7	9.9	10.0	
50歳代	148	3.6	4.9	5.9	6.6	7.1	7.5	7.8	8.1	8.2	8.2	
60歳代	122	3.9	5.4	6.5	7.2	7.8	8.3	8.6	8.9	9.0	9.1	
70歳以上	211	3.0	4.1	4.9	5.5	6.0	6.3	6.6	6.7	6.8	6.9	
男性 29歳以下	39	7.0	9.6	11.4	12.8	13.9	14.7	15.3	15.7	15.9	16.0	
30歳代	47	6.4	8.8	10.4	11.7	12.6	13.4	13.9	14.3	14.5	14.6	
40歳代	73	5.1	7.0	8.4	9.4	10.1	10.7	11.2	11.5	11.6	11.7	
50歳代	85	4.7	6.5	7.7	8.7	9.4	9.9	10.3	10.6	10.8	10.8	
60歳代	99	4.4	6.0	7.2	8.0	8.7	9.2	9.6	9.8	10.0	10.1	
70歳以上	131	3.8	5.2	6.2	7.0	7.6	8.0	8.3	8.6	8.7	8.7	

例として、問3の「もっと女性が増えた方がよい職業や役職」の結果をみると、「裁判官・検察官・弁護士」は全体で50.0%であり、表の「全体」の欄で最も近い値（50%）は「2.7」となっています。そのことから、母集団（満18歳以上の市民全体）を対象に調査を行えば「裁判官・検察官・弁護士」における回答比率は、50.0%の±2.7で、47.3%～52.7%の間であると推測されます。

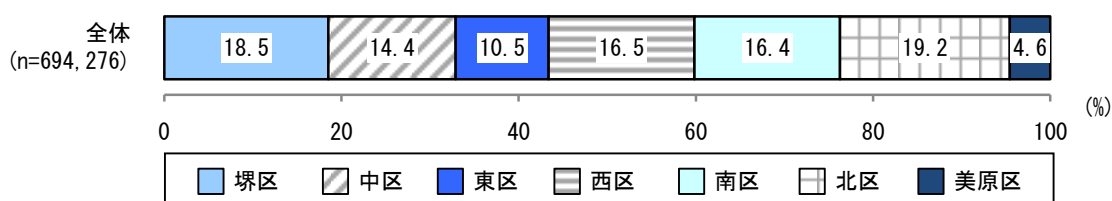
※信頼度95%とは、同じ方法で100回調査すれば、95回は真の値から、上式で求められた誤差の範囲内に入ることです

## II 回答者の属性 .....

### ■居住区

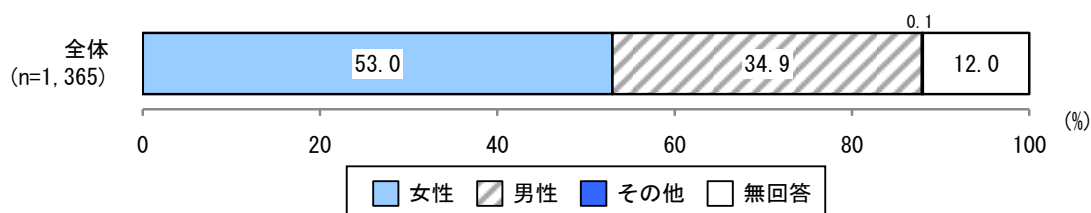


【参考：堺市18歳以上居住区別住民基本台帳人口割合（令和7年5月末現在）】

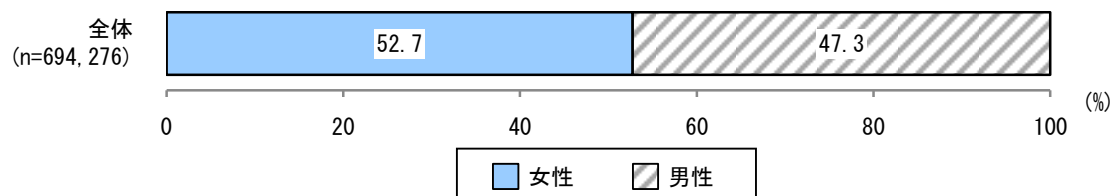


（「住民基本台帳（外国人住民を含む）による世帯数・人口（令和7年5月）」を元に作成）

### ■性別

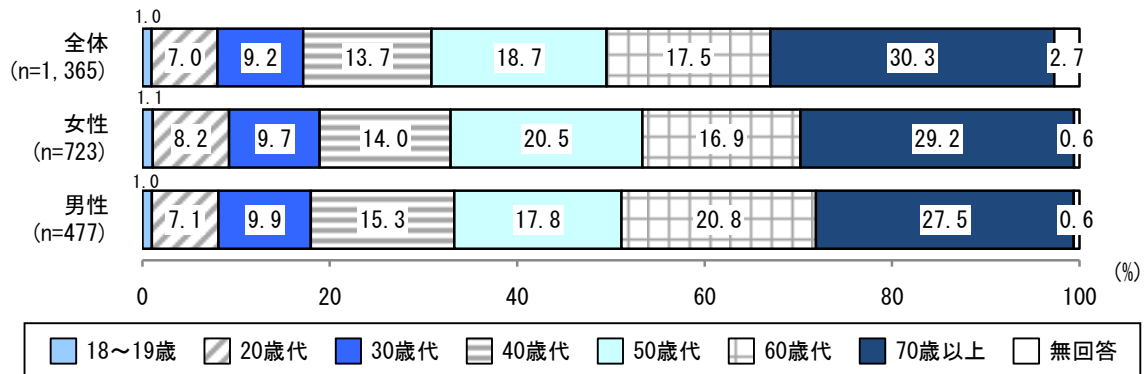
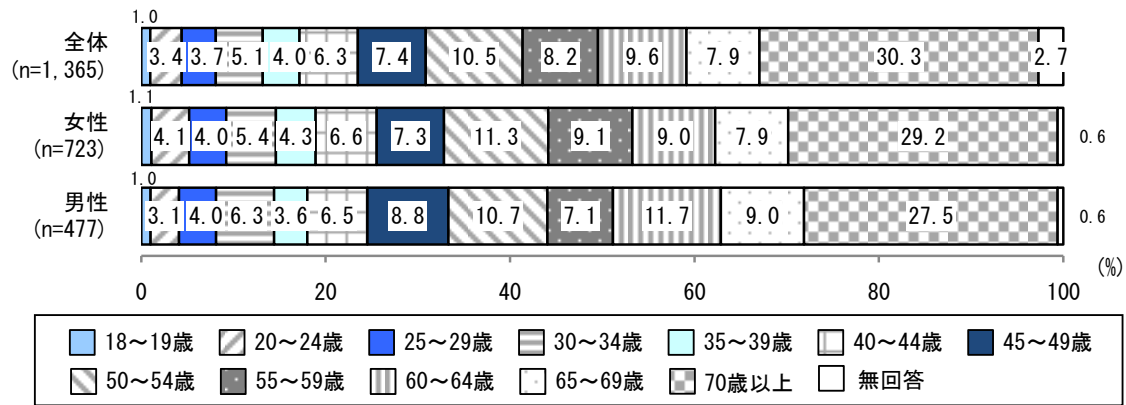


【参考：堺市18歳以上性別住民基本台帳人口割合（令和7年5月末現在）】

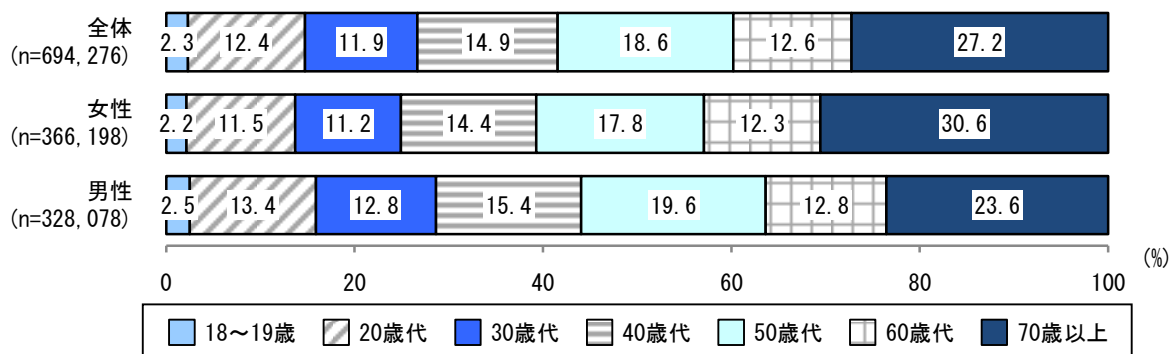


（「住民基本台帳（外国人住民を含む）による世帯数・人口（令和7年5月）」を元に作成）

■年代別

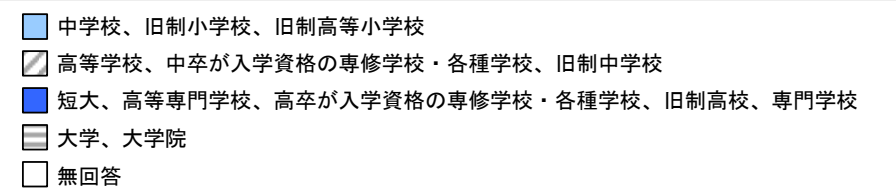
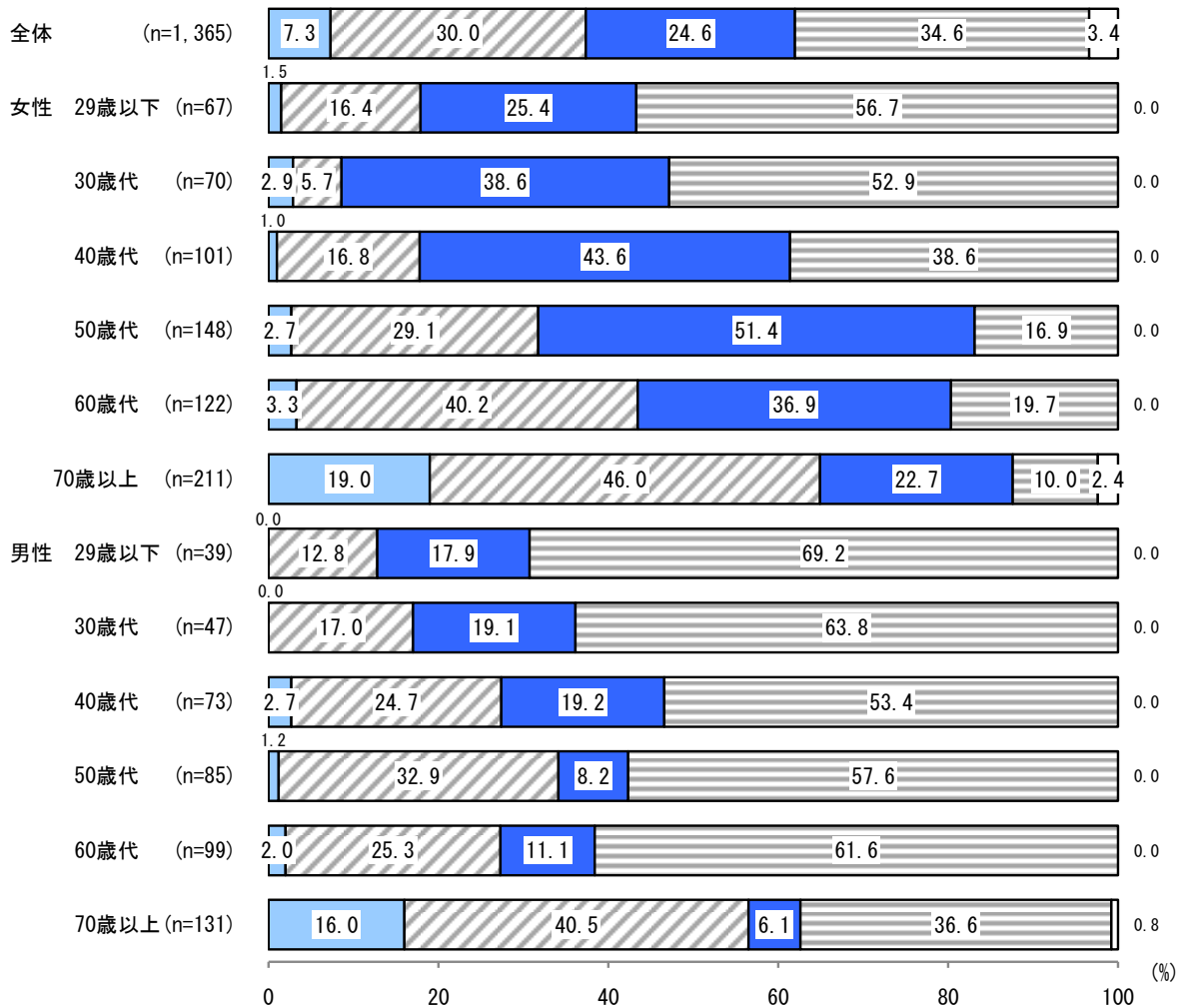
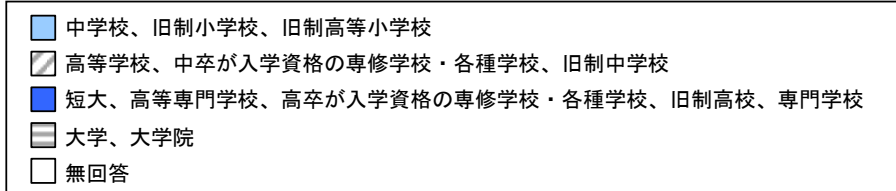
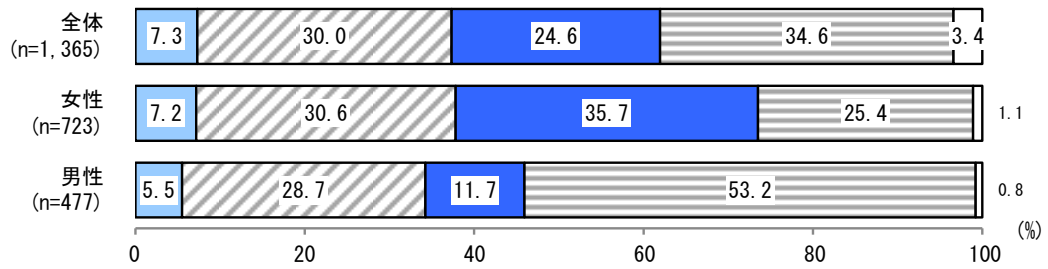


【参考：堺市18歳以上年代別住民基本台帳人口（令和7年5月末現在）】

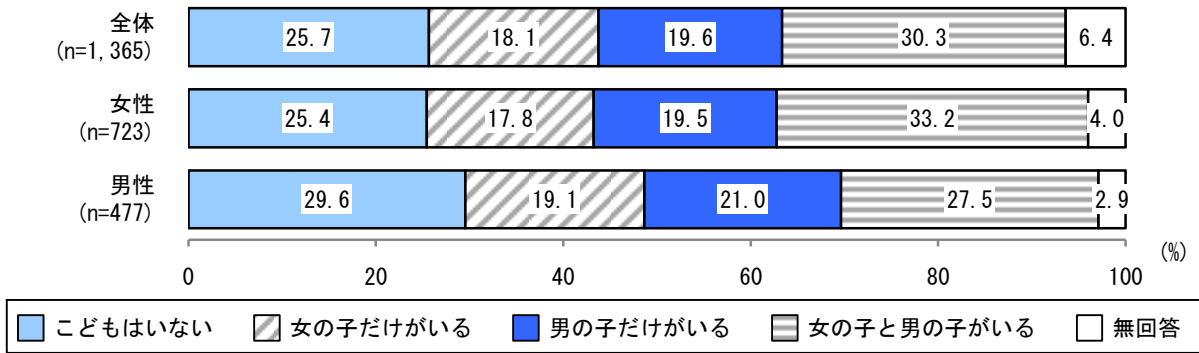


（「住民基本台帳（外国人住民を含む）による世帯数・人口（令和7年5月）」を元に作成）

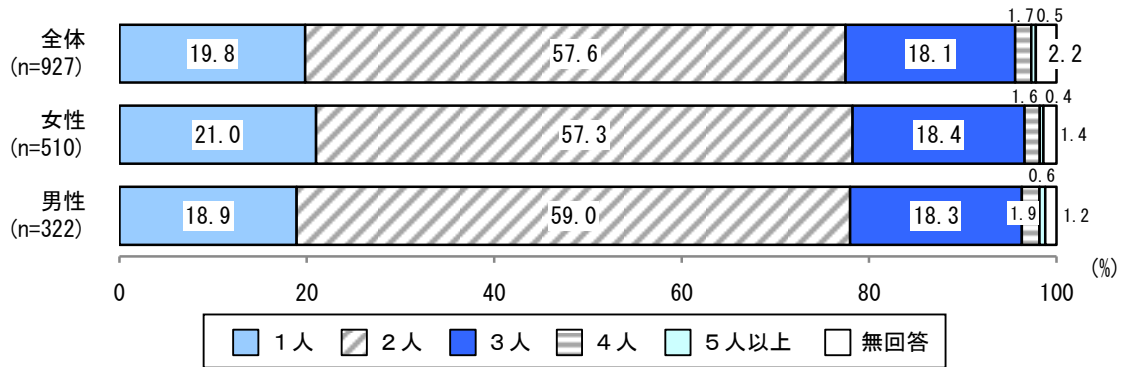
## ■最終学歴



## ■こどもの有無



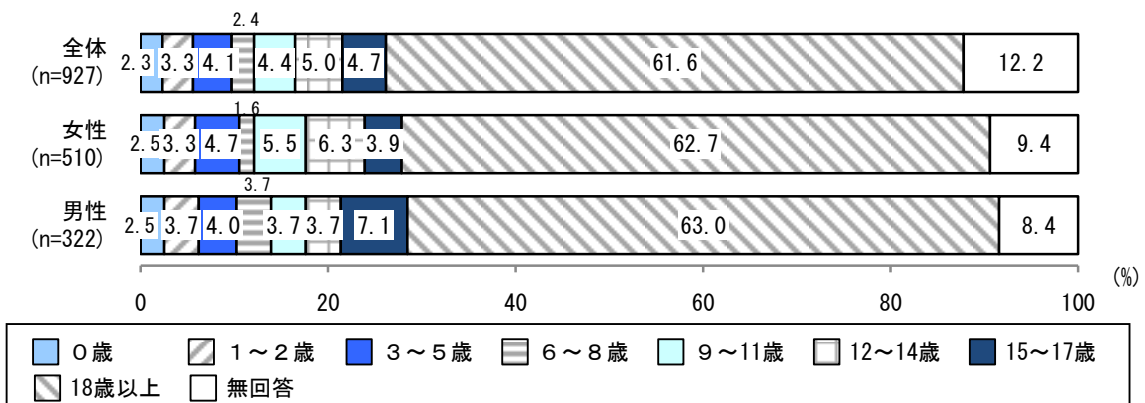
## ■こどもの人数



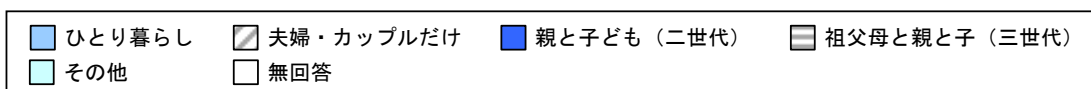
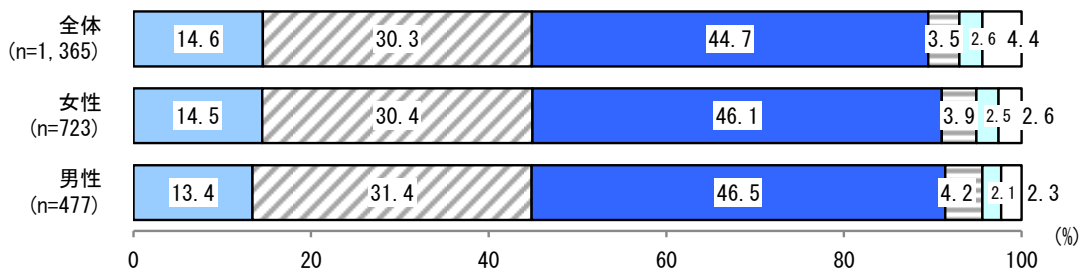
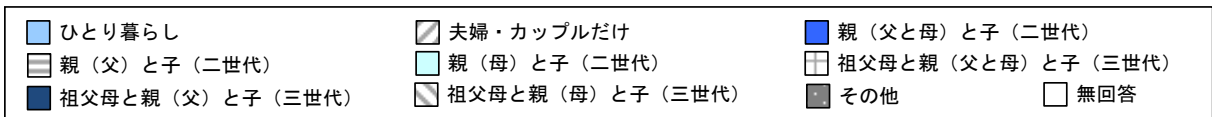
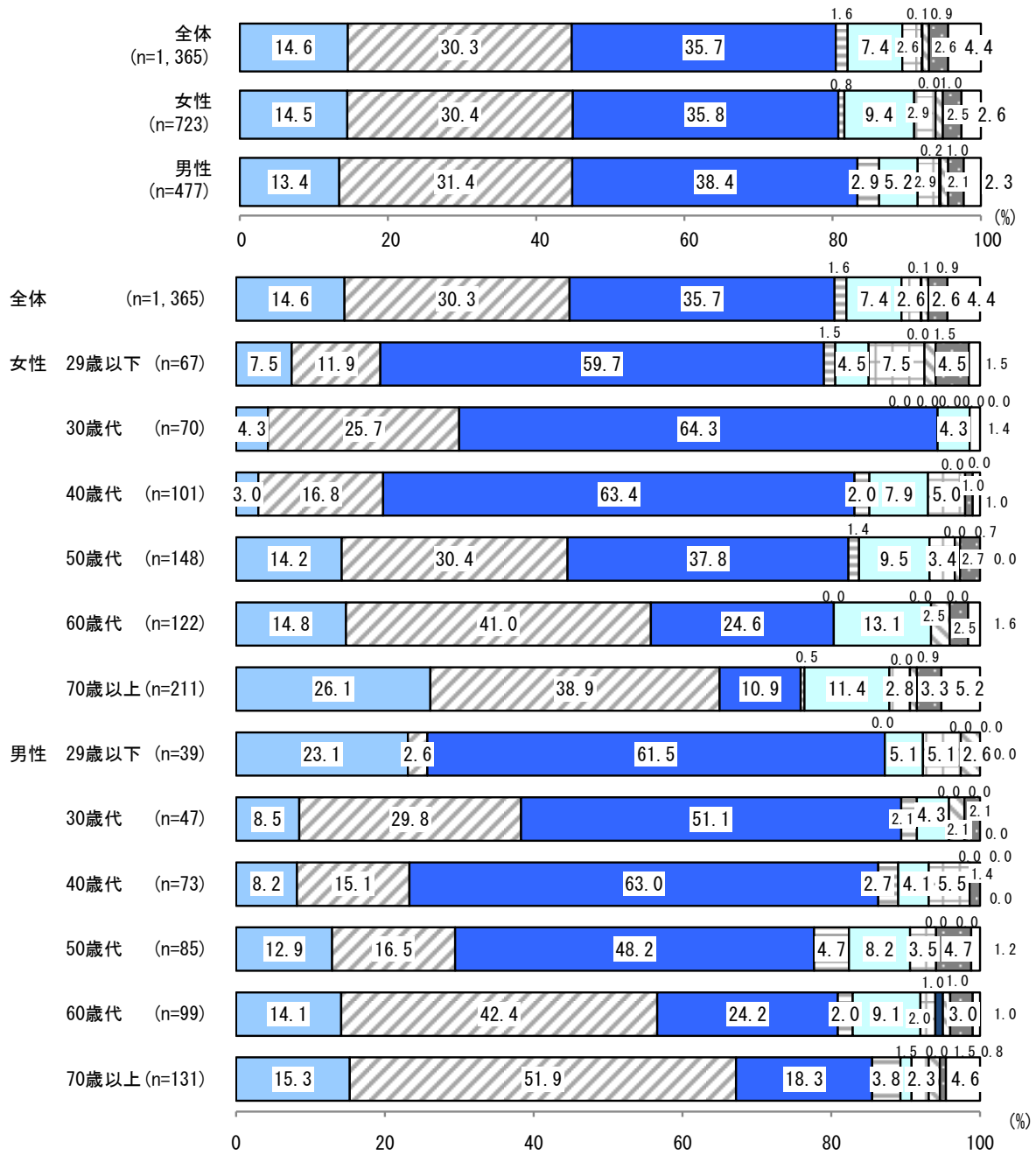
## ■こどもの成長段階

(単位=MA%)	n	小学校入学前	小学生	中学生	高校生	高校卒業～19歳まで	20歳以上	無回答
全体	927	10.6	11.3	8.0	7.4	5.6	74.2	1.1
女性	510	11.0	12.0	8.6	6.7	5.7	73.9	1.0
男性	322	11.2	10.9	6.8	9.9	5.3	72.4	0.3

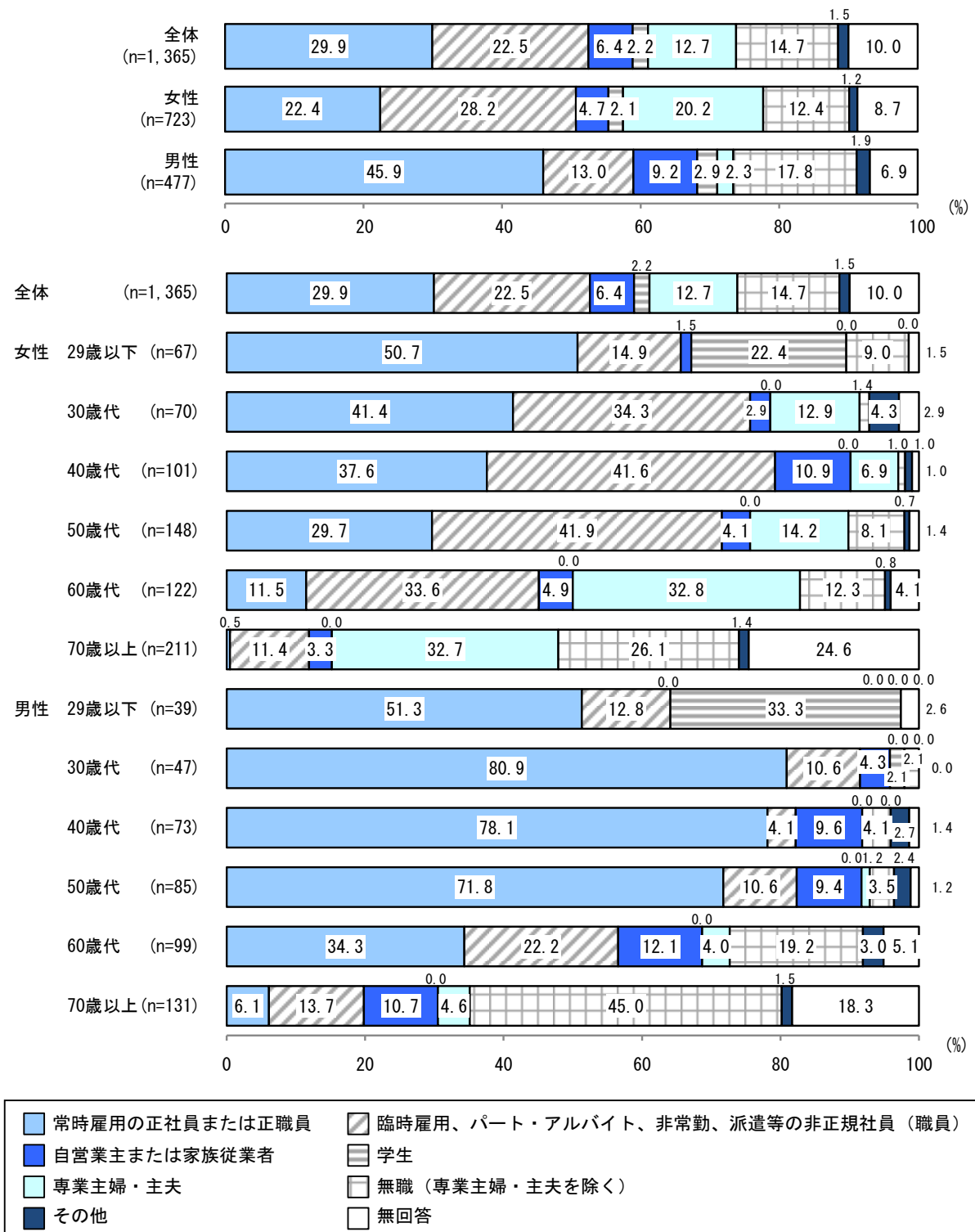
## ■末子の年齢



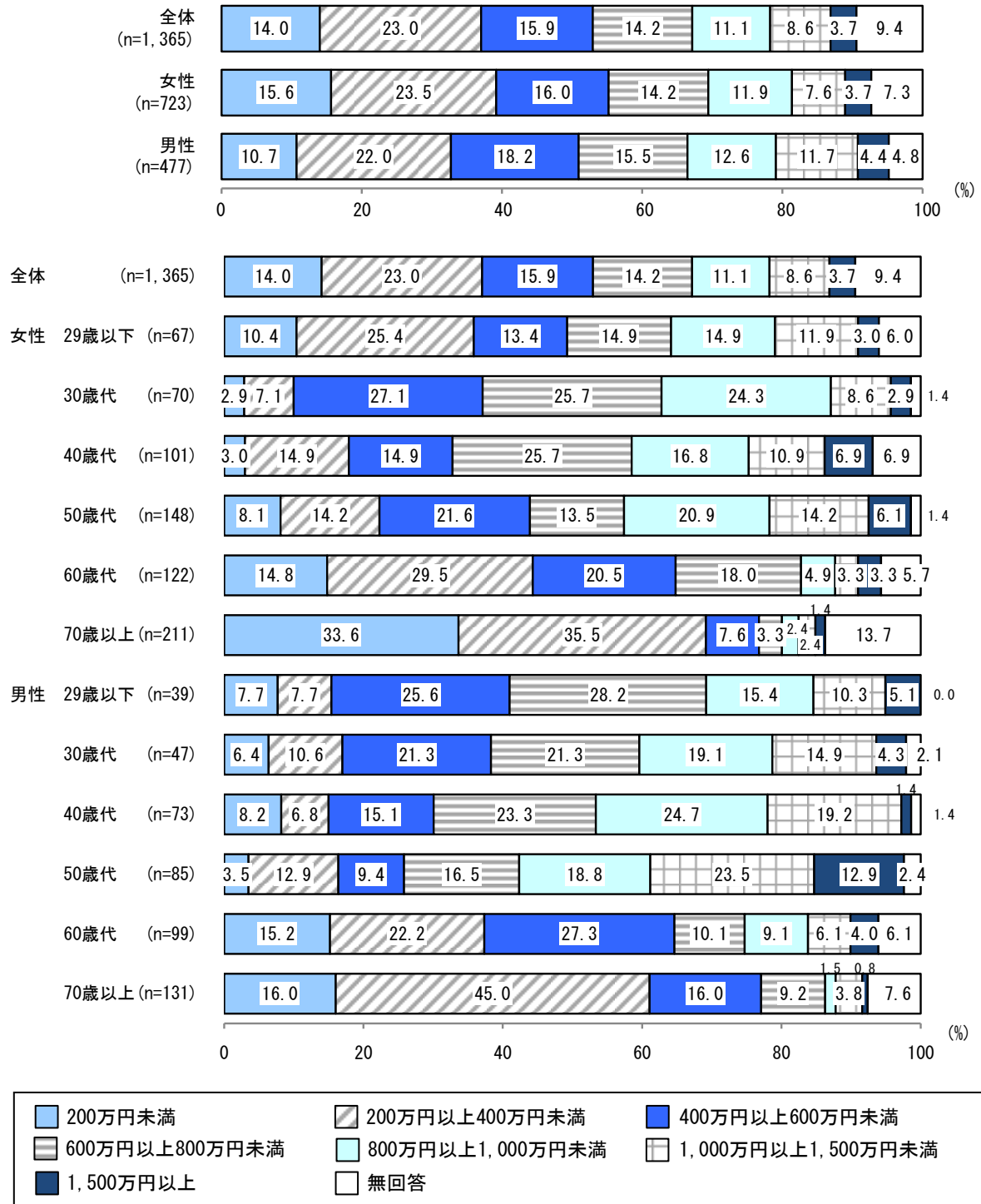
## 同居の家族構成



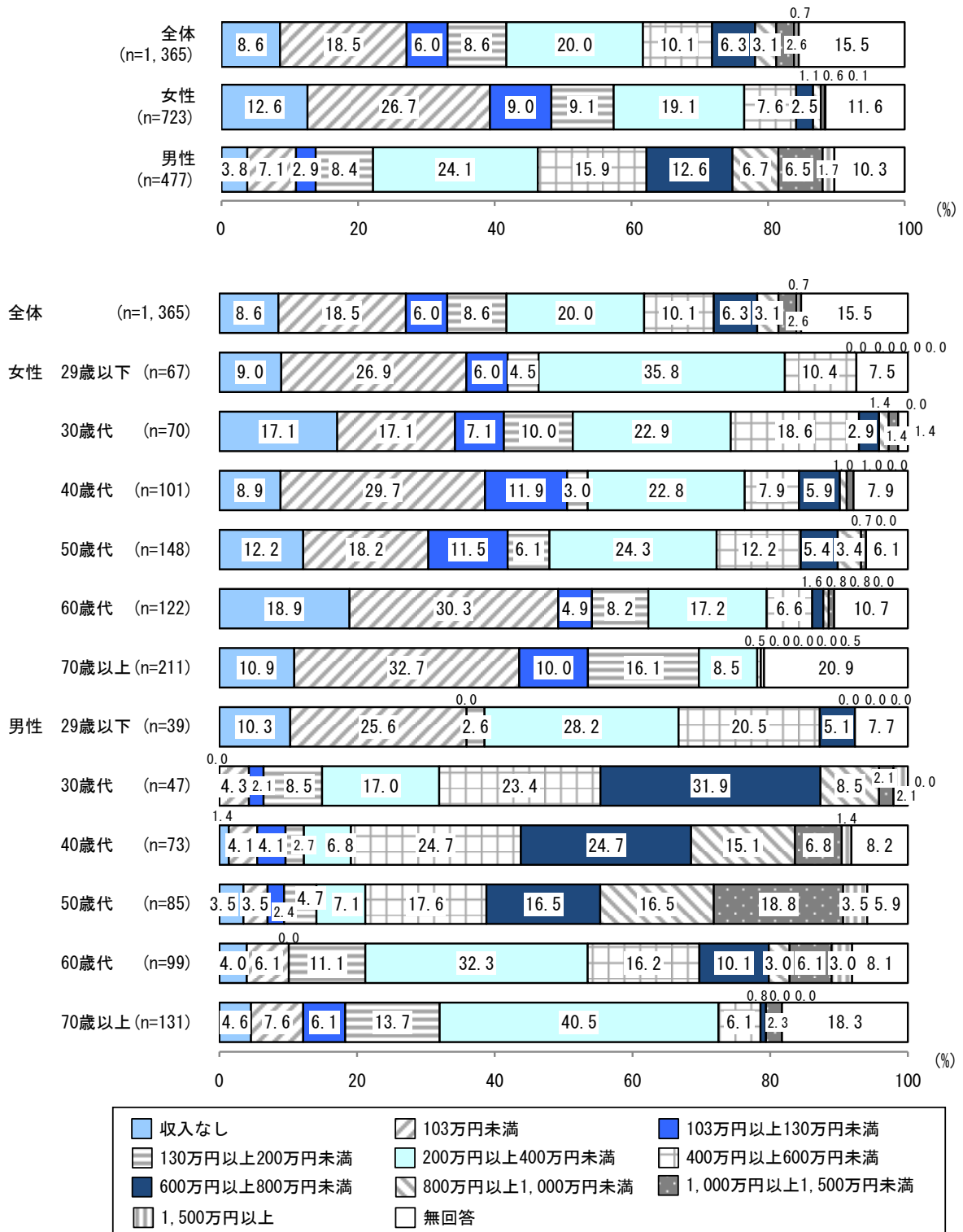
■勤務形態（問10）



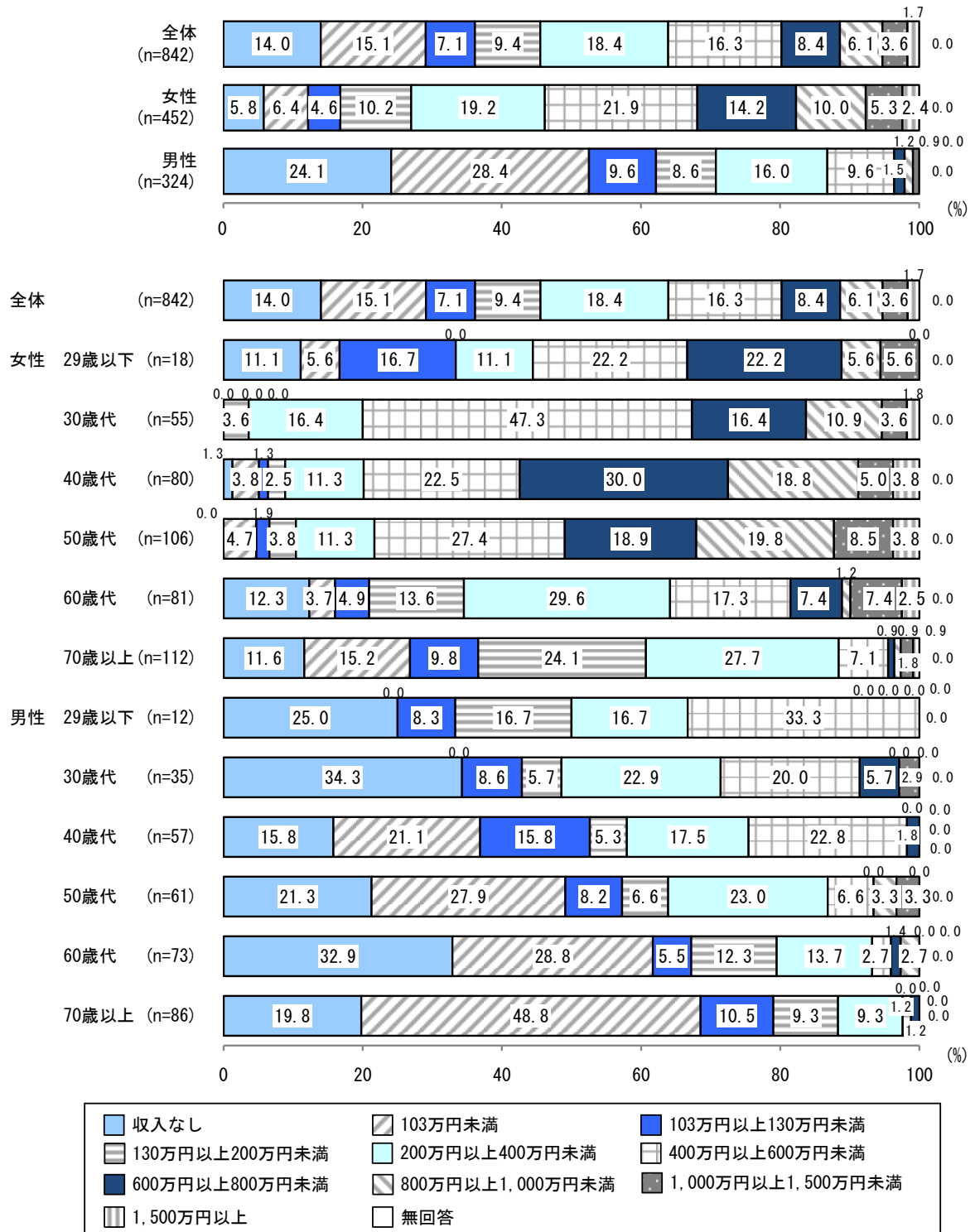
# ■世帯収入



# 個人収入



## 配偶者・パートナーの収入



### Ⅲ 調査結果 .....

#### 1 男女の役割や地位に関する意識について

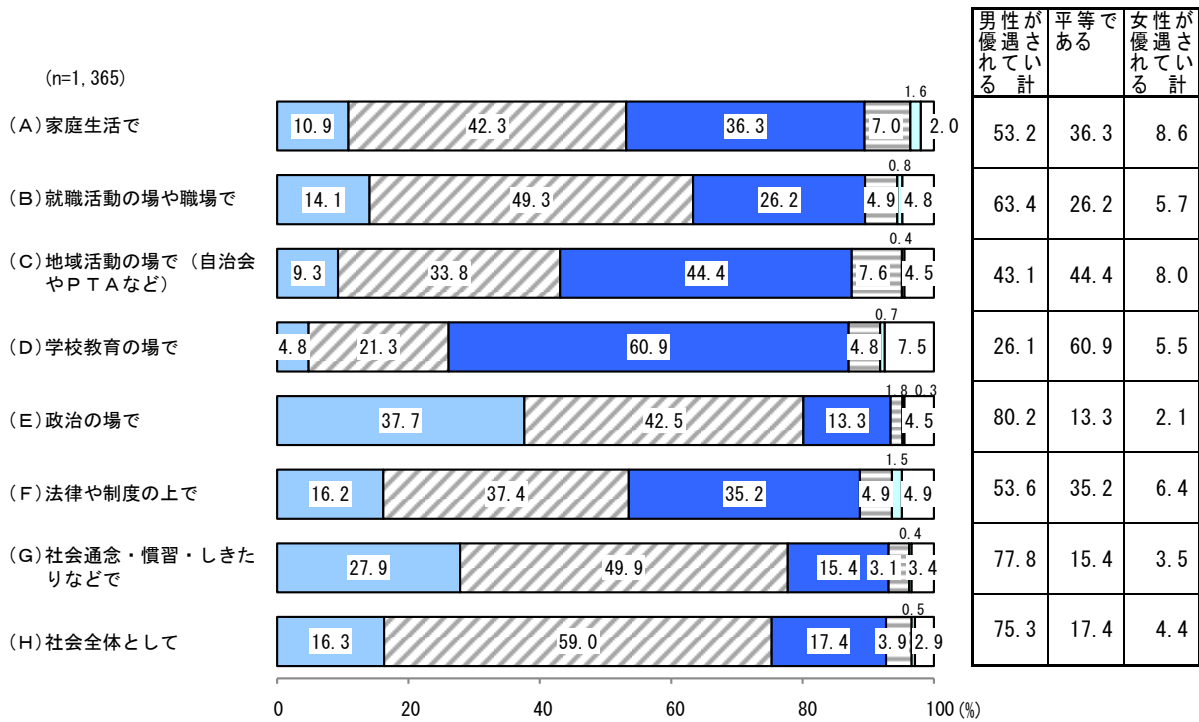
##### (1) 各分野の男女の地位の平等感

問1 あなたは、次にあげる分野で、男女はどの程度平等になっていると思いますか。(それぞれ○は一つ)

全体、性別ともに、『(D) 学校教育の場で』において「平等である」との回答が最も高い。

性別で見ると、いずれの項目も女性の“男性が優遇されている計”の割合は男性に比べて10ポイント以上高くなっており、『(A) 家庭生活上で』『(C) 地域活動の場で(自治会やPTAなど)』『(F) 法律や制度の上で』で男女差がより大きくなっている。

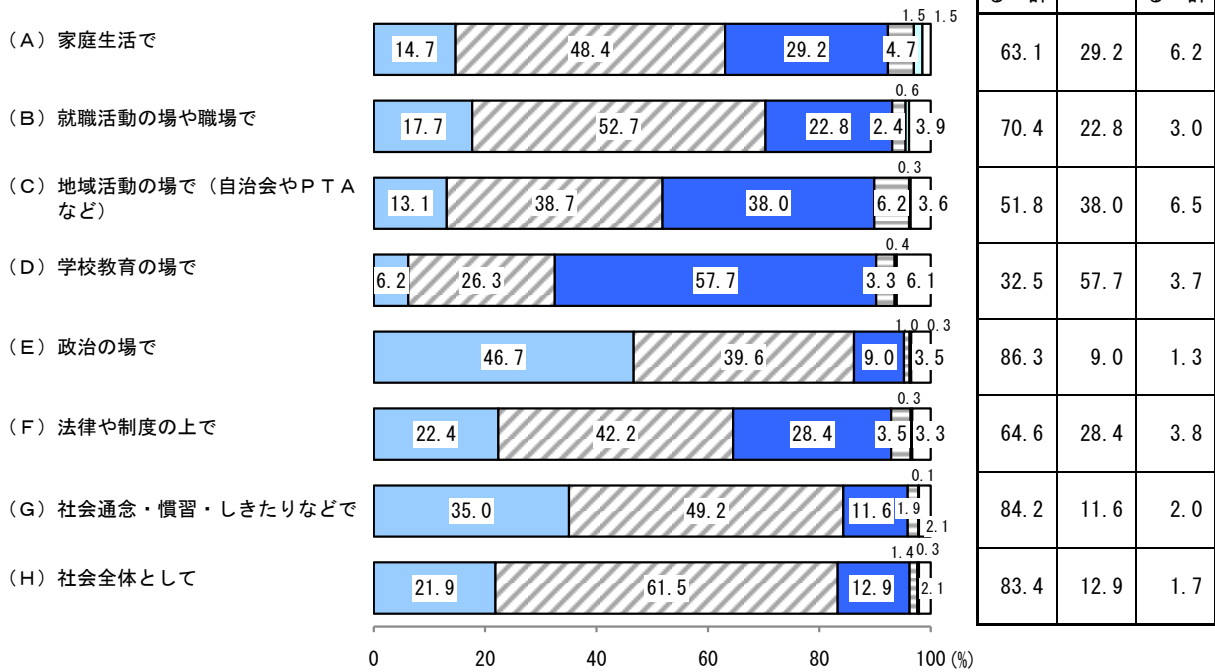
前回調査との比較で見ると、『(E) 政治の場で』以外の項目において、「平等である」との全体の回答は前を上回っている。



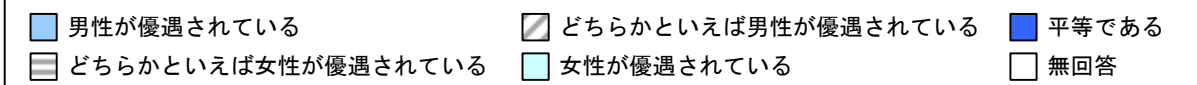
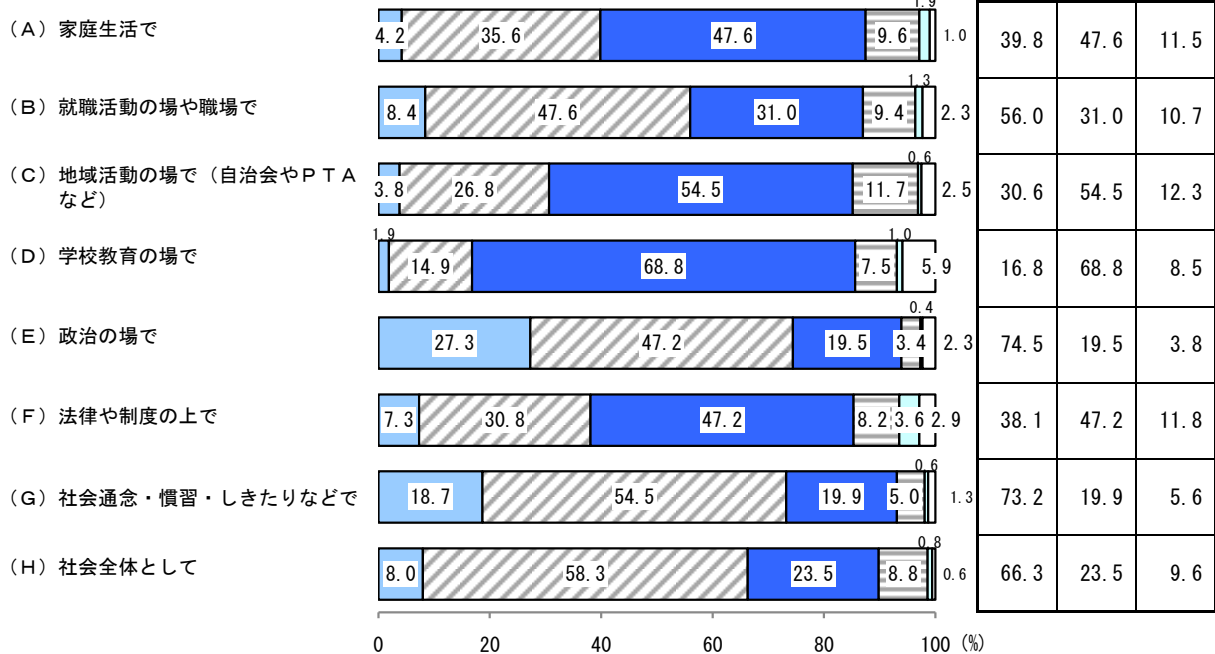
■ 男性が優遇されている      ▨ どちらかといえば男性が優遇されている      ■ 平等である  
 ▩ どちらかといえば女性が優遇されている      ■ 女性が優遇されている      □ 無回答

※男性が優遇されている計：「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた値  
 女性が優遇されている計：「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた値

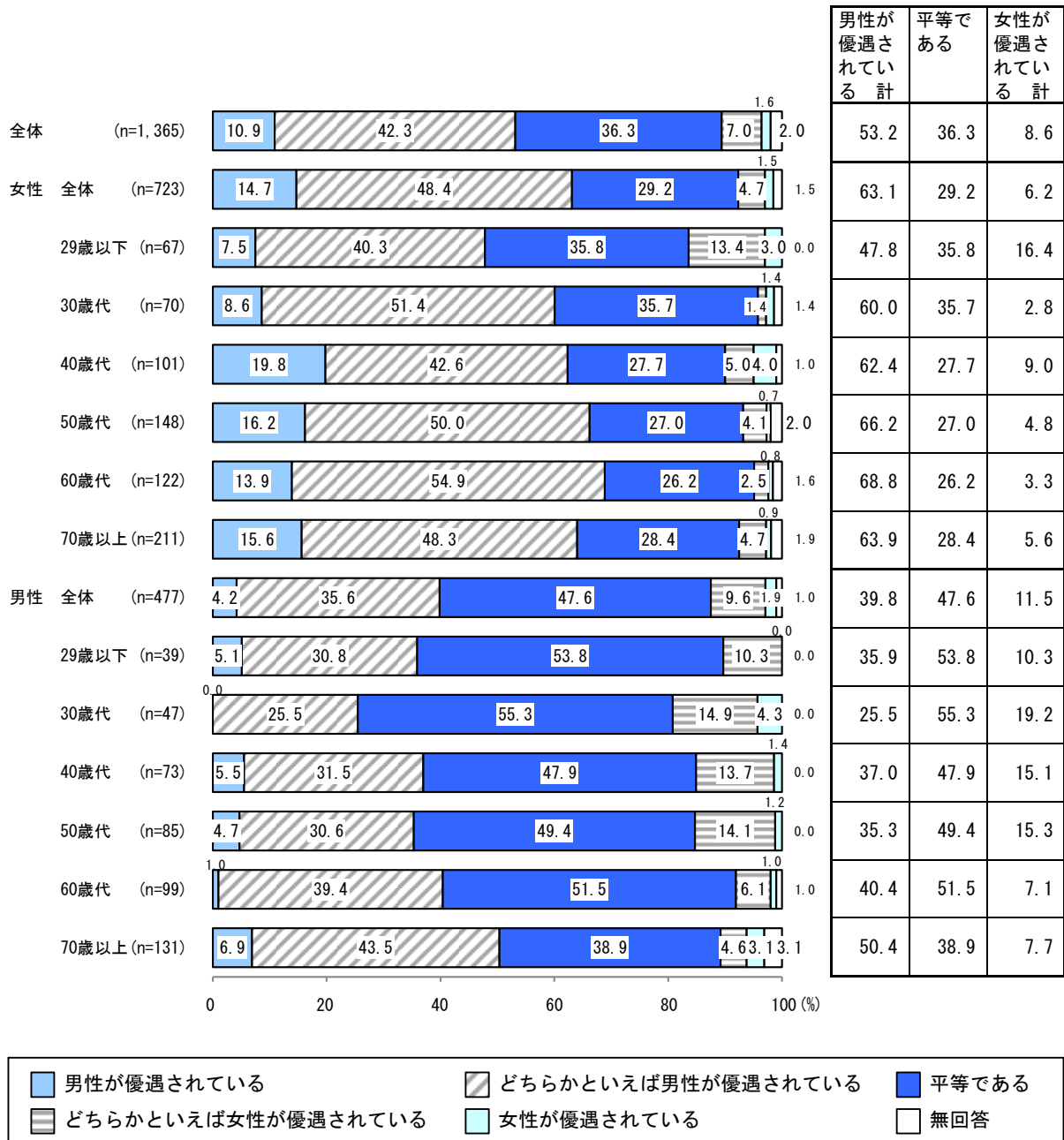
女性(n=723)



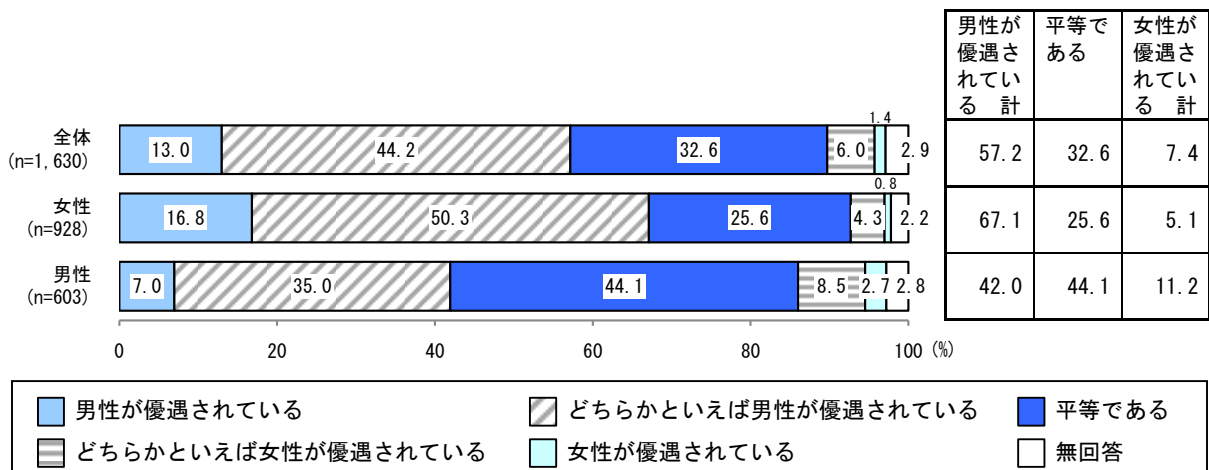
男性(n=477)



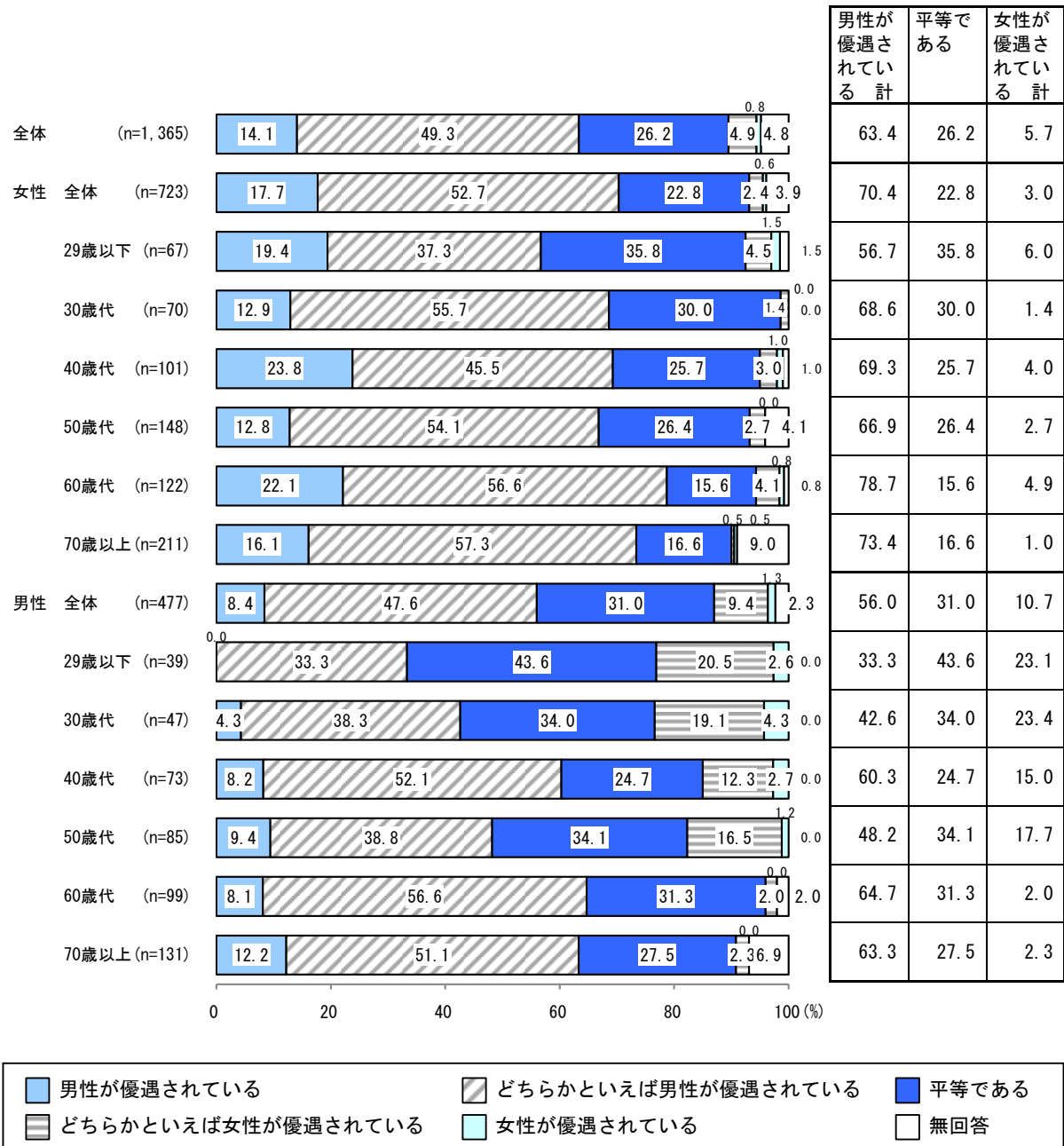
(A) 家庭生活中で



【前回調査（令和2年）】

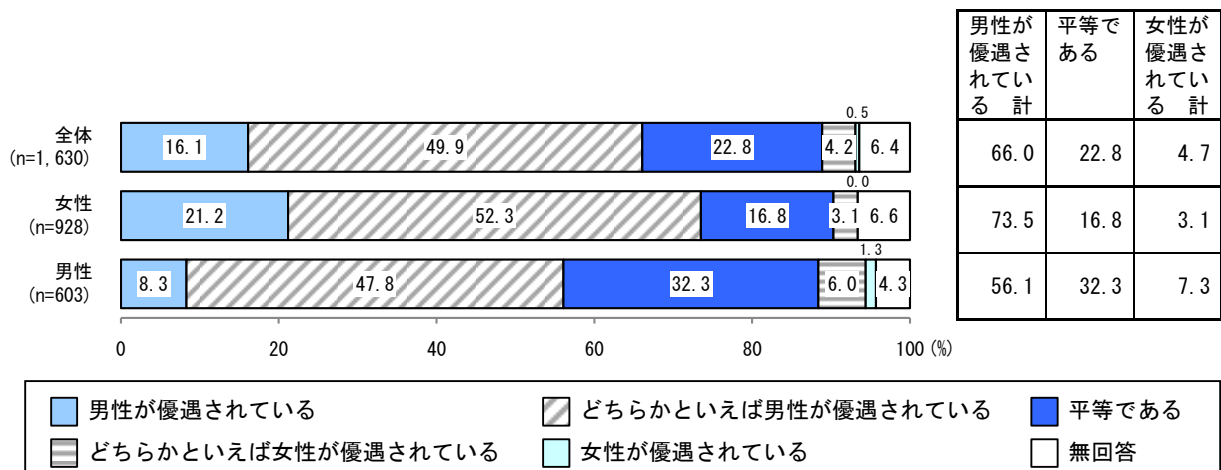


(B) 就職活動の場や職場で



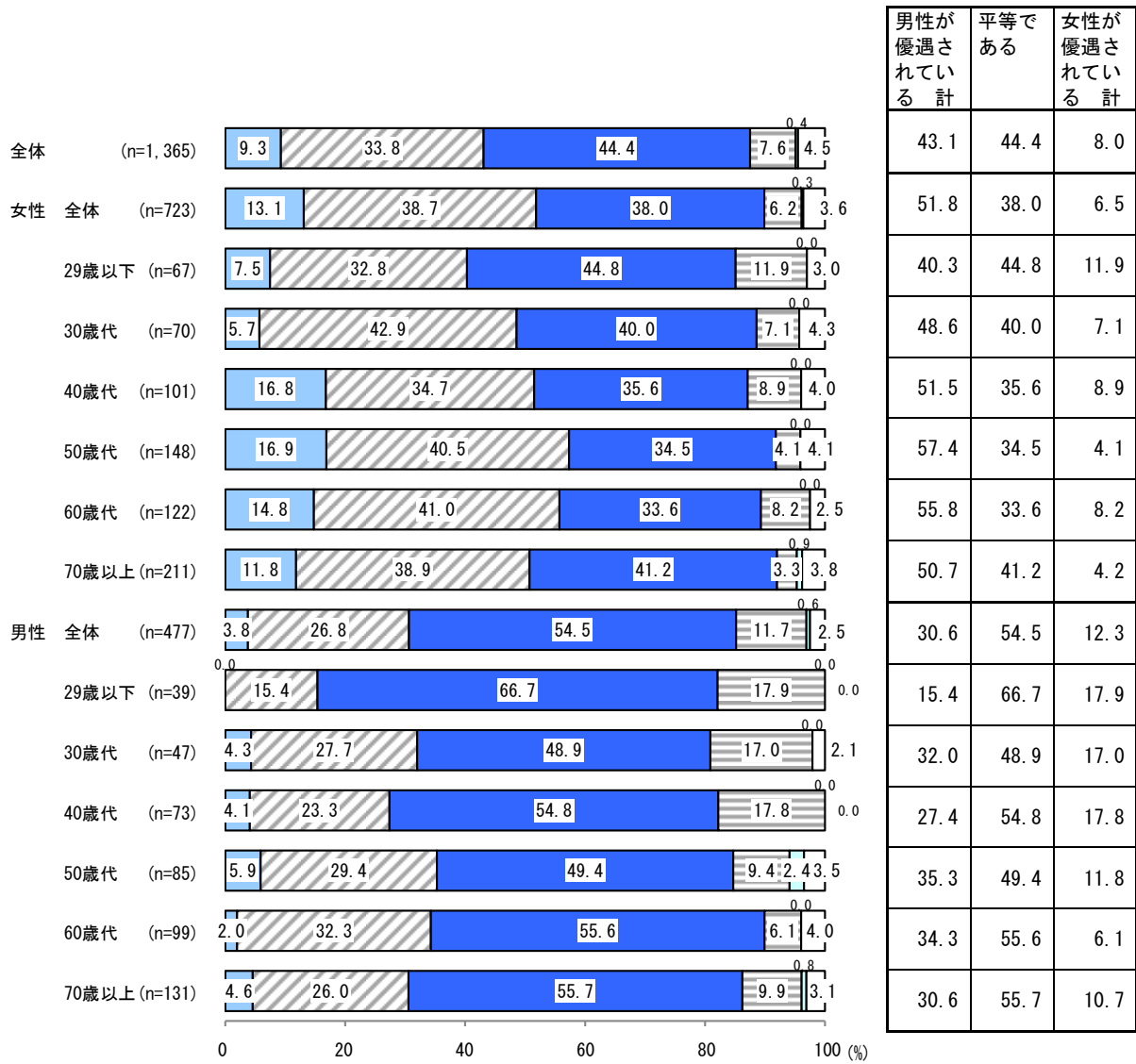
男性が優遇されている
  どちらかといえば男性が優遇されている
  平等である
  どちらかといえば女性が優遇されている
  女性が優遇されている
  無回答

【前回調査（令和2年）】



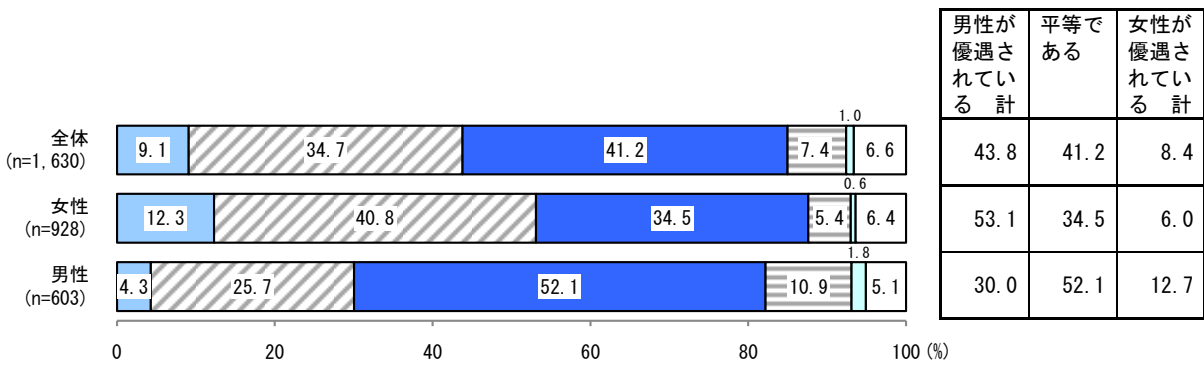
男性が優遇されている
  どちらかといえば男性が優遇されている
  平等である
  どちらかといえば女性が優遇されている
  女性が優遇されている
  無回答

(C) 地域活動の場で (自治会やPTAなど)



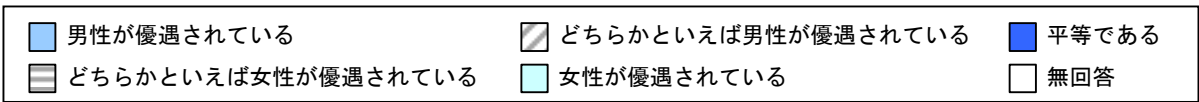
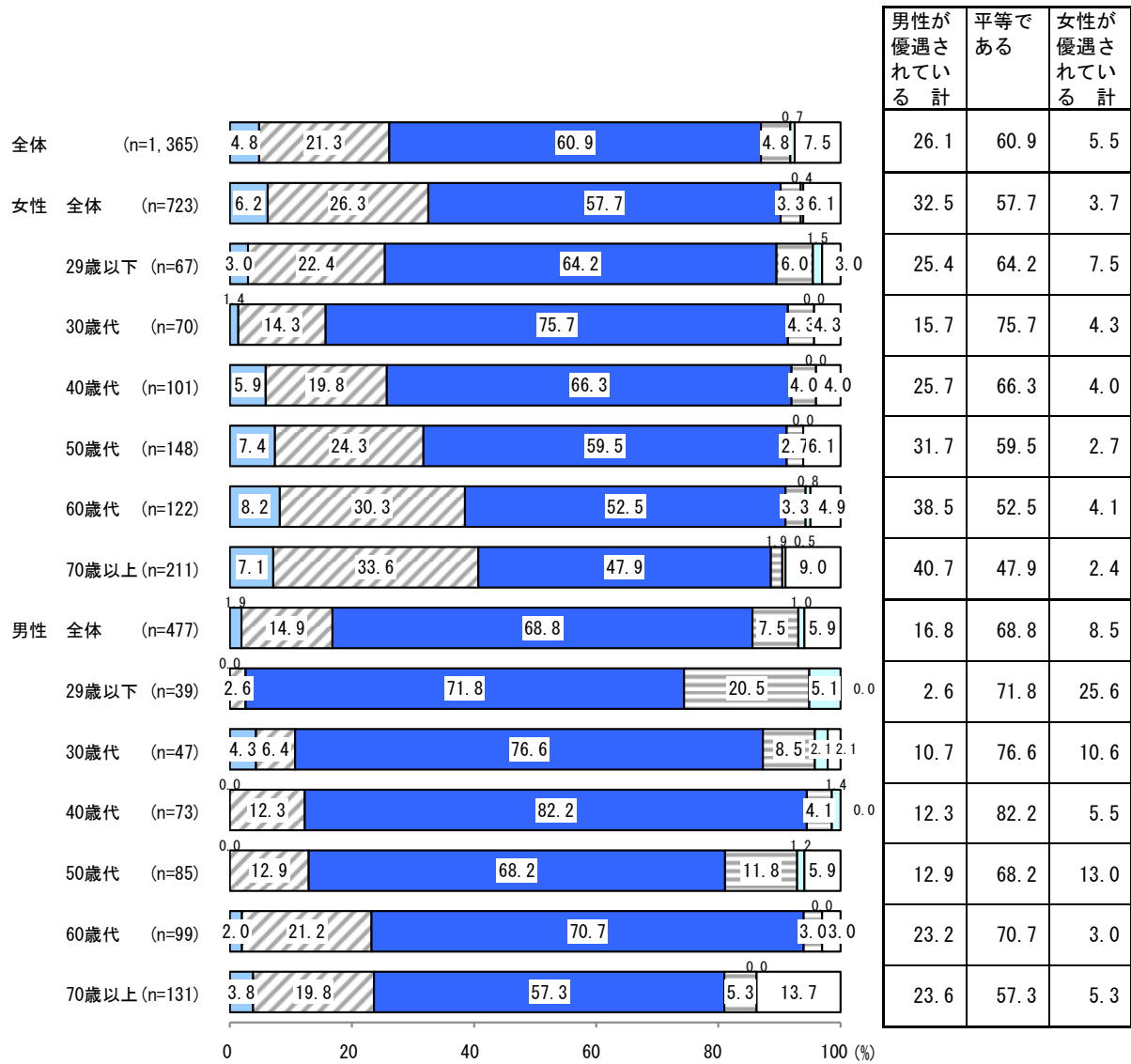
男性が優遇されている
  どちらかといえば男性が優遇されている
  平等である
  どちらかといえば女性が優遇されている
  女性が優遇されている
  無回答

【前回調査 (令和2年)】

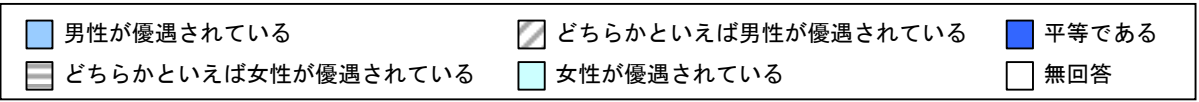
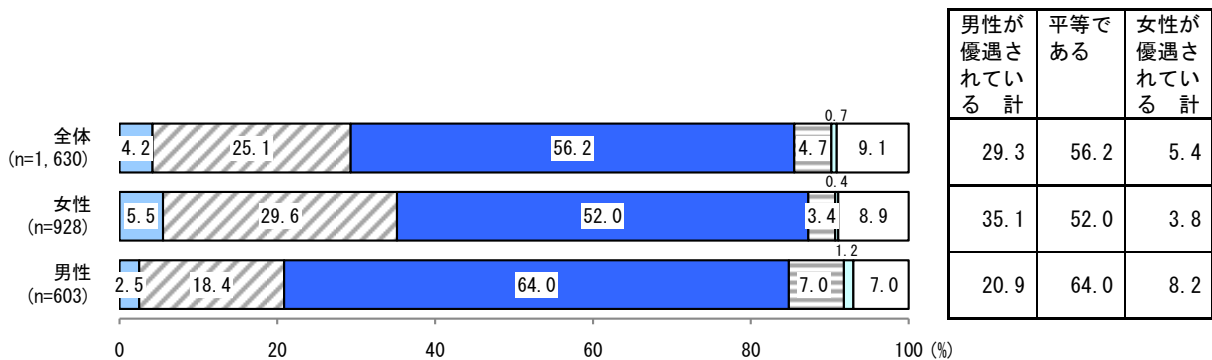


男性が優遇されている
  どちらかといえば男性が優遇されている
  平等である
  どちらかといえば女性が優遇されている
  女性が優遇されている
  無回答

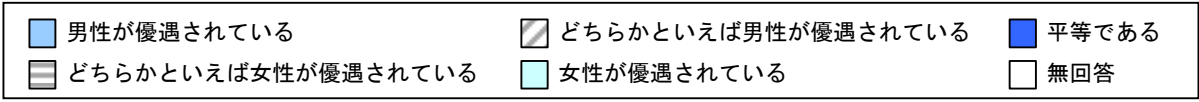
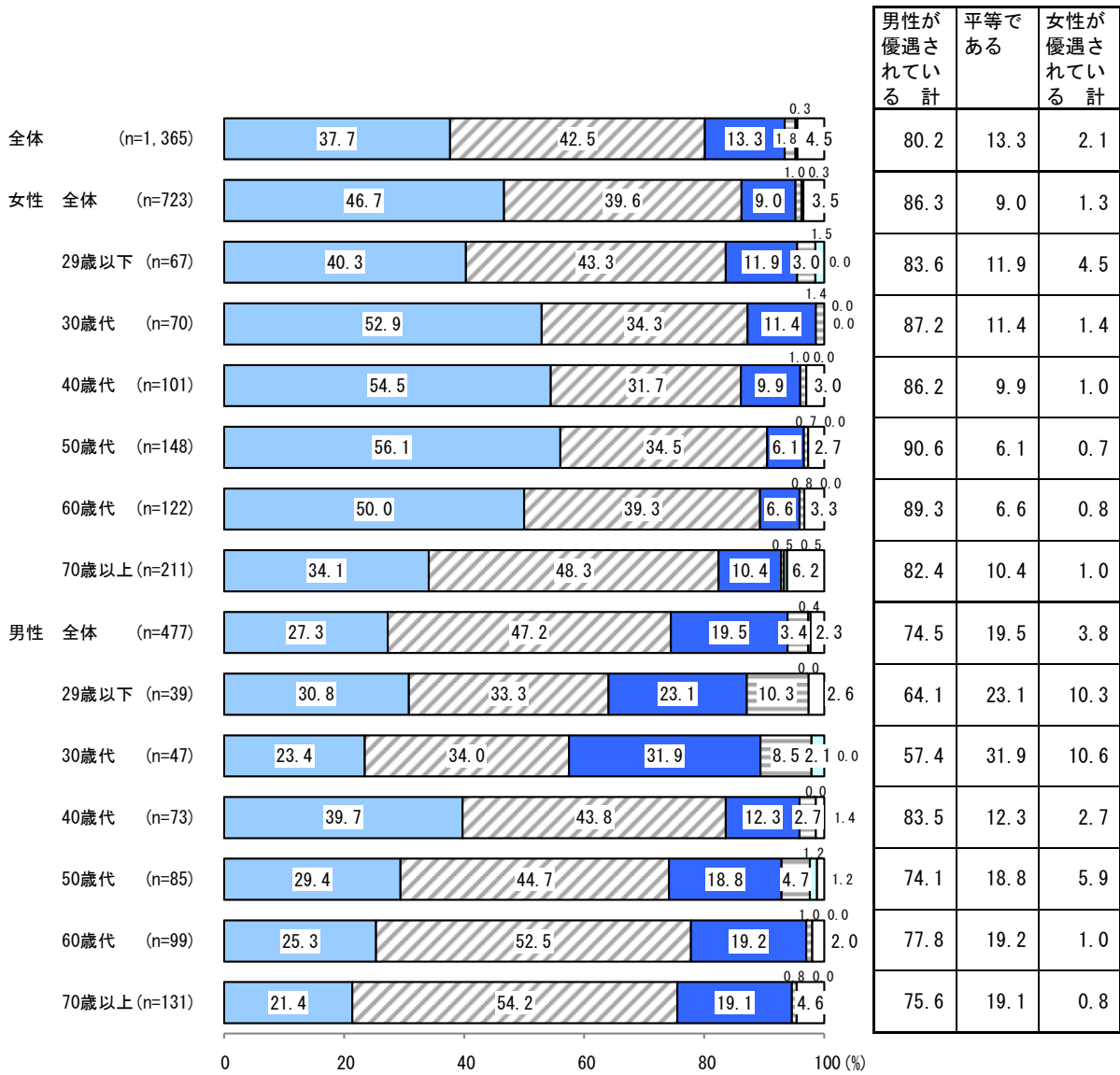
(D) 学校教育の場で



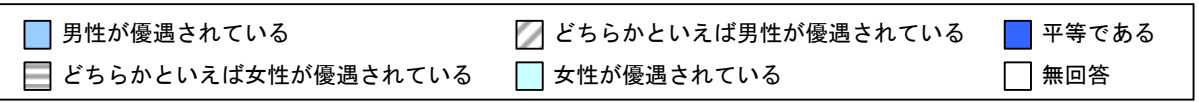
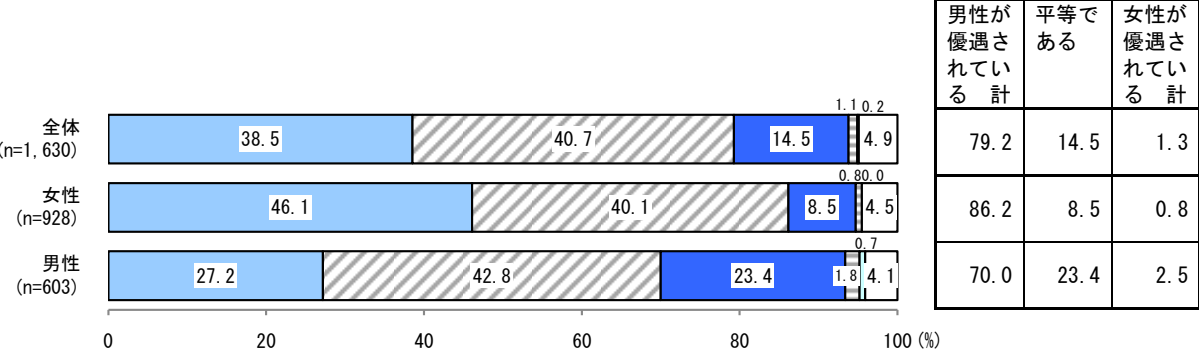
【前回調査（令和2年）】



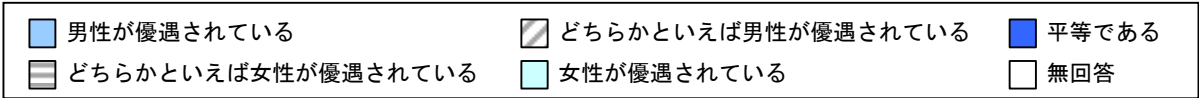
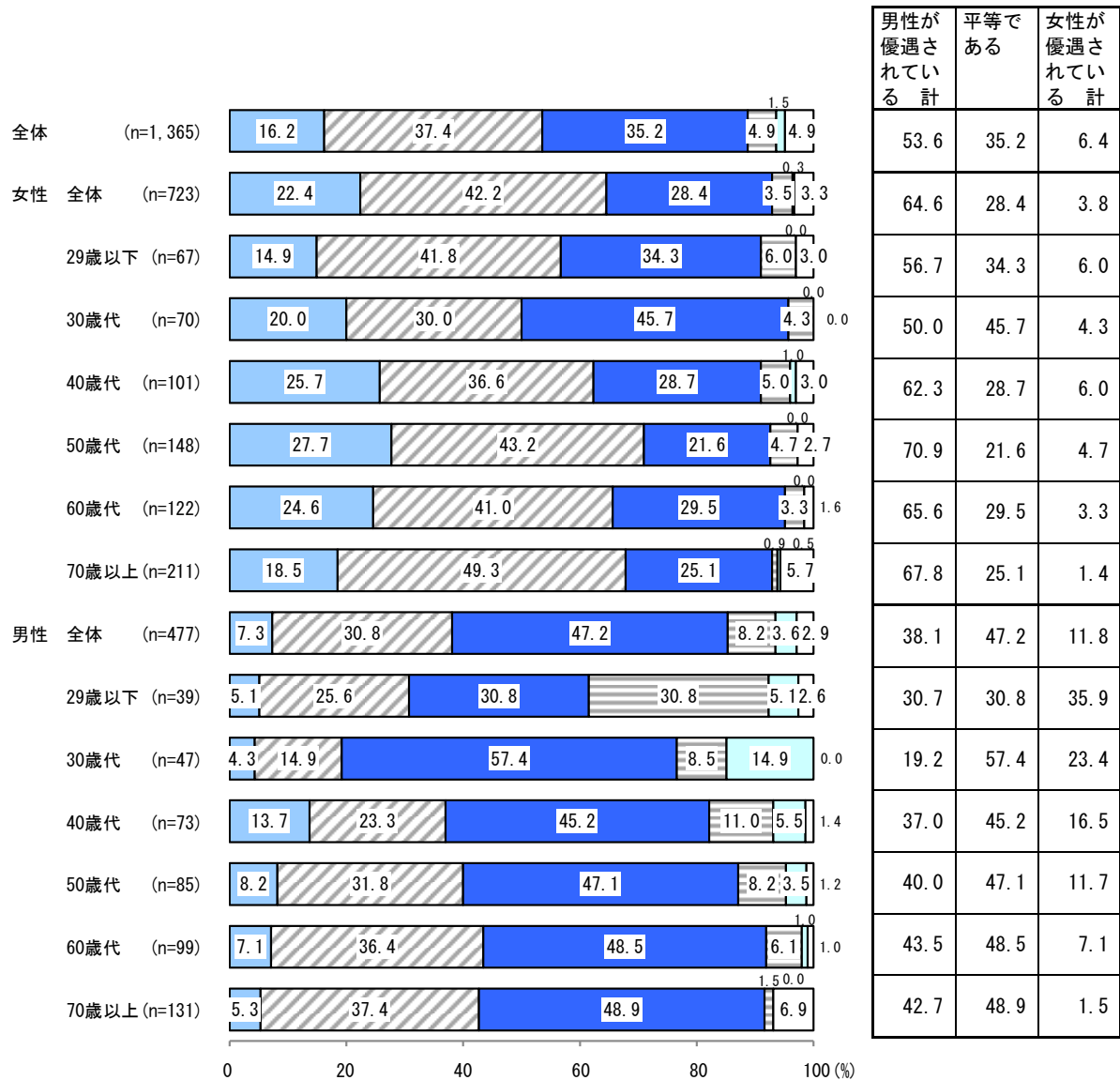
(E) 政治の場で



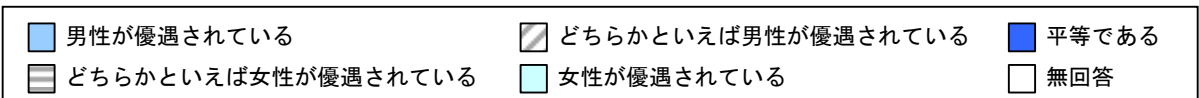
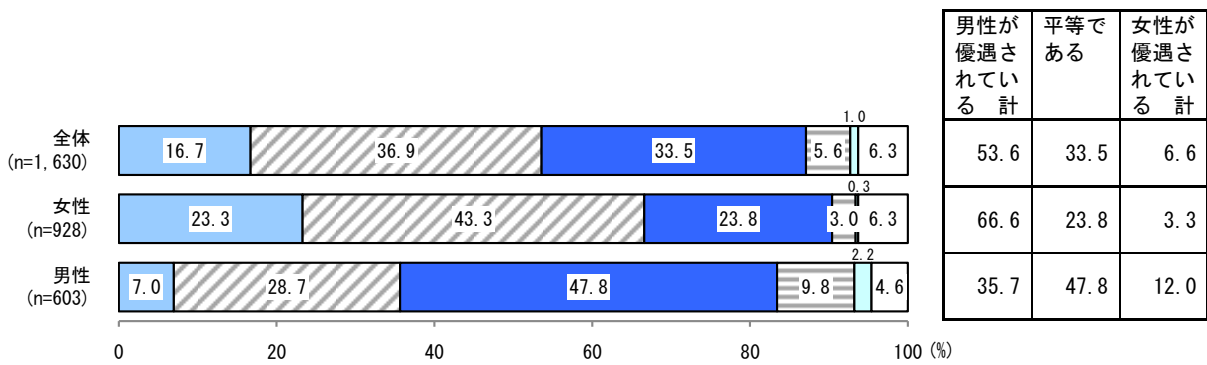
【前回調査 (令和2年)】



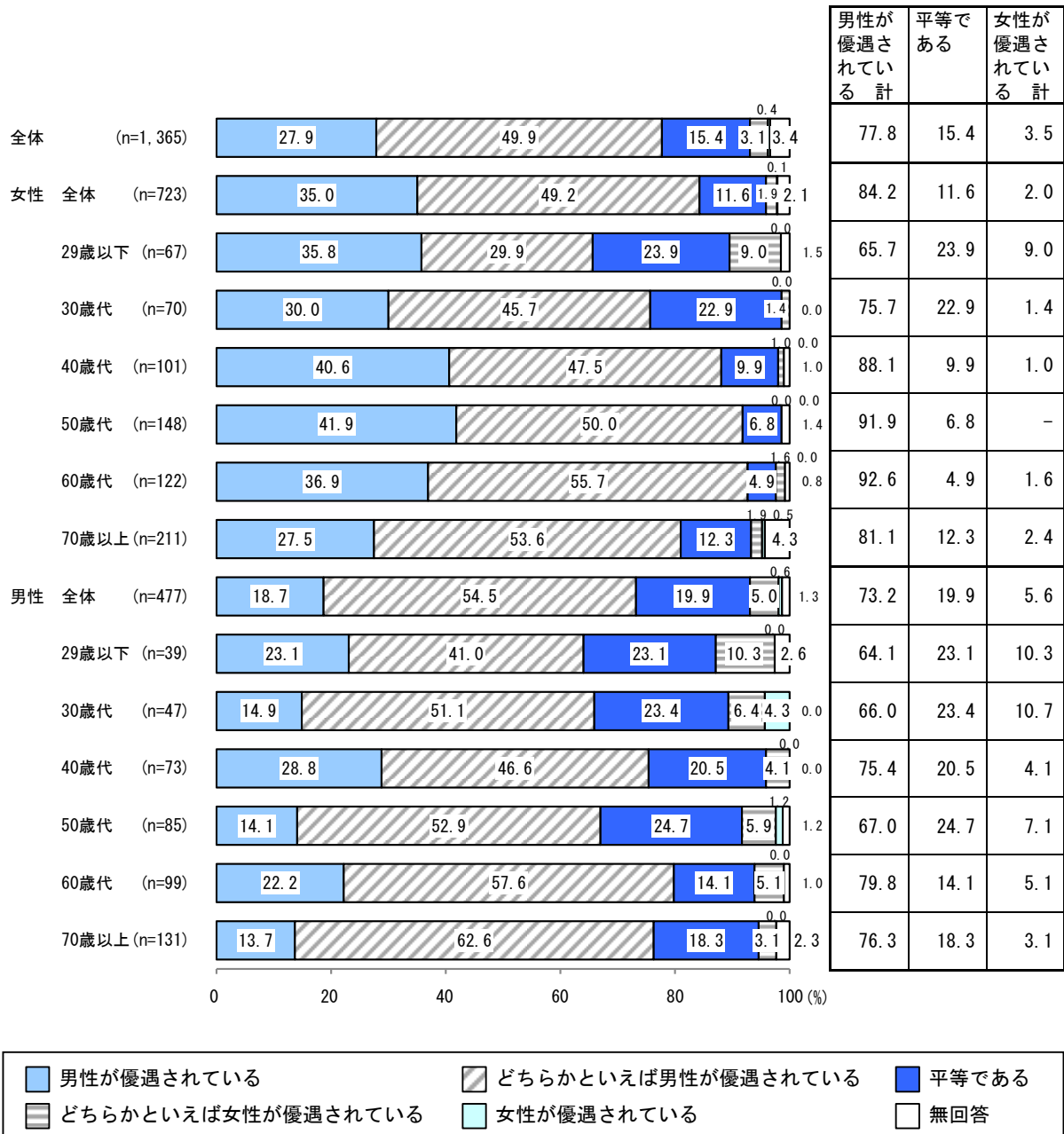
(F) 法律や制度の上で



【前回調査（令和2年）】



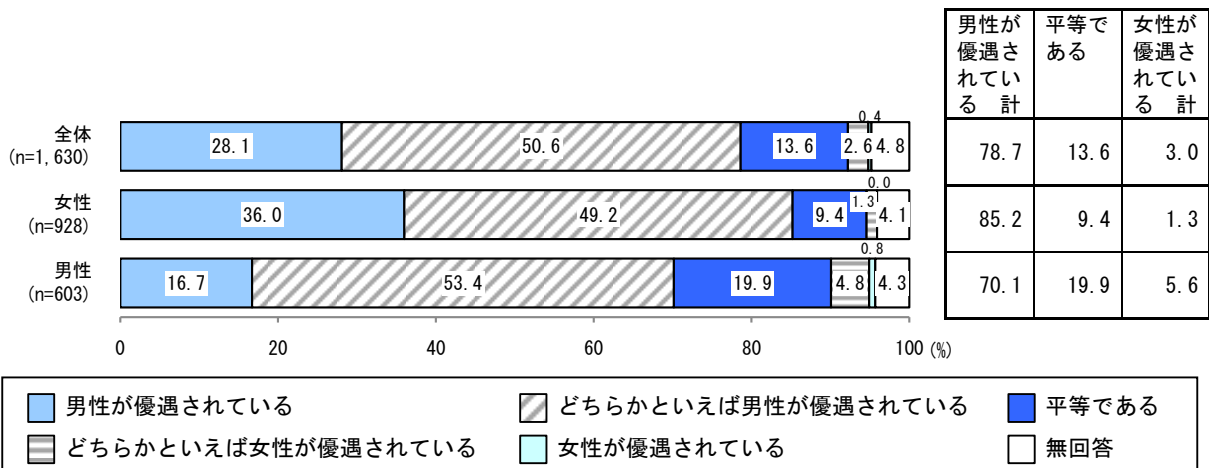
(G) 社会通念・慣習・しきたりなどで



男性が優遇されている
  どちらかといえば男性が優遇されている
  平等である

どちらかといえば女性が優遇されている
  女性が優遇されている
  無回答

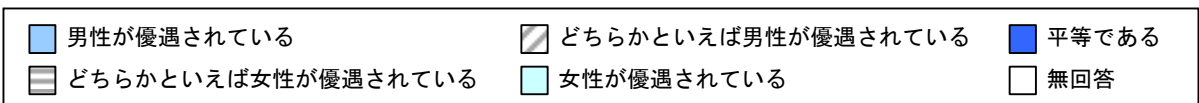
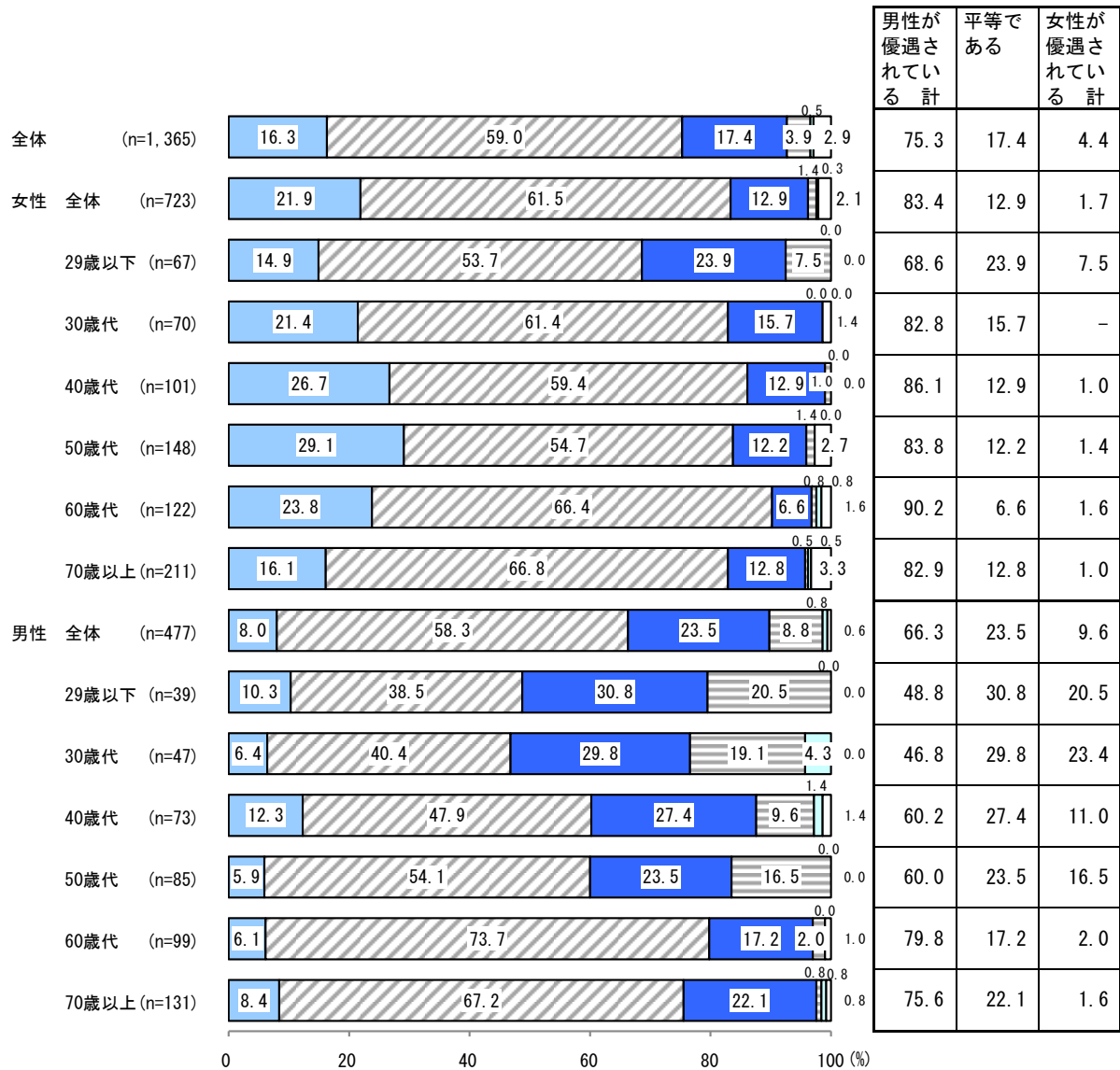
【前回調査（令和2年）】



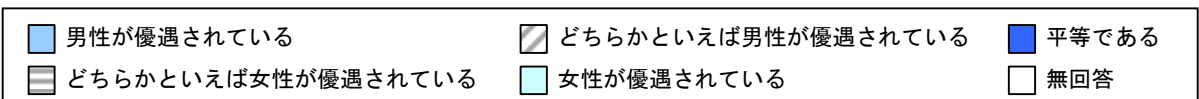
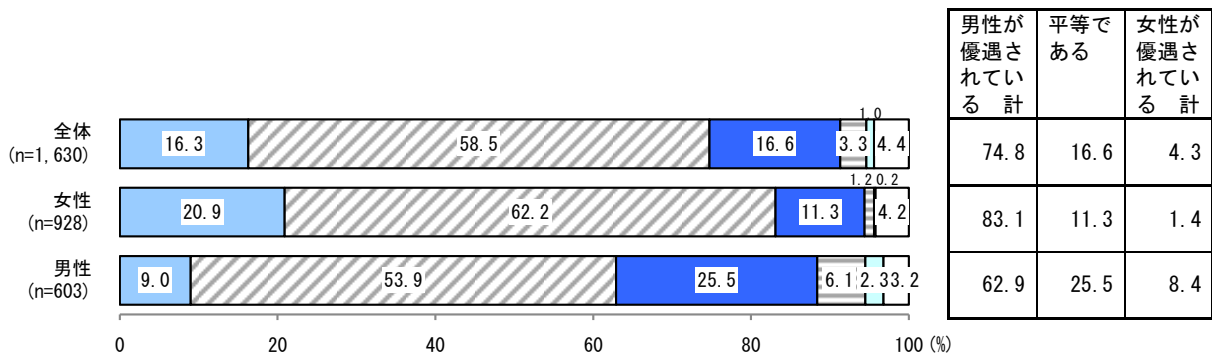
男性が優遇されている
  どちらかといえば男性が優遇されている
  平等である

どちらかといえば女性が優遇されている
  女性が優遇されている
  無回答

(H) 社会全体として



【前回調査 (令和2年)】



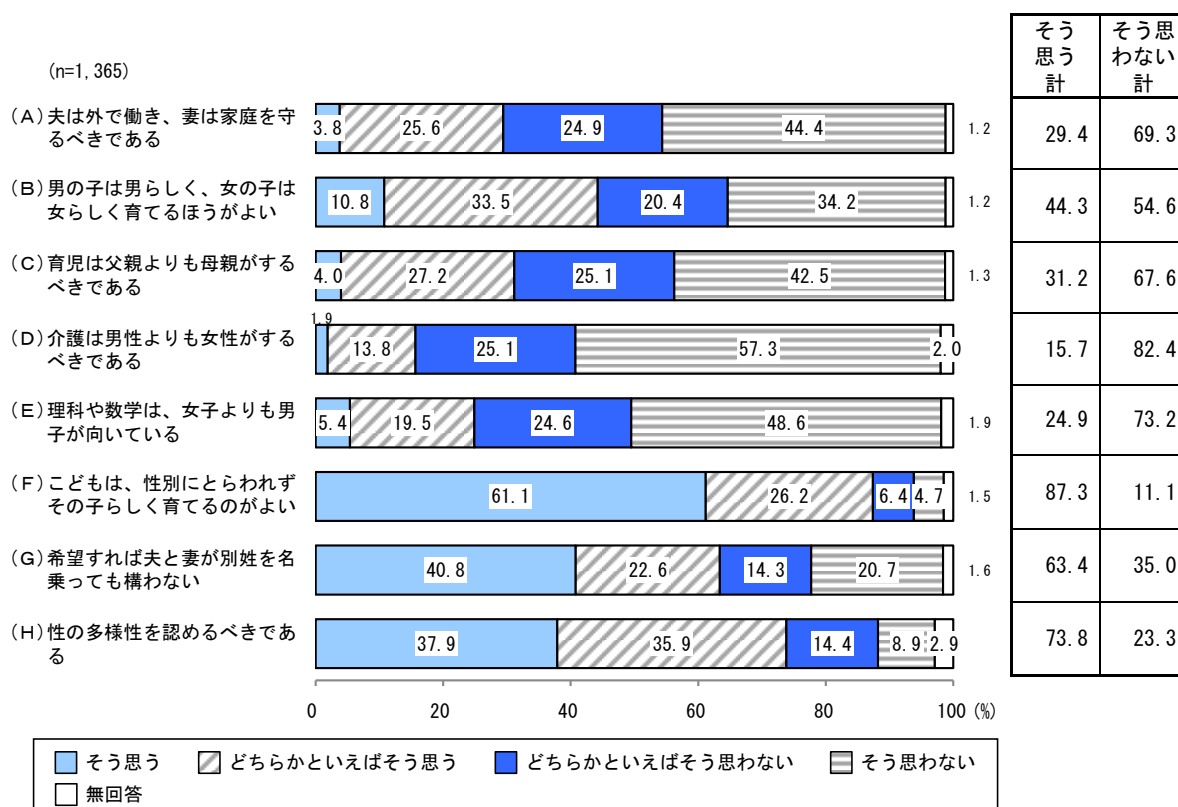
## (2) 家庭生活などに関する意識について

問2 次の考え方について、あなたはどのように思いますか。(それぞれ○は一つ)

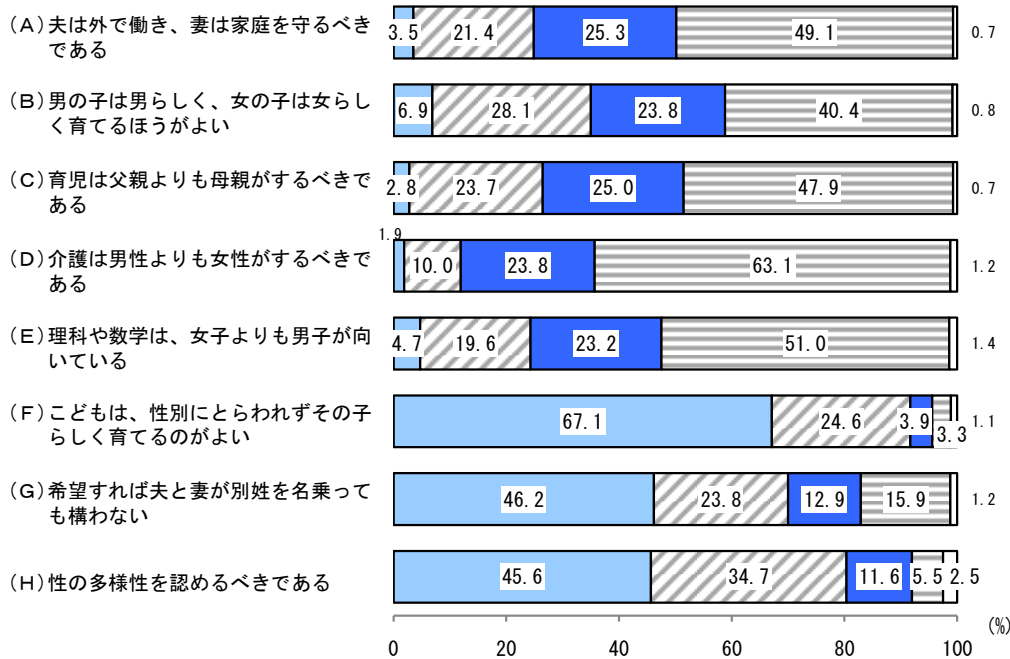
全体では、『(F) こどもは、性別にとらわれずその子らしく育てるのがよい』『(G) 希望すれば夫と妻が別姓を名乗っても構わない』『(H) 性の多様性を認めるべきである』では“そう思う計”の割合が“そう思わない計”を上回っている。

性別で見ると、女性の“そう思う計”の割合は『(G)希望すれば夫と妻が別姓を名乗っても構わない』『(H)性の多様性を認めるべきである』で男性に比べて10ポイント以上高い。男性の“そう思う計”の割合は『(A)夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』『(B)男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい』『(C)育児は父親よりも母親がするべきである』で女性に比べて10ポイント以上高い。

前回調査との比較では、(A)から(E)の各質問に対し“そう思う計”の割合、つまり家事や子育て・介護などは女性の役割であることやこどもを男の子らしく、女の子らしく育てるほうがよいと考えている割合が前回より高くなっている項目は、『(F)こどもは、性別にとらわれずその子らしく育てるのがよい』である。また、(F)から(H)の各質問に対し“そう思う計”、つまりこれらの考え方に賛同する割合が前回より高くなっている項目は、『(G)希望すれば夫と妻が別姓を名乗っても構わない』である。これら以外の項目は、いずれも前回の割合より低くなっている。



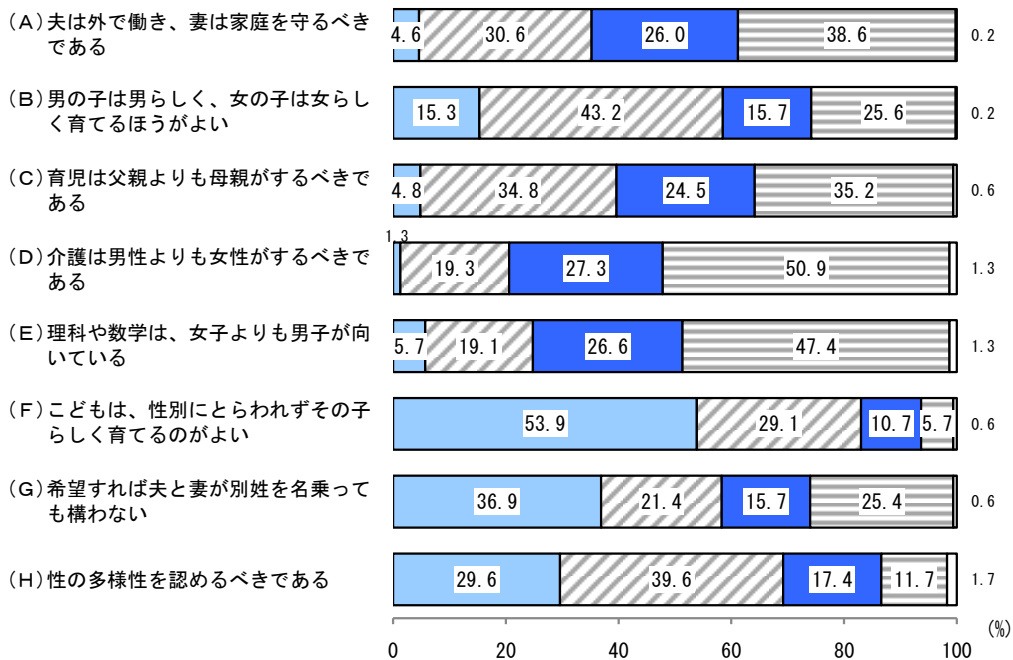
女性(n=723)



項目	そう思う計	そう思わない計
(A)	24.9	74.4
(B)	35.0	64.2
(C)	26.5	72.9
(D)	11.9	86.9
(E)	24.3	74.2
(F)	91.7	7.2
(G)	70.0	28.8
(H)	80.3	17.1

■ そう思う
 ■ どちらかといえばそう思う
 ■ どちらかといえばそう思わない
 ■ そう思わない
 ■ 無回答

男性(n=477)

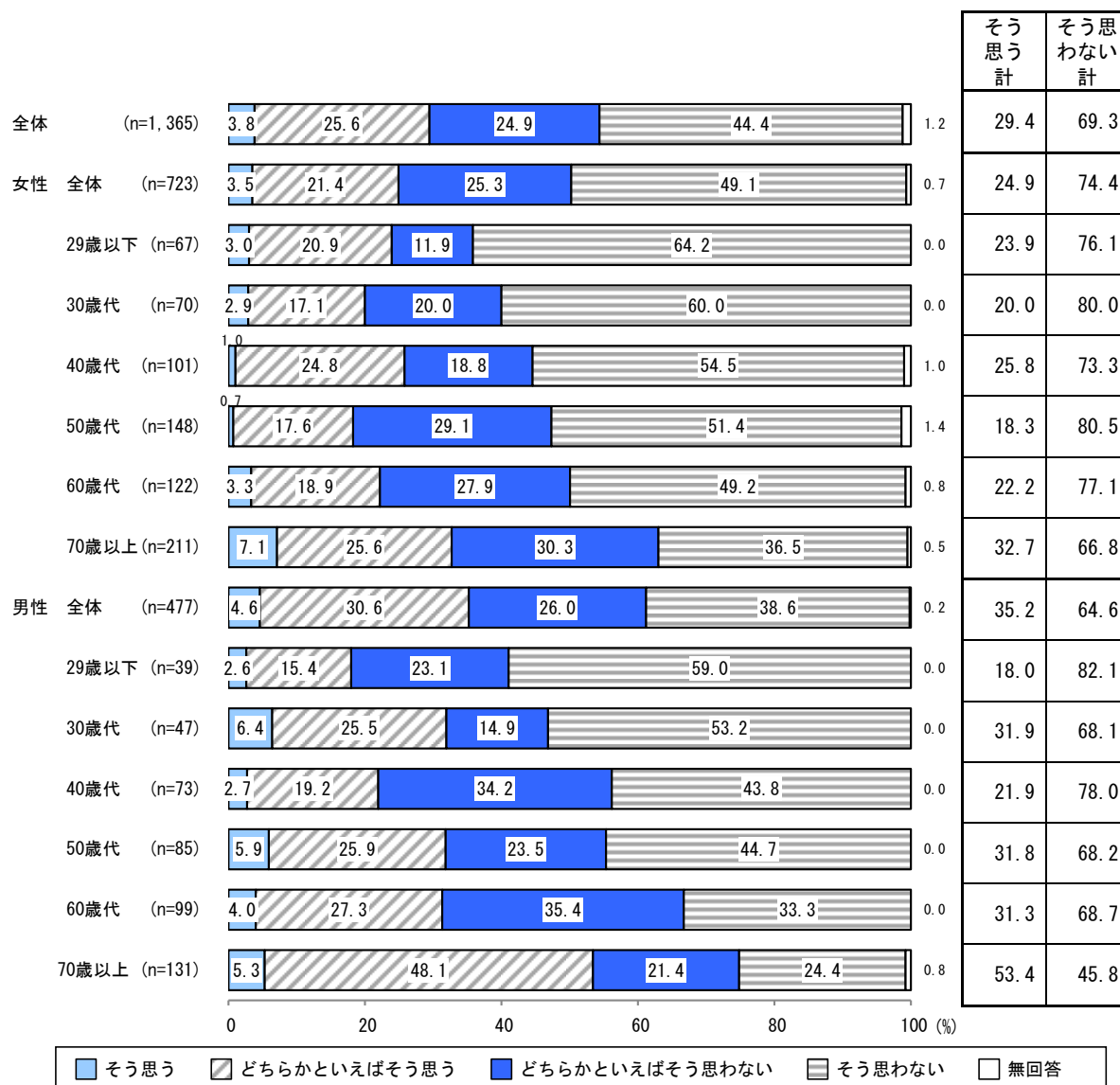


項目	そう思う計	そう思わない計
(A)	35.2	64.6
(B)	58.5	41.3
(C)	39.6	59.7
(D)	20.6	78.2
(E)	24.8	74.0
(F)	83.0	16.4
(G)	58.3	41.1
(H)	69.2	29.1

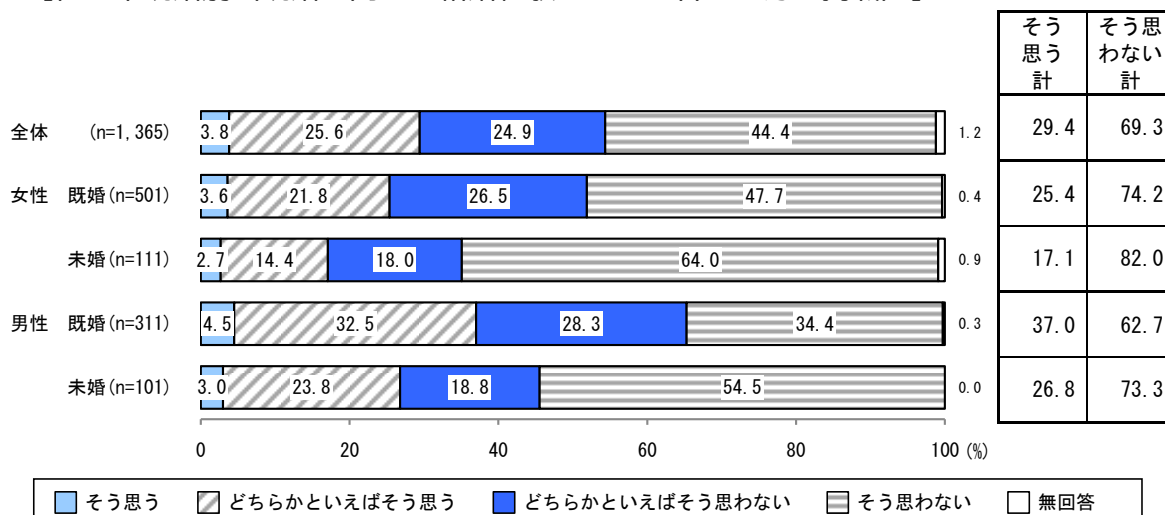
■ そう思う
 ■ どちらかといえばそう思う
 ■ どちらかといえばそう思わない
 ■ そう思わない
 ■ 無回答

### (A) 夫は外で働き、妻は家庭をまもるべきである

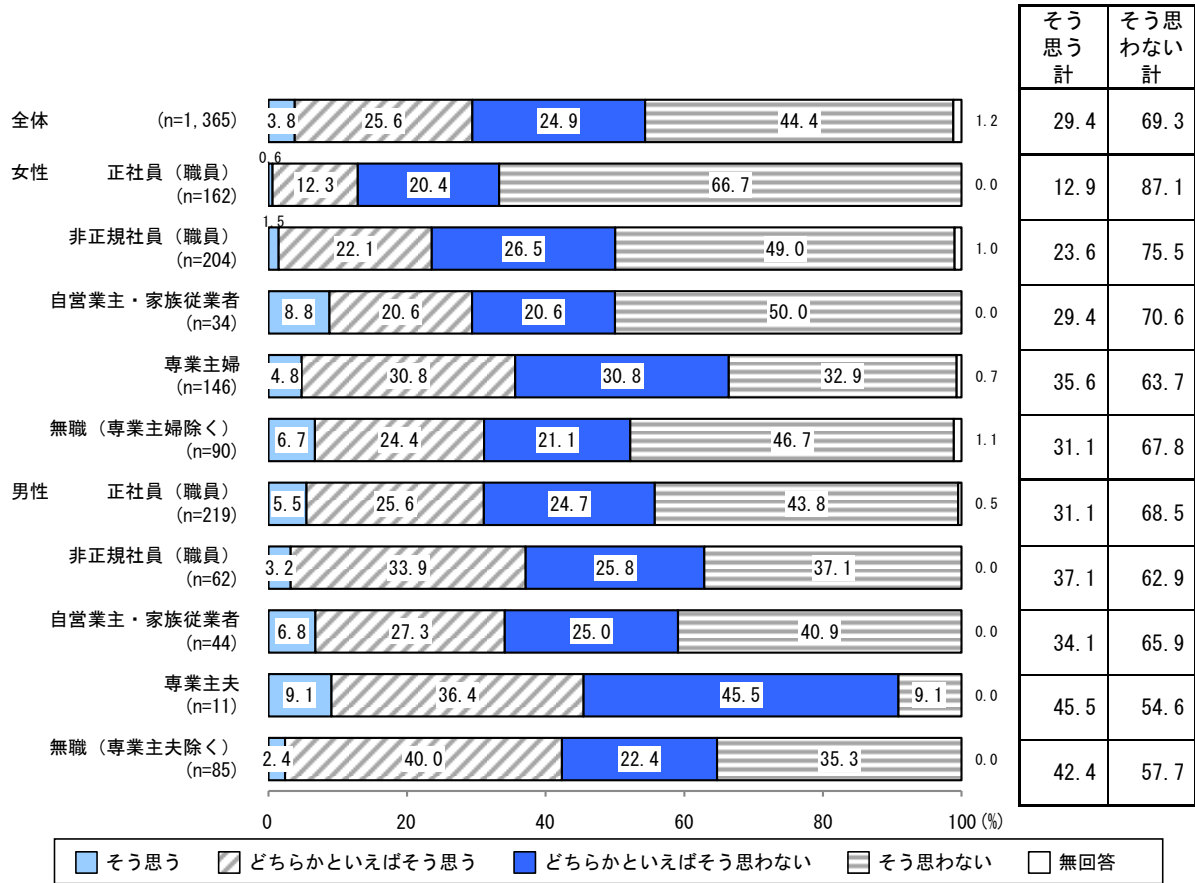
性・年代別でみると、“そう思わない計”の割合は概ね男女ともに年代の低い方が高く、性・未既婚別では男女ともに未婚者の方が高い。また、性・勤務形態別では特に女性の正社員（正職員）で高い。前回調査と比較すると、全体・男女ともに“そう思わない計”は高い。



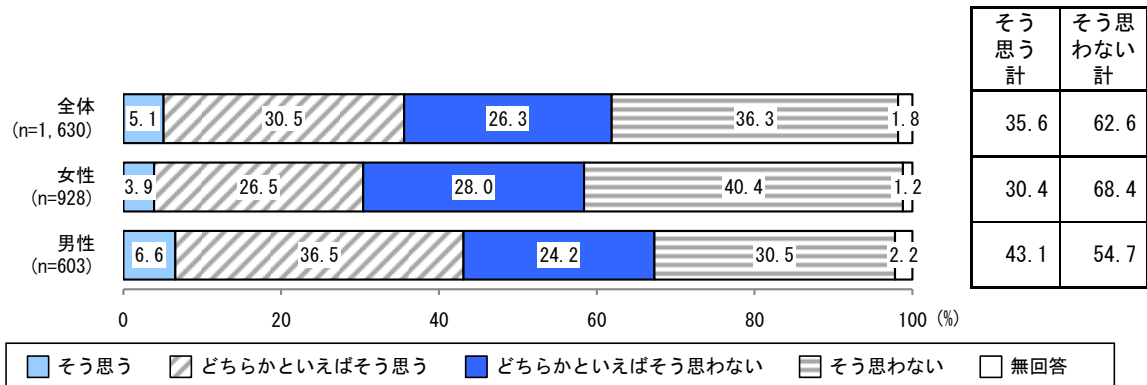
### 【性・未既婚別（既婚…問24で結婚経験がありと答えた方を掲載）】



【性・勤務形態別】

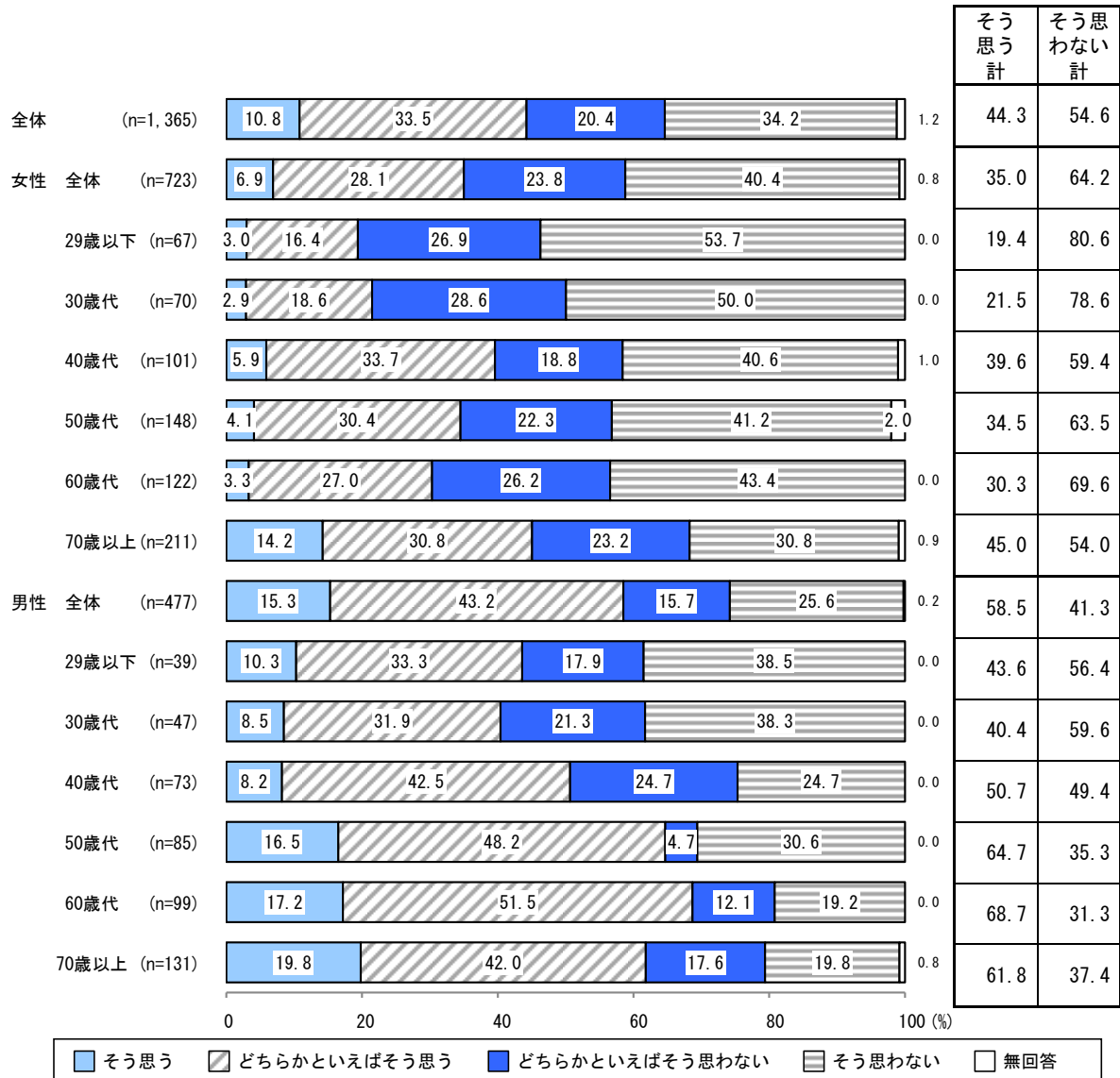


【前回調査（令和2年）】

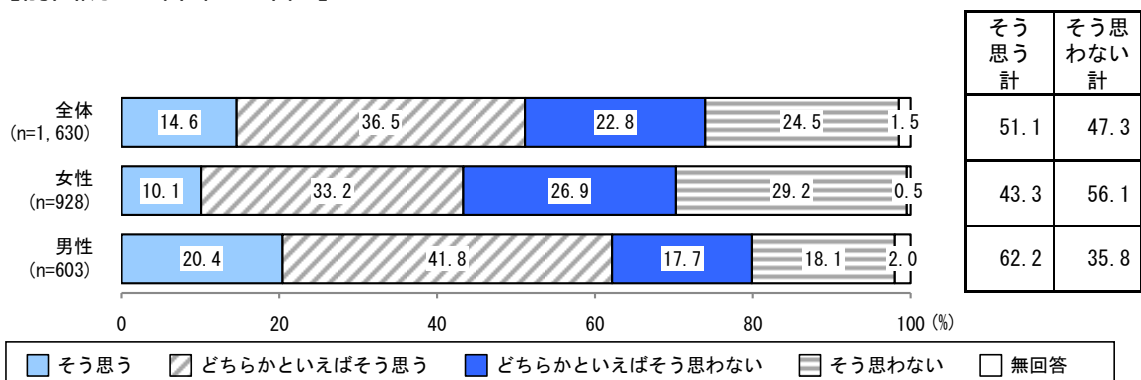


(B) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい

性・年代別でみると、“そう思わない計”の割合は男性の年代が高くなるにつれて低くなっており、40歳代以上で50%を下回る。すべての年代で男性の“そう思わない計”の割合が女性に比べて低く、60歳代では男女差が38.3ポイントと大きくなっている。

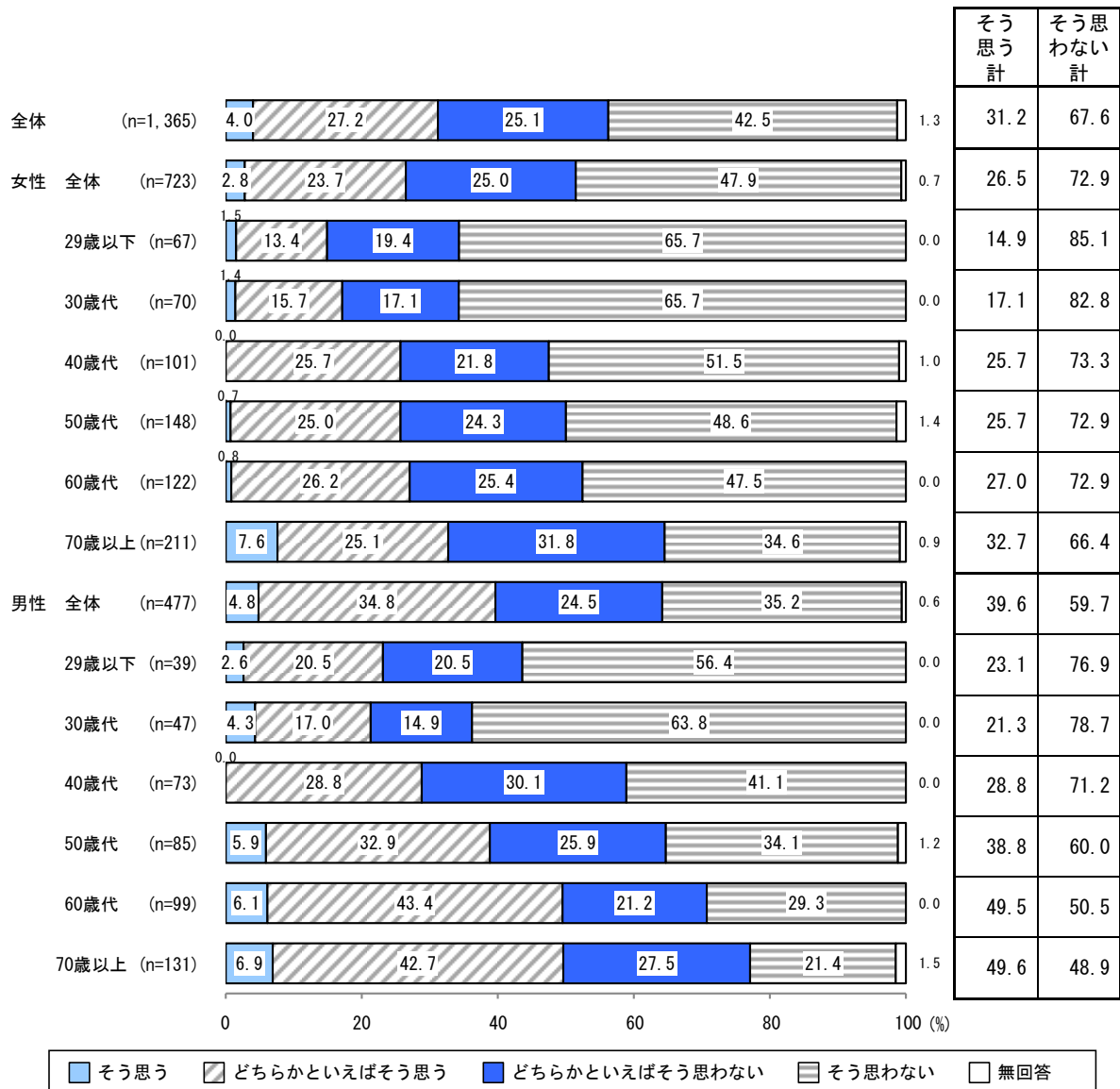


【前回調査（令和2年）】

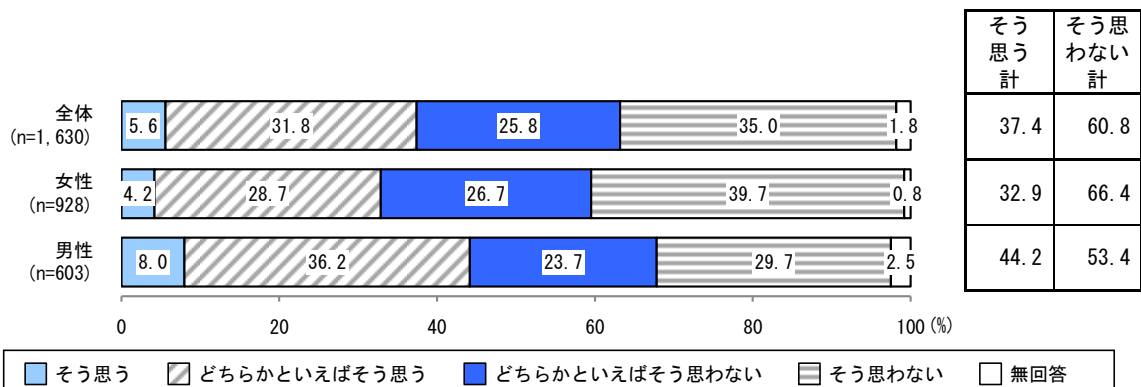


### (C) 育児は父親よりも母親がすべきである

性・年代別でみると、“そう思わない計”の割合は、女性は60歳代以下、男性は40歳代以下が70%以上と高い。すべての年代で男性の“そう思わない計”の割合が女性に比べて低く、50歳代以上で男女差がより大きい。

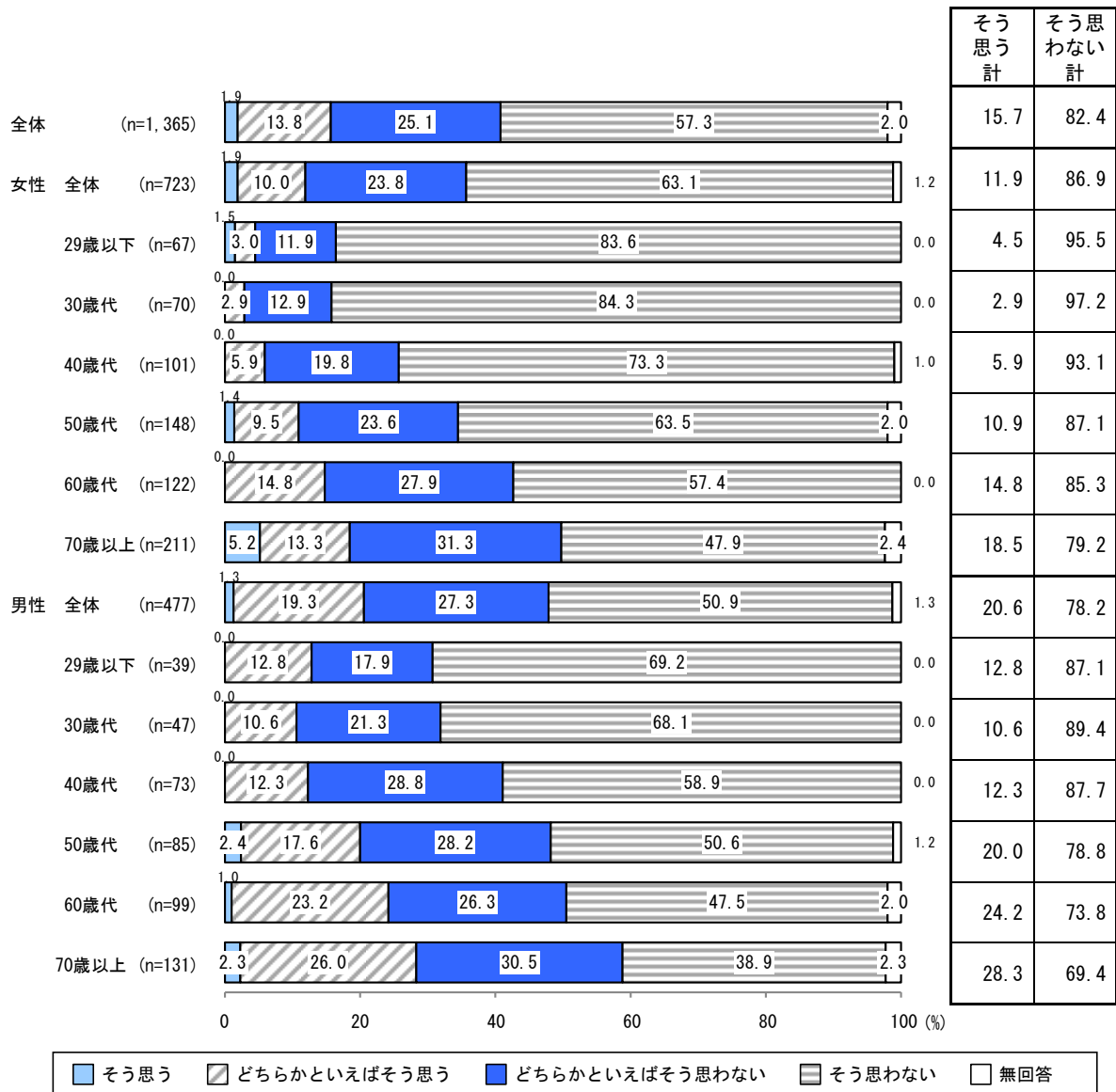


### 【前回調査（令和2年）】

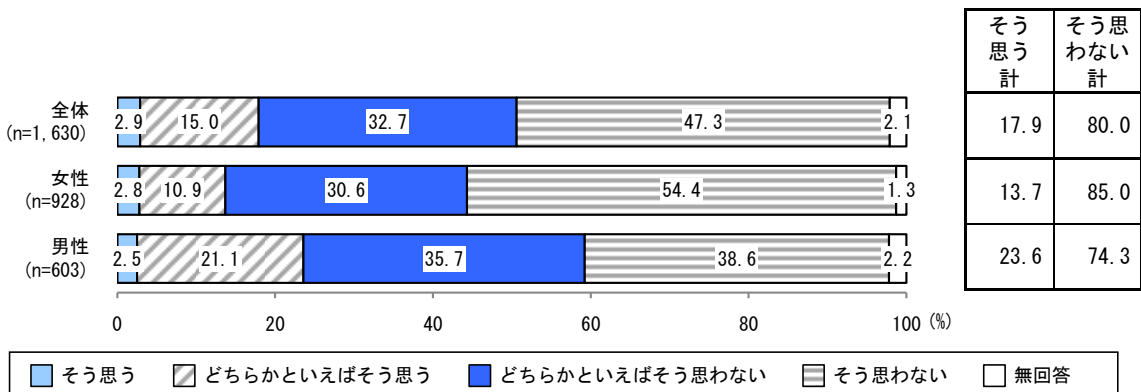


(D) 介護は男性よりも女性がすべきである

性・年代別でみると、“そう思わない計”の割合は男女とも年代が高くなるほど概ねその割合は低い。すべての年代で男性の“そう思わない計”の割合が女性に比べて低くなっている。

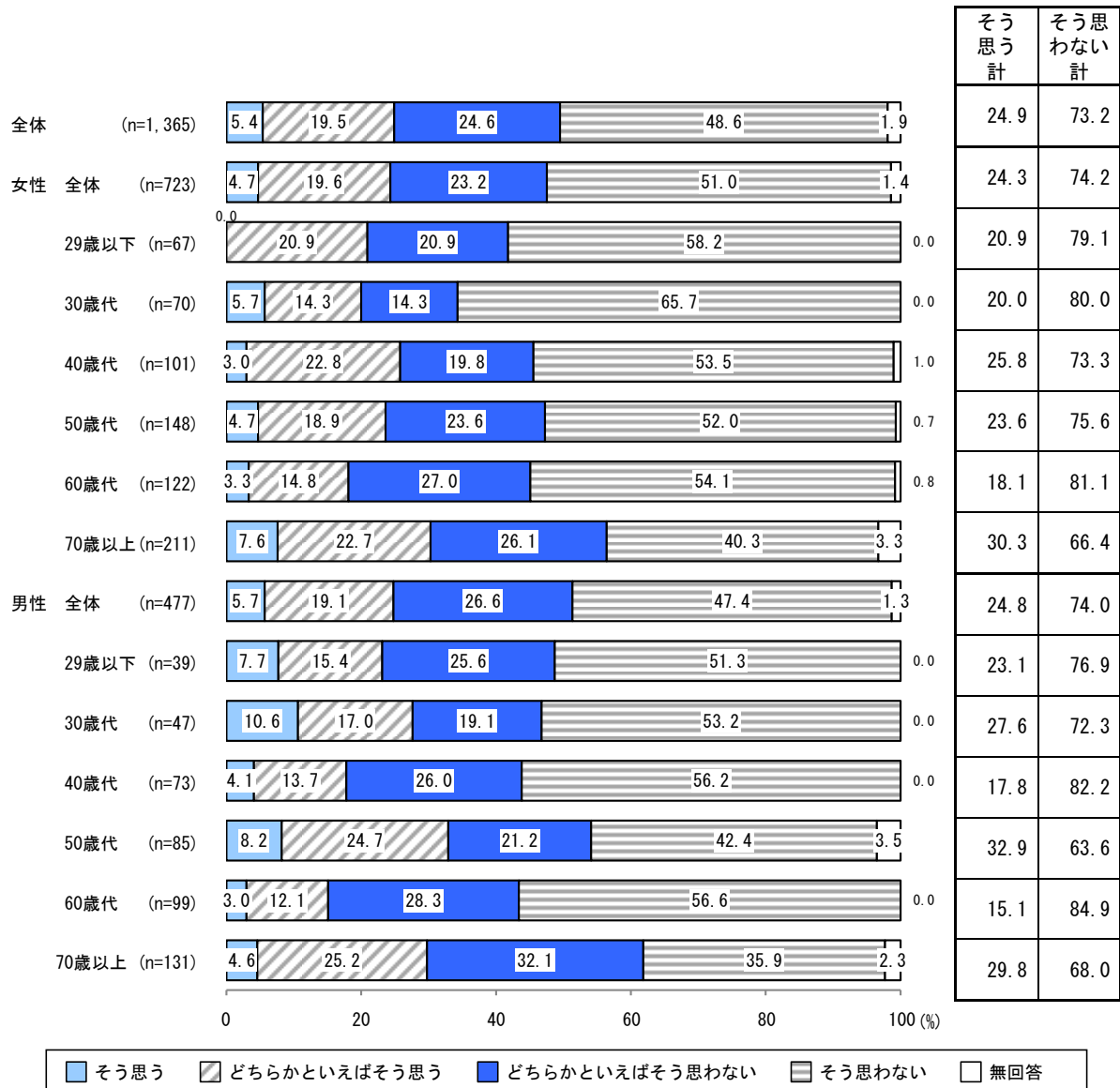


【前回調査（令和2年）】

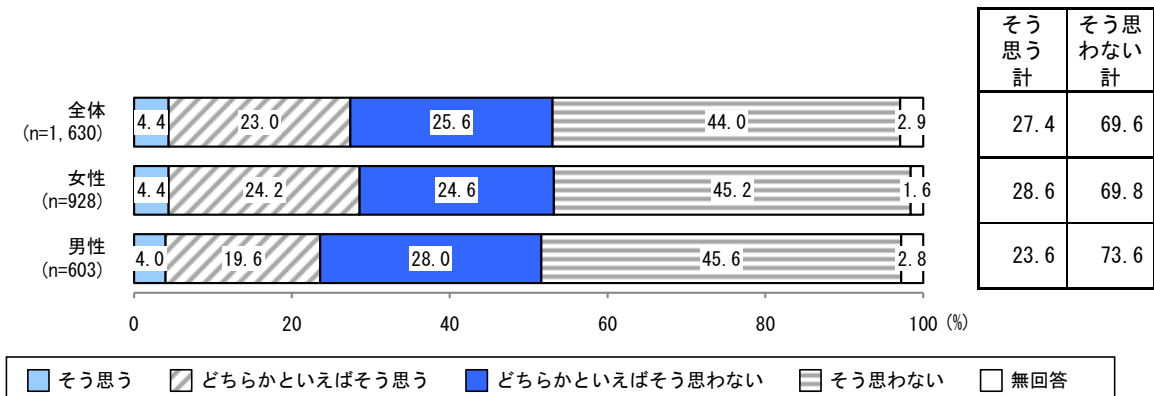


(E) 理科や数学は、女子よりも男子が向いている

性・年代別でみると、“そう思わない計”の割合は30歳代以下及び50歳代で女性が男性に比べて高く、50歳代では男女差がより大きい。

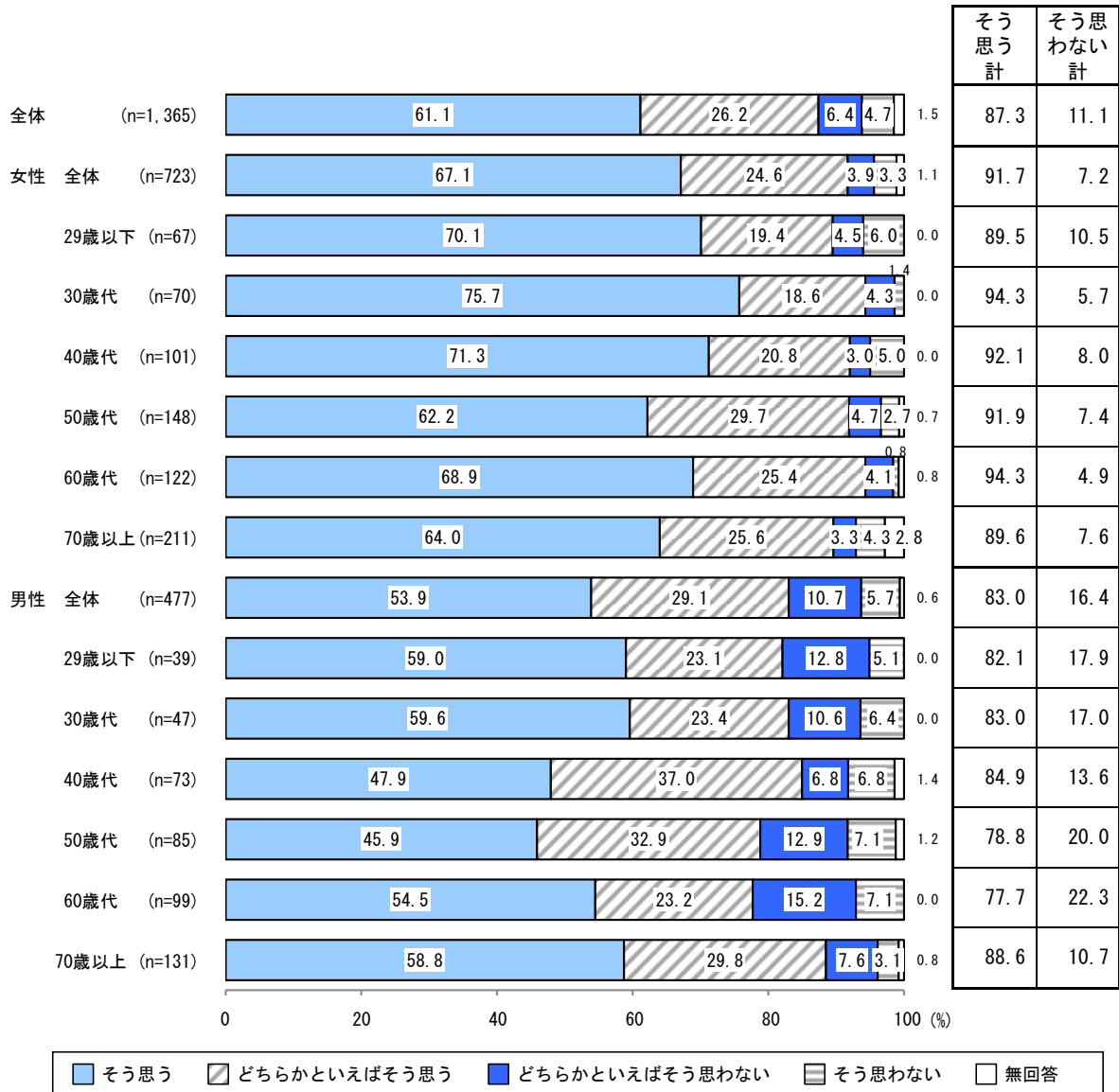


【前回調査（令和2年）】

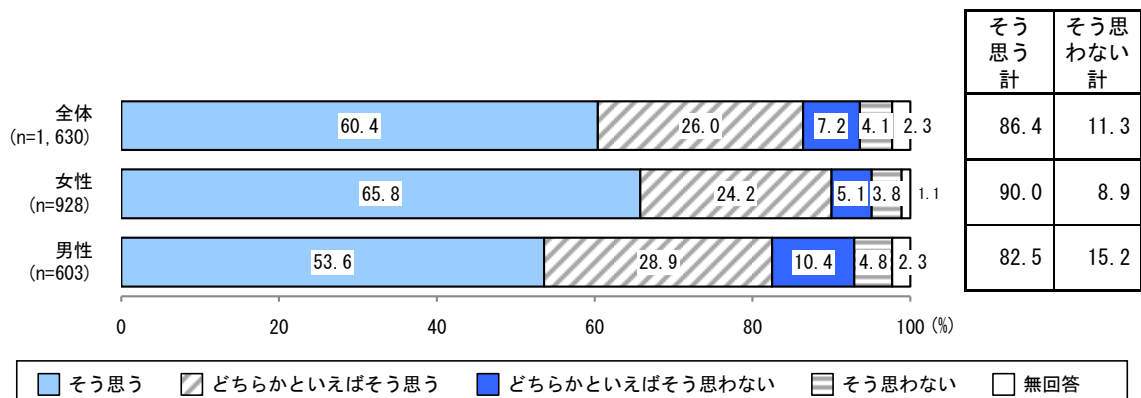


(F) こどもは、性別にとらわれずその子らしく育てるのがよい

性・年代別でみると、“そう思う計”の割合は男性の50・60歳代以外のすべての年代で80%を超えている。すべての年代で女性の“そう思う計”の割合が男性に比べて高くなっている。

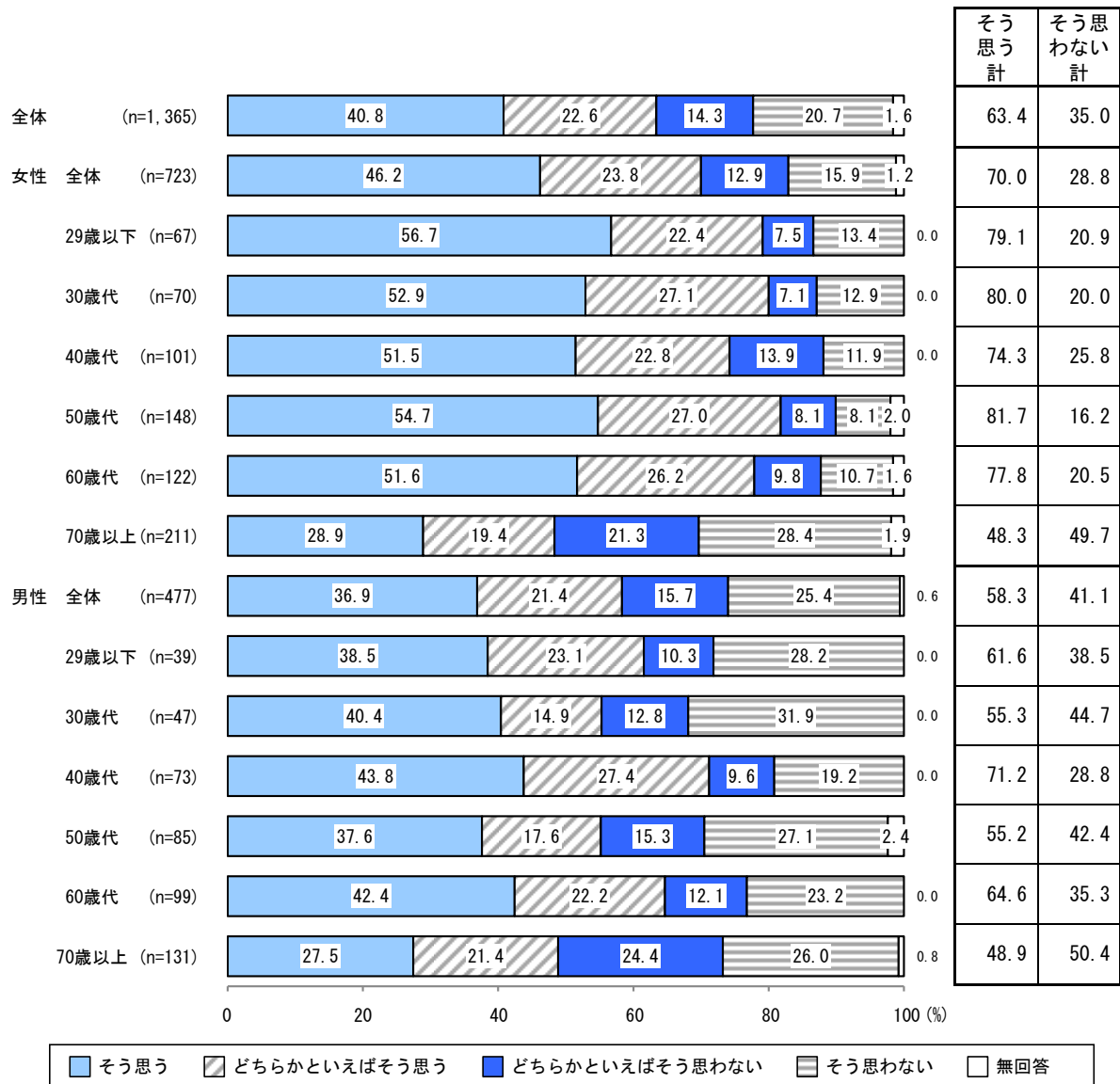


【前回調査（令和2年）】

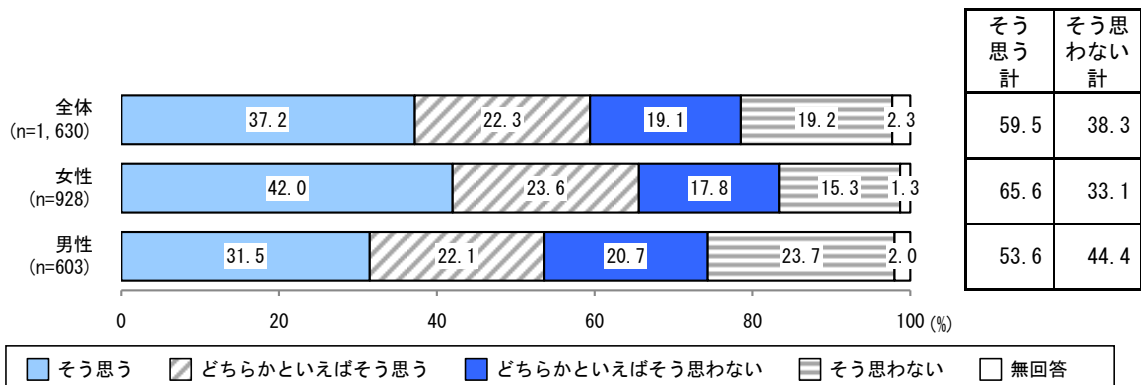


(G) 希望すれば夫と妻が別姓を名乗っても構わない

性・年代別でみると、“そう思う計”の割合は女性の60歳代までの年代では70~80%を占めている。70歳以上を除くすべての年代で女性の“そう思う計”の割合が男性に比べて高く、50歳代で男女差がより大きい。

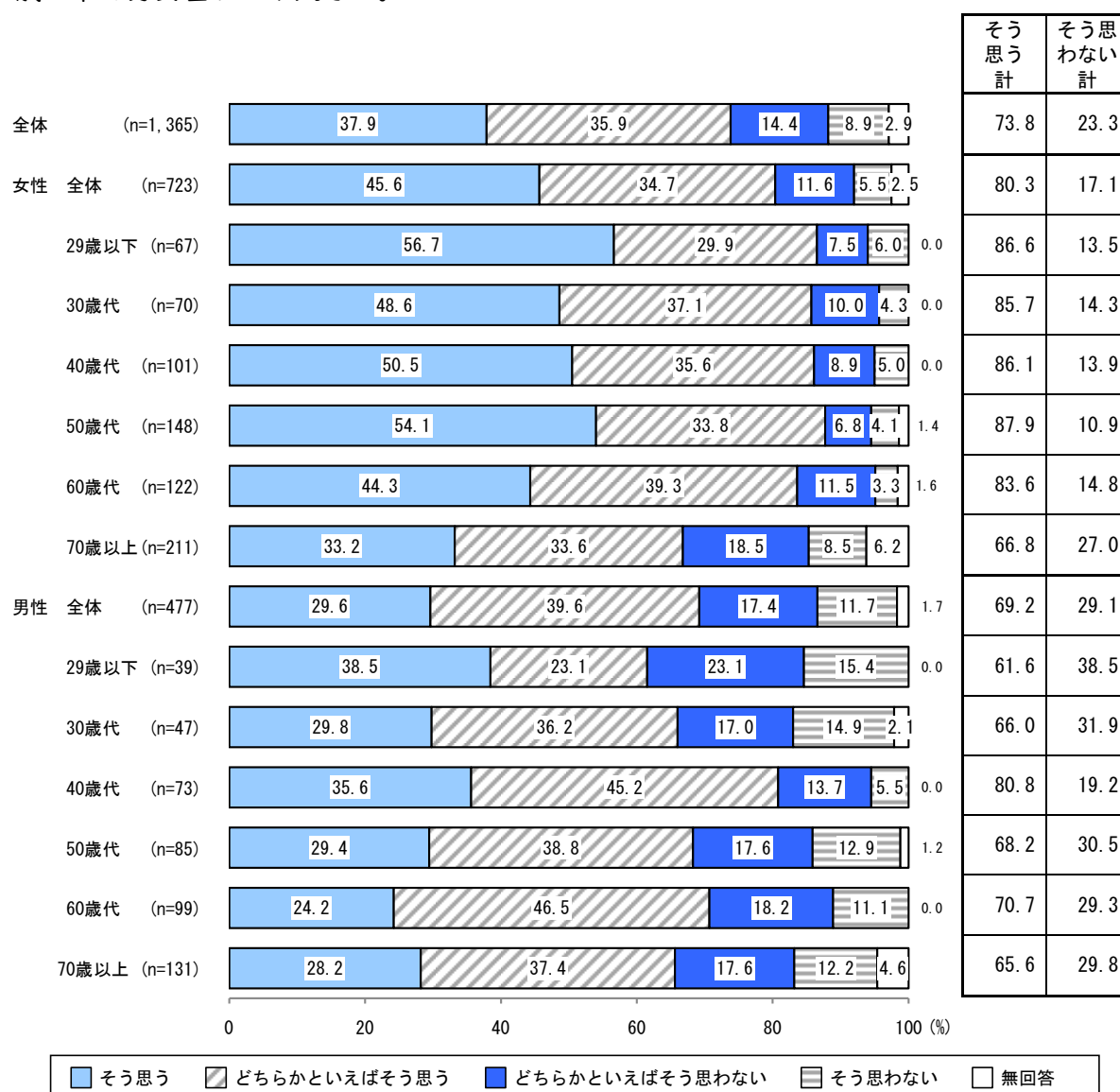


【前回調査（令和2年）】

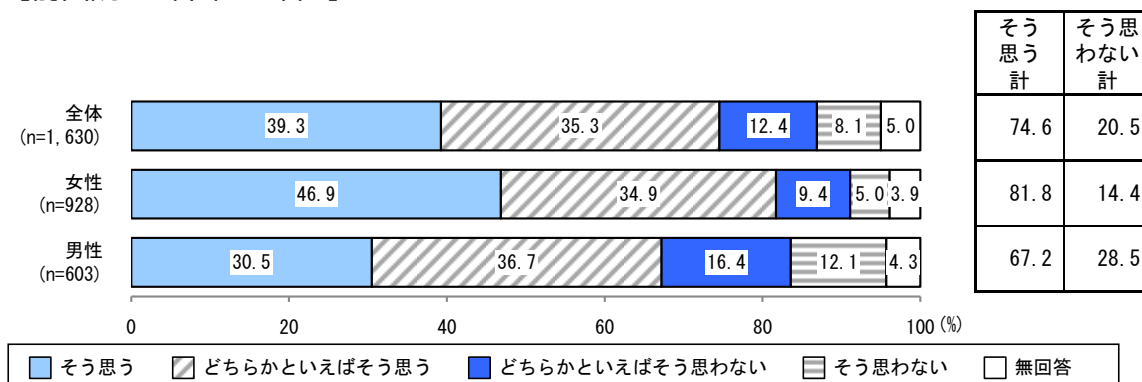


## (H) 性の多様性を認めるべきである

性・年代別でみると、“そう思う計”の割合は女性の60歳代までの年代及び男性の40歳代で80%台と高い。すべての年代で女性の“そう思う計”の割合が男性に比べて高く、29歳以下で男女差がより大きい。



### 【前回調査（令和2年）】



### (3) もっと女性が増えた方がよい職業や役職

問3 あなたが、今後女性がもっと増えた方がよいと思う職業や役職はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「国会議員・地方議員などの政治家」が59.8%で最も多く、次いで「医師」が56.7%となっている。

性別で見ると、女性では「医師」が62.5%で最も多く、男性に比べて11.1ポイント高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体ではいずれの項目も前回より割合が高く、前回調査では「医師」が54.9%で最も高くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査(令和2年)		
	全体 (n=1,365)	女性 (n=723)	男性 (n=477)	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
大臣や閣僚	56.2	57.1	61.0	49.1	53.4	43.3
地方自治体の首長(知事、市長など)	54.6	55.6	57.9	47.7	49.2	46.4
国会議員・地方議員などの政治家	59.8	60.9	63.1	53.1	56.1	49.3
国家公務員・地方公務員の管理職	48.1	49.0	49.9	42.8	46.7	37.3
裁判官・検察官・弁護士	50.0	54.4	47.0	44.4	49.5	38.1
大学教授	35.8	36.5	37.7	29.4	31.3	27.4
企業の管理職	53.3	55.5	52.4	46.1	48.9	43.0
起業家・経営者	42.6	43.8	43.8	38.3	41.2	35.3
団体(組合、NPO、自治会等)の役員	36.9	37.3	37.5	28.6	29.6	26.4
学校長・大学学長	36.3	37.3	37.1	29.3	32.2	25.9
新聞・放送の記者	30.7	31.0	30.4	24.7	27.2	21.1
医師	56.7	62.5	51.4	54.9	59.5	49.1
科学者	34.7	34.0	35.4	28.5	29.7	27.4
その他	3.6	2.6	6.1	1.7	1.5	2.0
特にない	12.4	10.4	13.6	13.3	11.2	16.1
無回答	1.0	0.7	0.2	2.5	2.0	2.8

## 2 家庭生活について

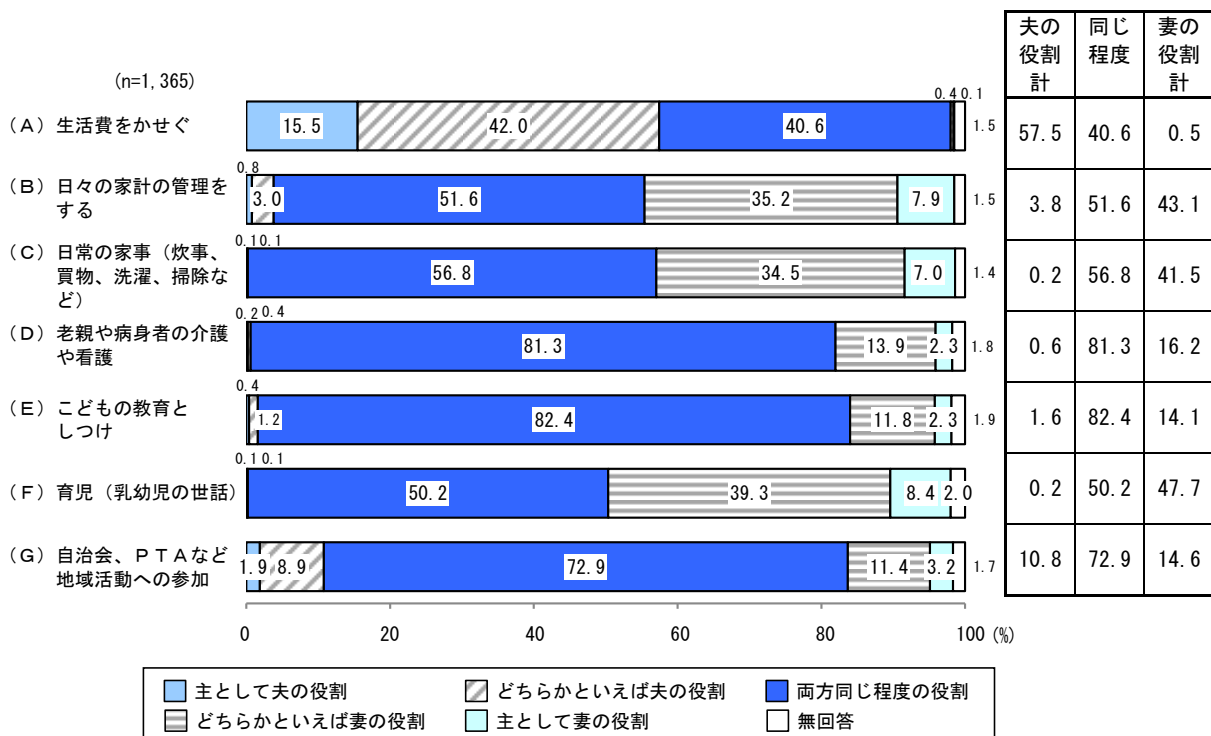
### (1) 夫婦間の役割分担意識

問4 家庭における役割について、あなたはどのようにお考えですか。配偶者・パートナーがいない方は、仮にしていることを想定してお答えください。（それぞれ○は一つ）  
 ※「配偶者・パートナー」には、婚姻届を出していない事実婚の相手も含まれます。

全体では、『(A)生活費を稼ぐ』は“夫の役割計”が57.5%と高いが、それ以外の項目は「同じ程度」の割合が最も高くなっている。

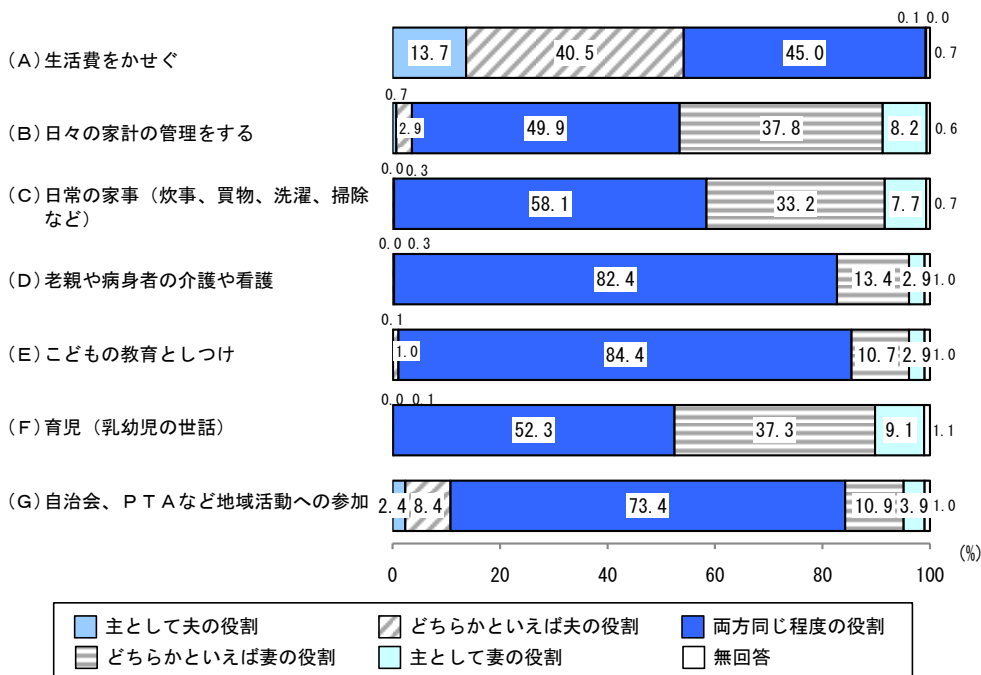
性別でみると、『(A)生活費を稼ぐ』では“夫の役割計”が女性より男性のほうが10.4ポイント高い以外は、男女間で“夫の役割計”の割合や“妻の役割計”の割合に大きな差はみられない。

前回調査との比較でみると、全体では「同じ程度」の割合はいずれの項目も前回より高くなっている。



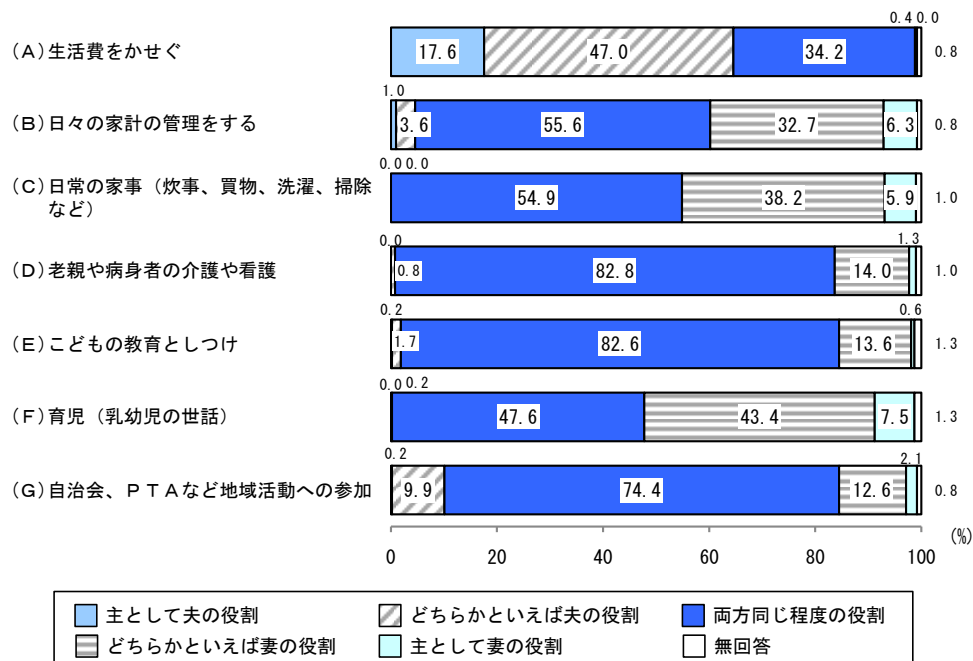
※夫の役割計：「主として夫の役割」「どちらかといえば夫の役割」をあわせた値  
 妻の役割計：「主として妻の役割」「どちらかといえば妻の役割」をあわせた値

女性(n=723)



夫の役割計	同じ程度	妻の役割計
54.2	45.0	0.1
3.6	49.9	46.0
0.3	58.1	40.9
0.3	82.4	16.3
1.1	84.4	13.6
0.1	52.3	46.4
10.8	73.4	14.8

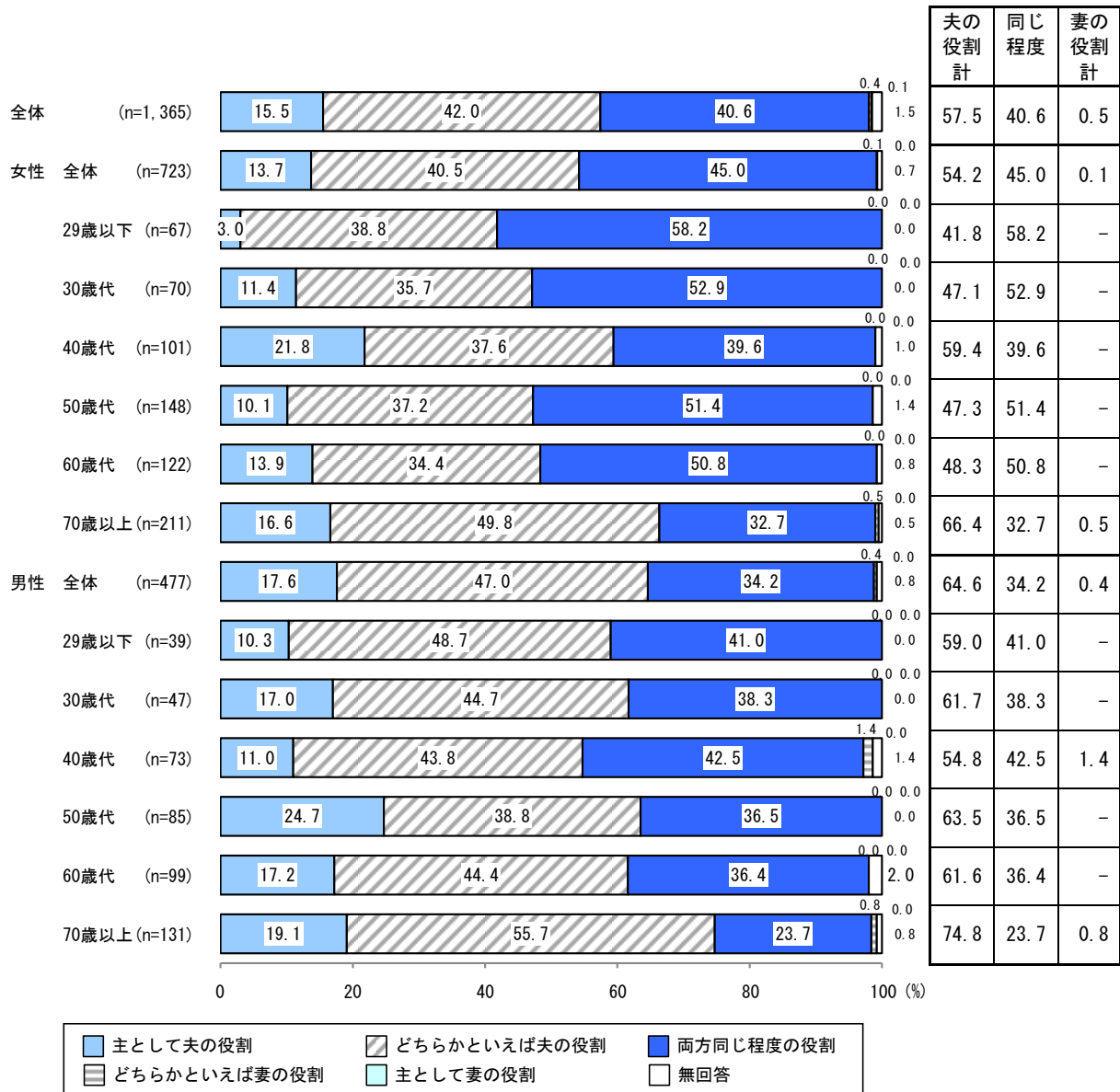
男性(n=477)



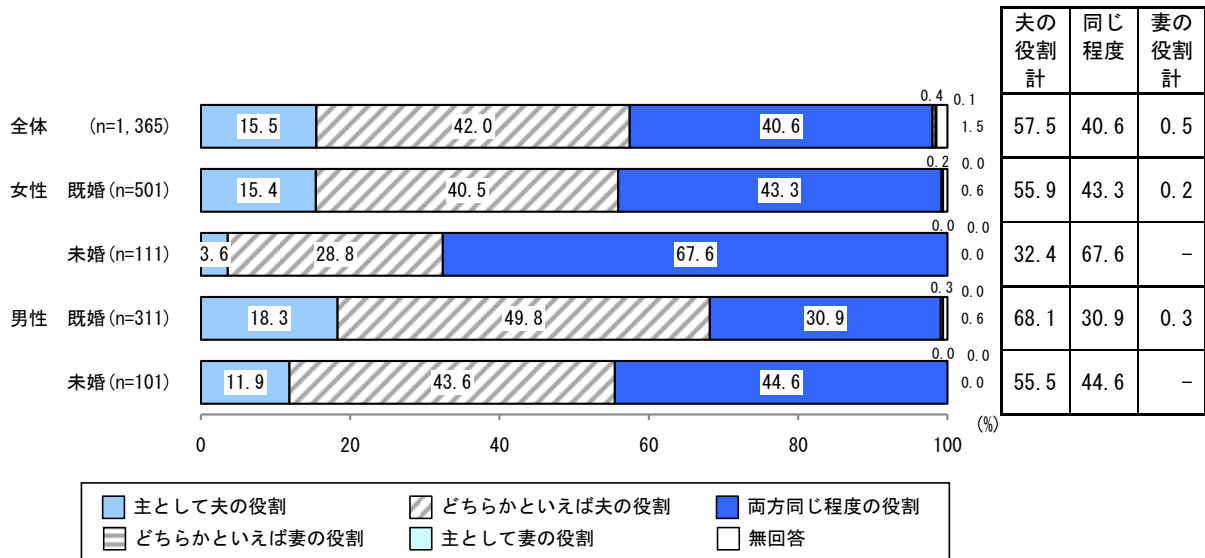
夫の役割計	同じ程度	妻の役割計
64.6	34.2	0.4
4.6	55.6	39.0
-	54.9	44.1
0.8	82.8	15.3
1.9	82.6	14.2
0.2	47.6	50.9
10.1	74.4	14.7

### (A) 生活費をかせぐ

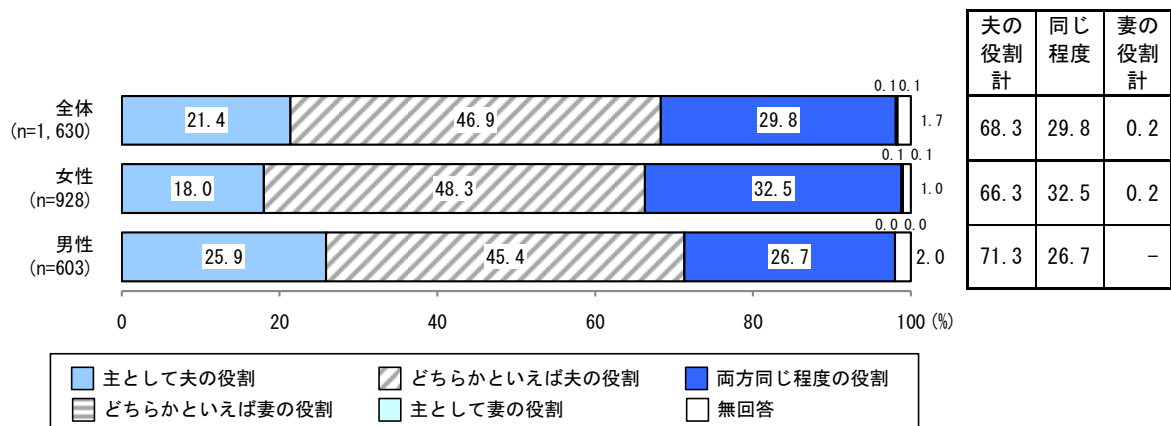
性・年代別でみると、“夫の役割計”の割合は40歳代では男性より女性のほうが高いが、それ以外の年代は男性のほうが高くなっている。



【性・未既婚別（既婚…問24で結婚経験がありと答えた方を掲載）】

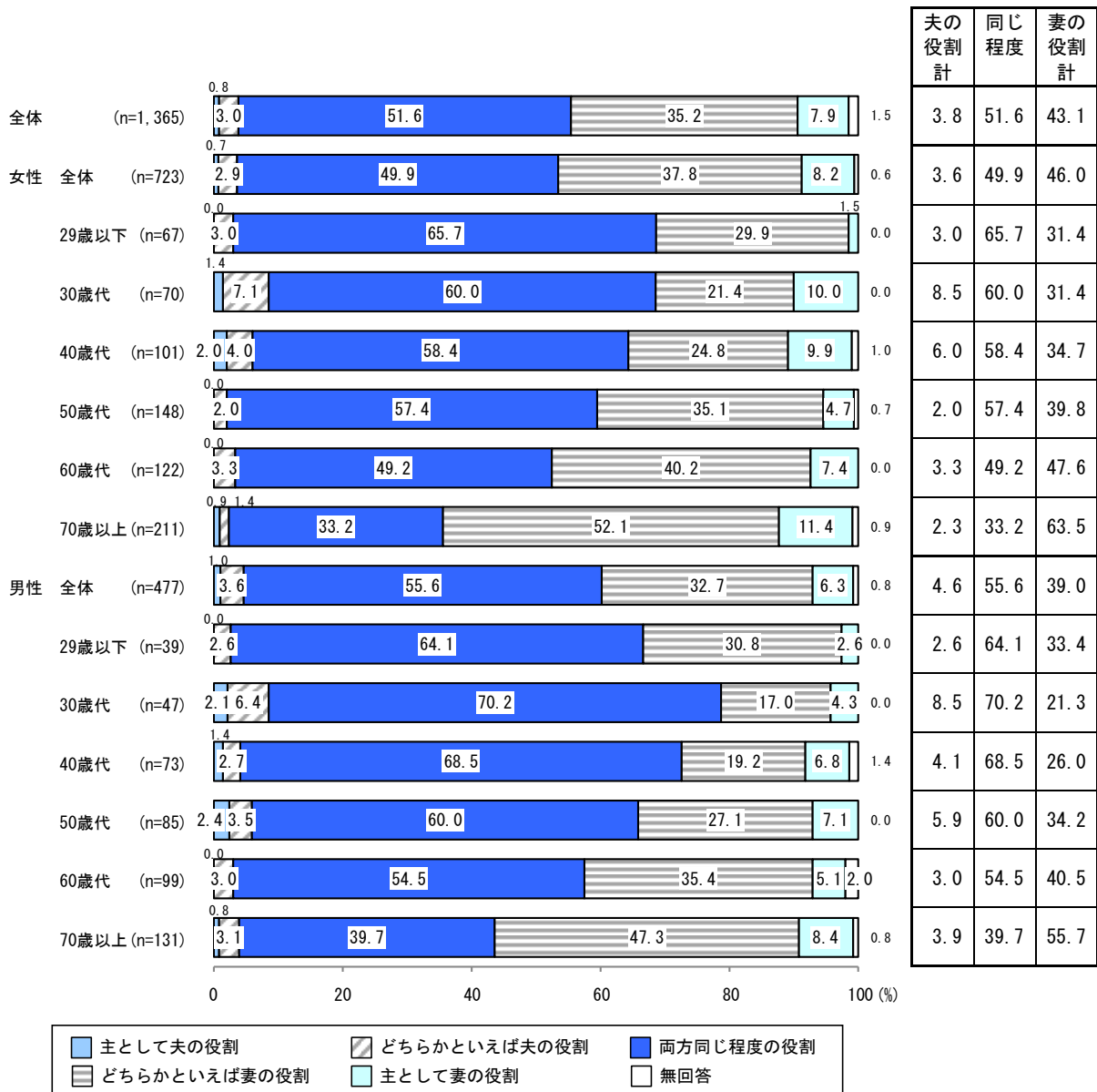


【前回調査（令和2年）】

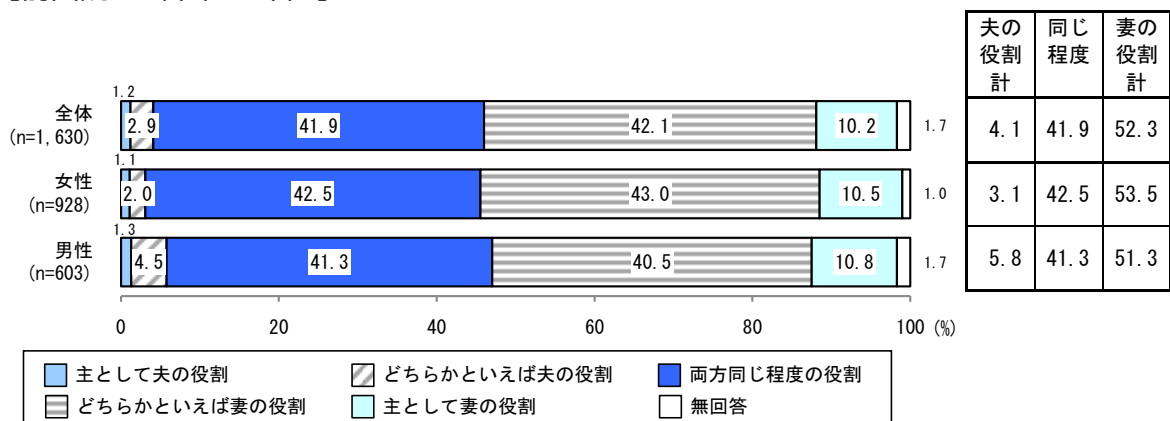


## (B) 日々の家計の管理をする

性・年代別でみると、“妻の役割計”の割合は男女ともに概ね高齢になるほど割合が高く、男女とも70歳以上が最も高くなっている。30歳代以上女性の“妻の役割計”の割合が男性に比べて高い。



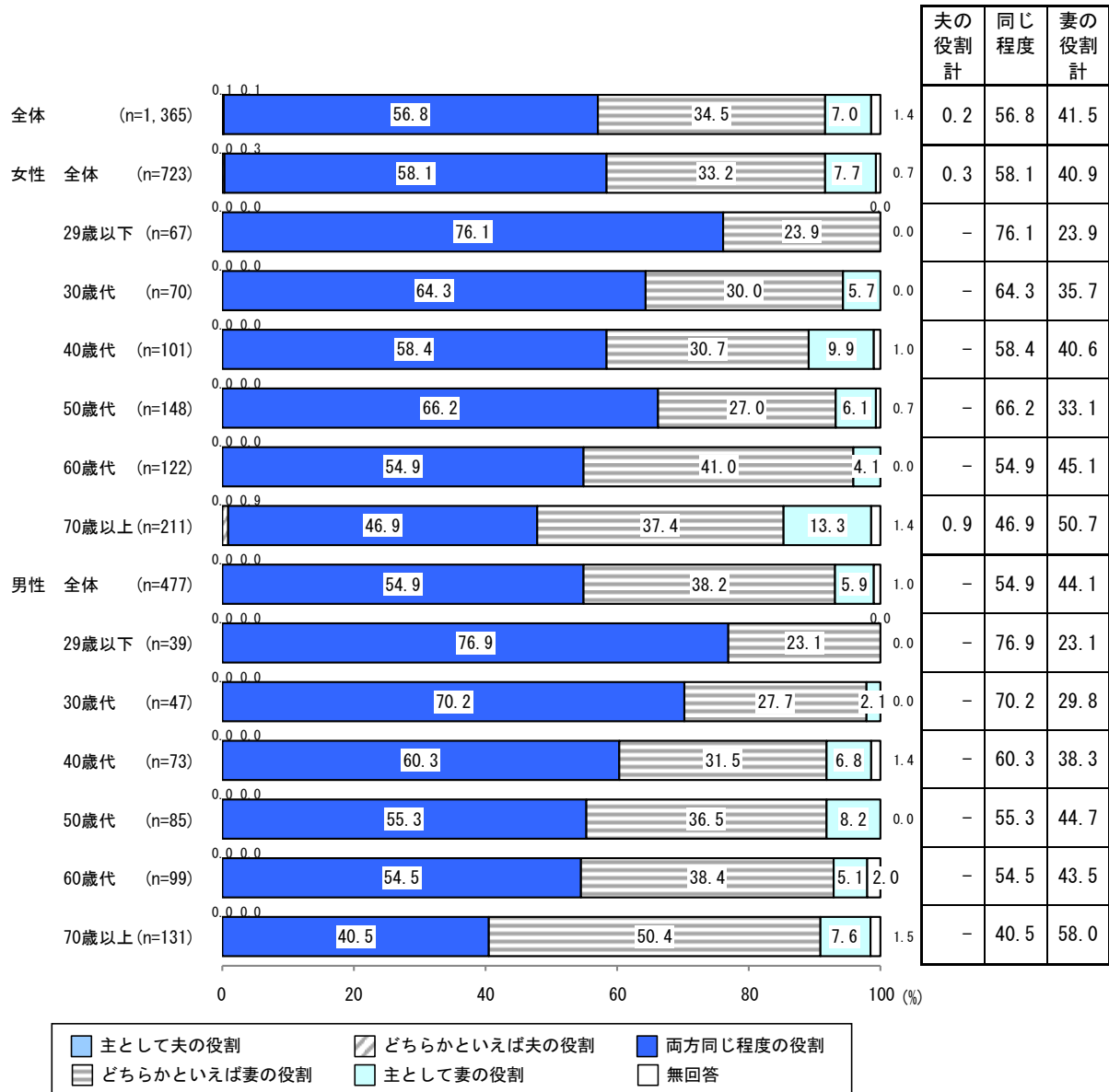
## 【前回調査（令和2年）】



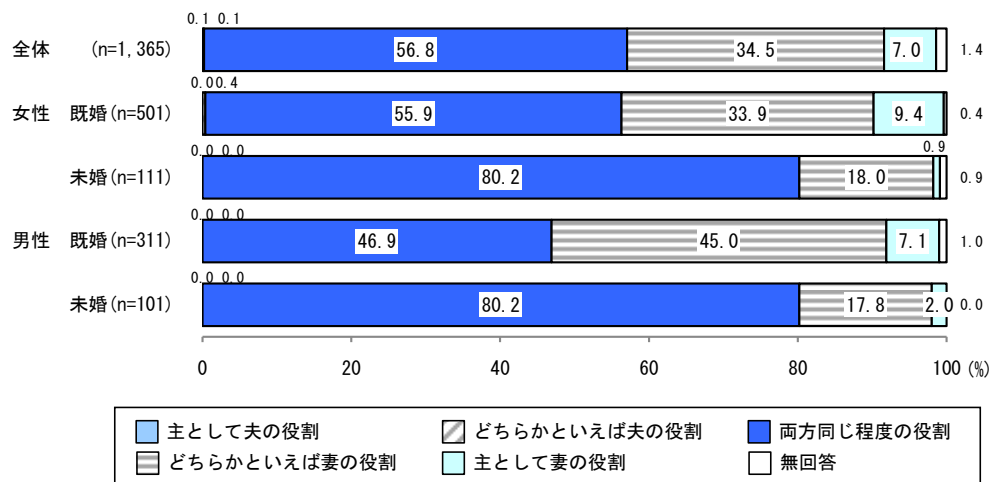
### (C) 日常の家事

性・年代別でみると、“妻の役割計”の割合は男女ともに30歳代以下で低く、「両方同じ程度の役割」の割合が60%を超えている。50歳代男性の“妻の役割計”の割合が女性に比べて10ポイント以上高い。

性・未既婚別でみると、“妻の役割計”の割合は男女ともに未婚より既婚のほうが高い。

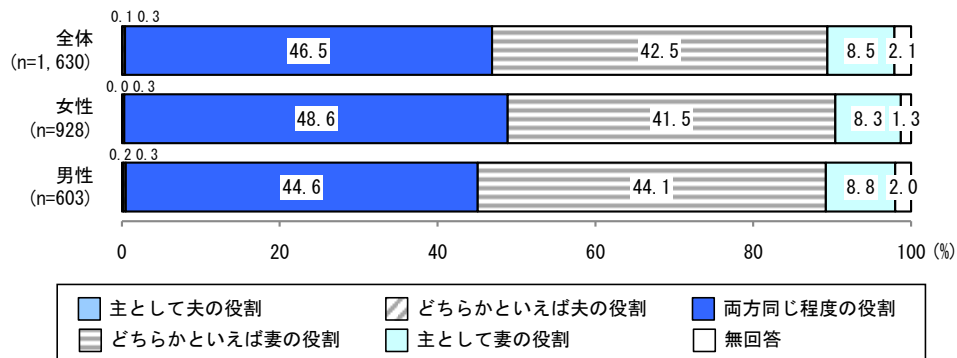


【性・未既婚別（既婚…問24で結婚経験がありと答えた方を掲載）】



夫の役割計	同じ程度	妻の役割計
0.2	56.8	41.5
0.4	55.9	43.3
-	80.2	18.9
-	46.9	52.1
-	80.2	19.8

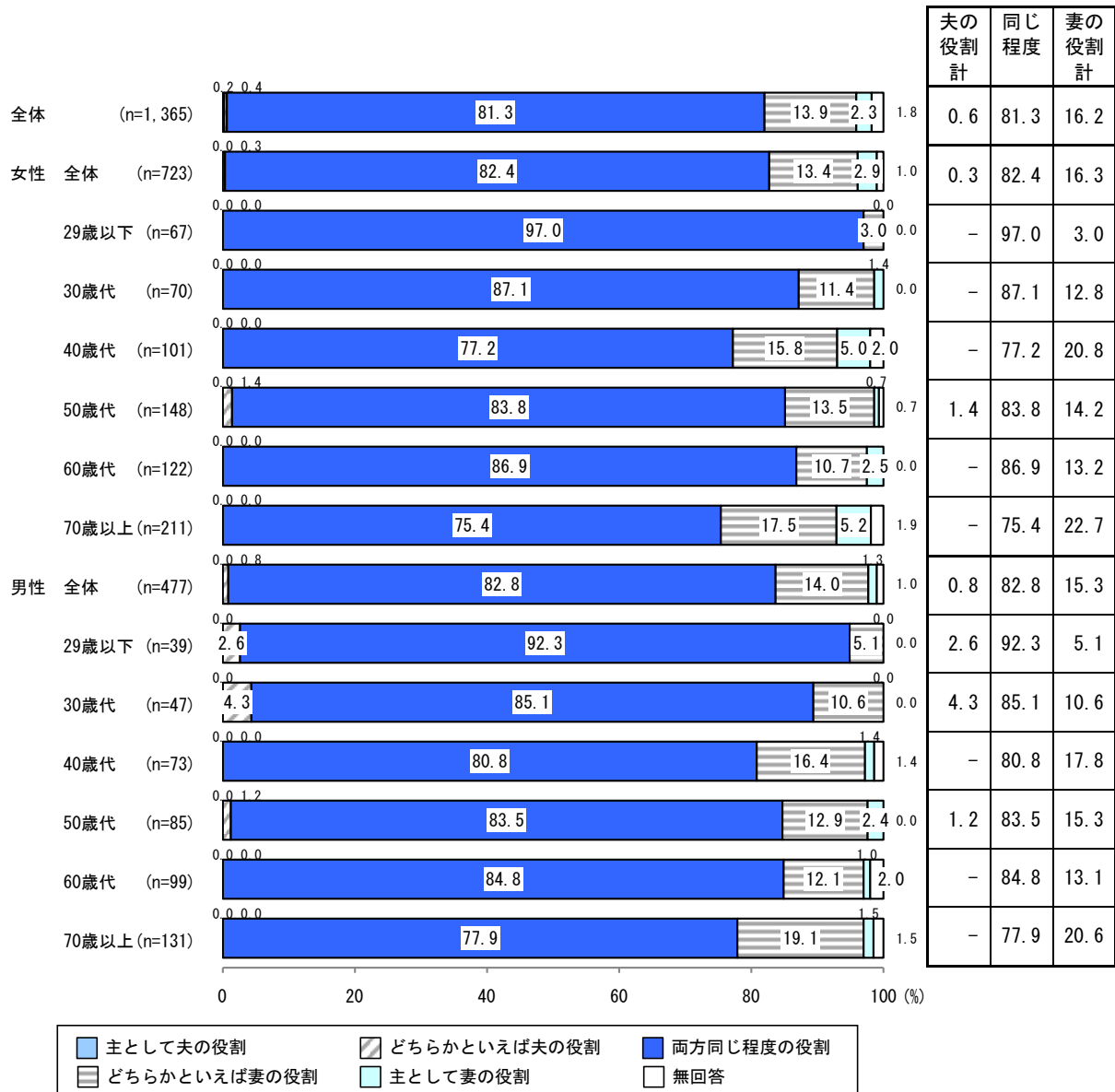
【前回調査（令和2年）】



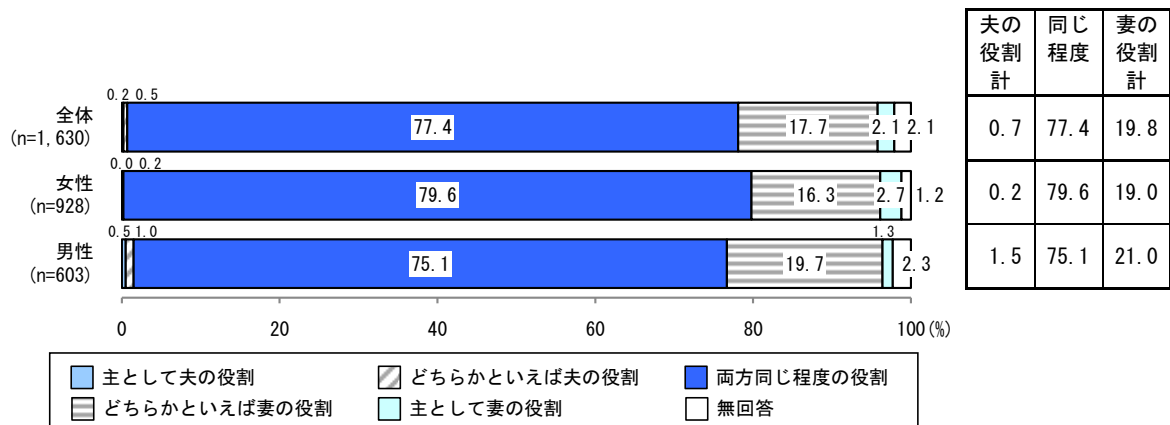
夫の役割計	同じ程度	妻の役割計
0.4	46.5	51.0
0.3	48.6	49.8
0.5	44.6	52.9

### (D) 老親や病身者の介護や看護

性・年代別でみると、すべての年代で「両方同じ程度の役割」の割合が70%を超えており、若い年代ほどその割合は高い。

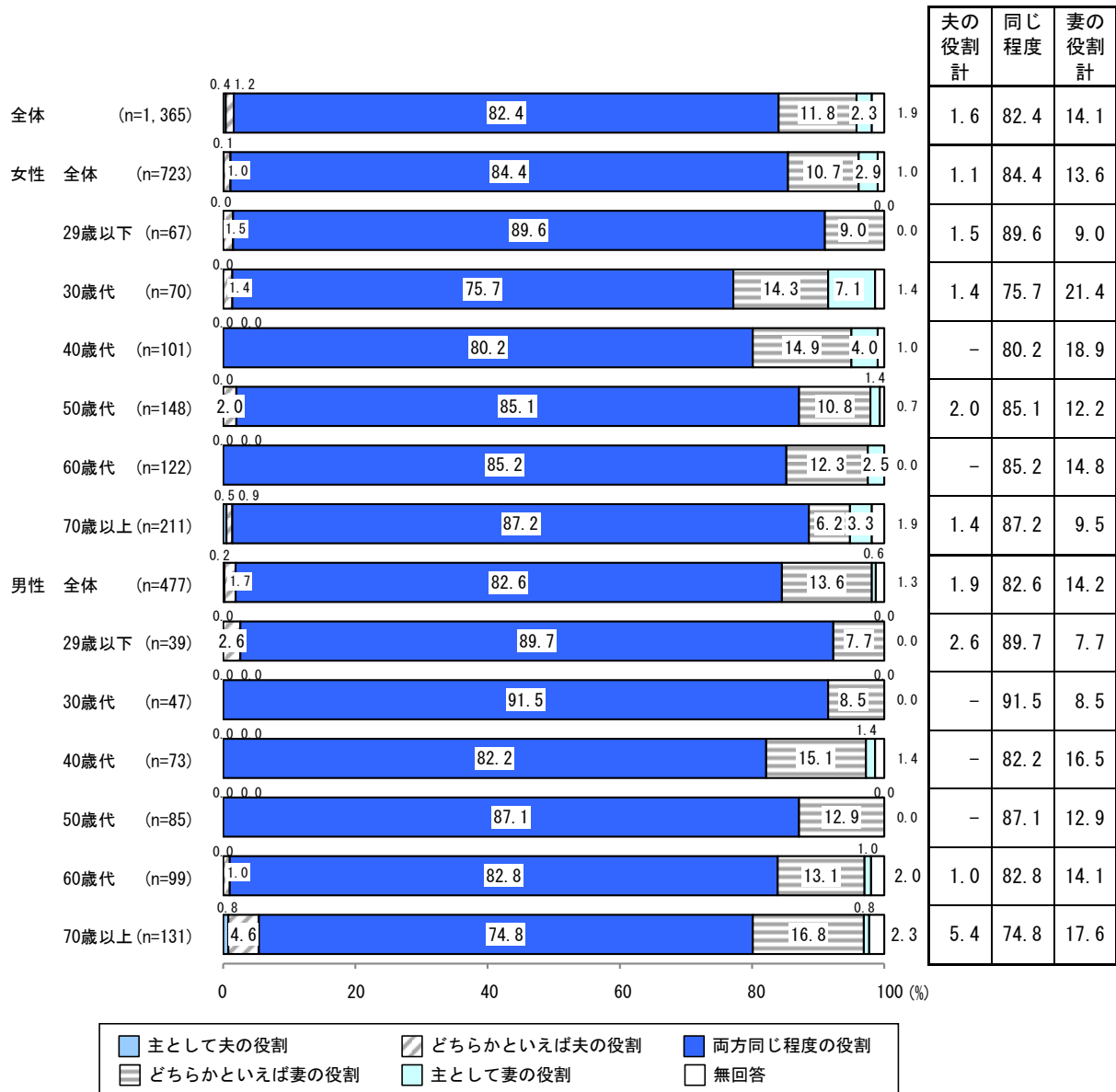


### 【前回調査（令和2年）】

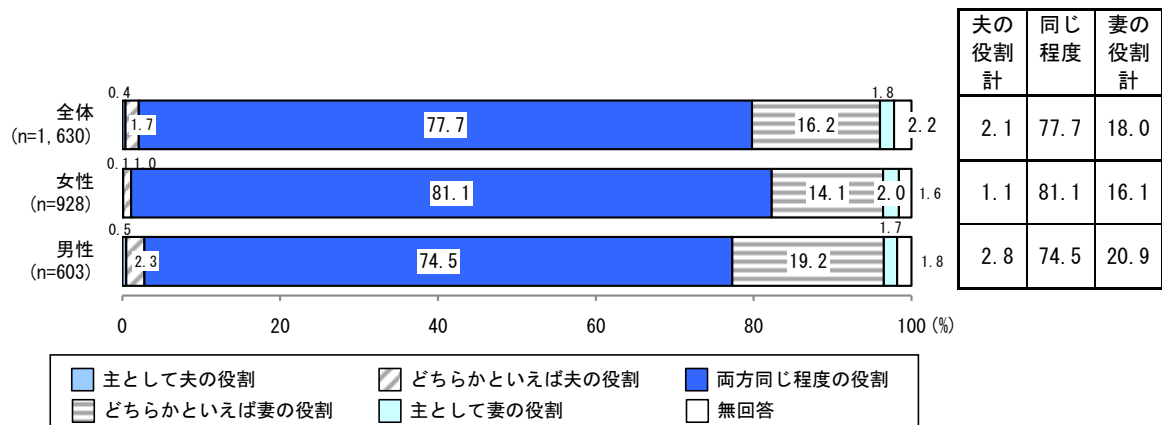


### (E) こどもの教育としつけ

性・年代別でみると、30歳代男性の「両方同じ程度の役割」の割合は女性に比べて15.8ポイント高く、差が最も大きい。



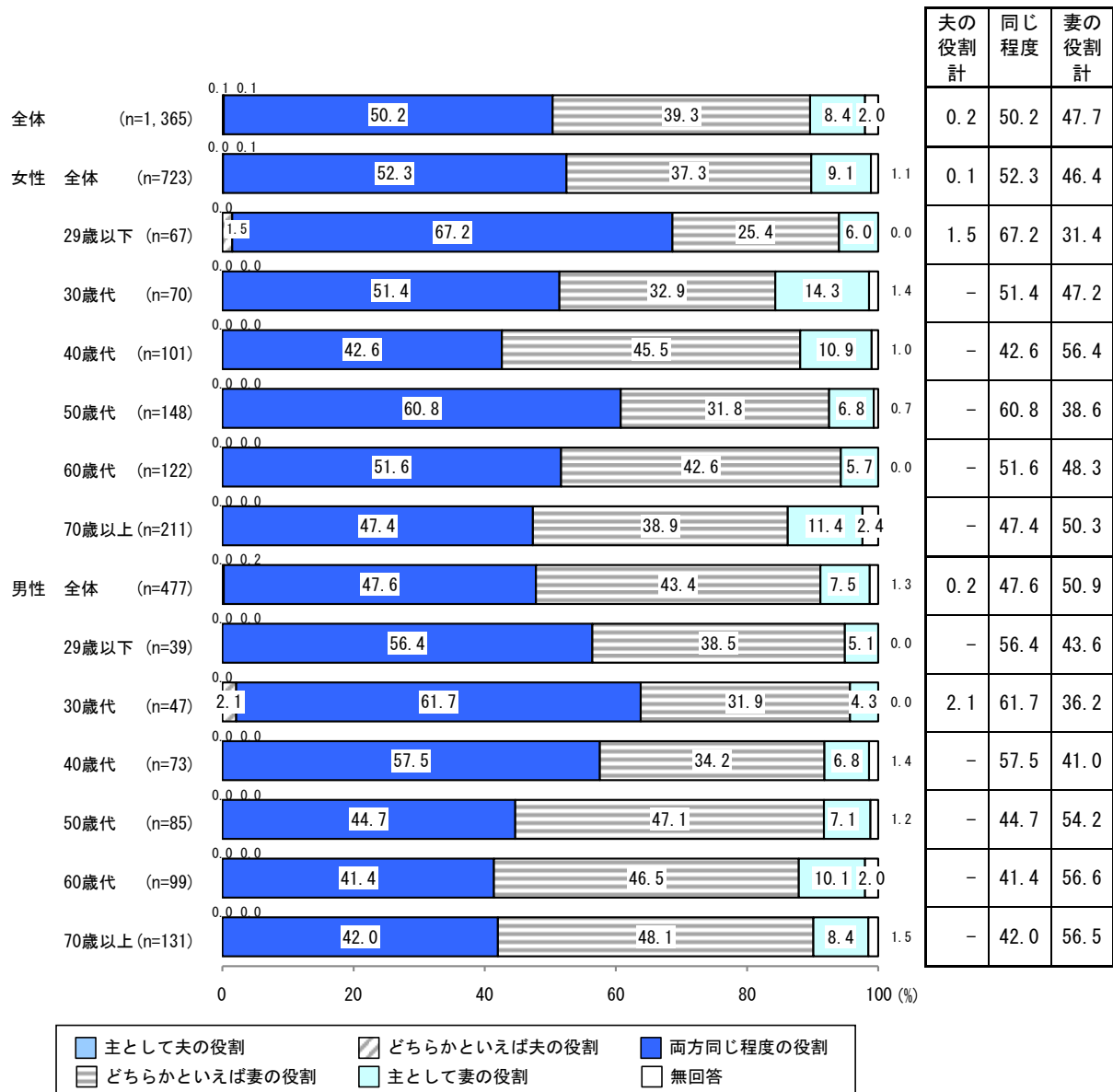
### 【前回調査 (令和2年)】



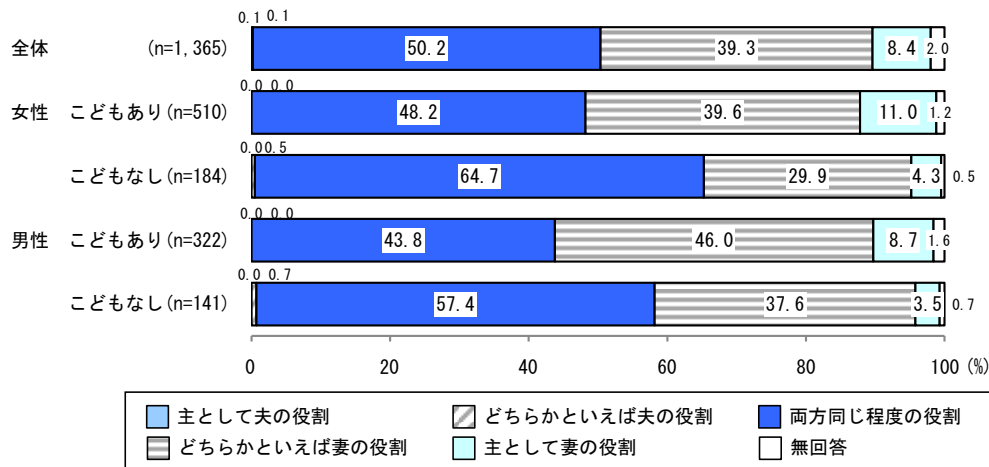
## (F) 育児（乳幼児の世話）

性・年代別でみると、女性では29歳以下と50歳代、男性では30歳代で「両方同じ程度の役割」の割合が60%を超えており、29歳以下と50・60歳代では男性に比べて女性のほうが高くなっている。“妻の役割計”の割合は29歳以下と50歳代が女性に比べて男性のほうが10ポイント以上高い。

性・子どもの有無別でみると、“妻の役割計”の割合は男女とも子どもがいない人よりいる人のほうが高くなっている。

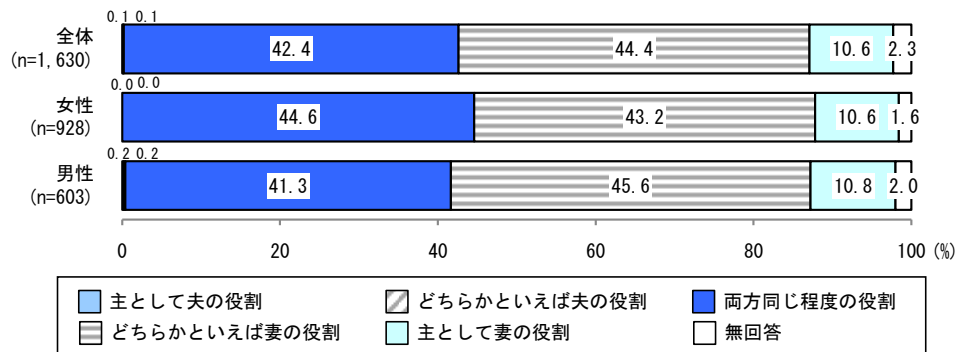


【性・こどもの有無別】



夫の役割計	同じ程度	妻の役割計
0.2	50.2	47.7
-	48.2	50.6
0.5	64.7	34.2
-	43.8	54.7
0.7	57.4	41.1

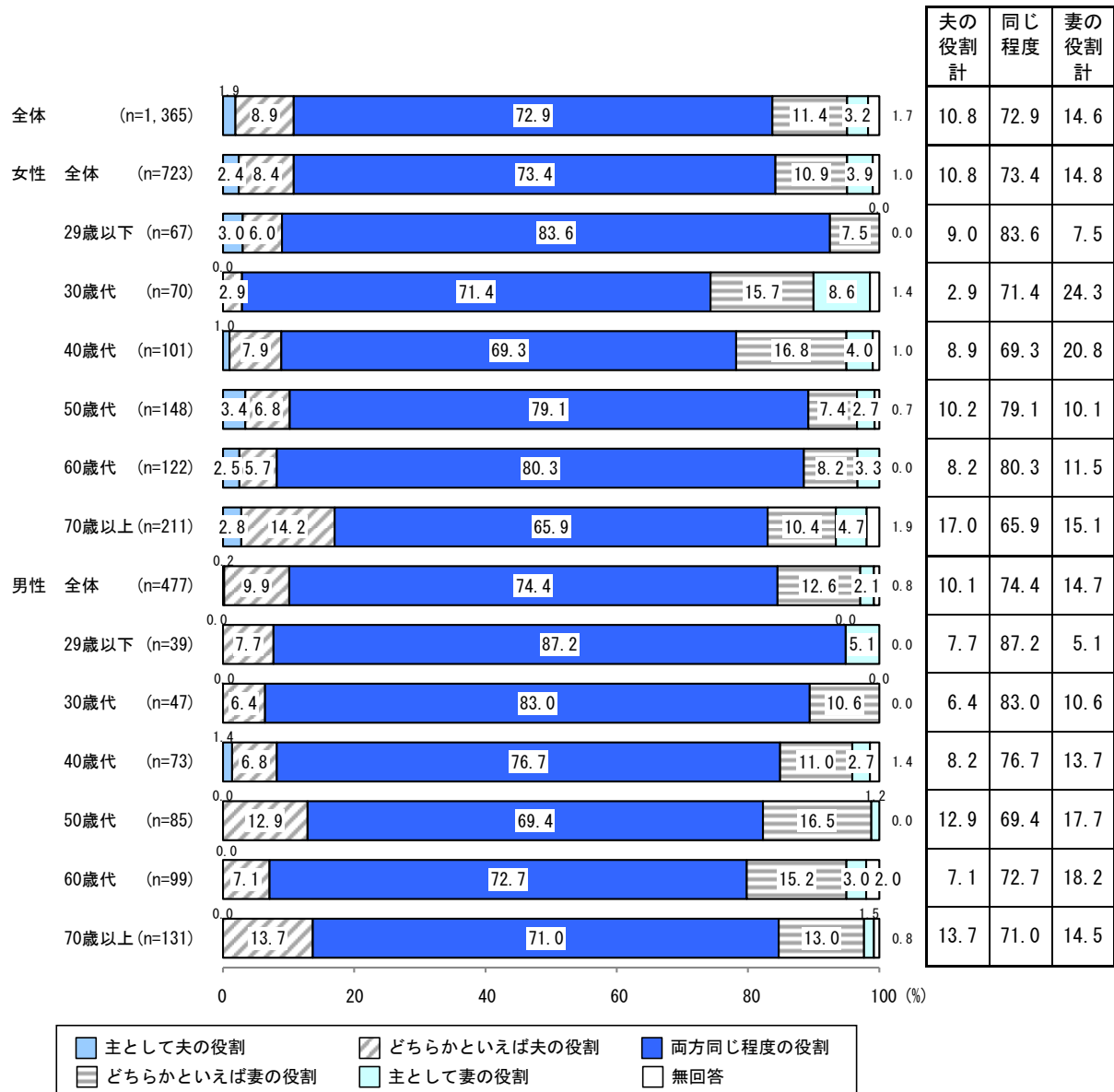
【前回調査（令和2年）】



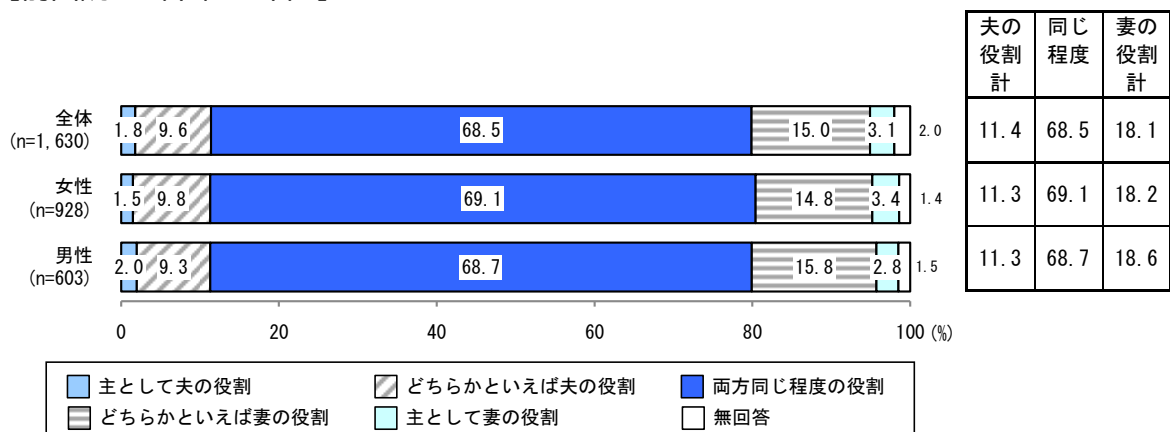
夫の役割計	同じ程度	妻の役割計
0.2	42.4	55.0
-	44.6	53.8
0.4	41.3	56.4

## (G) 自治会、PTAなど地域活動への参加

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「両方同じ程度の役割」の割合が60%を超えており、男女とも29歳以下で最も高くなっている。



## 【前回調査（令和2年）】



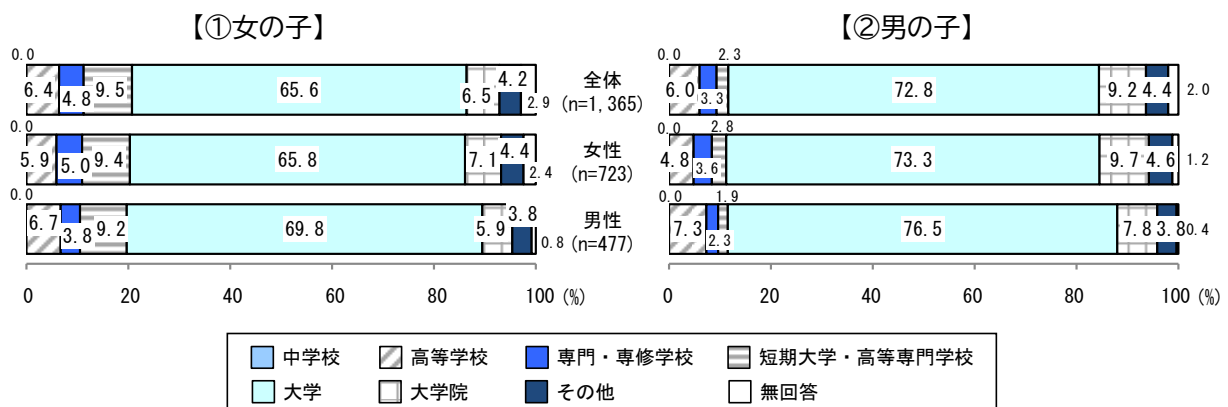
### 3 こどもの教育について

#### (1) こどもに受けさせたい教育程度

問5 あなたのこどもには、どの程度までの教育を受けさせたいと思いますか。  
 女の子、男の子それぞれについてお答えください。子育てをしていない方も、子育てをしていると想定してお答えください。（それぞれ○は一つ）

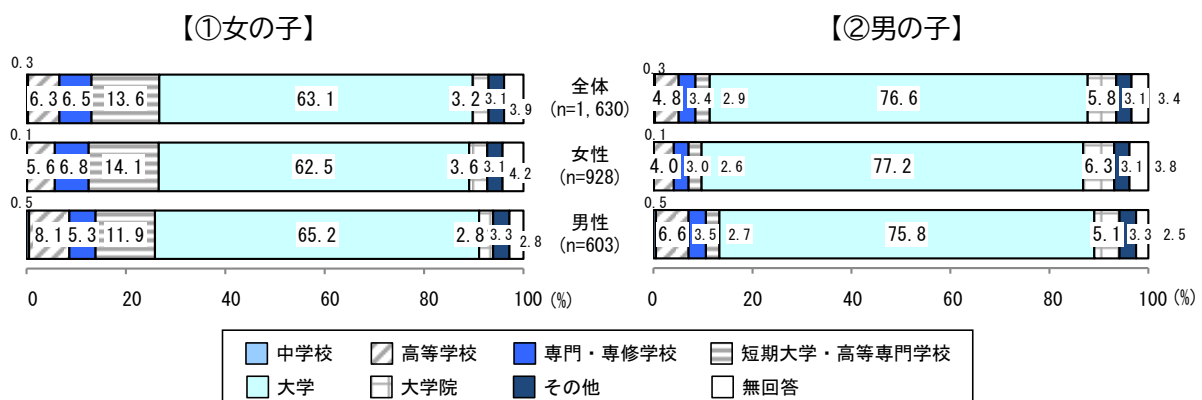
女の子、男の子とも「大学」の割合が最も高く、性別でも同様の傾向であり、「大学」の割合は女性より男性のほうがやや高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体では女の子は「大学」「大学院」の割合が前回より高くなり、男の子は「大学院」の割合が前回より高くなっている。



(単位: %)	n	①女の子								②男の子								
		中学校	高等学校	専門・専修学校	短期大学・高等専門学校	大学	大学院	その他	無回答	中学校	高等学校	専門・専修学校	短期大学・高等専門学校	大学	大学院	その他	無回答	
全体	1,365	-	6.4	4.8	9.5	65.6	6.5	4.2	2.9	-	6.0	3.3	2.3	72.8	9.2	4.4	2.0	
女性	女性全体	723	-	5.9	5.0	9.4	65.8	7.1	4.4	2.4	-	4.8	3.6	2.8	73.3	9.7	4.6	1.2
	29歳以下	67	-	11.9	4.5	4.5	68.7	6.0	3.0	1.5	-	10.4	4.5	-	76.1	6.0	3.0	-
	30歳代	70	-	5.7	1.4	10.0	70.0	5.7	7.1	-	-	4.3	2.9	2.9	74.3	7.1	7.1	1.4
	40歳代	101	-	8.9	5.9	5.9	63.4	7.9	6.9	1.0	-	7.9	3.0	2.0	68.3	10.9	6.9	1.0
	50歳代	148	-	4.7	4.7	6.8	73.6	6.1	1.4	2.7	-	4.1	2.7	2.7	81.1	8.1	1.4	-
	60歳代	122	-	4.9	3.3	9.0	61.5	13.1	4.9	3.3	-	4.1	3.3	1.6	65.6	18.9	4.9	1.6
	70歳以上	211	-	3.8	7.1	14.2	62.6	4.7	4.3	3.3	-	2.4	4.7	4.7	73.9	7.1	4.7	2.4
	男性全体	477	-	6.7	3.8	9.2	69.8	5.9	3.8	0.8	-	7.3	2.3	1.9	76.5	7.8	3.8	0.4
男性	29歳以下	39	-	5.1	2.6	2.6	74.4	12.8	2.6	-	-	5.1	2.6	2.6	69.2	17.9	2.6	-
	30歳代	47	-	14.9	-	8.5	72.3	2.1	2.1	-	-	19.1	-	4.3	68.1	6.4	2.1	-
	40歳代	73	-	12.3	2.7	5.5	72.6	4.1	1.4	1.4	-	15.1	1.4	1.4	75.3	5.5	1.4	-
	50歳代	85	-	1.2	4.7	8.2	71.8	7.1	7.1	-	-	-	2.4	-	82.4	7.1	7.1	1.2
	60歳代	99	-	2.0	3.0	7.1	73.7	8.1	5.1	1.0	-	2.0	3.0	3.0	77.8	8.1	5.1	1.0
	70歳以上	131	-	7.6	6.1	15.3	63.4	3.1	3.1	1.5	-	7.6	3.1	1.5	78.6	6.1	3.1	-

#### 【前回調査 (令和2年)】



## (2) こどもに身につけてほしいこと

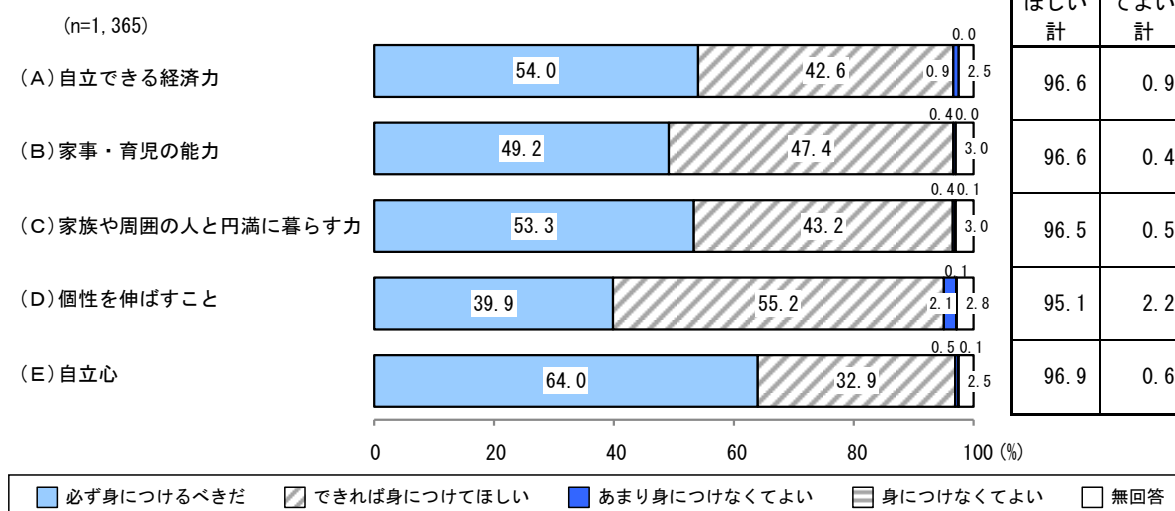
問6 あなたのこどもに、次のことをどのくらい身につけてほしいと思いますか。女の子、男の子それぞれについてお答えください。子育てをしていない方も、子育てをしていると想定してお答えください。（それぞれ○は一つ）

女の子の「必ず身につけるべきだ」の割合が男の子より10ポイント以上高い項目は、『(B) 家事・育児の能力』(+13.2ポイント)、男の子の「必ず身につけるべきだ」の割合が女の子より10ポイント以上高い項目は『(A) 自立できる経済力』(+25.3ポイント)である。

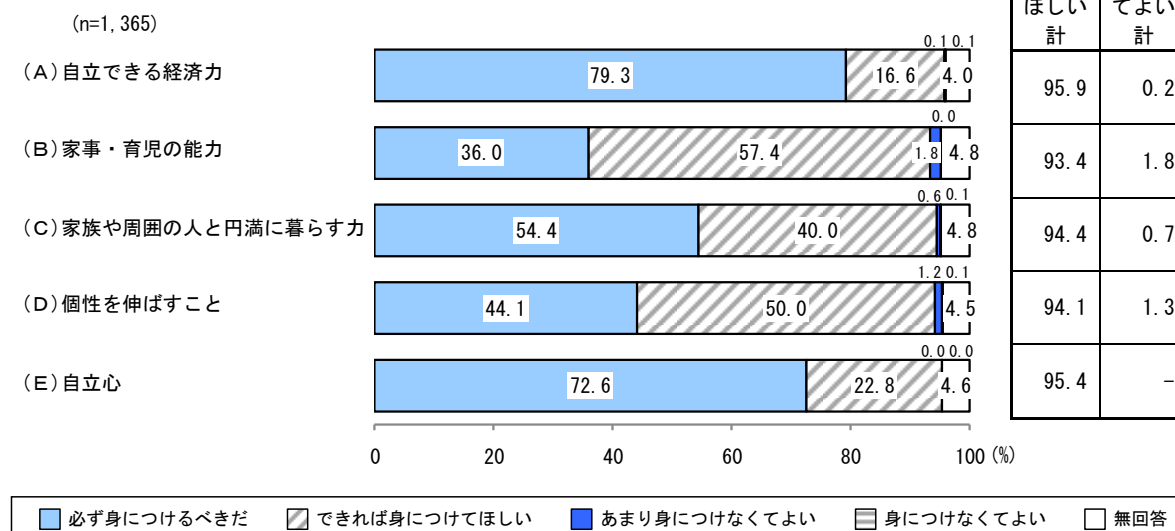
性別で見ると、「必ず身につけるべきだ」の割合に10ポイント以上の差がみられるのは、女の子、男の子とも『(C) 家族や周囲の人と円満に暮らす力』と『(D) 個性を伸ばすこと』となっている。

前回調査との比較で見ると、全体では“身につけてほしい計”の割合は『(C) 家族や周囲の人と円満に暮らす力』では女の子が前回よりやや低いが、それ以外の項目は女の子、男の子とも前回より高くなっている。

### 【①女の子】



### 【②男の子】



【性別】

	n	①女の子								②男の子							
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよくない	身につけてよくない	無回答	身につけてほしい計	身につけてよくない計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよくない	身につけてよくない	無回答	身につけてほしい計	身につけてよくない計		
(A) 自立できる経済力	【女性】	723	57.8	39.7	0.6	-	1.9	97.5	0.6	80.8	16.3	-	0.1	2.8	97.1	0.1	
	【男性】	477	51.6	46.8	1.5	-	0.2	98.4	1.5	80.3	17.2	0.2	-	2.3	97.5	0.2	
(B) 家事・育児の能力	【女性】	723	46.7	50.8	0.1	-	2.4	97.5	0.1	34.4	61.0	1.5	-	3.0	95.4	1.5	
	【男性】	477	55.8	42.8	0.4	-	1.0	98.6	0.4	40.7	54.1	1.9	-	3.4	94.8	1.9	
(C) 家族や周囲の人と円満に暮らすか	【女性】	723	50.2	46.7	0.7	0.1	2.2	96.9	0.8	51.5	44.3	0.8	-	3.5	95.8	0.8	
	【男性】	477	62.7	35.8	0.2	0.2	1.0	98.5	0.4	64.6	31.9	0.4	0.2	2.9	96.5	0.6	
(D) 個性を伸ばすこと	【女性】	723	36.7	59.3	1.9	-	2.1	96.0	1.9	40.0	55.9	0.8	-	3.3	95.9	0.8	
	【男性】	477	47.6	48.4	2.7	0.2	1.0	96.0	2.9	53.0	41.9	1.9	0.4	2.7	94.9	2.3	
(E) 自立心	【女性】	723	63.9	33.9	-	0.1	2.1	97.8	0.1	72.5	23.9	-	-	3.6	96.4	-	
	【男性】	477	67.9	30.4	1.0	0.2	0.4	98.3	1.2	76.9	20.3	-	-	2.7	97.2	-	

## (A) 自立できる経済力

性・年代別でみると、女の子と男の子の「必ず身につけるべきだ」の割合は、すべての年代で女の子より男の子の割合が高く、男女とも70歳以上で差が最も大きくなっている。

(単位：%)	n	①女の子							②男の子							
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	
全体	1,365	54.0	42.6	0.9	-	2.5	96.6	0.9	79.3	16.6	0.1	0.1	4.0	95.9	0.2	
女性	女性全体	723	57.8	39.7	0.6	-	1.9	97.5	0.6	80.8	16.3	-	0.1	2.8	97.1	0.1
	29歳以下	67	71.6	28.4	-	-	-	100.0	-	79.1	19.4	-	-	1.5	98.5	-
	30歳代	70	71.4	28.6	-	-	-	100.0	-	84.3	14.3	-	-	1.4	98.6	-
	40歳代	101	64.4	34.7	-	-	1.0	99.1	-	82.2	17.8	-	-	-	100.0	-
	50歳代	148	61.5	36.5	-	-	2.0	98.0	-	83.8	15.5	-	-	0.7	99.3	-
	60歳代	122	59.0	41.0	-	-	-	100.0	-	85.2	13.9	-	-	0.8	99.1	-
	70歳以上	211	43.1	50.2	1.9	-	4.7	93.3	1.9	74.9	17.1	-	0.5	7.6	92.0	0.5
男性	男性全体	477	51.6	46.8	1.5	-	0.2	98.4	1.5	80.3	17.2	0.2	-	2.3	97.5	0.2
	29歳以下	39	64.1	35.9	-	-	-	100.0	-	76.9	23.1	-	-	-	100.0	-
	30歳代	47	63.8	34.0	2.1	-	-	97.8	2.1	85.1	10.6	2.1	-	2.1	95.7	2.1
	40歳代	73	61.6	38.4	-	-	-	100.0	-	83.6	16.4	-	-	-	100.0	-
	50歳代	85	54.1	42.4	2.4	-	1.2	96.5	2.4	81.2	17.6	-	-	1.2	98.8	-
	60歳代	99	55.6	43.4	1.0	-	-	99.0	1.0	84.8	13.1	-	-	2.0	97.9	-
	70歳以上	131	33.6	64.1	2.3	-	-	97.7	2.3	74.8	19.8	-	-	5.3	94.6	-

### 【前回調査（令和2年）】

(単位：%)	n	①女の子							②男の子						
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計
全体	1,630	45.2	51.1	1.2	0.2	2.4	96.3	1.4	81.8	13.0	0.2	0.1	5.0	94.8	0.3
女性	928	50.3	46.2	0.9	-	2.6	96.5	0.9	83.2	11.6	0.1	-	5.1	94.8	0.1
男性	603	39.5	57.0	1.8	0.2	1.5	96.5	2.0	81.6	14.6	0.3	-	3.5	96.2	0.3

## (B) 家事・育児の能力

性・年代別でみると、女の子と男の子の「必ず身につけるべきだ」の割合は、男女ともすべての年代で男の子より女の子の割合が高い。男女ともに60歳以上の年代でその差は大きくなっている。

(単位：%)	n	①女の子							②男の子							
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	
全体	1,365	49.2	47.4	0.4	-	3.0	96.6	0.4	36.0	57.4	1.8	-	4.8	93.4	1.8	
性・年代別	女性全体	723	46.7	50.8	0.1	-	2.4	97.5	0.1	34.4	61.0	1.5	-	3.0	95.4	1.5
	29歳以下	67	58.2	41.8	-	-	-	100.0	-	52.2	46.3	-	-	1.5	98.5	-
	30歳代	70	45.7	54.3	-	-	-	100.0	-	42.9	55.7	-	-	1.4	98.6	-
	40歳代	101	46.5	51.5	1.0	-	1.0	98.0	1.0	41.6	58.4	-	-	-	100.0	-
	50歳代	148	46.6	50.7	-	-	2.7	97.3	-	37.2	60.8	0.7	-	1.4	98.0	0.7
	60歳代	122	50.0	50.0	-	-	-	100.0	-	32.0	65.6	1.6	-	0.8	97.6	1.6
	70歳以上	211	42.2	52.1	-	-	5.7	94.3	-	22.3	65.9	3.8	-	8.1	88.2	3.8
	男性全体	477	55.8	42.8	0.4	-	1.0	98.6	0.4	40.7	54.1	1.9	-	3.4	94.8	1.9
	29歳以下	39	71.8	28.2	-	-	-	100.0	-	56.4	43.6	-	-	-	100.0	-
	30歳代	47	57.4	42.6	-	-	-	100.0	-	55.3	40.4	2.1	-	2.1	95.7	2.1
	40歳代	73	64.4	35.6	-	-	-	100.0	-	53.4	46.6	-	-	-	100.0	-
	50歳代	85	49.4	49.4	-	-	1.2	98.8	-	41.2	55.3	1.2	-	2.4	96.5	1.2
	60歳代	99	62.6	36.4	1.0	-	-	99.0	1.0	42.4	54.5	1.0	-	2.0	96.9	1.0
	70歳以上	131	44.3	51.9	0.8	-	3.1	96.2	0.8	21.4	65.6	4.6	-	8.4	87.0	4.6

### 【前回調査（令和2年）】

(単位：%)	n	①女の子							②男の子						
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計
全体	1,630	53.1	43.3	0.5	0.2	2.9	96.4	0.7	28.3	62.5	2.8	0.2	6.1	90.8	3.0
女性	928	51.6	44.8	0.5	0.2	2.8	96.4	0.7	29.3	62.4	2.2	0.1	6.0	91.7	2.3
男性	603	57.5	39.8	0.5	-	2.2	97.3	0.5	28.9	62.5	3.8	0.5	4.2	91.4	4.3

### (C) 家族や周囲の人と円満に暮らす力

性・年代別でみると、女の子、男の子とも「必ず身につけるべきだ」の割合はすべての年代で女性より男性のほうが高くなっている。

(単位：%)	n	①女の子							②男の子							
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてない	身につけてない	無回答	身につけてほしい計	身につけてない計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてない	身につけてない	無回答	身につけてほしい計	身につけてない計	
全体	1,365	53.3	43.2	0.4	0.1	3.0	96.5	0.5	54.4	40.0	0.6	0.1	4.8	94.4	0.7	
性・年代別	女性全体	723	50.2	46.7	0.7	0.1	2.2	96.9	0.8	51.5	44.3	0.8	-	3.5	95.8	0.8
	29歳以下	67	64.2	32.8	3.0	-	-	97.0	3.0	65.7	29.9	3.0	-	1.5	95.6	3.0
	30歳代	70	55.7	44.3	-	-	-	100.0	-	58.6	40.0	-	-	1.4	98.6	-
	40歳代	101	55.4	43.6	-	-	1.0	99.0	-	57.4	41.6	1.0	-	-	99.0	1.0
	50歳代	148	52.7	43.9	0.7	-	2.7	96.6	0.7	53.4	44.6	0.7	-	1.4	98.0	0.7
	60歳代	122	47.5	50.8	0.8	-	0.8	98.3	0.8	50.0	48.4	0.8	-	0.8	98.4	0.8
	70歳以上	211	41.2	53.1	0.5	0.5	4.7	94.3	1.0	41.2	48.8	0.5	-	9.5	90.0	0.5
	男性全体	477	62.7	35.8	0.2	0.2	1.0	98.5	0.4	64.6	31.9	0.4	0.2	2.9	96.5	0.6
	29歳以下	39	79.5	20.5	-	-	-	100.0	-	76.9	23.1	-	-	-	100.0	-
	30歳代	47	63.8	34.0	2.1	-	-	97.8	2.1	66.0	31.9	-	-	2.1	97.9	-
	40歳代	73	76.7	23.3	-	-	-	100.0	-	80.8	19.2	-	-	-	100.0	-
	50歳代	85	70.6	27.1	-	-	2.4	97.7	-	71.8	27.1	-	-	1.2	98.9	-
	60歳代	99	53.5	44.4	-	1.0	1.0	97.9	1.0	60.6	35.4	-	1.0	3.0	96.0	1.0
	70歳以上	131	51.9	46.6	-	-	1.5	98.5	-	50.4	41.2	1.5	-	6.9	91.6	1.5

#### 【前回調査（令和2年）】

(単位：%)	n	①女の子							②男の子						
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてない	身につけてない	無回答	身につけてほしい計	身につけてない計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてない	身につけてない	無回答	身につけてほしい計	身につけてない計
全体	1,630	56.7	40.1	0.3	0.2	2.6	96.8	0.5	54.9	38.7	0.4	0.1	5.9	93.6	0.5
女性	928	56.1	40.9	0.3	0.1	2.5	97.0	0.4	54.5	9.3	0.3	0.1	5.7	63.8	0.4
男性	603	59.5	37.6	0.3	0.5	2.0	97.1	0.8	58.2	36.8	0.5	0.2	4.3	95.0	0.7

### (D) 個性を伸ばすこと

性・年代別でみると、女の子、男の子とも「必ず身につけるべきだ」の割合はすべての年代で女性より男性のほうが高く、なかでも女の子の「必ず身につけるべきだ」の割合は40歳代で差が大きく、女性より男性のほうが20.3ポイント高くなっている。

(単位：%)	n	①女の子							②男の子							
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	
全体	1,365	39.9	55.2	2.1	0.1	2.8	95.1	2.2	44.1	50.0	1.2	0.1	4.5	94.1	1.3	
性・年代別	女性全体	723	36.7	59.3	1.9	-	2.1	96.0	1.9	40.0	55.9	0.8	-	3.3	95.9	0.8
	29歳以下	67	56.7	41.8	1.5	-	-	98.5	1.5	55.2	43.3	-	-	1.5	98.5	-
	30歳代	70	37.1	60.0	2.9	-	-	97.1	2.9	41.4	55.7	1.4	-	1.4	97.1	1.4
	40歳代	101	38.6	59.4	1.0	-	1.0	98.0	1.0	42.6	56.4	1.0	-	-	99.0	1.0
	50歳代	148	33.8	62.8	0.7	-	2.7	96.6	0.7	35.1	63.5	-	-	1.4	98.6	-
	60歳代	122	38.5	60.7	0.8	-	-	99.2	0.8	41.8	56.6	0.8	-	0.8	98.4	0.8
	70歳以上	211	30.3	61.1	3.8	-	4.7	91.4	3.8	35.5	54.0	1.4	-	9.0	89.5	1.4
	男性全体	477	47.6	48.4	2.7	0.2	1.0	96.0	2.9	53.0	41.9	1.9	0.4	2.7	94.9	2.3
	29歳以下	39	61.5	35.9	2.6	-	-	97.4	2.6	64.1	35.9	-	-	-	100.0	-
	30歳代	47	48.9	44.7	6.4	-	-	93.6	6.4	57.4	34.0	6.4	-	2.1	91.4	6.4
	40歳代	73	58.9	41.1	-	-	-	100.0	-	61.6	38.4	-	-	-	100.0	-
	50歳代	85	45.9	47.1	4.7	-	2.4	93.0	4.7	50.6	44.7	3.5	-	1.2	95.3	3.5
	60歳代	99	53.5	41.4	3.0	-	2.0	94.9	3.0	57.6	35.4	2.0	1.0	4.0	93.0	3.0
	70歳以上	131	33.6	63.4	1.5	0.8	0.8	97.0	2.3	42.0	51.1	0.8	0.8	5.3	93.1	1.6

### 【前回調査（令和2年）】

(単位：%)	n	①女の子							②男の子						
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計
全体	1,630	38.2	55.6	2.8	0.2	3.1	93.8	3.0	44.4	47.6	1.7	0.2	6.1	92.0	1.9
女性	928	37.7	56.7	2.5	0.2	2.9	94.4	2.7	43.0	49.4	1.7	0.1	5.8	92.4	1.8
男性	603	40.5	53.6	3.6	0.2	2.2	94.1	3.8	48.1	44.9	2.0	0.3	4.6	93.0	2.3

## (E) 自立心

性・年代別でみると、女の子と男の子の「必ず身につけるべきだ」の割合は、すべての年代で女の子より男の子の割合が上回り、その差は70歳以上女性、50・60歳代男性で10ポイントを超えている。

(単位：%)	n	①女の子						②男の子								
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	
全体	1,365	64.0	32.9	0.5	0.1	2.5	96.9	0.6	72.6	22.8	-	-	4.6	95.4	-	
性・年代別	女性全体	723	63.9	33.9	-	0.1	2.1	97.8	0.1	72.5	23.9	-	-	3.6	96.4	-
	29歳以下	67	79.1	20.9	-	-	-	100.0	-	79.1	19.4	-	-	1.5	98.5	-
	30歳代	70	64.3	35.7	-	-	-	100.0	-	68.6	30.0	-	-	1.4	98.6	-
	40歳代	101	66.3	32.7	-	-	1.0	99.0	-	76.2	23.8	-	-	-	100.0	-
	50歳代	148	64.2	33.1	-	-	2.7	97.3	-	72.3	25.7	-	-	2.0	98.0	-
	60歳代	122	66.4	33.6	-	-	-	100.0	-	73.8	25.4	-	-	0.8	99.2	-
	70歳以上	211	56.4	38.4	-	0.5	4.7	94.8	0.5	69.7	20.9	-	-	9.5	90.6	-
	男性全体	477	67.9	30.4	1.0	0.2	0.4	98.3	1.2	76.9	20.3	-	-	2.7	97.2	-
	29歳以下	39	76.9	20.5	2.6	-	-	97.4	2.6	84.6	15.4	-	-	-	100.0	-
	30歳代	47	68.1	31.9	-	-	-	100.0	-	74.5	23.4	-	-	2.1	97.9	-
	40歳代	73	65.8	34.2	-	-	-	100.0	-	69.9	27.4	-	-	2.7	97.3	-
	50歳代	85	63.5	32.9	1.2	1.2	1.2	96.4	2.4	76.5	22.4	-	-	1.2	98.9	-
	60歳代	99	74.7	24.2	1.0	-	-	98.9	1.0	86.9	11.1	-	-	2.0	98.0	-
	70歳以上	131	64.1	33.6	1.5	-	0.8	97.7	1.5	72.5	22.1	-	-	5.3	94.6	-

### 【前回調査（令和2年）】

(単位：%)	n	①女の子						②男の子							
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計
全体	1,630	60.6	35.1	1.1	0.2	2.9	95.7	1.3	83.2	11.6	0.1	-	5.1	94.8	0.1
女性	928	64.0	32.3	0.6	0.3	2.7	96.3	0.9	75.5	18.4	0.3	-	5.7	93.9	0.3
男性	603	57.0	38.6	1.8	0.2	2.3	95.6	2.0	71.8	22.7	0.5	0.3	4.6	94.5	0.8

### (3) 男女平等を推進するための学校教育

問7 男女平等を推進するために、学校で行うとよいと思うものはどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

全体は、「男女が互いを尊重し合うことの大切さを教えるなど、男女平等の意識を育てる授業をする」(70.8%)が最も多く、次いで「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」(69.3%)となっている。

性別で見ると、女性では「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」(75.0%)が最も多いが、男性では「男女が互いを尊重し合うことの大切さを教えるなど、男女平等の意識を育てる授業をする」(67.3%)が最も多くなっている。「性の多様性について正しく理解するための教育を充実する」の割合は男性より女性のほうが11.3ポイント高く、「DVやデートDVや性暴力の防止に向けた教育を行う」の割合も男性より女性のほうが9.9ポイント高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体では「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合は前回より低い、それ以外の項目は前回より高くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査(令和2年)		
	全体 (n=1,365)	女性 (n=723)	男性 (n=477)	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
学校生活の中で、性別による役割分担をなくす	64.7	69.8	61.4	62.1	66.5	59.2
進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する	69.3	75.0	66.0	69.9	73.7	65.0
男女が互いを尊重し合うことの大切さを教えるなど、男女平等の意識を育てる授業をする	70.8	74.1	67.3	69.3	71.0	67.5
男女平等についての理解が深まるように教職員に研修を行う	49.2	50.1	48.6	43.6	45.5	41.8
校長や教頭に女性を増やす	35.8	35.8	38.2	32.9	34.2	32.0
保護者に対して、様々な機会を通じて男女平等に対する理解を促す	38.2	37.6	39.6	34.4	35.8	33.0
性の多様性について正しく理解するための教育を充実する	52.7	59.1	47.8	44.4	47.0	41.3
DVやデートDVや性暴力の防止に向けた教育を行う	58.8	64.2	54.3	49.1	52.9	45.8
その他	2.7	3.0	2.5	2.9	3.0	3.2
学校教育の中でする必要はない	1.3	0.7	2.1	1.3	0.4	2.8
無回答	1.8	1.0	0.8	2.0	1.9	1.5

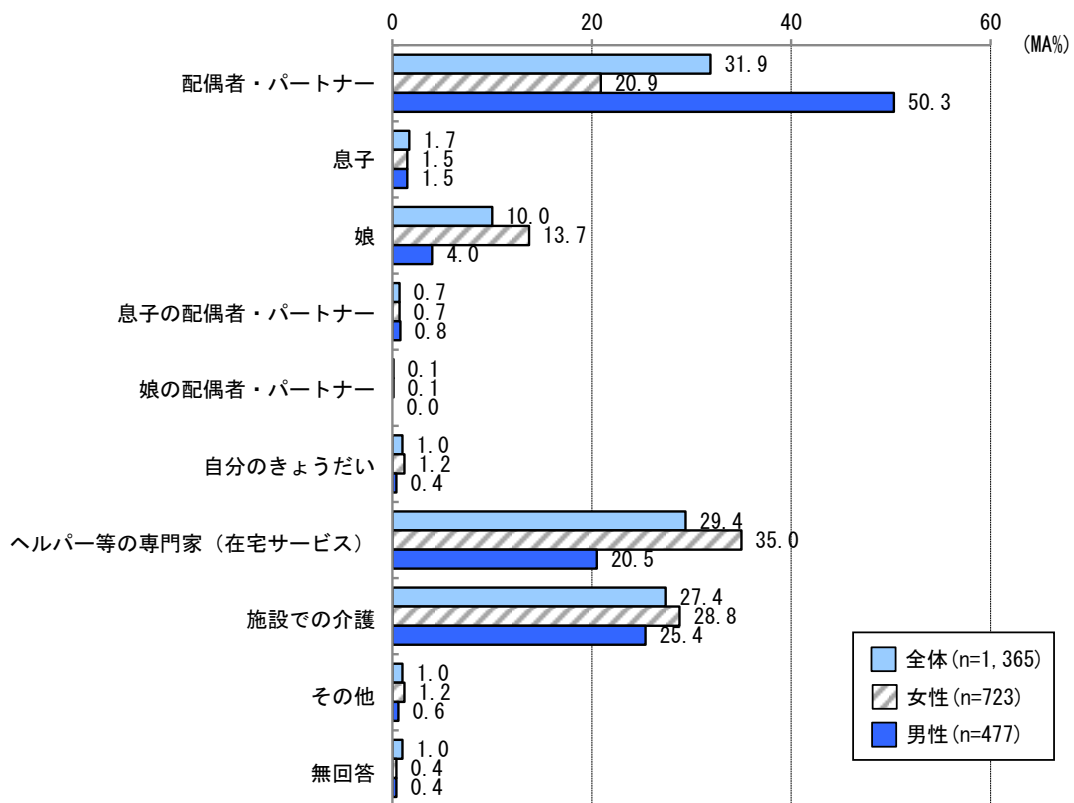
## 4 介護について

### (1) 介護が必要になった場合に希望する介護者

問8 もしあなた自身に介護が必要になった場合、一番介護されたい方をおひとり選んで、お答えください。(〇は一つ)

全体は、「配偶者・パートナー」(31.9%)が最も多く、次いで「ヘルパー等の専門家(在宅サービス)」(29.4%)となっている。

性別で見ると、女性で「ヘルパー等の専門家(在宅サービス)」「娘」の割合が男性に比べて5ポイント以上高く、男性で「配偶者・パートナー」の割合が女性に比べて29.4ポイント高い。



※設問文では「〇は一つ」としているものの、複数選択した回答者が多かったため、複数回答設問として集計している。

(単位: MA%)		n	配偶者・パートナー	息子	娘	息子の配偶者・パートナー	娘の配偶者・パートナー	自分のきょうだい	ヘルパー等の専門家(在宅サービス)	施設での介護	その他	無回答
全体		1,365	31.9	1.7	10.0	0.7	0.1	1.0	29.4	27.4	1.0	1.0
性・年代別	女性全体	723	20.9	1.5	13.7	0.7	0.1	1.2	35.0	28.8	1.2	0.4
	29歳以下	67	25.4	-	6.0	-	-	3.0	28.4	34.3	3.0	-
	30歳代	70	35.7	-	7.1	-	-	-	31.4	27.1	1.4	-
	40歳代	101	23.8	3.0	5.9	-	-	3.0	35.6	32.7	1.0	1.0
	50歳代	148	17.6	2.0	15.5	0.7	-	2.0	32.4	31.8	2.0	-
	60歳代	122	14.8	1.6	13.1	-	-	-	39.3	32.8	0.8	-
	70歳以上	211	19.4	1.4	21.3	1.9	0.5	0.5	37.4	20.4	0.5	0.9
	男性全体	477	50.3	1.5	4.0	0.8	-	0.4	20.5	25.4	0.6	0.4
	29歳以下	39	35.9	2.6	2.6	-	-	-	30.8	33.3	2.6	-
	30歳代	47	40.4	2.1	2.1	-	-	-	19.1	42.6	2.1	-
	40歳代	73	52.1	1.4	5.5	1.4	-	-	17.8	23.3	-	-
	50歳代	85	55.3	1.2	3.5	-	-	-	20.0	20.0	-	-
	60歳代	99	46.5	2.0	3.0	-	-	-	22.2	29.3	1.0	1.0
	70歳以上	131	55.7	0.8	5.3	2.3	-	1.5	19.1	19.1	-	0.8

## 5 仕事について

### (1) 女性の働き方について

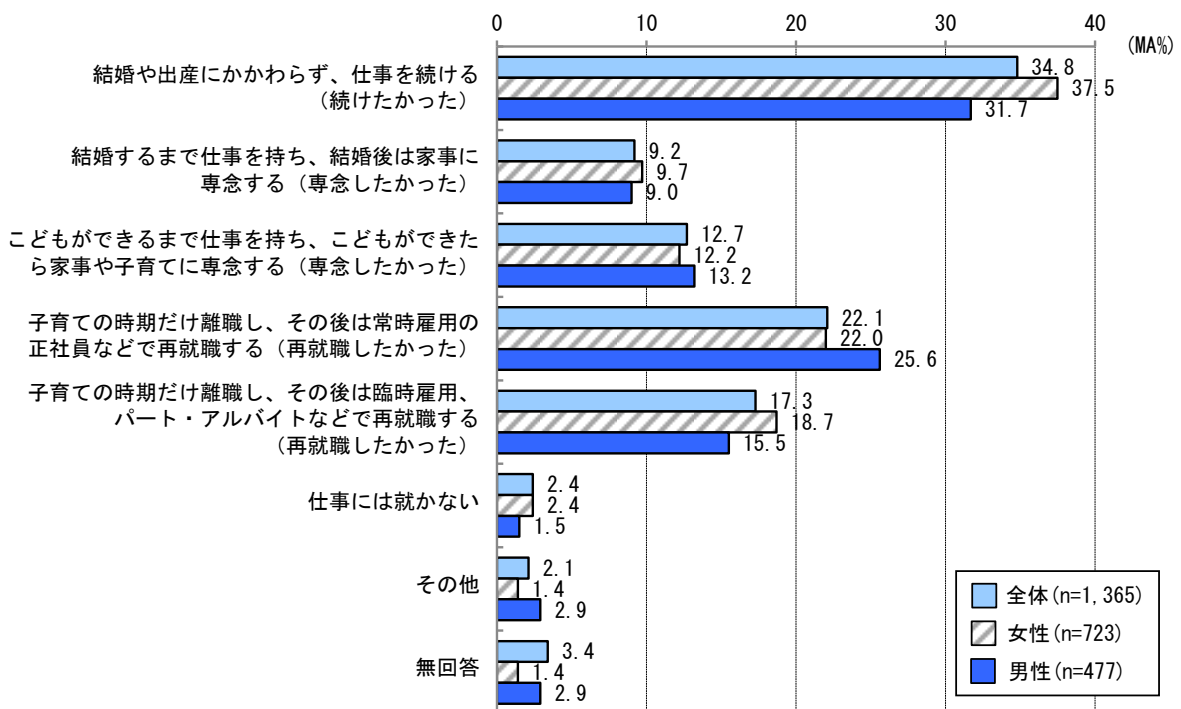
問9 「女性の働き方」について、あなたの①希望と②実際はどれにあてはまりますか。  
(それぞれ○は一つ)

全体は、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」「こどもができるまで仕事をもち、こどもができたら家事や子育てに専念する」「子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する」の割合は実際より希望のほうが高くなっている。

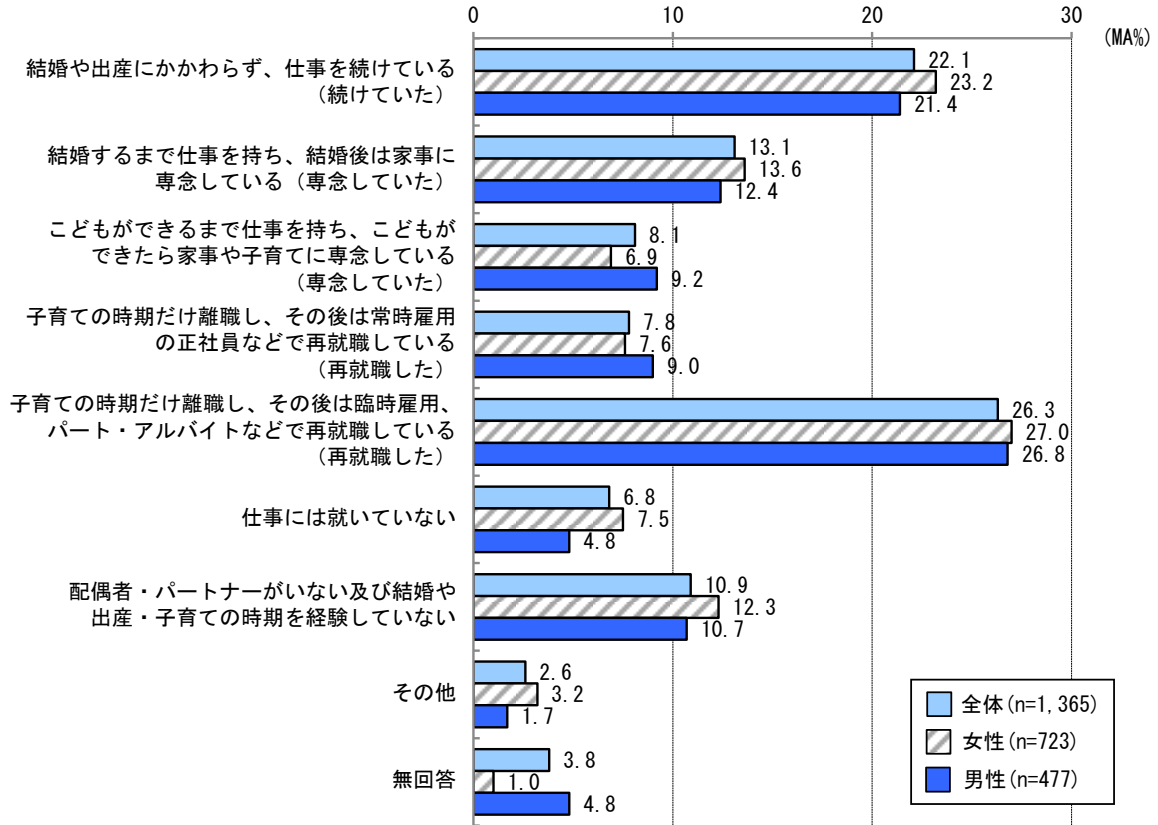
性別で見ると、「女性の働き方」の希望に比べて実際は、女性では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」「こどもができるまで仕事をもち、こどもができたら家事や子育てに専念する」「子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する」という3つの項目の割合が低く、「子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職する」の割合が高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」の割合は希望、実際とも前回より高くなっている。

#### ①希望



②実際



※設問文では「〇は一つ」としているものの、複数選択した回答者が多かったため、複数回答設問として集計している。

【性・年代別】

性・年代別	(単位: MA%)	n	①希望							②実際									
			結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける (続けたかった)	結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念する (専念したかった)	子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念する (専念したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する (再就職したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職する (再就職したかった)	仕事には就かない	その他	無回答	結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (続けていた)	結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念している (専念していた)	子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念している (専念していた)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職している (再就職した)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職している (再就職した)	仕事には就いていない	配偶者・パートナーがいない及び結婚や出産・子育ての時期を経験していない	その他	無回答
全体	1,365	34.8	9.2	12.7	22.1	17.3	2.4	2.1	3.4	22.1	13.1	8.1	7.8	26.3	6.8	10.9	2.6	3.8	
女性	女性全体	723	37.5	9.7	12.2	22.0	18.7	2.4	1.4	1.4	23.2	13.6	6.9	7.6	27.0	7.5	12.3	3.2	1.0
	29歳以下	67	52.2	7.5	4.5	22.4	11.9	1.5	-	-	19.4	1.5	1.5	3.0	6.0	59.7	6.0	1.5	-
	30歳代	70	42.9	2.9	5.7	17.1	28.6	1.4	1.4	-	48.6	-	8.6	-	17.1	4.3	18.6	2.9	-
	40歳代	101	37.6	8.9	16.8	18.8	19.8	-	3.0	-	33.7	5.9	7.9	5.9	30.7	2.0	11.9	3.0	-
	50歳代	148	41.9	5.4	14.2	22.3	17.6	1.4	0.7	-	23.6	8.1	4.1	9.5	39.9	6.1	7.4	2.0	-
	60歳代	122	36.9	9.8	12.3	23.8	18.0	3.3	2.5	0.8	15.6	21.3	8.2	7.4	29.5	10.7	4.9	4.9	-
	70歳以上	211	28.4	15.2	13.3	24.2	18.0	4.3	0.9	4.3	15.2	25.1	9.0	11.4	25.6	10.9	2.8	2.4	2.8
男性	男性全体	477	31.7	9.0	13.2	25.6	15.5	1.5	2.9	2.9	21.4	12.4	9.2	9.0	26.8	4.8	10.7	1.7	4.8
	29歳以下	39	43.6	5.1	10.3	25.6	12.8	-	-	2.6	23.1	2.6	2.6	10.3	23.1	2.6	30.8	-	5.1
	30歳代	47	40.4	-	8.5	19.1	21.3	2.1	6.4	2.1	31.9	-	8.5	4.3	21.3	4.3	19.1	8.5	2.1
	40歳代	73	38.4	4.1	12.3	30.1	8.2	2.7	4.1	-	34.2	4.1	5.5	9.6	27.4	4.1	15.1	-	-
	50歳代	85	35.3	7.1	9.4	25.9	16.5	2.4	3.5	1.2	25.9	10.6	3.5	11.8	30.6	5.9	7.1	1.2	3.5
	60歳代	99	28.3	12.1	12.1	33.3	12.1	-	4.0	2.0	16.2	17.2	14.1	9.1	25.3	5.1	9.1	1.0	4.0
	70歳以上	131	20.6	15.3	19.8	19.8	20.6	1.5	0.8	6.1	10.7	21.4	13.7	8.4	29.0	5.3	3.1	1.5	9.2

【性・未既婚別】

	(単位：MA%)	n	①希望							②実際										
			結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けたかった)	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(専念したかった)	結婚するまで仕事をもち、こどもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	こどもができるまで仕事をもち、こどもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する(再就職したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用・パート・アルバイトなどで再就職する(再就職したかった)	仕事には就かない	その他	無回答	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けたかった)	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(専念していた)	結婚するまで仕事をもち、こどもができたから家事や子育てに専念する(専念していた)	こどもができるまで仕事をもち、こどもができたから家事や子育てに専念する(専念していた)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する(再就職した)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用・パート・アルバイトなどで再就職している(再就職した)	仕事には就いていない	配偶者・子育ての時期を経験していない	その他
全体		1,365	34.8	9.2	12.7	22.1	17.3	2.4	2.1	3.4	22.1	13.1	8.1	7.8	26.3	6.8	10.9	2.6	3.8	
性・未既婚別	女性	既婚	501	34.7	10.4	13.0	22.8	19.4	2.6	1.8	0.8	25.7	15.4	8.0	7.4	31.9	7.8	2.6	3.2	0.2
		未婚	111	53.2	5.4	6.3	18.9	17.1	-	-	-	18.0	0.9	-	2.7	3.6	5.4	65.8	2.7	0.9
	男性	既婚	311	30.2	10.9	11.9	26.4	17.0	1.3	2.9	1.9	21.5	15.4	10.3	10.0	32.8	4.5	3.9	1.0	1.9
		未婚	101	39.6	4.0	13.9	26.7	8.9	1.0	3.0	4.0	24.8	2.0	6.9	5.0	11.9	3.0	33.7	4.0	8.9

【性・こどもの有無別】

	(単位：MA%)	n	①希望							②実際										
			結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けたかった)	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(専念したかった)	結婚するまで仕事をもち、こどもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	こどもができるまで仕事をもち、こどもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する(再就職したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用・パート・アルバイトなどで再就職する(再就職したかった)	仕事には就かない	その他	無回答	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けたかった)	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(専念していた)	結婚するまで仕事をもち、こどもができたから家事や子育てに専念する(専念していた)	こどもができるまで仕事をもち、こどもができたから家事や子育てに専念する(専念していた)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する(再就職した)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用・パート・アルバイトなどで再就職している(再就職した)	仕事には就いていない	配偶者・子育ての時期を経験していない	その他
全体		1,365	34.8	9.2	12.7	22.1	17.3	2.4	2.1	3.4	22.1	13.1	8.1	7.8	26.3	6.8	10.9	2.6	3.8	
性・こどもの有無別	女性	こどもあり	510	32.5	9.6	14.9	22.9	19.0	2.9	1.4	1.6	19.6	16.3	9.2	9.6	36.3	8.2	-	2.5	1.0
		こどもなし	184	51.1	8.7	4.3	19.0	16.8	1.1	1.6	0.5	31.5	6.0	0.5	2.2	3.8	4.3	46.2	5.4	1.1
	男性	こどもあり	322	27.0	11.5	15.2	24.5	18.0	1.9	2.8	1.9	18.0	16.5	11.5	10.9	33.9	5.9	0.6	1.2	2.8
		こどもなし	141	42.6	4.3	9.9	27.0	9.9	0.7	2.8	3.5	29.1	2.8	5.0	5.0	12.1	2.8	34.0	2.8	6.4

【性・勤務形態別】

	(単位：MA%)	n	①希望							②実際										
			結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けたかった)	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(専念したかった)	結婚するまで仕事をもち、こどもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	こどもができるまで仕事をもち、こどもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する(再就職したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用・パート・アルバイトなどで再就職する(再就職したかった)	仕事には就かない	その他	無回答	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けたかった)	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(専念していた)	結婚するまで仕事をもち、こどもができたから家事や子育てに専念する(専念していた)	こどもができるまで仕事をもち、こどもができたから家事や子育てに専念する(専念していた)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する(再就職した)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用・パート・アルバイトなどで再就職している(再就職した)	仕事には就いていない	配偶者・子育ての時期を経験していない	その他
全体		1,365	34.8	9.2	12.7	22.1	17.3	2.4	2.1	3.4	22.1	13.1	8.1	7.8	26.3	6.8	10.9	2.6	3.8	
性・勤務形態別	女性	正社員(職員)	162	54.9	4.3	8.6	20.4	10.5	1.2	-	-	55.6	1.2	1.2	14.2	4.9	-	21.0	1.2	0.6
		非正規社員(職員)	204	31.9	7.4	12.7	27.5	25.0	-	1.5	0.5	15.2	7.4	5.9	3.4	54.9	0.5	12.3	2.5	0.5
		自営業主・家族従業者	34	41.2	8.8	11.8	14.7	20.6	2.9	2.9	2.9	32.4	2.9	2.9	8.8	11.8	14.7	14.7	8.8	2.9
		専業主婦	146	27.4	14.4	14.4	21.9	18.5	2.7	2.1	2.1	5.5	32.2	13.7	4.8	26.0	17.1	-	2.7	-
		無職(専業主婦除く)	90	33.3	13.3	16.7	20.0	16.7	7.8	2.2	-	15.6	18.9	13.3	10.0	16.7	13.3	13.3	3.3	-
	男性	正社員(職員)	219	35.2	6.8	11.0	26.0	15.5	2.3	4.1	0.9	27.4	8.7	8.2	11.0	28.3	4.6	9.6	0.9	1.8
		非正規社員(職員)	62	25.8	9.7	6.5	29.0	22.6	-	-	6.5	9.7	17.7	6.5	1.6	37.1	6.5	16.1	1.6	4.8
		自営業主・家族従業者	44	31.8	13.6	13.6	29.5	9.1	-	2.3	2.3	31.8	18.2	11.4	15.9	15.9	-	-	2.3	4.5
		専業主夫	11	18.2	18.2	36.4	18.2	18.2	-	-	-	9.1	36.4	9.1	-	18.2	27.3	9.1	-	-
		無職(専業主夫除く)	85	31.8	10.6	21.2	22.4	15.3	2.4	1.2	-	17.6	11.8	12.9	8.2	28.2	4.7	12.9	2.4	2.4

【前回調査（令和2年）】

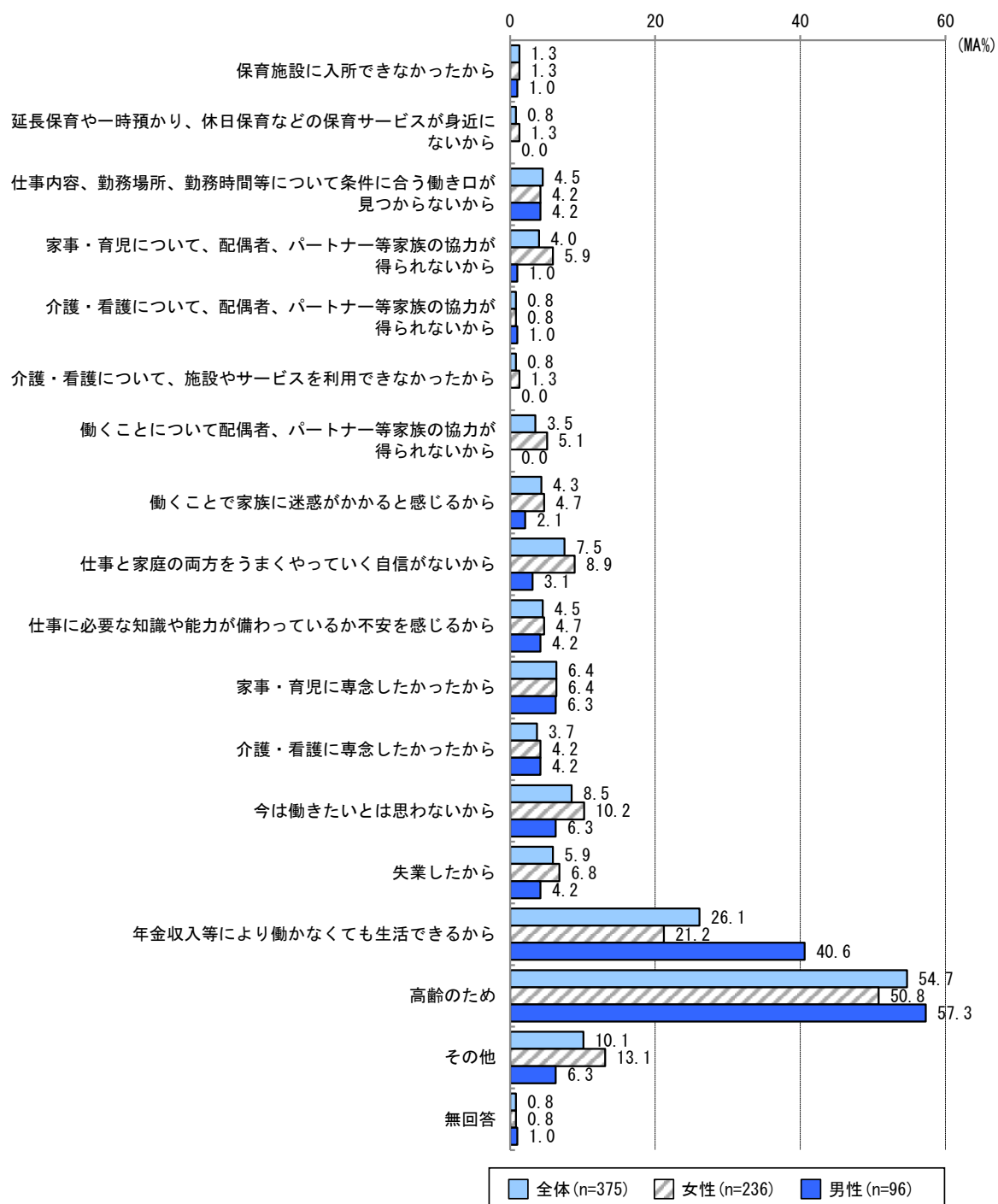
	n	①希望								②実際										
		結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける（続けたかった）	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する（専念したかった）	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事や子育てに専念する（専念したかった）	子育ての時期だけ仕事をもち、子育ての時期だけ離職し、その後は常職する（再就職したかった）	子育ての時期だけ離職し、その後は常職する（再就職したかった）	子育ての時期だけ離職し、その後は常職する（再就職したかった）	子育ての時期だけ離職し、その後は常職する（再就職したかった）	子育ての時期だけ離職し、その後は常職する（再就職したかった）	仕事には就かない	その他	無回答	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける（続けたかった）	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する（専念したかった）	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事や子育てに専念する（専念したかった）	子育ての時期だけ仕事をもち、子育ての時期だけ離職し、その後は常職する（再就職したかった）	子育ての時期だけ離職し、その後は常職する（再就職したかった）	子育ての時期だけ離職し、その後は常職する（再就職したかった）	子育ての時期だけ離職し、その後は常職する（再就職したかった）	仕事には就かない
全体	1,630	26.0	7.2	12.9	16.7	29.1	1.9	2.1	4.2	17.9	11.6	9.7	10.4	28.0	6.5	3.4	12.5			
性別	女性	928	28.7	5.8	10.0	17.8	32.5	1.3	0.6	3.2	19.3	11.4	9.3	10.0	25.1	7.0	4.4	13.5		
	男性	603	21.7	8.8	16.6	15.3	25.2	3.2	4.5	4.8	14.7	12.1	10.7	11.1	34.4	5.5	1.2	10.4		

## (2) 働いていない理由

問10-1は、問10で「5. 専業主婦・主夫」、「6. 無職」と回答した方にお聞きします。  
 問10-1 現在働いていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体は、「高齢のため」(54.7%)が最も多く、次いで「年金収入等により働かなくても生活できるから」(26.1%)となっている。

性別で見ると、女性は男性に比べて「働くことについて配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから」「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないから」が5ポイント以上高い。



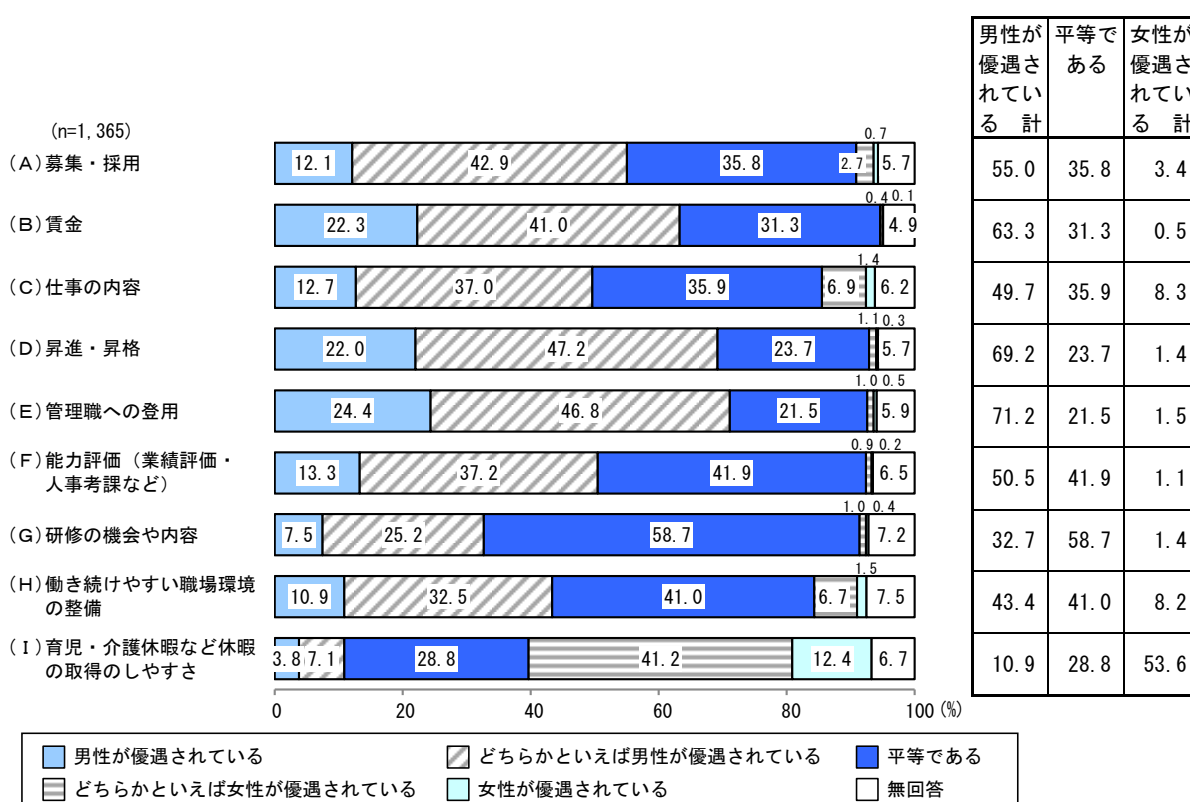
### (3) 仕事における性別による差

問11 あなたは、仕事に関する次のことについて、性別による差があると思いますか。(それぞれ○は一つ)

全体は、“男性が優遇されている計”の割合は『(E) 管理職への登用』(71.2%)が最も高く、次いで『(D) 昇進・昇格』(69.2%)となっている。

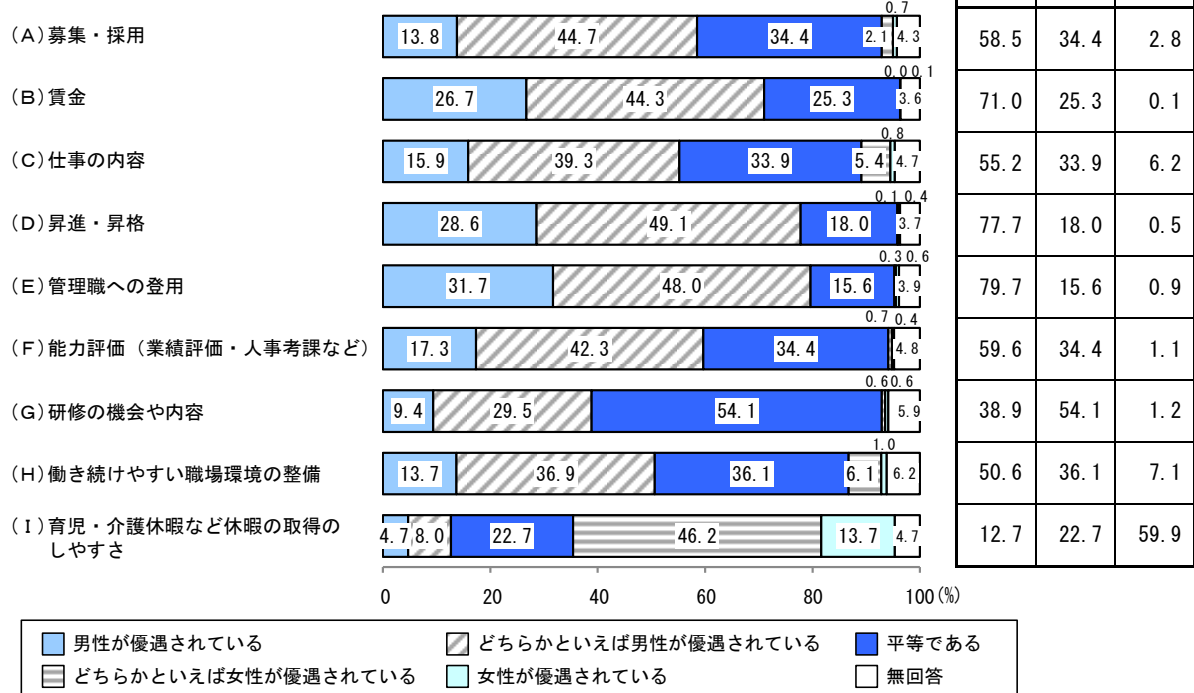
性別で見ると、すべての項目で女性の“男性が優遇されている計”の割合は男性に比べて5ポイント以上高い。また、すべての項目で男性の「平等である」の割合は女性に比べて高い。

前回調査との比較で見ると、全体ではいずれの項目も“男性が優遇されている計”の割合が前回より低く、“平等である”の割合は前回より高くなっている。

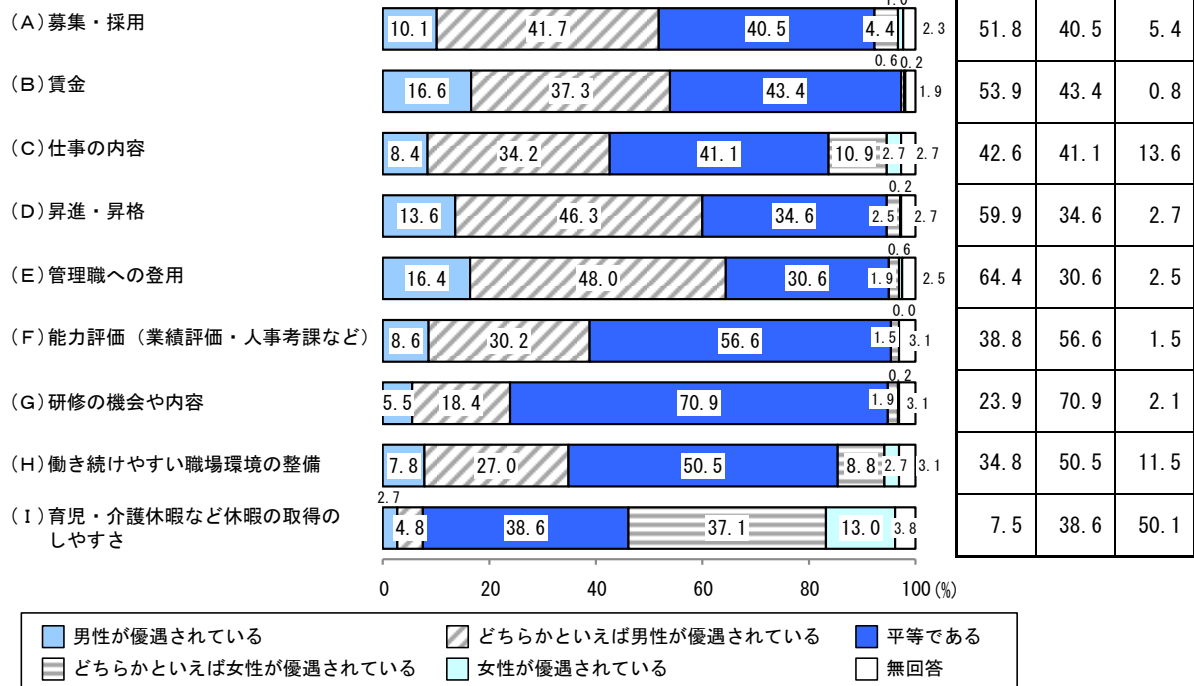


※男性が優遇されている計：「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた値  
 女性が優遇されている計：「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」をあわせた値

女性(n=723)

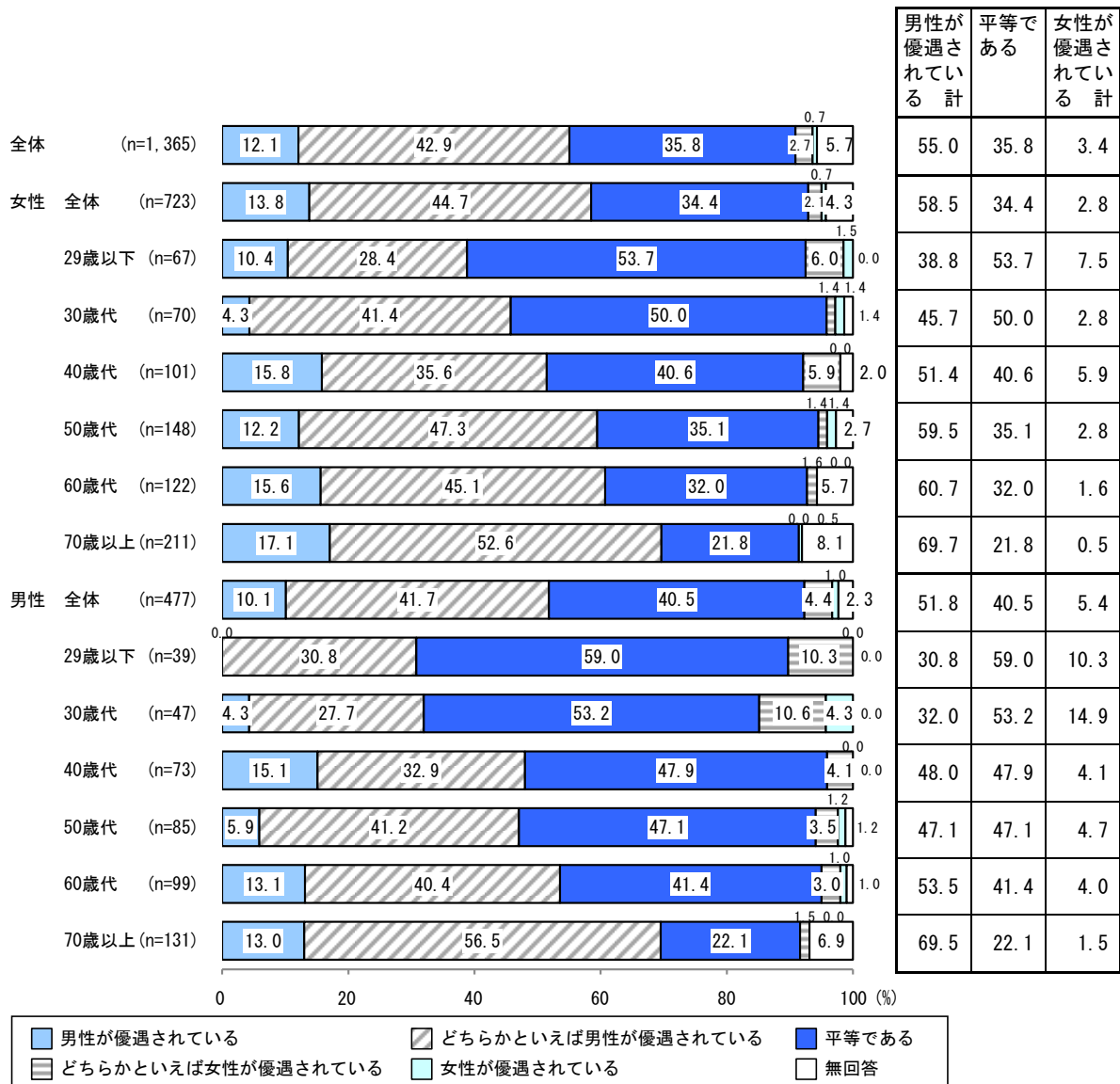


男性(n=477)

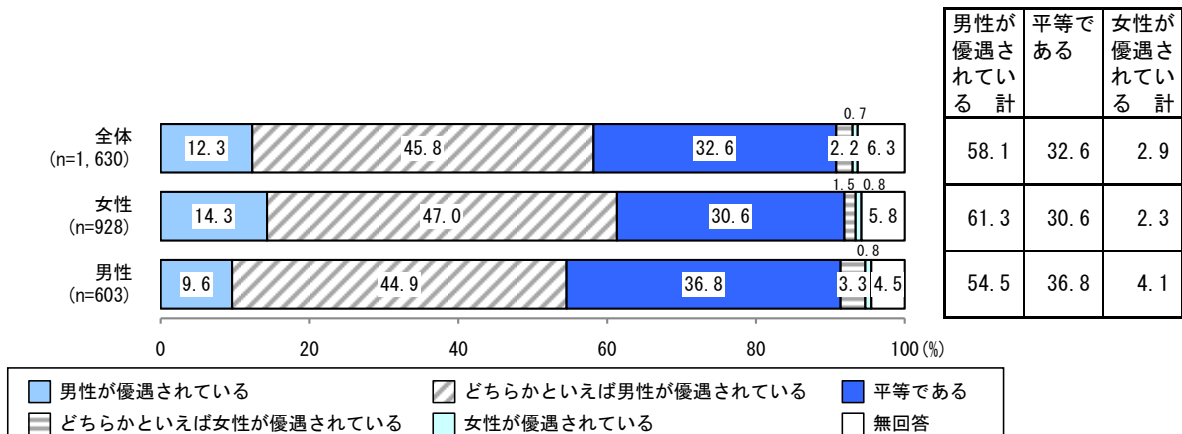


## (A) 募集・採用

性・年代別でみると、“男性が優遇されている計”の割合は60歳代以上女性、70歳以上男性で60%を超えている。“男性が優遇されている計”の割合はすべての年代で男性より女性のほうが高くなっている。

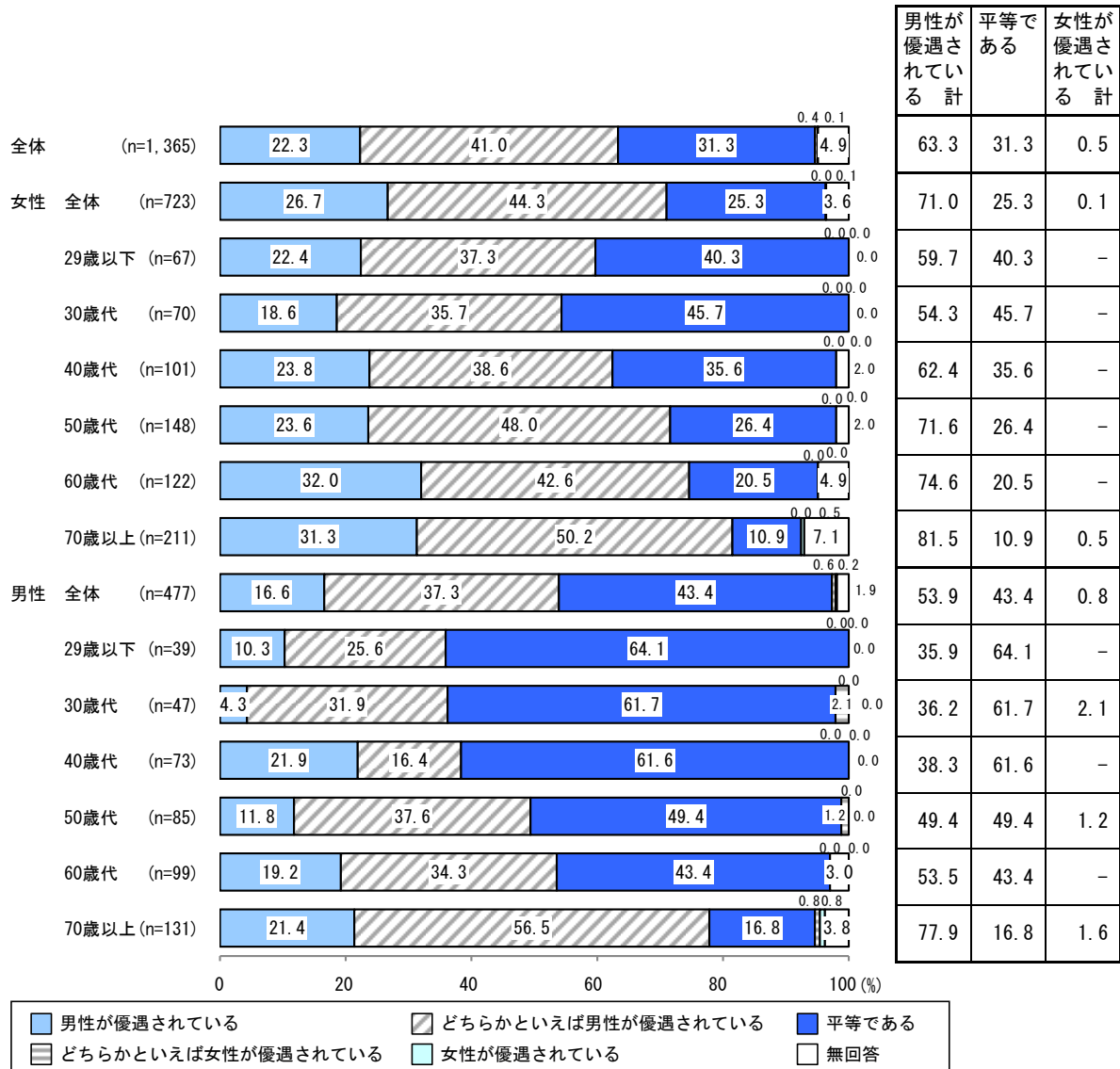


## 【前回調査（令和2年）】

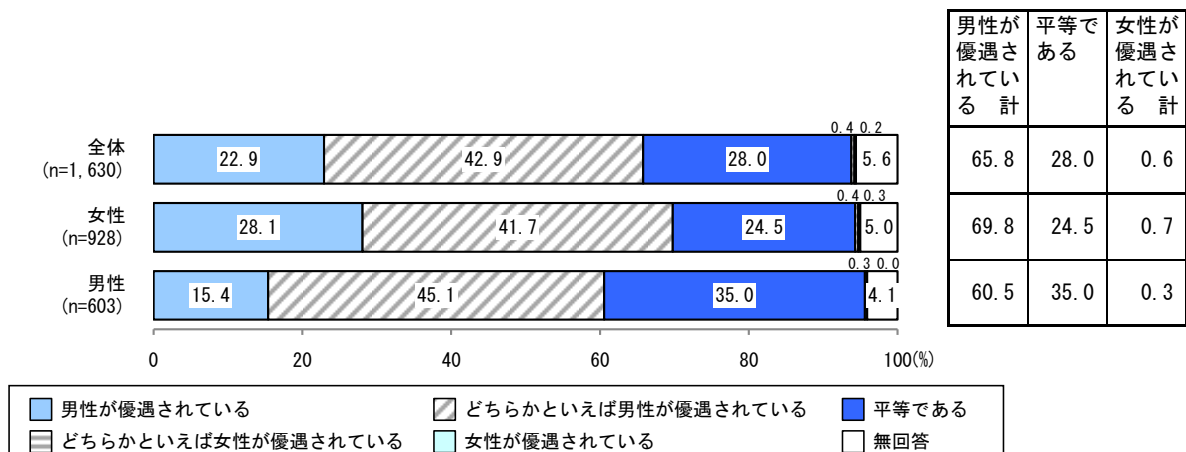


## (B) 賃金

性・年代別でみると、“男性が優遇されている計”の割合は50歳代以上女性、70歳以上男性で70%を超えている。女性は、すべての年代で“男性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、29歳以下、40・50歳代で男女差がより大きい。

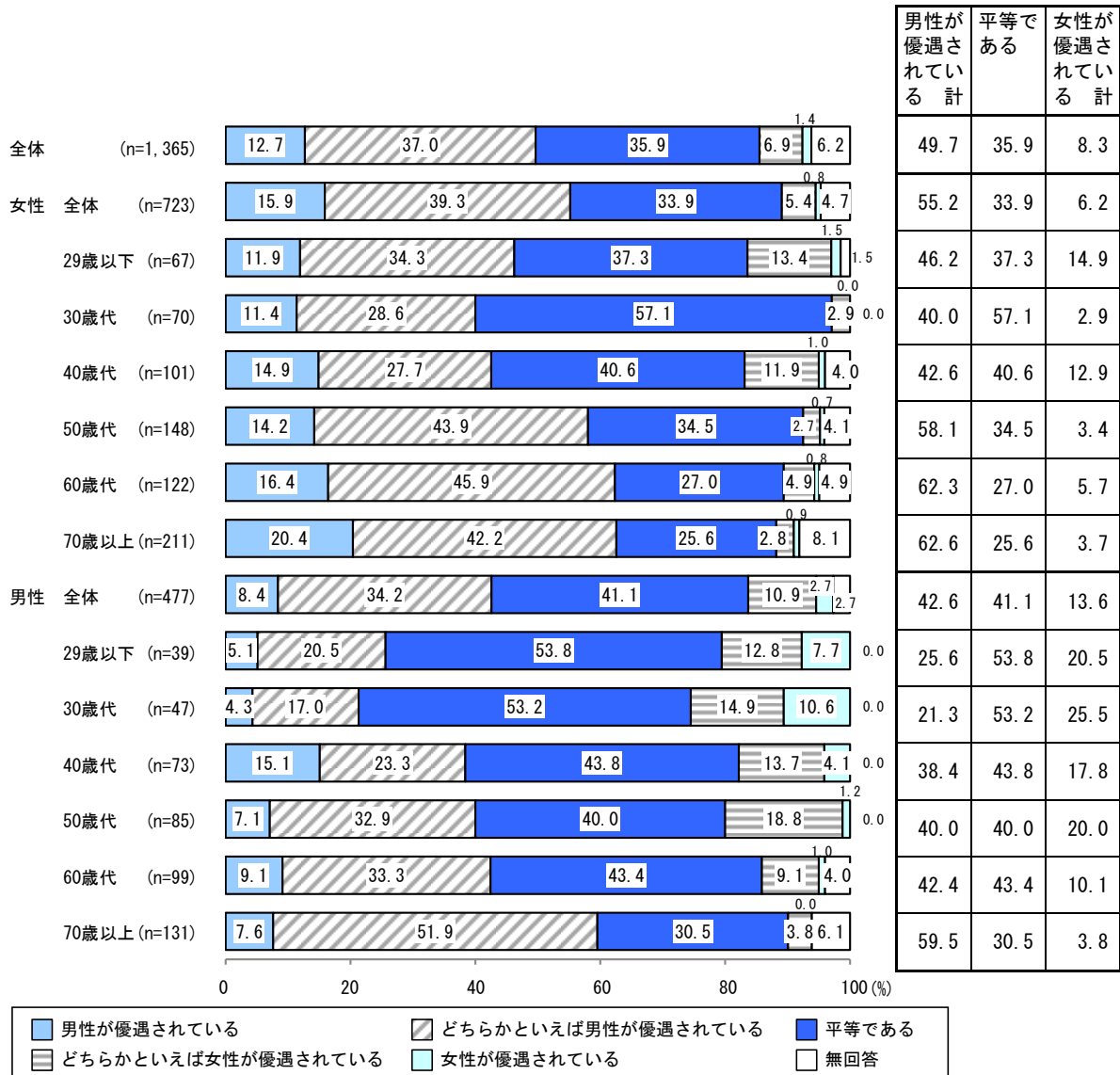


### 【前回調査（令和2年）】

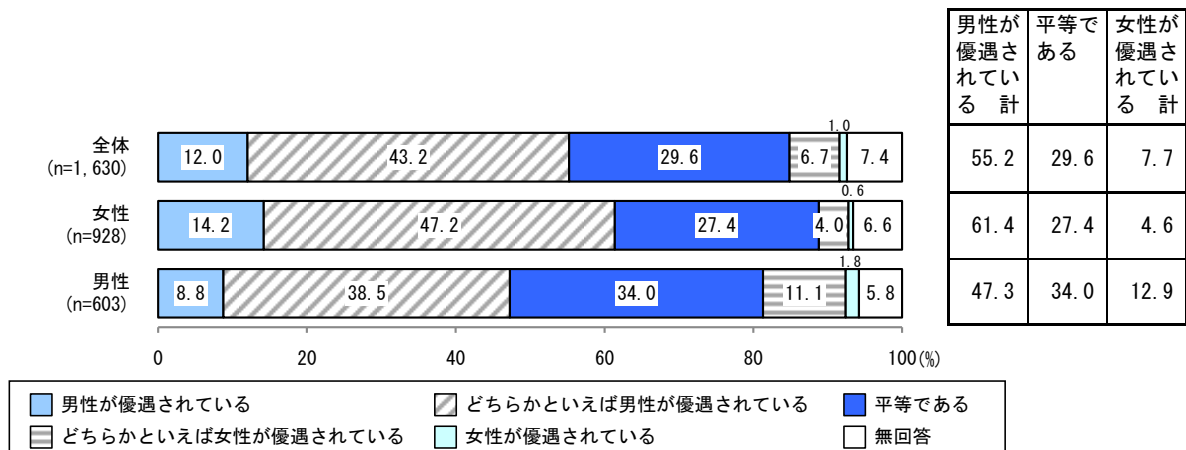


### (C) 仕事の内容

性・年代別でみると、女性では50歳以上の年代で“男性が優遇されている計”の割合が50%を超えている。男性では50歳代以上で“男性が優遇されている計”が40%を超えているが、40歳代以下では“男性が優遇されている計”よりも“平等である”の割合が高い。

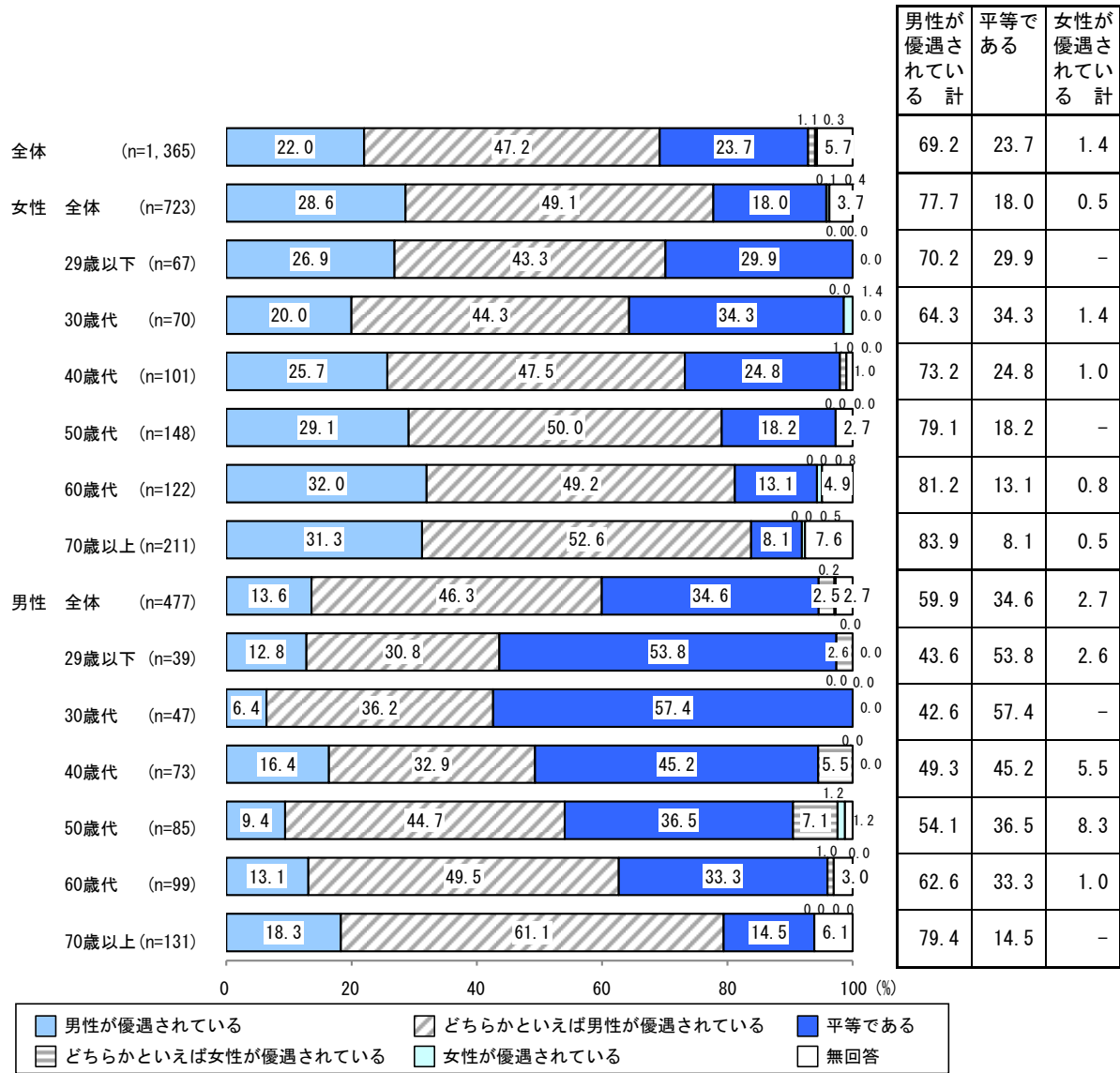


### 【前回調査（令和2年）】

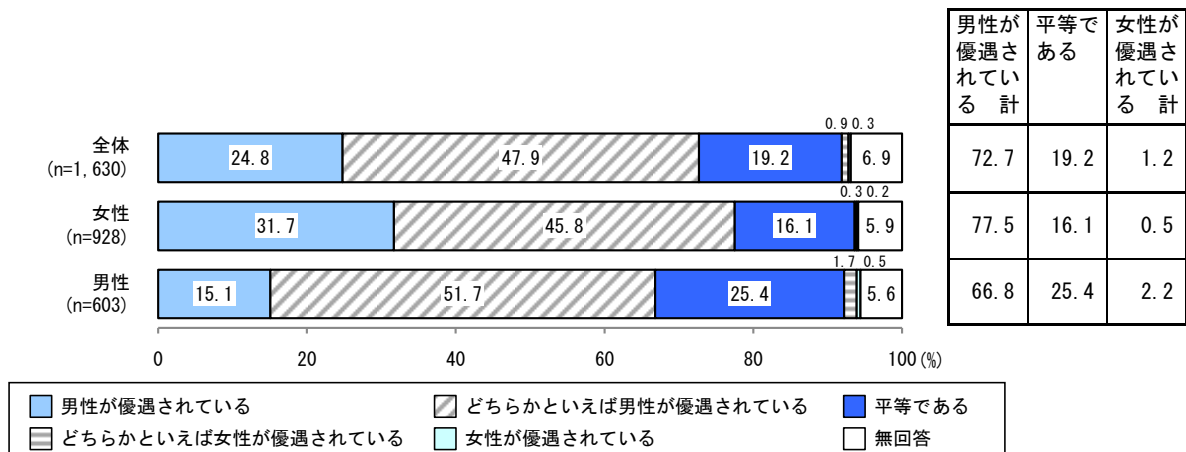


(D) 昇進・昇格

性・年代別でみると、“男性が優遇されている計”の割合は女性ではすべての年代で60%を超えているのに対して、男性は50歳代以下で60%を下回る。すべての年代で女性の“男性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、50歳代以下で男女差がより大きい。

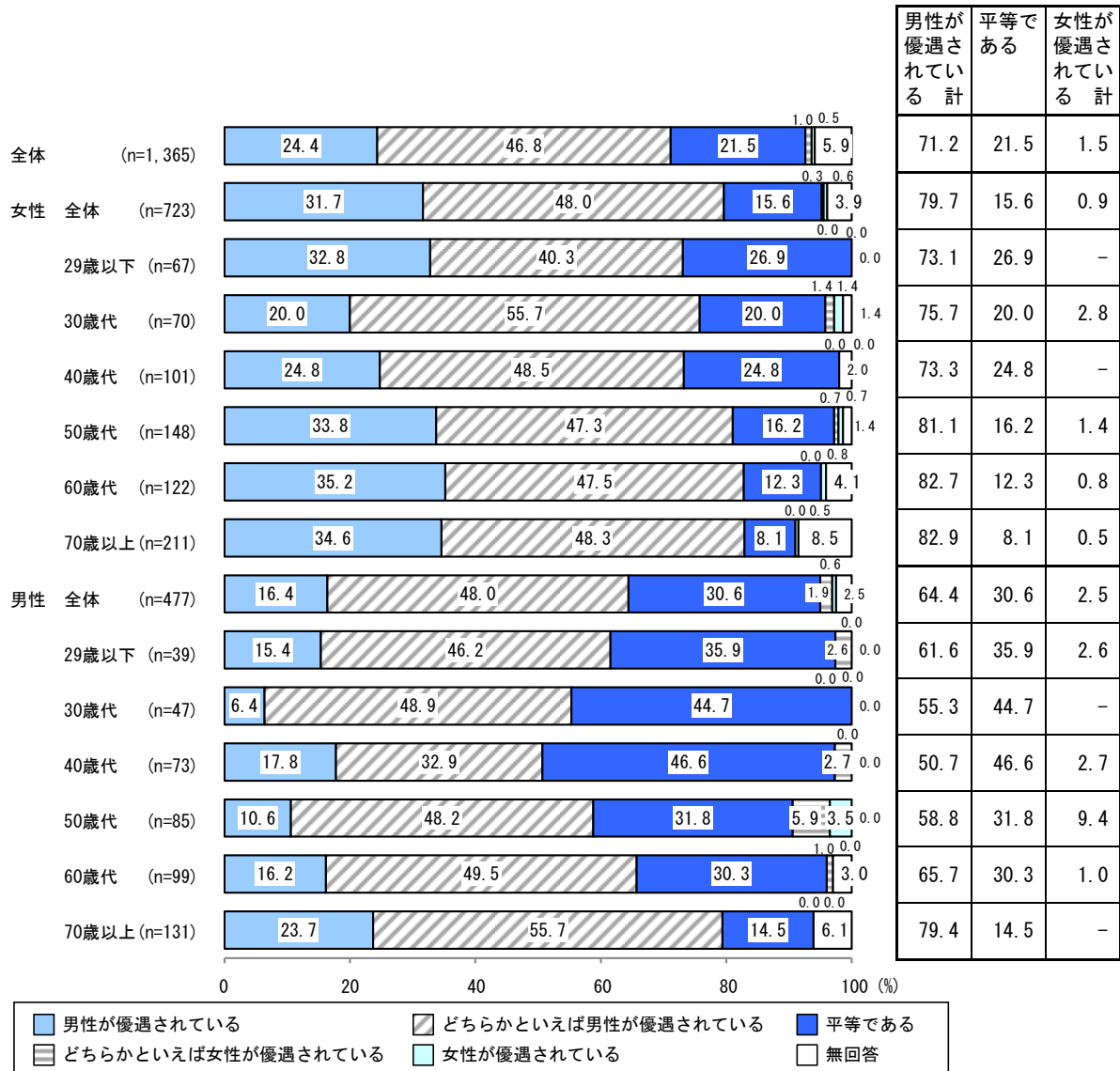


【前回調査（令和2年）】

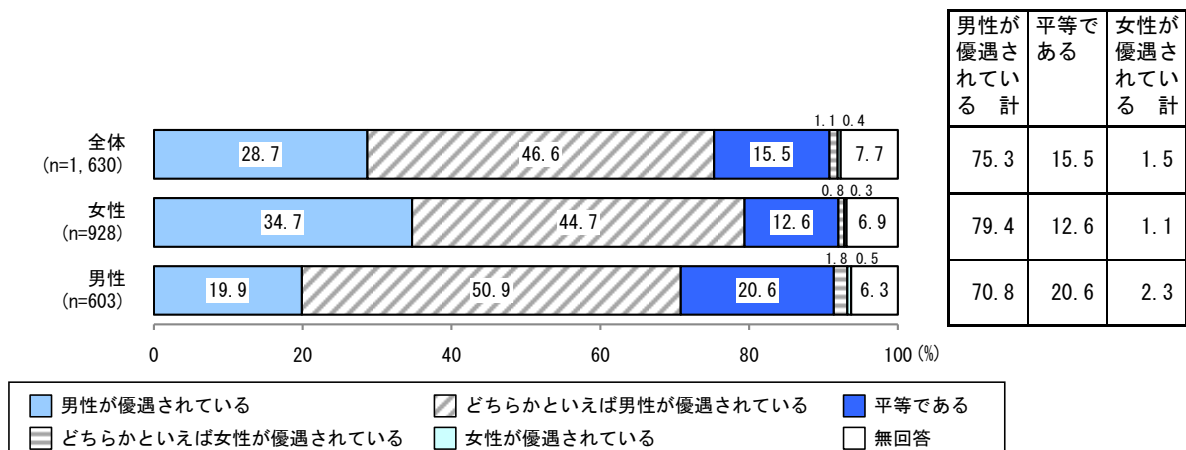


### (E) 管理職への登用

性・年代別でみると、“男性が優遇されている計”の割合は女性ではすべての年代で70%を超えているのに対して、男性は60歳代以下で70%を下回る。すべての年代で女性の“男性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、30～50歳代で男女差がより大きい。

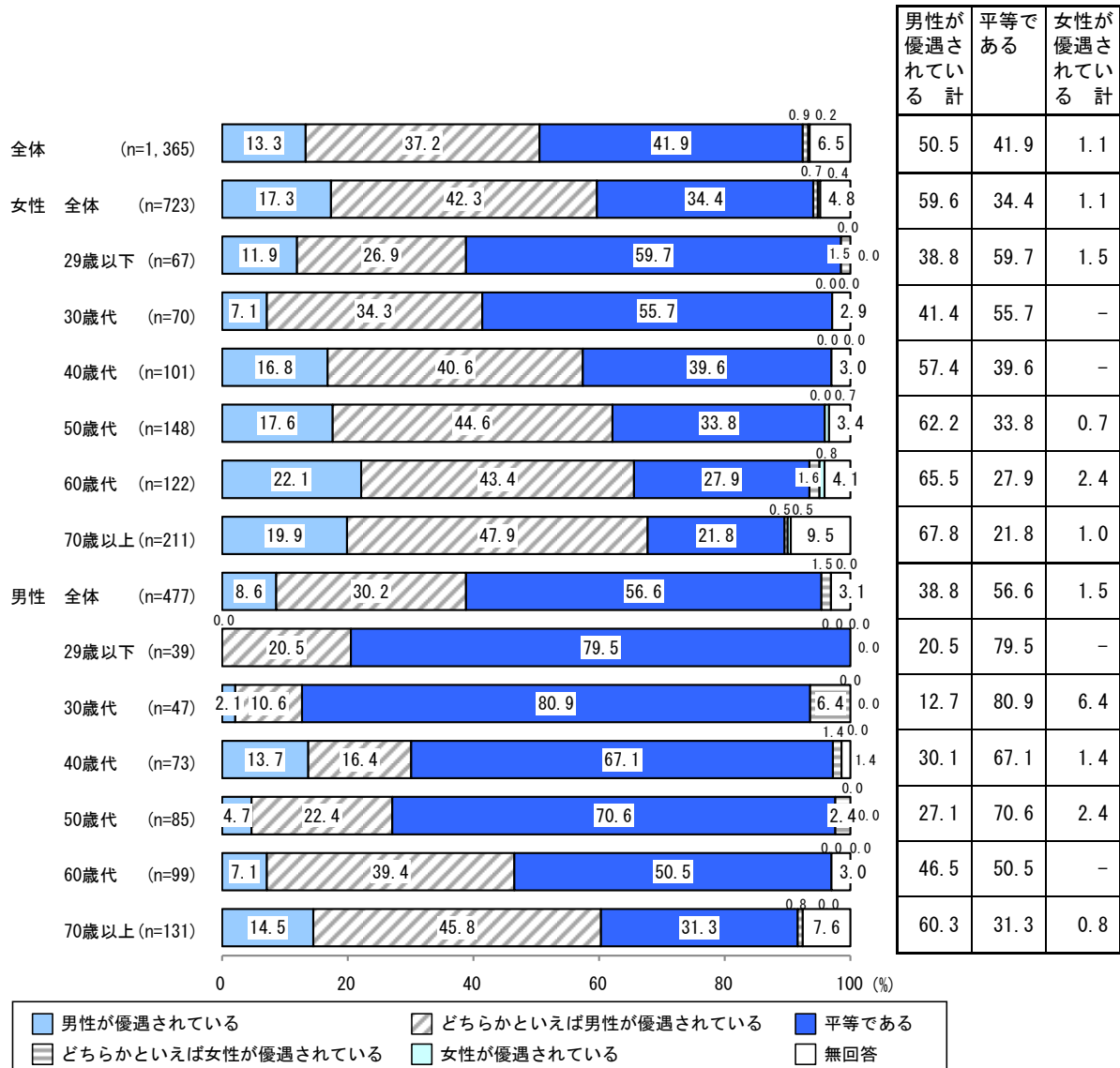


### 【前回調査（令和2年）】

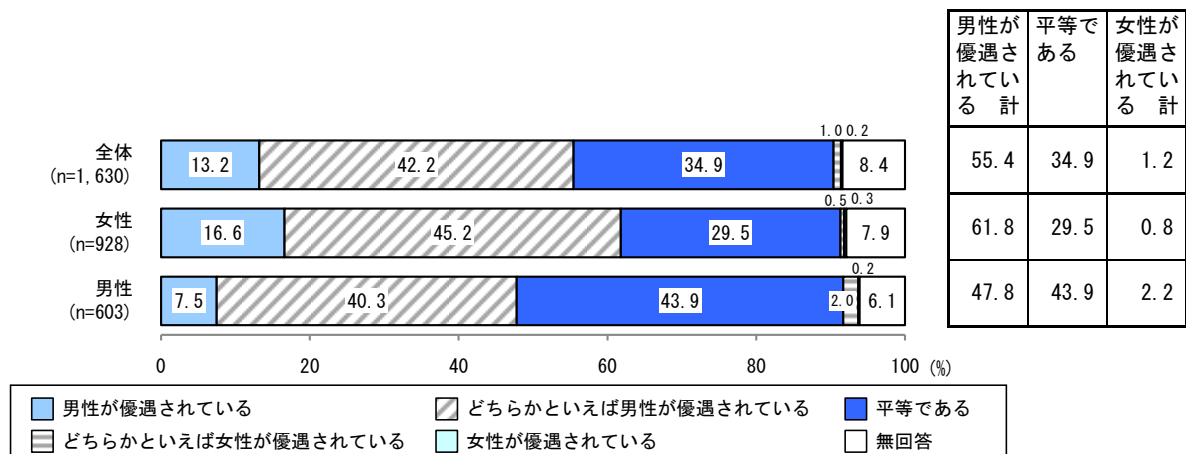


(F) 能力評価（業績評価・人事考課など）

性・年代別でみると、“男性が優遇されている計”の割合は50歳代以上女性、70歳代男性で60%を超えている。すべての年代で女性の“男性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、30歳代から40歳代で男女差が20ポイント以上と大きい。また、すべての年代で男性の「平等である」の割合は女性に比べて高く、30歳代、40歳代で男女差がより大きい。

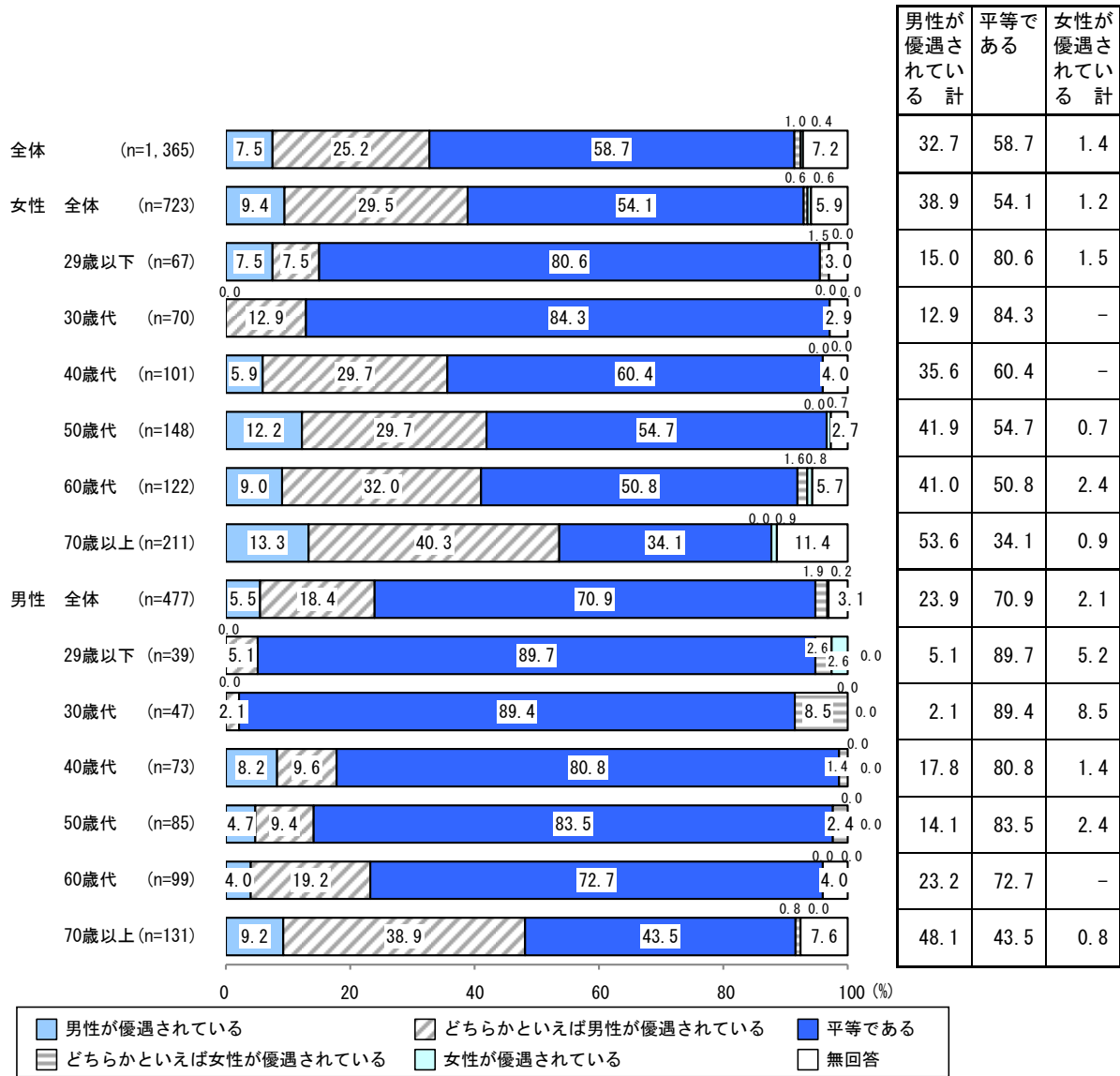


【前回調査（令和2年）】

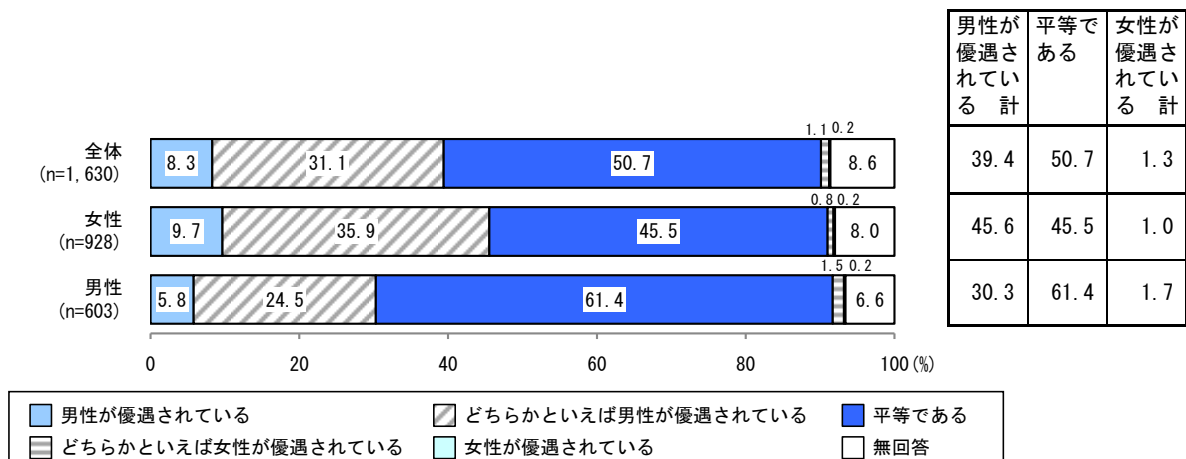


## (G) 研修の機会や内容

性・年代別でみると、“男性が優遇されている計”の割合は男女ともに70歳以上で高い。女性は“男性が優遇されている計”の割合がすべての年代で男性に比べて高く、50歳代で男女差が27.8ポイントと大きくなっている。

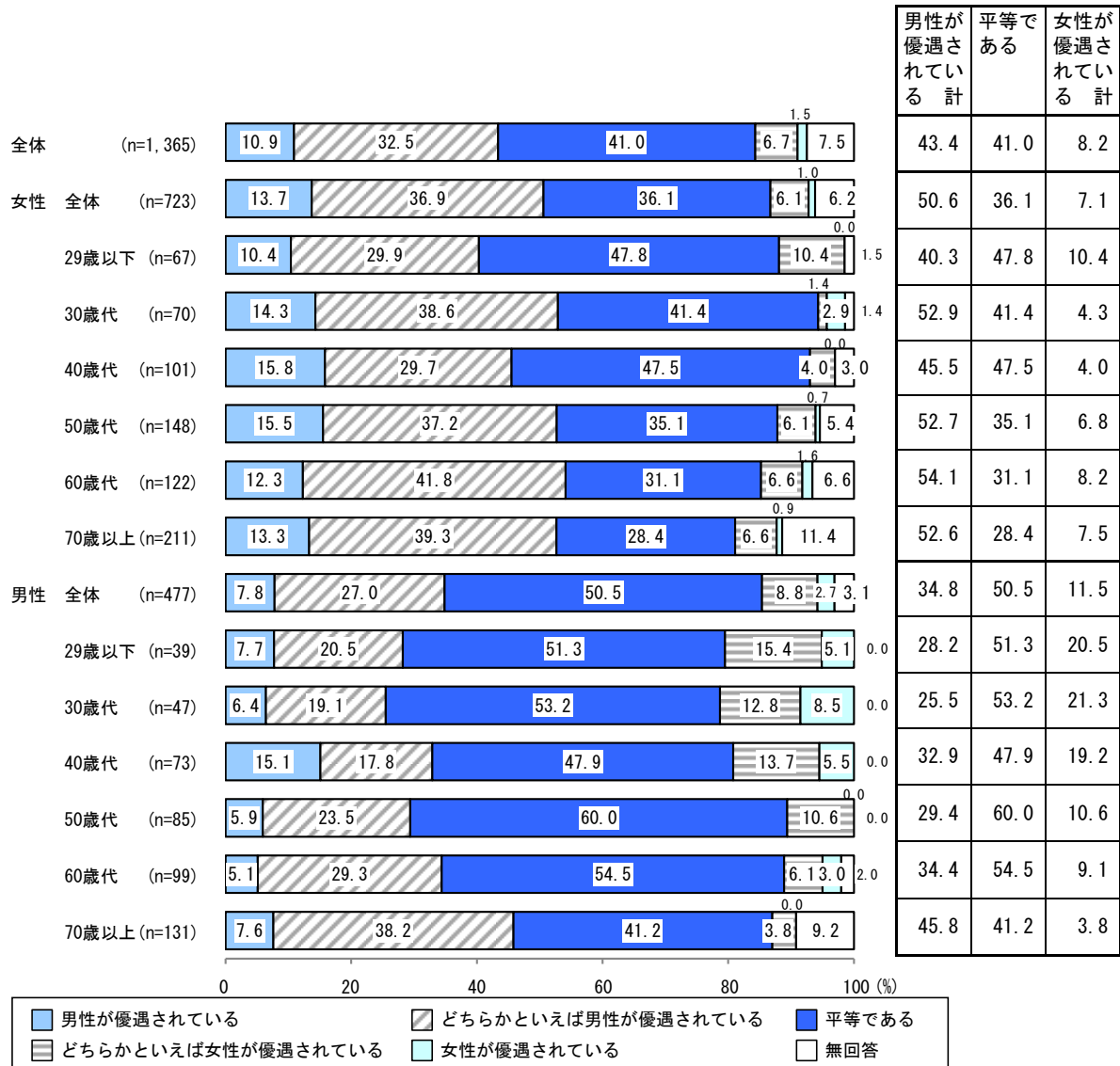


### 【前回調査（令和2年）】

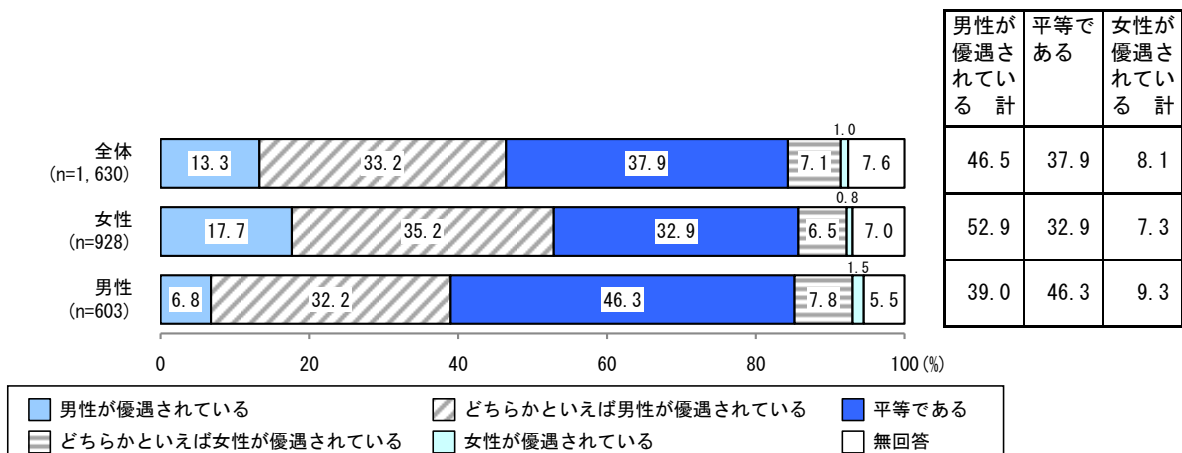


## (H) 働き続けやすい職場環境の整備

性・年代別でみると、30歳代、50歳代以上女性の“男性が優遇されている計”の割合が50%台と高く、すべての年代で男性より女性のほうが高くなっている。また、すべての年代で男性の「平等である」の割合は女性に比べて高く、50歳代、60歳代で男女差がより大きい。

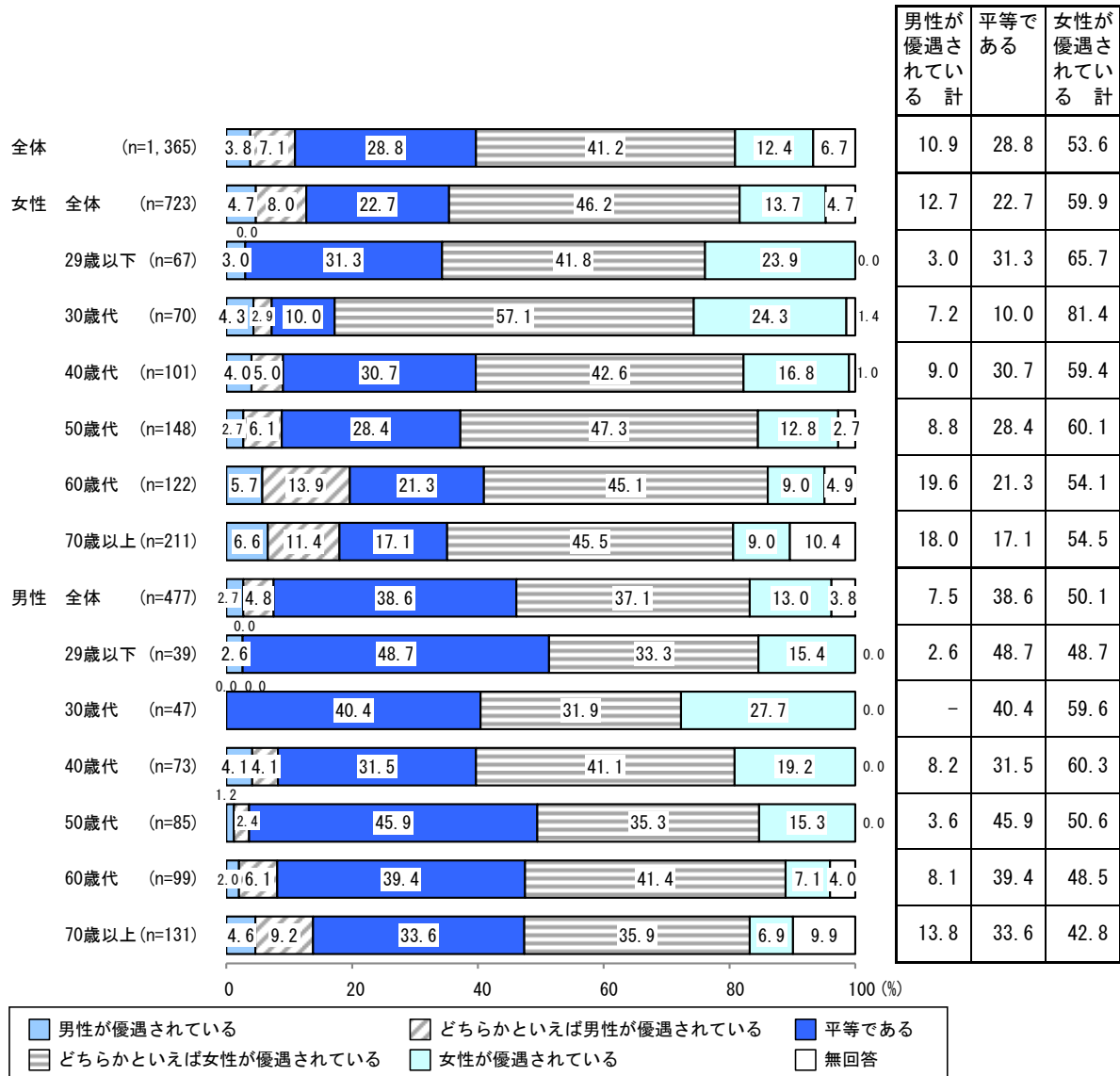


### 【前回調査（令和2年）】

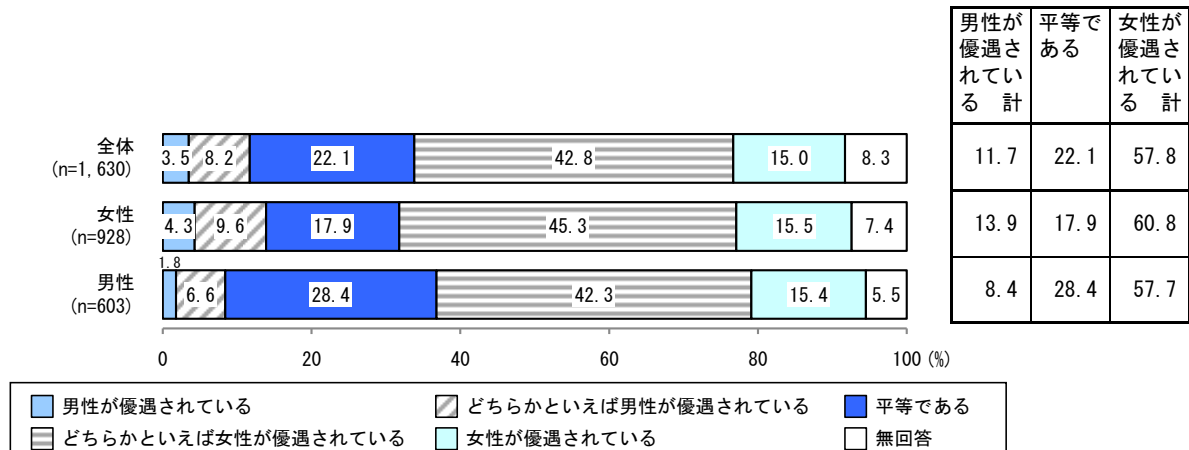


## (I) 育児・介護などの休暇や休業の取得のしやすさ

性・年代別でみると、29歳以下、30歳代女性で“女性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、男女差が大きい。また、すべての年代で男性の「平等である」の割合は女性に比べて高く、30歳代の女性は男性より30.4ポイント低くなっている。



### 【前回調査（令和2年）】



#### (4) 男女が対等に働くために必要なこと

問12 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

全体は、「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場環境の整備」(69.5%)が最も多く、次いで「男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする」(67.0%)となっている。

性別で見ると、「女性の採用を拡大する」「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」「男女ともに、教育・研修機会を充実する」を除き、すべての項目で女性の割合が男性より高くなっている。女性では「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場環境の整備」の割合が76.3%で最も高いが、男性では「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」の割合が65.8%で最も高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体では「短時間勤務、フレックスタイム(時差出勤)、テレワーク(在宅勤務等)など時間や場所にとられない柔軟な働き方の普及」の割合が前回より10.2ポイント高くなっている。

(単位: MA%)	今回調査			前回調査(令和2年)		
	全体 (n=1,365)	女性 (n=723)	男性 (n=477)	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
女性の採用を拡大する	32.7	31.4	34.4	40.2	41.8	39.0
賃金、昇給の男女の格差をなくす	62.4	67.4	57.7	54.7	58.3	50.2
男性中心の組織運営を見直し、女性の管理職への登用を進める	43.9	45.4	45.1	36.5	38.5	33.5
男女ともに、能力を発揮できる配置を行う	63.4	64.5	65.8	61.4	62.7	60.2
男女ともに、教育・研修機会を充実する	38.5	38.9	39.0	33.6	33.0	33.8
結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場環境の整備	69.5	76.3	64.2	65.9	70.9	59.2
男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする	67.0	71.4	65.2	62.3	67.0	56.6
育児・介護の施設や支援制度の充実	53.5	57.4	50.7	46.1	51.7	38.8
職場におけるセクシュアル・ハラスメントなどをなくす	45.6	49.1	41.3	43.4	44.7	41.8
職場において男女が対等であるという意識を普及させる	41.3	43.4	39.8	35.0	37.1	31.5
女性自身の職業に対する自覚・意欲を高める	33.5	34.4	32.9	32.2	32.5	32.0
男性自身の意識を変える	36.0	37.6	35.4	34.8	35.6	35.0
短時間勤務、フレックスタイム(時差出勤)、テレワーク(在宅勤務等)など時間や場所にとられない柔軟な働き方の普及	57.3	62.9	52.8	47.1	52.6	40.6
長時間労働を見直し、仕事と家事・育児等との両立(ワーク・ライフ・バランス)を実現する	59.3	66.7	53.7	53.4	58.2	48.3
その他	2.6	1.8	3.8	2.0	1.4	3.2
わからない	1.8	1.1	2.3	1.7	1.3	2.0
無回答	2.1	0.8	1.3	1.9	1.7	1.7

## (5) 男性が休業や休暇を取得すること

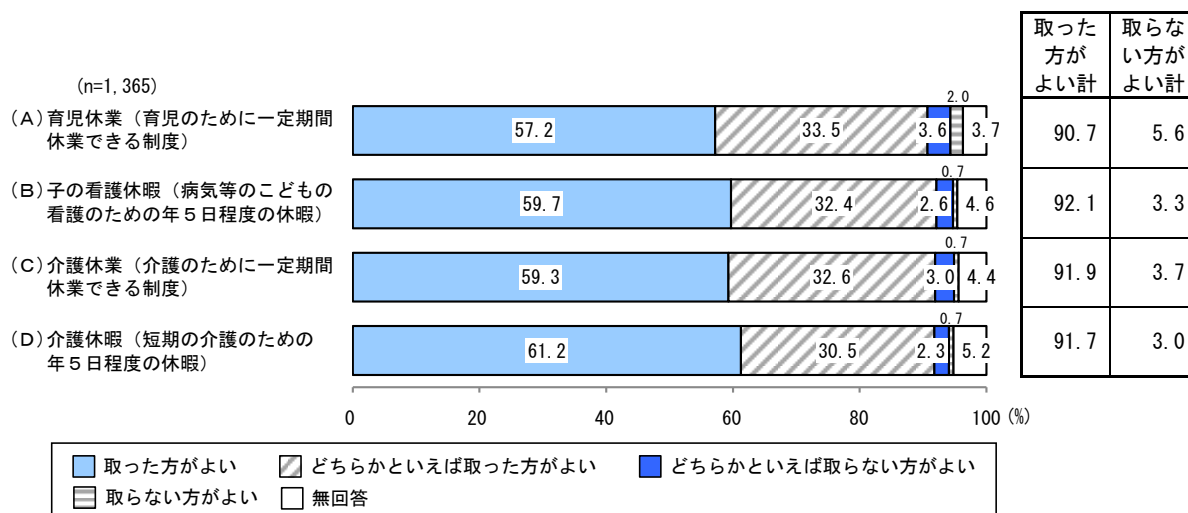
問13 男性が、休業や休暇を取得することについてどう思いますか。  
(それぞれ○は一つ)

全体は、いずれの項目も“取った方がよい計”の割合が90%を超えている。

性別でみると、女性の“取った方がよい計”の割合が『(A) 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）』で94.0%と、男性に比べて3.3ポイント高い。

性・年代別でみると、『(A) 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）』の“取った方がよい計”の割合が50歳代女性で8.3ポイント男性に比べて高い。また、『(B) 子の看護休暇（病気等のこどもの看護のための年5日程度の休暇）』の50歳代女性も“取った方がよい計”の割合が5.5ポイント男性に比べて高くなっている。

前回調査との比較でみると、全体ではいずれの項目も“取った方がよい計”の割合が前回より高くなっている。



※取った方がよい計：「取った方がよい」「どちらかといえば取った方がよい」をあわせた値

取らない方がよい計：「取らない方がよい」「どちらかといえば取らない方がよい」をあわせた値

(単位：%)	女性 (n=723)					男性 (n=477)					取った方がよい計	取らない方がよい計		
	取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計	取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい			取らない方がよい	無回答
(A) 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）	60.9	33.1	2.5	1.9	1.7	94.0	4.4	55.1	35.6	5.0	2.1	2.1	90.7	7.1
(B) 子の看護休暇（病気等のこどもの看護のための年5日程度の休暇）	63.3	31.0	2.4	0.4	2.9	94.3	2.8	58.5	35.0	3.1	1.3	2.1	93.5	4.4
(C) 介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）	63.5	30.3	2.5	0.8	2.9	93.8	3.3	57.4	36.1	3.8	0.6	2.1	93.5	4.4
(D) 介護休暇（短期の介護のための年5日程度の休暇）	65.8	28.5	2.2	0.7	2.8	94.3	2.9	60.0	34.0	2.5	0.8	2.7	94.0	3.3

(単位：%)	n	(A) 育児休業 (育児のために一定期間休業できる制度)							(B) 子の看護休暇 (病気等のこどもの看護のための年5日程度の休暇)							
		取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計	取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計	
全体	1,365	57.2	33.5	3.6	2.0	3.7	90.7	5.6	59.7	32.4	2.6	0.7	4.6	92.1	3.3	
性・年代別	女性全体	723	60.9	33.1	2.5	1.9	1.7	94.0	4.4	63.3	31.0	2.4	0.4	2.9	94.3	2.8
	29歳以下	67	77.6	19.4	1.5	1.5	-	97.0	3.0	82.1	17.9	-	-	-	100.0	-
	30歳代	70	77.1	21.4	1.4	-	-	98.5	1.4	80.0	17.1	2.9	-	-	97.1	2.9
	40歳代	101	58.4	31.7	5.0	4.0	1.0	90.1	9.0	65.3	29.7	3.0	1.0	1.0	95.0	4.0
	50歳代	148	64.2	32.4	2.7	0.7	-	96.6	3.4	66.2	31.1	0.7	-	2.0	97.3	0.7
	60歳代	122	57.4	38.5	1.6	0.8	1.6	95.9	2.4	61.5	33.6	3.3	-	1.6	95.1	3.3
	70歳以上	211	51.2	39.3	1.9	3.3	4.3	90.5	5.2	50.2	38.4	3.3	0.9	7.1	88.6	4.2
	男性全体	477	55.1	35.6	5.0	2.1	2.1	90.7	7.1	58.5	35.0	3.1	1.3	2.1	93.5	4.4
	29歳以下	39	71.8	28.2	-	-	-	100.0	-	76.9	20.5	2.6	-	-	97.4	2.6
	30歳代	47	68.1	25.5	6.4	-	-	93.6	6.4	68.1	27.7	2.1	2.1	-	95.8	4.2
	40歳代	73	57.5	34.2	5.5	2.7	-	91.7	8.2	64.4	34.2	1.4	-	-	98.6	1.4
	50歳代	85	56.5	31.8	8.2	2.4	1.2	88.3	10.6	61.2	30.6	7.1	1.2	-	91.8	8.3
	60歳代	99	52.5	39.4	4.0	2.0	2.0	91.9	6.0	56.6	38.4	3.0	-	2.0	95.0	3.0
	70歳以上	131	46.6	41.2	4.6	2.3	5.3	87.8	6.9	47.3	42.0	2.3	2.3	6.1	89.3	4.6

(単位：%)	n	(C) 介護休業 (介護のために一定期間休業できる制度)							(D) 介護休暇 (短期の介護のための年5日程度の休暇)							
		取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計	取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計	
全体	1,365	59.3	32.6	3.0	0.7	4.4	91.9	3.7	61.2	30.5	2.3	0.7	5.2	91.7	3.0	
性・年代別	女性全体	723	63.5	30.3	2.5	0.8	2.9	93.8	3.3	65.8	28.5	2.2	0.7	2.8	94.3	2.9
	29歳以下	67	73.1	25.4	-	-	1.5	98.5	-	76.1	22.4	-	1.5	-	98.5	1.5
	30歳代	70	77.1	20.0	2.9	-	-	97.1	2.9	78.6	20.0	1.4	-	-	98.6	1.4
	40歳代	101	68.3	26.7	3.0	1.0	1.0	95.0	4.0	72.3	21.8	4.0	1.0	1.0	94.1	5.0
	50歳代	148	68.9	27.7	0.7	1.4	1.4	96.6	2.1	71.6	26.4	0.7	-	1.4	98.0	0.7
	60歳代	122	62.3	32.0	4.9	-	0.8	94.3	4.9	64.8	31.1	3.3	-	0.8	95.9	3.3
	70歳以上	211	50.7	37.9	2.4	1.4	7.6	88.6	3.8	52.1	36.5	2.4	1.4	7.6	88.6	3.8
	男性全体	477	57.4	36.1	3.8	0.6	2.1	93.5	4.4	60.0	34.0	2.5	0.8	2.7	94.0	3.3
	29歳以下	39	76.9	20.5	2.6	-	-	97.4	2.6	76.9	23.1	-	-	-	100.0	-
	30歳代	47	59.6	34.0	6.4	-	-	93.6	6.4	61.7	36.2	2.1	-	-	97.9	2.1
	40歳代	73	65.8	31.5	2.7	-	-	97.3	2.7	69.9	28.8	1.4	-	-	98.7	1.4
	50歳代	85	58.8	34.1	3.5	1.2	2.4	92.9	4.7	61.2	34.1	3.5	-	1.2	95.3	3.5
	60歳代	99	56.6	36.4	4.0	1.0	2.0	93.0	5.0	60.6	33.3	4.0	-	2.0	93.9	4.0
	70歳以上	131	46.6	45.0	3.1	0.8	4.6	91.6	3.9	47.3	40.5	2.3	2.3	7.6	87.8	4.6

【前回調査（令和2年）】

(単位：%)	n	(A) 育児休業 (育児のために一定期間休業できる制度)							(B) 子の看護休暇 (病気等のこどもの看護のための年5日程度の休暇)						
		取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計	取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計
全体	1,630	39.9	43.6	9.5	2.4	4.6	83.5	11.9	43.6	45.0	4.8	1.1	5.6	88.6	5.9
女性	928	43.9	42.6	8.2	1.5	3.9	86.5	9.7	47.0	43.0	4.2	1.0	4.8	90.0	5.2
男性	603	35.5	45.9	11.3	3.8	3.5	81.4	15.1	39.6	49.4	5.8	1.3	3.8	89.0	7.1

(単位：%)	n	(C) 介護休業 (介護のために一定期間休業できる制度)							(D) 介護休暇 (短期の介護のための年5日程度の休暇)						
		取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計	取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計
全体	1,630	45.5	42.9	5.6	1.0	4.9	88.4	6.6	47.2	41.4	4.2	0.8	6.4	88.6	5.0
女性	928	49.7	41.2	4.5	0.8	3.9	90.9	5.3	51.9	39.0	3.6	0.5	5.0	90.9	4.1
男性	603	40.1	47.1	7.5	1.5	3.8	87.2	9.0	42.0	46.4	5.0	1.2	5.5	88.4	6.2

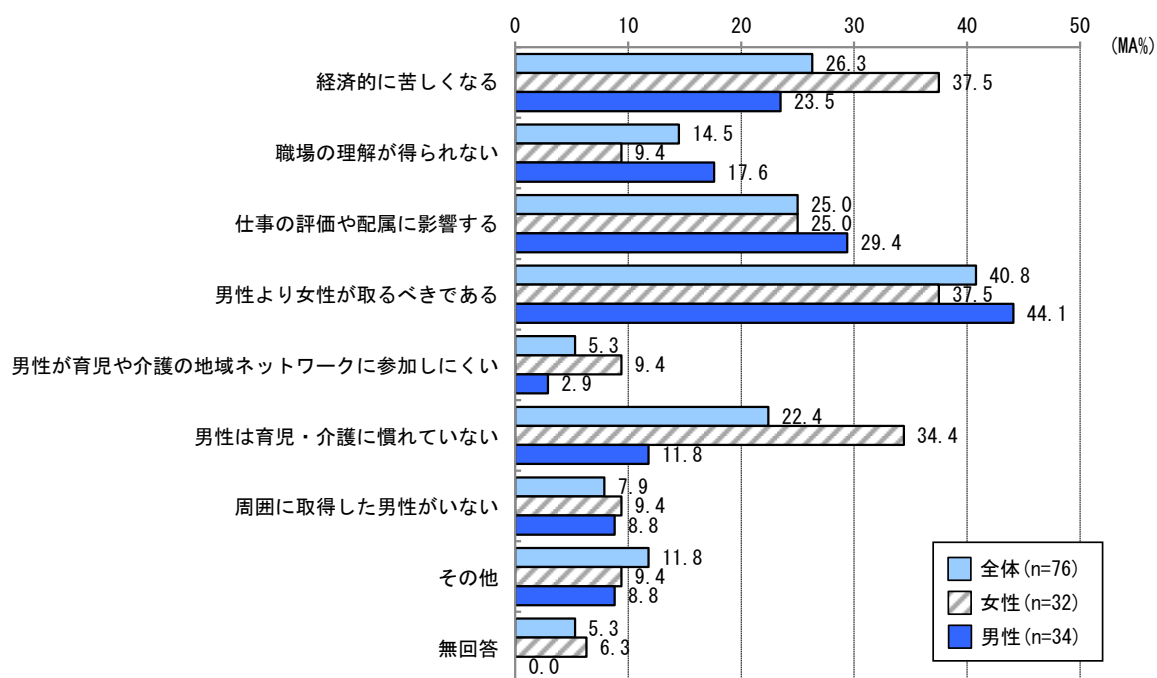
## (6) 男性が休業や休暇を取得しないほうがよいと考える理由

問13-1は、問13で取らない方がよい（「3」または「4」）と回答した方にお聞きします。  
 問13-1 それぞれ取らない方がよいと考える理由は何ですか。  
 問13 A～Dで「3」または「4」と回答した項目のみお答えください。  
 （それぞれあてはまるものすべてに○）

### (A) 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）

全体は、「男性より女性が取るべきである」（40.8%）が最も多く、次いで「経済的に苦しくなる」（26.3%）となっている。

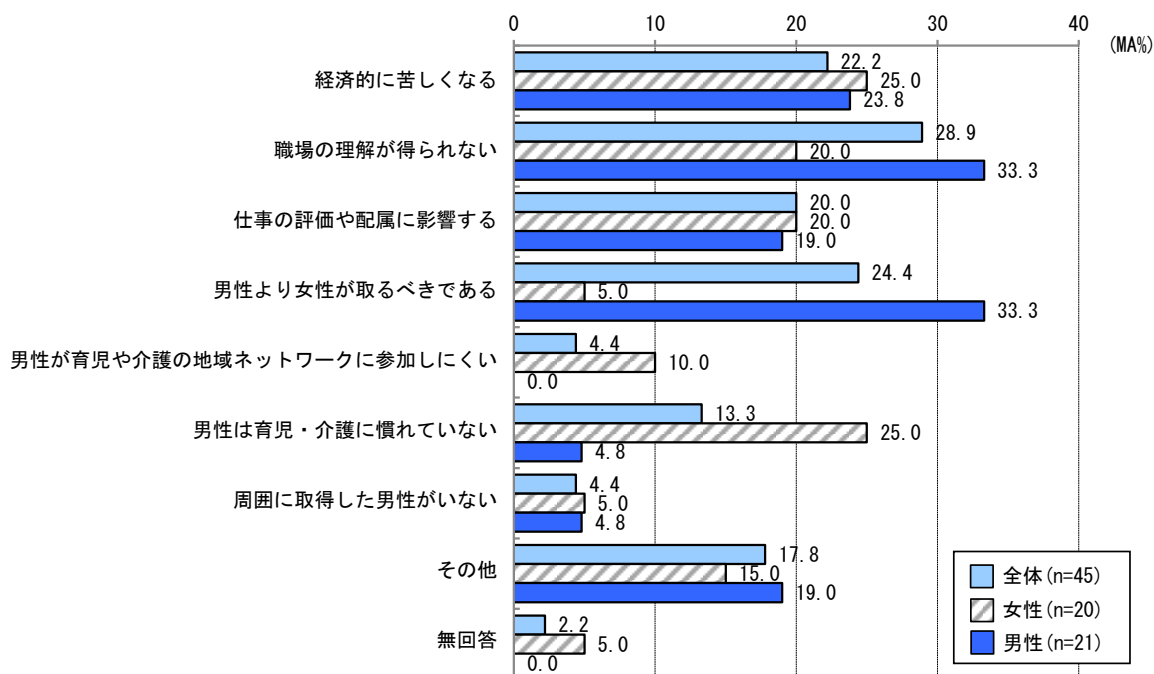
性別で見ると、男性で「職場の理解が得られない」「男性より女性が取るべきである」の割合が女性に比べて5ポイント以上高い。



## (B) 子の看護休暇（病気等のこどもの看護のための年5日程度の休暇）

全体は、「職場の理解が得られない」（28.9%）が最も多く、次いで「男性より女性が取るべきである」（24.4%）となっている。

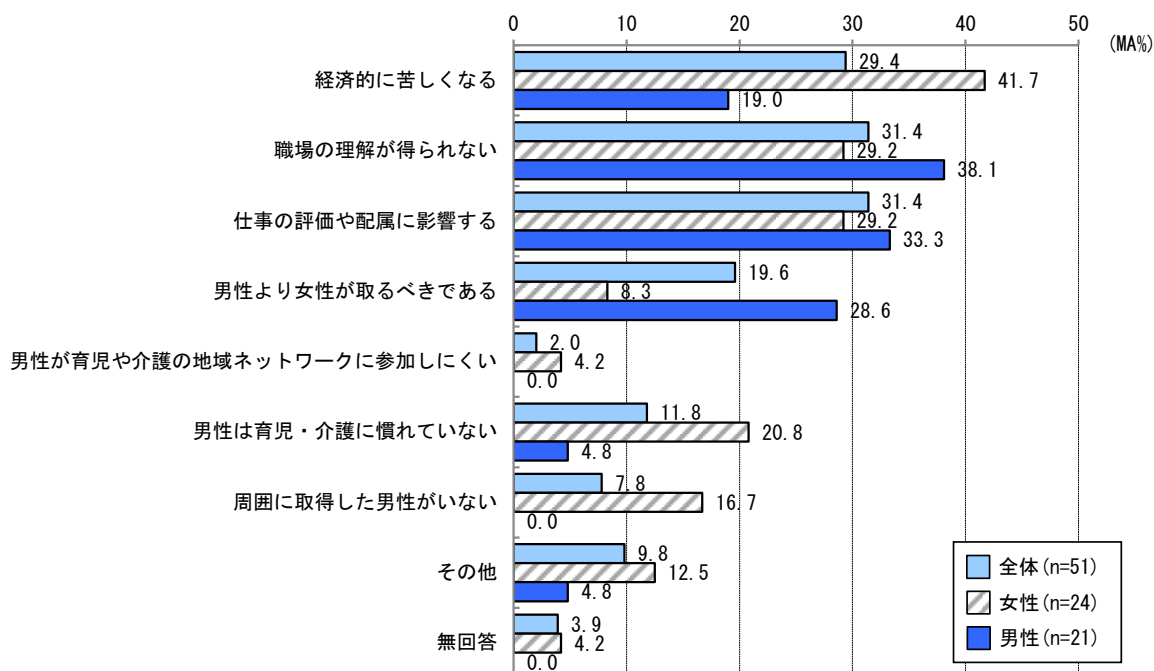
性別で見ると、男性で「職場の理解が得られない」「男性より女性が取るべきである」の割合が女性に比べて10ポイント以上高い。



## (C) 介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）

全体は、「職場の理解が得られない」と「仕事の評価や配属に影響する」がそれぞれ31.4%で最も多くなっている。

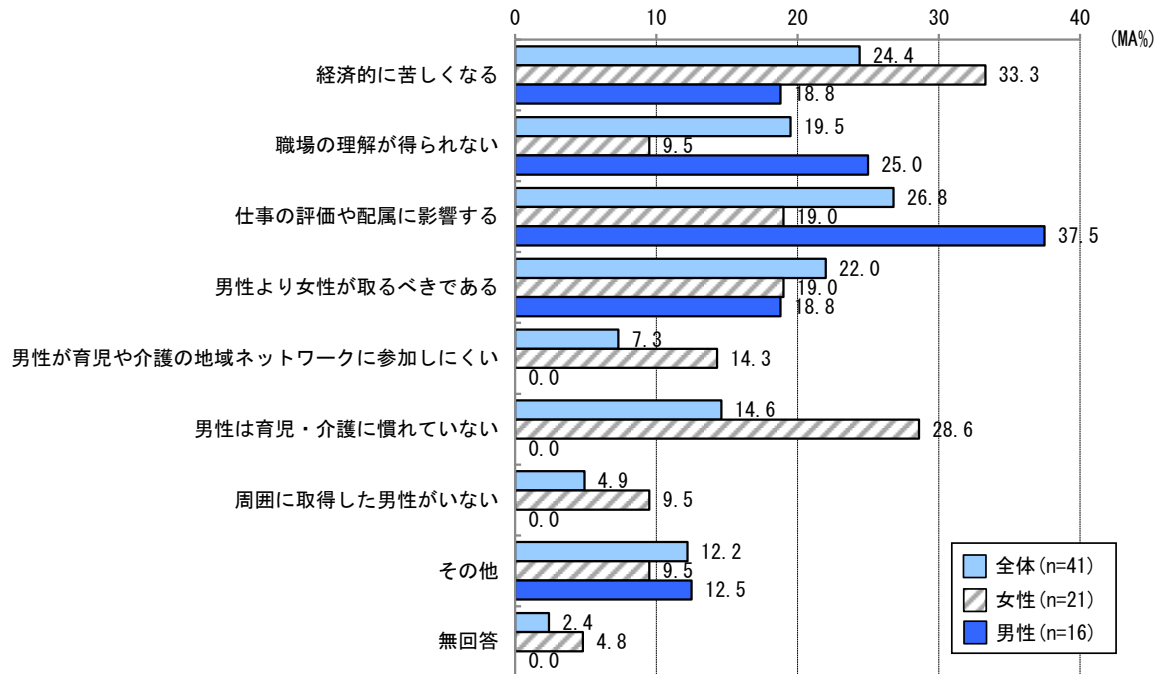
性別で見ると、男性で「職場の理解が得られない」「男性より女性が取るべきである」の割合が女性に比べて5ポイント以上高い。



(D) 介護休暇（短期の介護のための年5日程度の休暇）

全体は、「仕事の評価や配属に影響する」（26.8%）が最も多く、次いで「経済的に苦しくなる」（24.4%）となっている。

性別で見ると、男性で「職場の理解が得られない」「仕事の評価や配属に影響する」の割合が女性に比べて10ポイント以上高い。



## 6 地域・生活全般について

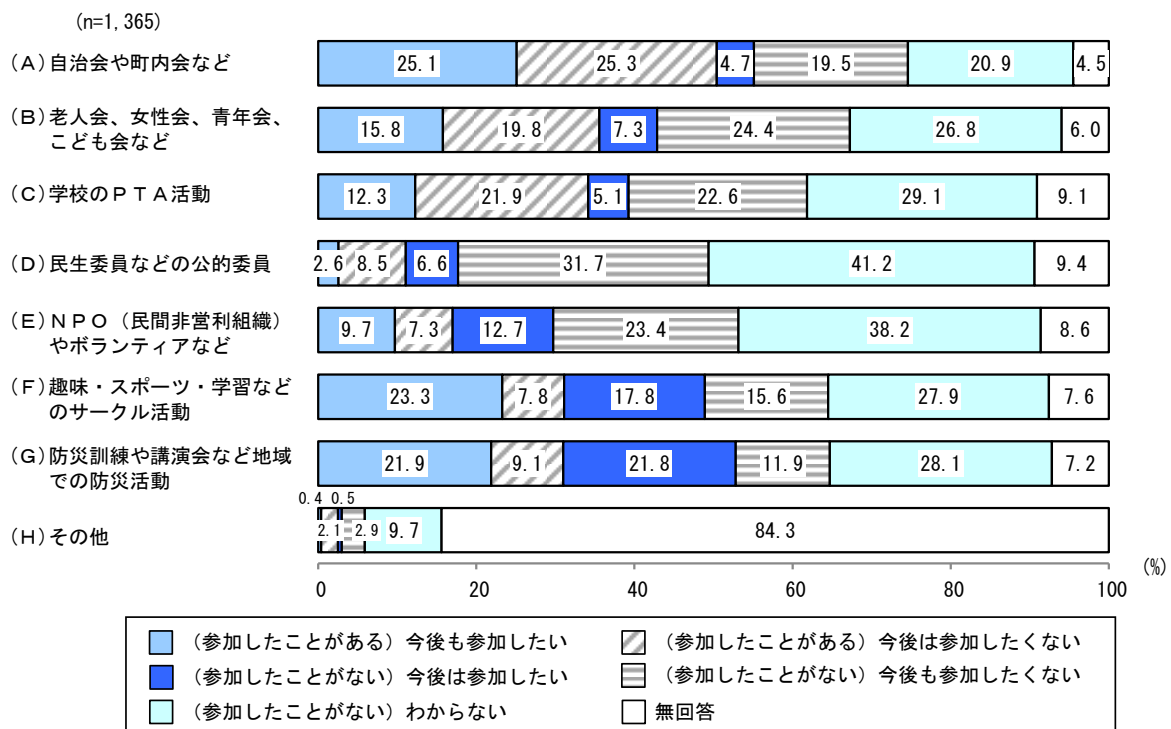
### (1) 地域活動の参加状況

問14 あなたは、現在お住まいの地域で、次の活動に参加したことはありますか。また、今後参加したいと思いますか。（それぞれ○は一つ）

全体は、「（参加したことがある）今後も参加したい」の割合は『（A）自治会や町内会など』（25.1%）が最も高く、次いで『（F）趣味・スポーツ・学習などのサークル活動』（23.3%）となっている。

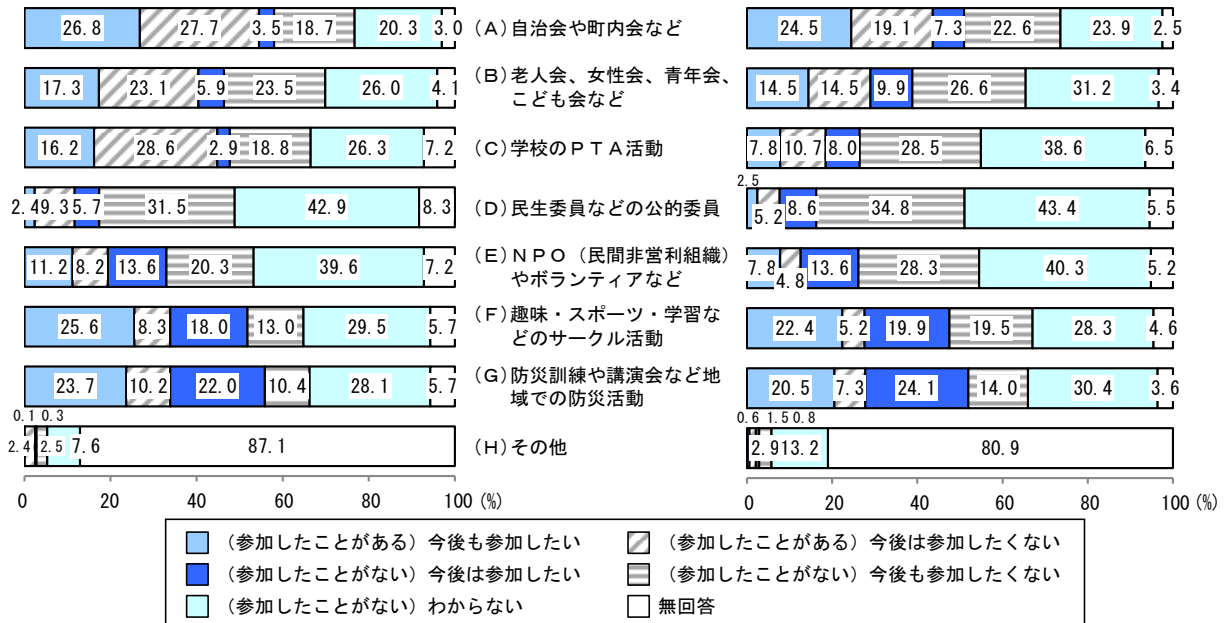
性別で見ると、男女とも「（参加したことがある）今後も参加したい」の割合は『（A）自治会や町内会など』が最も高く、次いで『（F）趣味・スポーツ・学習などのサークル活動』となっている。「（参加したことがない）今後は参加したい」と「（参加したことがない）今後も参加したくない」の割合はすべての項目で女性より男性のほうが高くなっている。

前回調査との比較で見ると、女性はいずれの項目も「（参加したことがある）今後も参加したい」の割合が前回より低くなっている。男性は「（参加したことがある）今後も参加したい」の割合は『（E）NPO（民間非営利組織）やボランティアなど』と『（F）趣味・スポーツ・学習などのサークル活動』以外の項目で前回より低くなっている。



【女性(n=723)】

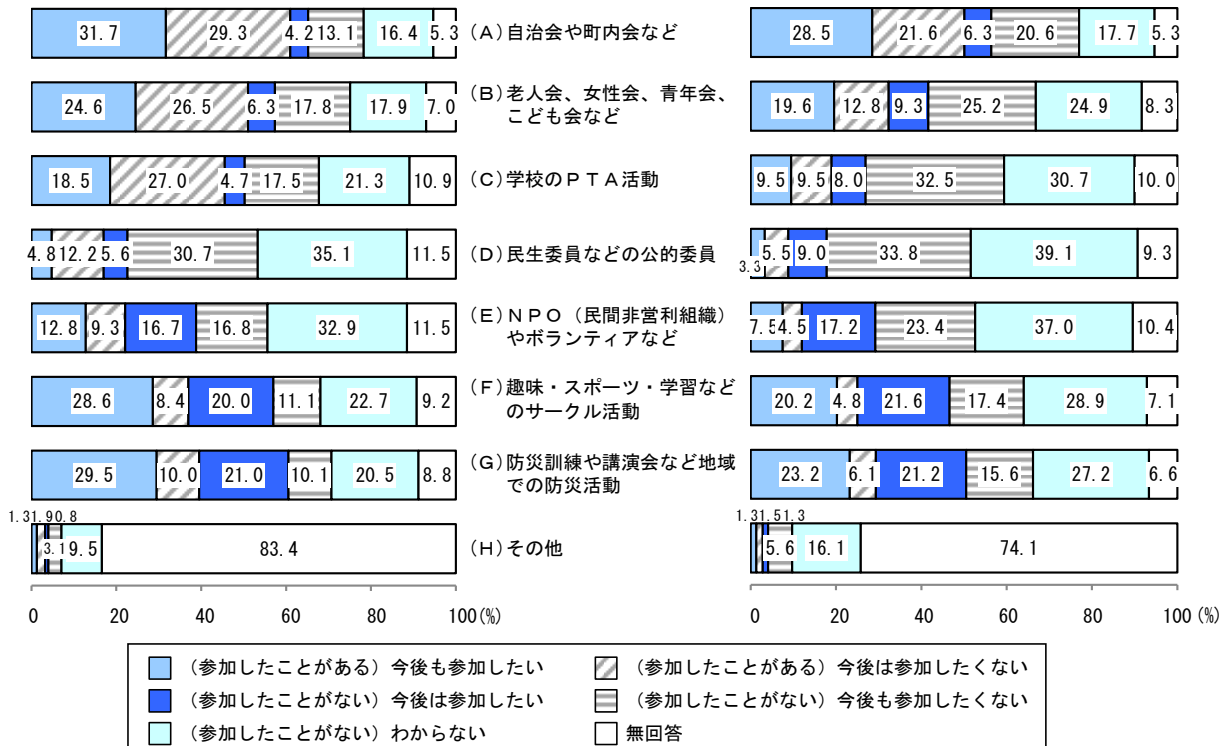
【男性(n=477)】



【前回調査（令和2年）】

【女性(n=928)】

【男性(n=603)】



## (2) 地域活動の参加したくない理由

問14-1は、問14で一つでも今後参加したくない（「2」または「4」）と回答した方にお聞きします。

問14-1 今後参加したくない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

全体は、「人間関係がわずらわしい」（53.3%）が最も多く、次いで「仕事が忙しい」（29.7%）となっている。

性別で見ると、男女とも「人間関係がわずらわしい」が最も多い。「仕事が忙しい」「自分の意見や地域のニーズが反映されない」「関心がない」の割合は女性より男性のほうが5ポイント以上高くなっている。

前回調査との比較で見ても、大きな差はみられない。

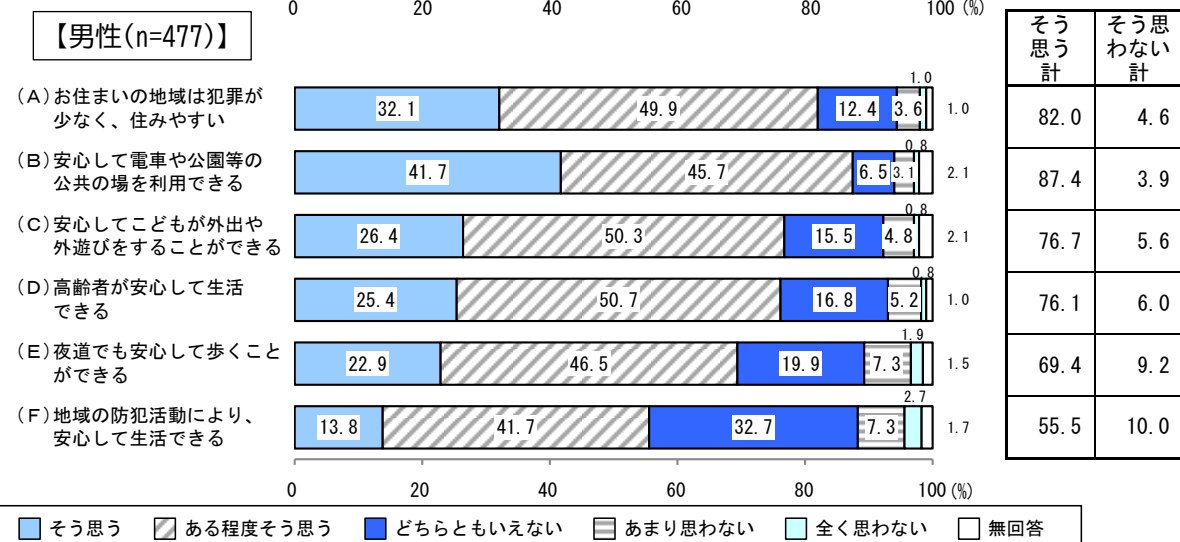
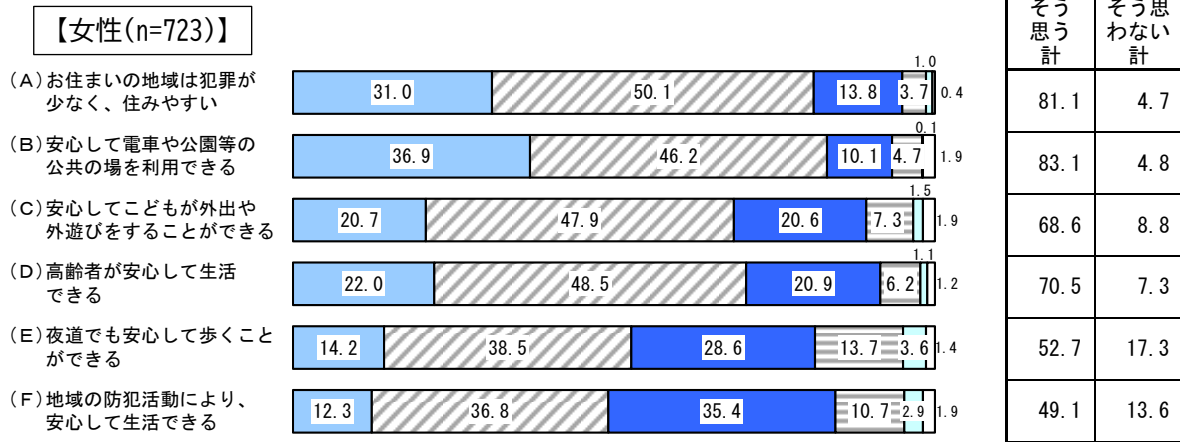
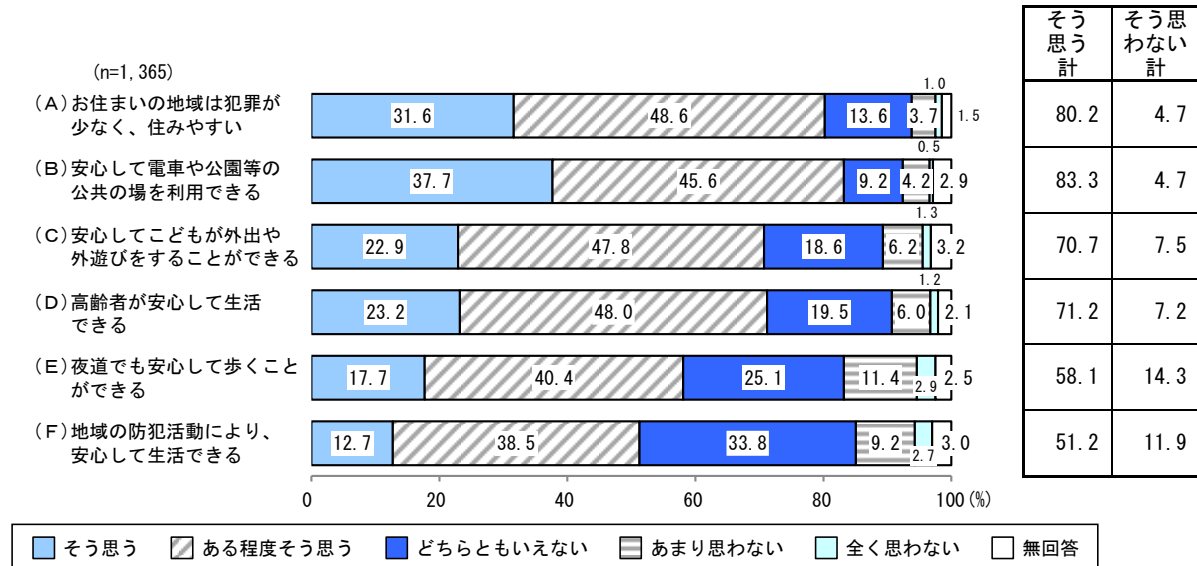
(単位：MA%)	今回調査			前回調査（令和2年）		
	全体 (n=855)	女性 (n=477)	男性 (n=275)	全体 (n=961)	女性 (n=565)	男性 (n=348)
仕事が忙しい	29.7	25.6	39.6	29.3	28.8	32.2
家事・育児・介護などで暇がない	14.0	17.2	12.4	13.2	16.5	8.9
健康に自信がない	22.5	22.4	18.5	20.4	20.5	18.1
人間関係がわずらわしい	53.3	53.7	54.2	55.0	55.2	55.2
自分の意見や地域のニーズが反映されない	6.8	4.6	9.8	8.7	8.0	10.3
自分の意見が男女平等に扱われない	1.3	1.3	1.1	1.6	2.1	0.9
活動について情報が得られない	12.5	12.6	13.8	9.8	10.1	9.8
性別や役割によって個人の負担が違う	9.6	10.1	9.5	10.3	11.7	8.6
関心がない	29.2	26.8	34.9	29.3	26.0	35.9
活動時間（時間帯）が合わない	27.3	27.0	30.9	26.6	28.5	26.1
その他	7.3	8.6	4.7	8.8	9.4	8.0
無回答	2.9	2.7	1.8	2.5	2.8	1.4

### (3) 地域の安全・安心に関する意識

問15 地域の安全・安心に関する下記の項目についてお答えください。(それぞれ〇は一つ)

全体は、“そう思う計”の割合は『(B)安心して電車や公園等の公共の場を利用できる』(83.3%)が最も高く、次いで『(A)お住まいの地域は犯罪が少なく、住みやすい』(80.2%)となっている。

性別で見ると、女性の“そう思う計”の割合はすべての項目で男性に比べて低く、特に『(E)夜道でも安心して歩くことができる』で10ポイント以上の差がある。

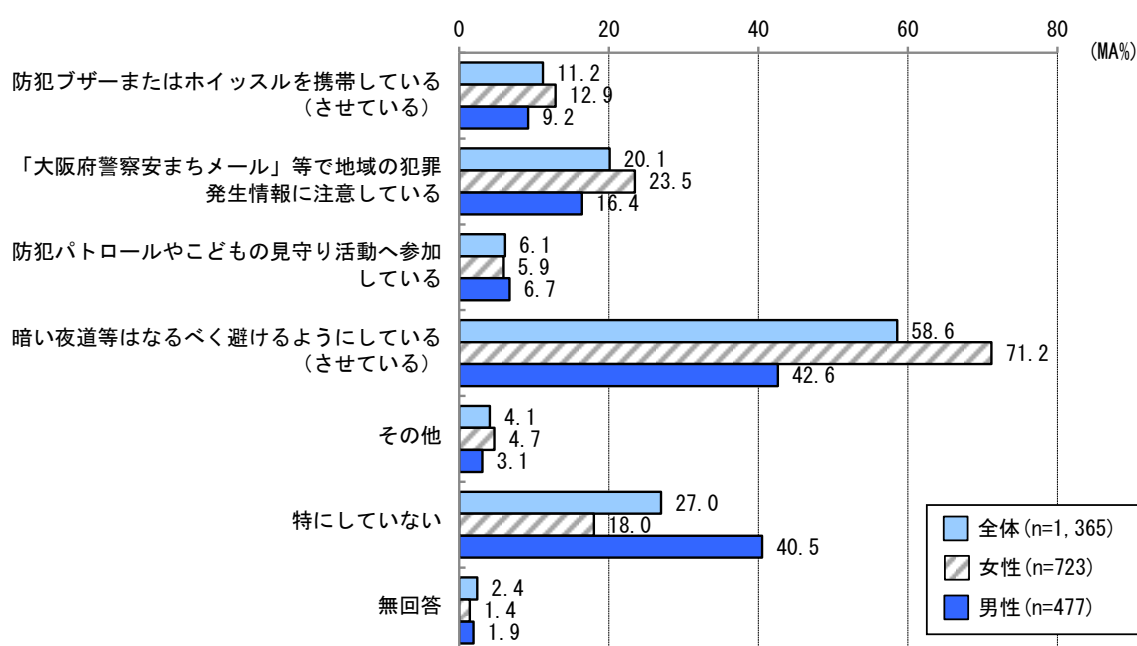


#### (4) 日頃から取り組んでいる防犯対策

問16 あなたやあなたの家族が日頃から気にしている、または取り組んでいる防犯対策は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体は、「暗い夜道等はあるべく避けるようにしている(させている)」(58.6%)が最も多く、次いで「大阪府警察安まちメール」等で地域の犯罪発生情報に注意している(20.1%)となっている。

性別で見ると、女性は「暗い夜道等はあるべく避けるようにしている(させている)」の割合が男性に比べて28.6ポイント、「大阪府警察安まちメール」等で地域の犯罪発生情報に注意している」の割合が男性に比べて7.1ポイント高い。男性は「特にしていない」の割合が女性に比べて22.5ポイント高い。



(単位: MA%)		n	防犯ブザーまたはホイッスルを携帯している(させている)	「大阪府警察安まちメール」等で地域の犯罪発生情報に注意している	防犯パトロールやこどもの見守り活動へ参加している	暗い夜道等はあるべく避けるようにしている(させている)	その他	特にしていない	無回答
全体		1,365	11.2	20.1	6.1	58.6	4.1	27.0	2.4
性・年代別	女性全体	723	12.9	23.5	5.9	71.2	4.7	18.0	1.4
	29歳以下	67	1.5	6.0	3.0	68.7	6.0	25.4	1.5
	30歳代	70	20.0	21.4	2.9	74.3	4.3	15.7	2.9
	40歳代	101	33.7	42.6	6.9	68.3	4.0	10.9	2.0
	50歳代	148	7.4	24.3	4.1	70.3	4.7	20.3	-
	60歳代	122	9.8	24.6	9.0	68.9	4.9	19.7	-
	70歳以上	211	10.0	19.4	7.1	74.4	4.7	17.1	2.4
	男性全体	477	9.2	16.4	6.7	42.6	3.1	40.5	1.9
29歳以下	39	5.1	7.7	2.6	46.2	-	43.6	-	
30歳代	47	12.8	10.6	-	31.9	2.1	57.4	-	
40歳代	73	19.2	26.0	5.5	46.6	4.1	30.1	-	
50歳代	85	5.9	16.5	4.7	44.7	1.2	40.0	-	
60歳代	99	5.1	13.1	6.1	40.4	2.0	45.5	4.0	
70歳以上	131	9.2	18.3	13.0	43.5	6.1	35.9	3.1	

## (5) 各活動に費やしている時間

問17 あなたは普段、1日のうちで、以下の活動にどれくらいの時間を費やしていますか。平日、休日それぞれについて平均どのくらい費やしているかお答えください。(○はそれぞれ一つ)

### (1) 仕事・学校(通勤・通学時間を含む)

全体は、「なし(0分)」(27.2%)が最も多く、次いで「8時間～10時間未満」(21.6%)となっている。

性別で見ると、女性は「なし(0分)」が31.4%で最も多く、男性では「8時間～10時間未満」が27.3%で最も多くなっている。

(単位：%)		n	なし (0分)	4時間未 満	4時間～ 6時間未 満	6時間～ 8時間未 満	8時間～ 10時間未 満	10時間～ 12時間未 満	12時間以 上	無回答	
全体		1,365	27.2	6.7	9.1	10.8	21.6	10.3	4.5	9.7	
性別	女性	723	31.4	7.1	12.2	10.8	20.1	7.7	1.2	9.5	
	男性	477	20.8	6.7	4.0	10.7	27.3	16.1	10.1	4.4	
性・ 年代別	女性	29歳以下	67	10.4	4.5	1.5	14.9	53.7	10.4	4.5	-
		30歳代	70	22.9	2.9	12.9	15.7	28.6	14.3	2.9	-
		40歳代	101	6.9	6.9	25.7	19.8	27.7	10.9	2.0	-
		50歳代	148	18.9	5.4	18.2	14.9	26.4	14.2	0.7	1.4
		60歳代	122	43.4	9.8	9.8	9.0	15.6	4.1	0.8	7.4
		70歳以上	211	55.0	8.5	6.2	1.4	1.4	-	-	27.5
	男性	29歳以下	39	-	5.1	7.7	15.4	56.4	12.8	2.6	-
		30歳代	47	2.1	2.1	-	6.4	46.8	21.3	21.3	-
		40歳代	73	4.1	4.1	1.4	9.6	37.0	26.0	17.8	-
		50歳代	85	4.7	4.7	-	10.6	31.8	30.6	17.6	-
		60歳代	99	24.2	7.1	7.1	14.1	23.2	15.2	8.1	1.0
		70歳以上	131	51.1	11.5	6.1	9.2	5.3	1.5	0.8	14.5

## (2) 家事（炊事、買物、洗濯、掃除など）

全体は、平日・休日とも「1時間～2時間未満」が最も多い。

性別で見ると、女性は平日・休日とも「2時間～3時間未満」の割合が最も高く、男性は平日が「30分～1時間未満」、休日が「1時間～2時間未満」の割合が最も高い。

末子年齢6歳未満のこどもがいると回答された方で見ると、女性は平日が「2時間～3時間未満」、休日は「3時間～4時間未満」の割合が最も高く、男性は平日が「30分～1時間未満」、休日は「2時間～3時間未満」の割合が最も高い。

(単位：%)	n	①平日（仕事や学校がある日）									②休日（仕事や学校がない日）										
		なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答		
全体	1,365	6.8	11.8	17.1	22.6	17.3	11.1	5.2	4.2	4.0	4.6	7.5	12.3	21.4	20.5	12.5	5.6	6.2	9.4		
性別	女性	723	2.2	4.6	12.0	23.0	23.2	17.0	8.2	6.6	3.2	2.1	3.3	7.3	19.9	25.2	17.8	9.4	8.7	6.2	
	男性	477	14.5	23.1	24.9	21.8	9.6	2.1	1.0	0.8	2.1	8.6	13.4	20.5	24.3	17.0	4.8	0.8	2.7	7.8	
性・年代別	女性	29歳以下	67	10.4	19.4	32.8	20.9	7.5	6.0	1.5	1.5	-	9.0	16.4	16.4	31.3	9.0	6.0	3.0	6.0	3.0
		30歳代	70	1.4	5.7	15.7	28.6	20.0	18.6	4.3	5.7	-	-	1.4	5.7	25.7	31.4	22.9	4.3	7.1	1.4
		40歳代	101	1.0	4.0	9.9	21.8	22.8	22.8	8.9	8.9	-	-	1.0	2.0	16.8	24.8	24.8	14.9	15.8	-
		50歳代	148	0.7	2.0	8.8	27.7	27.0	22.3	4.1	6.1	1.4	2.7	1.4	2.7	19.6	29.7	18.2	13.5	9.5	2.7
		60歳代	122	0.8	1.6	9.0	25.4	25.4	11.5	16.4	9.0	0.8	-	0.8	11.5	15.6	28.7	17.2	13.1	9.0	4.1
		70歳以上	211	2.4	2.8	9.0	17.5	26.1	16.6	9.5	6.6	9.5	2.4	3.3	8.5	18.0	23.7	16.6	5.7	6.2	15.6
		70歳以上	131	14.5	19.1	22.9	16.8	13.0	3.8	2.3	1.5	6.1	13.7	13.7	18.3	17.6	9.9	3.1	1.5	1.5	20.6
	男性	29歳以下	39	28.2	23.1	25.6	12.8	10.3	-	-	-	-	23.1	17.9	23.1	17.9	15.4	2.6	-	-	-
		30歳代	47	17.0	25.5	21.3	23.4	12.8	-	-	-	-	12.8	6.4	14.9	25.5	29.8	8.5	-	2.1	-
		40歳代	73	12.3	24.7	31.5	23.3	6.8	1.4	-	-	-	2.7	15.1	21.9	28.8	23.3	4.1	-	1.4	2.7
		50歳代	85	14.1	23.5	32.9	18.8	7.1	2.4	-	1.2	-	4.7	10.6	27.1	27.1	20.0	5.9	-	3.5	1.2
		60歳代	99	10.1	26.3	17.2	32.3	8.1	2.0	2.0	1.0	1.0	2.0	16.2	19.2	29.3	13.1	6.1	2.0	6.1	6.1
		70歳以上	131	14.5	19.1	22.9	16.8	13.0	3.8	2.3	1.5	6.1	13.7	13.7	18.3	17.6	9.9	3.1	1.5	1.5	20.6
		70歳以上	90	2.2	8.9	15.6	20.0	23.3	15.6	8.9	5.6	-	-	1.1	6.7	23.3	27.8	20.0	10.0	10.0	1.1
女性	54	-	-	3.7	16.7	29.6	25.9	14.8	9.3	-	-	-	-	16.7	22.2	31.5	14.8	13.0	1.9		
男性	33	6.1	24.2	36.4	24.2	9.1	-	-	-	-	-	3.0	18.2	33.3	39.4	3.0	-	3.0	-		

### 【末子年齢6歳未満のこどもがいると回答された方】

(単位：%)	n	①平日（仕事や学校がある日）									②休日（仕事や学校がない日）								
		なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答
全体	90	2.2	8.9	15.6	20.0	23.3	15.6	8.9	5.6	-	-	1.1	6.7	23.3	27.8	20.0	10.0	10.0	1.1
女性	54	-	-	3.7	16.7	29.6	25.9	14.8	9.3	-	-	-	-	16.7	22.2	31.5	14.8	13.0	1.9
男性	33	6.1	24.2	36.4	24.2	9.1	-	-	-	-	-	3.0	18.2	33.3	39.4	3.0	-	3.0	-

### (3) 育児

全体は、平日・休日とも「育児の必要なこどもがいない」が最も多い。

性・年代別でみると、女性の30歳代は「5時間以上」の割合が47.1%で最も高いが、それ以外の年代は男女とも「育児の必要なこどもがいない」の割合が最も高い。

末子年齢6歳未満のこどもがいると回答された方で見ると、女性は平日・休日ともに「5時間以上」の割合が最も高く、男性は平日が「30分～1時間未満」、休日は「5時間以上」の割合が最も高い。

(単位：%)	n	①平日（仕事や学校がある日）										②休日（仕事や学校がない日）									
		が育児の必要なこどもがいない	なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	が育児の必要なこどもがいない	なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答
全体	1,365	62.9	12.4	1.8	2.7	4.2	2.3	1.6	1.1	2.9	8.1	61.8	10.0	1.4	1.2	2.6	2.3	1.3	1.4	7.3	10.8
性別																					
女性	723	64.2	11.3	0.3	1.4	3.9	3.5	2.1	1.5	5.1	6.8	63.5	10.2	0.1	1.0	2.5	2.2	1.4	1.7	9.0	8.4
男性	477	65.2	12.8	4.2	5.2	5.0	1.3	1.3	0.4	0.2	4.4	63.5	9.6	3.4	1.9	2.9	2.5	1.7	1.5	5.9	7.1
性・年代別																					
女性																					
29歳以下	67	89.6	3.0	-	-	-	1.5	-	-	4.5	1.5	88.1	1.5	-	-	-	-	-	-	6.0	4.5
30歳代	70	40.0	1.4	-	2.9	2.9	8.6	8.6	8.6	27.1	-	38.6	1.4	-	1.4	2.9	2.9	2.9	1.4	47.1	1.4
40歳代	101	39.6	4.0	2.0	4.0	17.8	13.9	4.0	4.0	9.9	1.0	39.6	4.0	1.0	8.9	11.9	4.0	8.9	19.8	1.0	
50歳代	148	66.2	18.2	-	1.4	3.4	2.0	3.4	-	2.7	2.7	64.9	16.9	-	2.0	2.7	1.4	2.0	0.7	4.7	4.7
60歳代	122	82.0	9.8	-	-	1.6	0.8	-	0.8	0.8	4.1	82.8	8.2	-	-	1.6	-	0.8	0.8	0.8	4.9
70歳以上	211	64.5	16.1	-	0.9	0.5	-	-	-	-	18.0	63.5	14.7	-	0.9	0.5	-	-	-	-	20.4
男性																					
29歳以下	39	82.1	10.3	-	-	7.7	-	-	-	-	-	82.1	10.3	-	-	-	-	-	-	7.7	-
30歳代	47	57.4	6.4	4.3	12.8	10.6	4.3	2.1	-	2.1	-	57.4	-	2.1	-	6.4	6.4	2.1	2.1	23.4	-
40歳代	73	39.7	11.0	16.4	16.4	9.6	1.4	4.1	1.4	-	-	38.4	4.1	11.0	5.5	11.0	5.5	2.7	1.4	16.4	4.1
50歳代	85	71.8	8.2	3.5	5.9	7.1	1.2	-	-	-	2.4	70.6	5.9	3.5	4.7	2.4	2.4	4.7	1.2	1.2	3.5
60歳代	99	74.7	14.1	1.0	-	3.0	1.0	2.0	1.0	-	3.0	73.7	13.1	1.0	-	1.0	2.0	1.0	1.0	4.0	3.0
70歳以上	131	65.6	19.1	1.5	1.5	-	0.8	-	-	-	11.5	61.8	16.0	2.3	0.8	-	0.8	-	-	-	18.3

#### 【末子年齢6歳未満のこどもがいると回答された方】

(単位：%)	n	①平日（仕事や学校がある日）										②休日（仕事や学校がない日）									
		が育児の必要なこどもがいない	なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	が育児の必要なこどもがいない	なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答
全体	90	1.1	3.3	4.4	13.3	13.3	16.7	12.2	6.7	28.9	-	1.1	-	1.1	-	6.7	8.9	4.4	5.6	72.2	-
女性	54	1.9	-	-	1.9	5.6	20.4	13.0	11.1	46.3	-	1.9	-	-	-	1.9	5.6	3.7	3.7	83.3	-
男性	33	-	9.1	12.1	33.3	27.3	9.1	9.1	-	-	-	-	-	3.0	-	15.2	15.2	6.1	9.1	51.5	-

#### (4) 介護

全体は、平日・休日とも「介護の必要な家族がない」が最も多い。

性別で見ると、男女とも平日・休日にかかわらず「介護の必要な家族がない」の割合が最も高く、次いで「なし（0分）」となっている。

(単位：%)	n	①平日（仕事や学校がある日）										②休日（仕事や学校がない日）											
		い 介 護 の 必 要 な 家 族 が な し (0分)	3 0 分 未 満	3 0 分 〜 1 時 間 未 満	1 時 間 〜 2 時 間 未 満	2 時 間 〜 3 時 間 未 満	3 時 間 〜 4 時 間 未 満	4 時 間 〜 5 時 間 未 満	5 時 間 以 上	無 回 答	い 介 護 の 必 要 な 家 族 が な し (0分)	3 0 分 未 満	3 0 分 〜 1 時 間 未 満	1 時 間 〜 2 時 間 未 満	2 時 間 〜 3 時 間 未 満	3 時 間 〜 4 時 間 未 満	4 時 間 〜 5 時 間 未 満	5 時 間 以 上	無 回 答				
全体	1,365	72.5	13.6	1.8	1.4	1.3	1.2	1.0	0.3	1.2	5.6	70.9	11.3	1.3	1.9	1.7	1.8	1.1	0.3	1.7	8.0		
性別	女性	723	74.7	11.8	1.7	1.7	1.7	1.0	1.2	0.4	1.5	4.4	73.3	10.2	0.8	1.8	1.8	2.2	1.4	0.6	2.1	5.8	
	男性	477	74.8	13.8	2.1	1.3	1.0	1.5	0.8	0.2	0.6	3.8	73.2	11.5	1.9	2.3	1.7	1.9	1.0	-	0.8	5.7	
性・年代別	女性	29歳以下	67	95.5	3.0	-	-	-	-	-	-	1.5	94.0	3.0	-	-	-	-	-	-	-	3.0	
		30歳代	70	95.7	4.3	-	-	-	-	-	-	-	92.9	4.3	-	-	-	-	-	-	-	2.9	
		40歳代	101	88.1	6.9	1.0	1.0	1.0	-	-	-	1.0	87.1	5.9	-	2.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	1.0	
		50歳代	148	58.1	21.6	2.7	5.4	5.4	0.7	2.7	-	2.7	57.4	18.2	2.7	3.4	5.4	6.1	2.7	0.7	2.7	0.7	
		60歳代	122	76.2	8.2	4.9	0.8	1.6	0.8	1.6	0.8	1.6	3.3	76.2	5.7	1.6	1.6	2.5	1.6	2.5	0.8	3.3	4.1
	70歳以上	211	65.4	14.2	0.5	0.9	0.5	2.4	1.4	0.9	1.9	11.8	63.0	13.3	-	1.9	0.5	1.9	0.9	0.9	2.8	14.7	
	男性	29歳以下	39	87.2	12.8	-	-	-	-	-	-	-	87.2	10.3	-	2.6	-	-	-	-	-	-	-
		30歳代	47	91.5	2.1	2.1	-	2.1	-	-	-	2.1	89.4	2.1	-	4.3	-	-	-	-	-	2.1	2.1
		40歳代	73	79.5	12.3	4.1	1.4	2.7	-	-	-	-	78.1	12.3	2.7	1.4	2.7	-	1.4	-	-	1.4	1.4
		50歳代	85	80.0	12.9	1.2	2.4	-	1.2	-	-	-	78.8	7.1	2.4	3.5	2.4	3.5	-	-	-	-	2.4
60歳代		99	63.6	22.2	2.0	1.0	2.0	5.1	1.0	-	-	3.0	63.6	17.2	3.0	3.0	3.0	5.1	1.0	-	1.0	3.0	
70歳以上	131	67.9	13.7	2.3	1.5	-	0.8	2.3	0.8	1.5	9.2	64.1	13.7	1.5	0.8	0.8	0.8	2.3	-	1.5	14.5		

#### (5) 地域活動(自治会やPTAなど)

全体は、平日・休日とも「なし（0分）」が最も多い。

性別で見ると、男女とも平日・休日にかかわらず「なし（0分）」の割合が最も高く、次いで「30分未満」となっている。地域活動を行っている人の割合は、平日・休日とも女性より男性のほうがやや高くなっている。

(単位：%)	n	①平日（仕事や学校がある日）										②休日（仕事や学校がない日）										
		な し (0分)	3 0 分 未 満	3 0 分 〜 1 時 間 未 満	1 時 間 〜 2 時 間 未 満	2 時 間 〜 3 時 間 未 満	3 時 間 〜 4 時 間 未 満	4 時 間 〜 5 時 間 未 満	5 時 間 以 上	無 回 答	な し (0分)	3 0 分 未 満	3 0 分 〜 1 時 間 未 満	1 時 間 〜 2 時 間 未 満	2 時 間 〜 3 時 間 未 満	3 時 間 〜 4 時 間 未 満	4 時 間 〜 5 時 間 未 満	5 時 間 以 上	無 回 答			
全体	1,365	86.1	2.9	2.6	1.8	0.7	0.1	-	0.1	5.7	82.6	4.0	2.3	2.6	0.7	0.5	0.2	0.2	-	7.0		
性別	女性	723	86.4	3.2	2.5	1.9	0.7	-	-	5.3	84.9	4.0	2.2	2.1	0.8	0.6	-	-	-	5.4		
	男性	477	89.1	2.9	2.5	2.1	0.6	0.4	-	0.2	2.1	84.9	4.2	2.1	3.1	0.6	0.6	0.4	0.6	3.4		
性・年代別	女性	29歳以下	67	98.5	-	-	-	-	-	-	1.5	98.5	-	-	-	-	-	-	-	-	1.5	
		30歳代	70	94.3	4.3	1.4	-	-	-	-	-	94.3	4.3	1.4	-	-	-	-	-	-	-	
		40歳代	101	87.1	3.0	3.0	5.0	-	-	-	-	2.0	82.2	5.9	3.0	5.0	2.0	1.0	-	-	1.0	
		50歳代	148	93.2	4.1	0.7	0.7	-	-	-	-	0.7	91.2	3.4	1.4	2.7	-	0.7	-	-	-	0.7
		60歳代	122	87.7	0.8	4.1	3.3	1.6	-	-	-	2.5	84.4	4.1	4.1	2.5	0.8	-	-	-	-	4.1
	70歳以上	211	73.9	4.7	3.8	1.9	0.9	-	-	-	14.7	74.4	4.7	2.4	1.4	1.4	0.9	-	-	-	14.7	
	男性	29歳以下	39	97.4	2.6	-	-	-	-	-	-	-	97.4	-	-	2.6	-	-	-	-	-	-
		30歳代	47	95.7	2.1	2.1	-	-	-	-	-	-	95.7	2.1	2.1	-	-	-	-	-	-	-
		40歳代	73	95.9	1.4	-	2.7	-	-	-	-	-	91.8	1.4	1.4	1.4	-	1.4	1.4	-	-	1.4
		50歳代	85	92.9	4.7	-	1.2	1.2	-	-	-	-	81.2	7.1	3.5	3.5	-	-	1.2	2.4	1.2	1.2
60歳代		99	91.9	3.0	1.0	2.0	-	-	-	-	2.0	91.9	3.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	2.0	
70歳以上	131	75.6	3.1	7.6	3.8	1.5	1.5	-	0.8	6.1	71.0	6.1	3.1	6.9	2.3	0.8	-	0.8	-	0.8	9.2	

## (6) 男性が家事、子育て等に積極的に参加していくために必要なこと

問18 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

全体は、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」(56.6%)が最も多く、次いで「小さいときから男女ともに、家事や育児に関わるしつけ・教育をすること」(49.9%)となっている。

性別で見ると、男女とも「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」の割合が最も高く、男性より女性のほうが8.9ポイント高くなっている。女性は「小さいときから男女ともに、家事や育児に関わるしつけ・教育をすること」「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が男性に比べて10ポイント以上高い。

前回調査との比較で見ると、全体は「小さいときから男女ともに、家事や育児に関わるしつけ・教育をすること」は前回より10.2ポイント高くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査(令和2年)		
	全体 (n=1,365)	女性 (n=723)	男性 (n=477)	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	46.2	51.2	43.0	45.7	48.4	42.5
家事、子育て、介護、地域活動の社会的な評価を高めること	34.0	34.0	36.7	31.9	34.3	29.5
夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	56.6	62.1	53.2	52.8	58.3	45.9
労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	38.8	38.6	44.2	32.4	32.7	34.2
男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	39.3	44.4	35.6	36.9	40.9	32.3
小さいときから男女ともに、家事や育児に関わるしつけ・教育をすること	49.9	58.9	42.1	39.7	45.7	31.5
男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	49.6	57.7	45.5	43.5	48.1	39.0
その他	1.7	1.7	1.7	2.6	1.6	3.8
特に必要ない	5.4	2.6	8.0	4.9	3.8	6.3
無回答	3.2	2.1	0.8	3.4	2.8	2.8

## 7 様々な暴力について

### (1) ハラスメントを受けた経験

問19 あなたは、最近3年の間に、職場・学校・地域などの身近なところで、セクシュアル・ハラスメントや職場における妊娠・出産に関するハラスメント、育児休業等に関するハラスメントを受けたことがありますか。

(IとJに関しては、あなた自身及びパートナーについてお答えください。)

全体は、「職場で受けた」の割合は『(G)じろじろ見られたり、容姿や年齢のことを話題にされた』(5.6%)が最も高くなっている。

女性がハラスメントを受けた場所は、いずれの項目も「職場で受けた」の割合が最も高い。

前回調査との比較で見ると、全体は「職場で受けた」の割合は『(E)宴席で、お酌を強要された』で前回より2.1ポイント高くなっている。

#### 【回答者本人】

(単位：MA%)		今回調査					前回調査(令和2年)						
		n	職場で受けた	学校で受けた	地域で受けた	受けたことはない	無回答	n	職場で受けた	学校で受けた	地域で受けた	受けたことはない	無回答
(A)地位や権限を利用して、性的な関係を迫られた	全体	1,365	1.9	0.4	0.1	84.9	13.0	1,630	0.9	-	0.2	86.3	12.6
	女性	723	2.4	0.4	0.1	86.6	10.9	928	1.6	-	0.3	87.4	10.8
	男性	477	1.0	0.2	-	90.4	8.6	603	-	-	0.2	88.6	11.3
(B)食事やデートにしつこく誘われた	全体	1,365	2.3	0.4	0.4	83.7	13.5	1,630	1.9	0.3	0.7	84.1	13.0
	女性	723	3.9	0.6	0.3	84.0	11.5	928	2.9	0.4	1.2	84.3	11.3
	男性	477	0.2	0.2	0.4	90.6	8.8	603	0.5	0.2	0.2	87.6	11.6
(C)さわる、抱きつくなど肉体的接触を受けた	全体	1,365	3.1	0.2	1.0	82.5	13.3	1,630	2.8	0.2	1.0	82.8	13.3
	女性	723	4.6	0.3	1.5	82.3	11.3	928	4.6	0.3	1.7	82.0	11.5
	男性	477	0.6	0.2	-	90.4	9.0	603	0.2	0.2	0.2	87.7	11.8
(D)性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけられたり、性的な噂をたてられたりした	全体	1,365	4.2	0.7	0.6	81.5	13.5	1,630	4.4	0.6	0.8	81.7	12.9
	女性	723	5.9	0.8	0.7	81.5	11.6	928	6.7	0.8	1.3	80.4	11.3
	男性	477	2.3	0.8	0.4	88.3	8.8	603	1.2	0.3	-	87.4	11.3
(E)宴席で、お酌を強要された	全体	1,365	5.3	0.2	1.0	80.1	13.6	1,630	3.2	0.1	0.4	83.1	13.3
	女性	723	6.6	0.1	1.2	80.9	11.3	928	4.8	0.2	0.6	82.7	11.7
	男性	477	4.4	0.4	0.4	85.7	9.4	603	0.8	-	0.2	87.1	11.9
(F)異性との交際や結婚予定、出産予定などプライベートなことについてたびたび聞かれた	全体	1,365	5.0	0.3	1.3	80.0	13.7	1,630	4.1	0.4	0.6	82.1	13.3
	女性	723	5.1	0.4	1.7	81.6	11.5	928	4.8	0.2	0.6	82.7	11.7
	男性	477	5.0	0.2	1.0	84.7	9.4	603	0.8	-	0.2	87.1	11.9
(G)じろじろ見られたり、容姿や年齢のことを話題にされた	全体	1,365	5.6	1.0	1.5	78.6	13.9	1,630	4.5	0.6	1.8	80.1	13.4
	女性	723	7.1	1.5	1.9	78.6	11.6	928	7.3	0.8	2.6	78.3	11.7
	男性	477	3.8	0.4	0.6	86.2	9.6	603	1.0	0.5	0.7	85.9	12.1
(H)「男のくせに」「女のくせに」などの性差別的な言葉をかけられた	全体	1,365	4.1	1.2	1.8	79.8	13.8	1,630	3.6	0.7	1.2	81.9	13.1
	女性	723	4.4	1.5	2.6	80.8	11.8	928	4.5	0.4	1.5	81.7	12.1
	男性	477	4.0	1.0	0.6	85.3	9.2	603	2.5	1.3	0.5	85.4	11.1
(I)妊娠・出産・育児休業の取得などをきっかけに、精神的・肉体的な嫌がらせを受けた	全体	1,365	1.5	-	-	80.7	17.9	1,630	0.6	-	0.1	83.1	16.1
	女性	723	1.5	-	-	83.5	14.9	928	1.1	-	0.2	85.9	12.8
	男性	477	0.8	-	-	84.5	14.7	603	-	-	-	82.8	17.2
(J)妊娠・出産・育児休業の取得などを理由に、解雇や雇い止め、自主退職の強要を受けた	全体	1,365	1.1	-	-	80.8	18.1	1,630	0.7	-	-	83.1	16.3
	女性	723	1.4	-	-	83.7	14.9	928	1.1	-	-	85.8	13.1
	男性	477	0.2	-	-	84.5	15.3	603	0.2	-	-	82.8	17.1

#### 【パートナー】

(単位：MA%)		今回調査				
		n	職場で受けた	受けたことはない	わからない・パートナーはいない	無回答
(I)妊娠・出産・育児休業の取得などをきっかけに、精神的・肉体的な嫌がらせを受けた	全体	1,365	1.3	25.5	16.5	56.7
	女性	723	0.7	25.0	15.1	59.2
	男性	477	2.5	30.6	21.8	45.1
(J)妊娠・出産・育児休業の取得などを理由に、解雇や雇い止め、自主退職の強要を受けた	全体	1,365	0.5	27.0	15.8	56.8
	女性	723	0.1	25.9	14.7	59.3
	男性	477	0.8	33.5	20.5	45.1

## (2) ハラスメント被害に関する相談相手

問19-1は、問19で一つでも「1」～「3」（ハラスメントを受けたことがある）と回答した方にお聞きします。

問19-1 あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

全体は、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（52.2%）が最も多く、次いで「友人や知人」（26.7%）となっている。

性別で見ると、男女とも「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が最も高く、男性の割合が女性に比べて31.5ポイント高い。女性で「家族や親戚」「友人や知人」の割合が男性に比べて10ポイント以上高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体は「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が前回より高くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査（令和2年）		
	全体 (n=232)	女性 (n=144)	男性 (n=63)	全体 (n=218)	女性 (n=171)	男性 (n=39)
堺市各区役所「女性相談」	0.4	-	1.6	0.9	0.6	-
堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」	-	-	-	-	-	-
堺市立男女共同参画センター相談	0.4	0.7	-	-	-	-
大阪府女性相談センター	-	-	-	0.5	0.6	-
労働局の雇用環境・均等部（室）	0.4	-	1.6	0.5	0.6	-
警察	1.7	1.4	3.2	0.9	1.2	-
民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラーなど）	0.4	-	1.6	-	-	-
医療関係者（医師、看護師など）	1.7	1.4	3.2	0.5	0.6	-
学校関係者（相談窓口、教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）	0.4	0.7	-	0.5	-	2.6
職場の相談窓口	5.2	6.3	3.2	2.8	3.5	-
家族や親戚	16.4	20.1	9.5	17.0	19.9	7.7
友人や知人	26.7	34.7	9.5	33.0	37.4	12.8
その他	3.0	3.5	-	4.1	4.7	2.6
どこ（だれ）にも相談しなかった	52.2	43.1	74.6	46.8	41.5	76.9
無回答	6.0	6.9	3.2	5.5	5.3	-

### (3) ハラスメント被害について相談しなかった理由

問19-2は、問19-1で「14. どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。  
 問19-2 あなたが、どこ(だれ)にも相談しなかったのはなぜですか。  
 (あてはまるものすべてに○)

全体は、「相談するほどのことではないと思った」(56.2%)が最も多くなっている。  
 性別で見ると、男女とも「相談するほどのことではないと思った」の割合が最も高くなっている。女性は「恥ずかしくてだれにも言えなかった」の割合が男性に比べて5.4ポイント高く、男性は「相談してもむだだと思った」の割合が女性に比べて8.1ポイント高い。  
 前回調査との比較で見ると、全体は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといった」の割合が前回より6.4ポイント低くなっている。

(単位: MA%)	今回調査			前回調査(令和2年)		
	全体 (n=121)	女性 (n=62)	男性 (n=47)	全体 (n=102)	女性 (n=71)	男性 (n=30)
どこ/だれに相談してよいのかわからなかった	13.2	14.5	14.9	9.8	9.9	6.7
恥ずかしくてだれにも言えなかった	7.4	9.7	4.3	8.8	7.0	13.3
相談してもむだだと思った	35.5	32.3	40.4	39.2	45.1	26.7
相談したことがわかると、もっとひどい暴力・嫌がらせを受けるといった	9.1	8.1	10.6	5.9	4.2	6.7
加害者に「だれにも言うな」と脅された	0.8	-	-	2.0	2.8	-
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った	3.3	1.6	4.3			
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといった	13.2	14.5	12.8	19.6	18.3	23.3
世間体が悪い	1.7	-	2.1			
他の人を巻き込みたくなかった	7.4	8.1	8.5	5.9	7.0	3.3
周囲の人と、これまでのようなつき合いができなくなるといった	4.1	4.8	4.3	4.9	4.2	6.7
そのことについて思い出したくなかった	5.0	3.2	8.5	4.9	7.0	-
自分にも悪いところがあると思った	4.1	4.8	4.3	4.9	4.2	6.7
相手の行為は愛情の表現だと思った	3.3	3.2	4.3	2.9	2.8	3.3
相談するほどのことではないと思った	56.2	54.8	59.6	57.8	54.9	66.7
その他	5.8	4.8	6.4	4.9	5.6	3.3
無回答	0.8	-	2.1	-	-	-

※「相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った」と「世間体が悪い」は今回調査の新規項目。

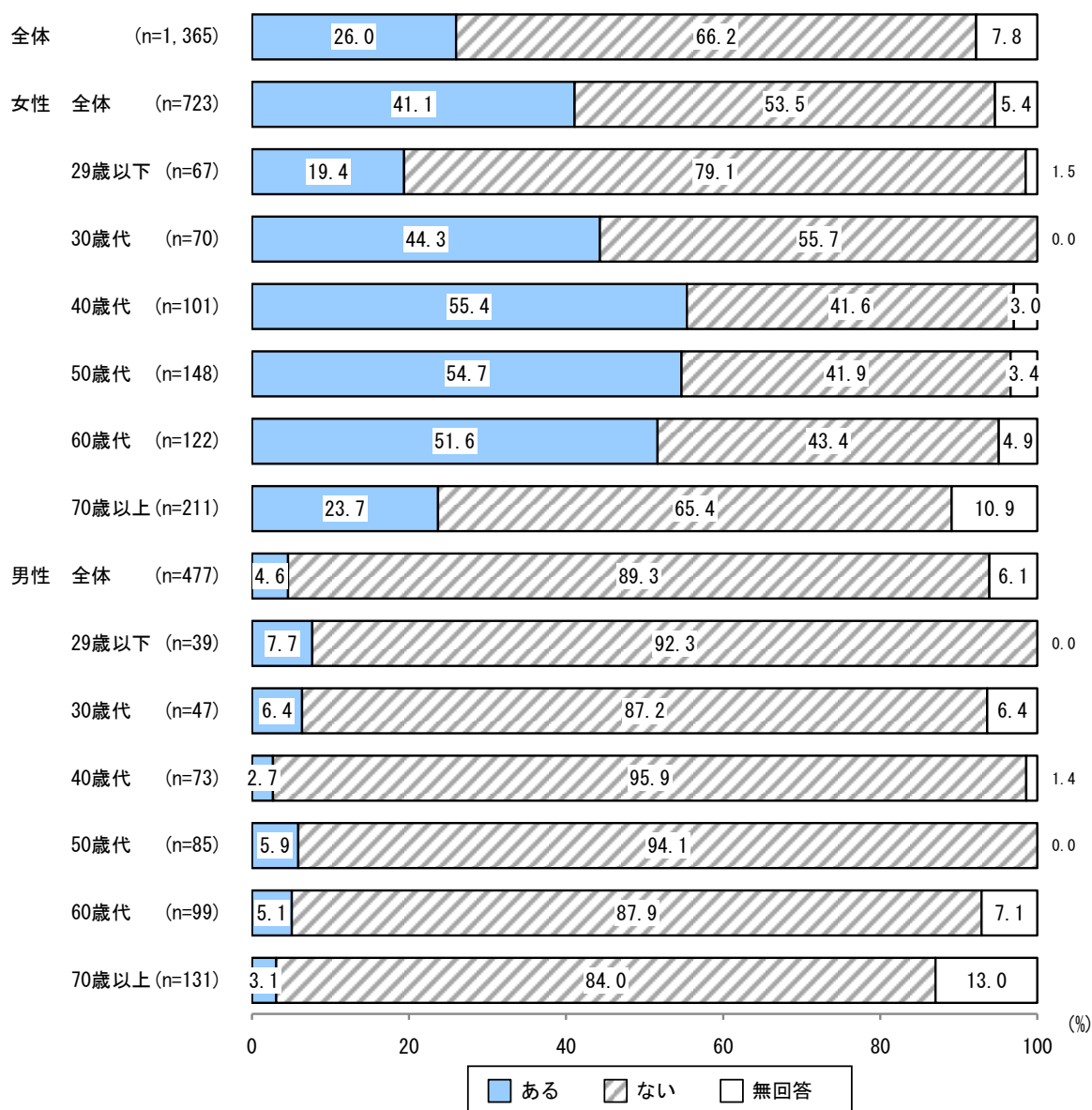
#### (4) 性暴力被害経験

問20 あなたはこれまで（こどものころを含めて）に、望まないのに性的な行為（※痴漢を含みます）をされたことがありますか。（○は一つ）

全体は、「ある」が26.0%、「ない」が66.2%となっている。

性別でみると、「ある」の割合は男性より女性のほうが36.5ポイント高い。

性・年代別でみると、女性の「ある」の割合がすべての年代で男性に比べて高く、30歳代～60歳代で男女差が大きい。



## (5) 性暴力被害の内容

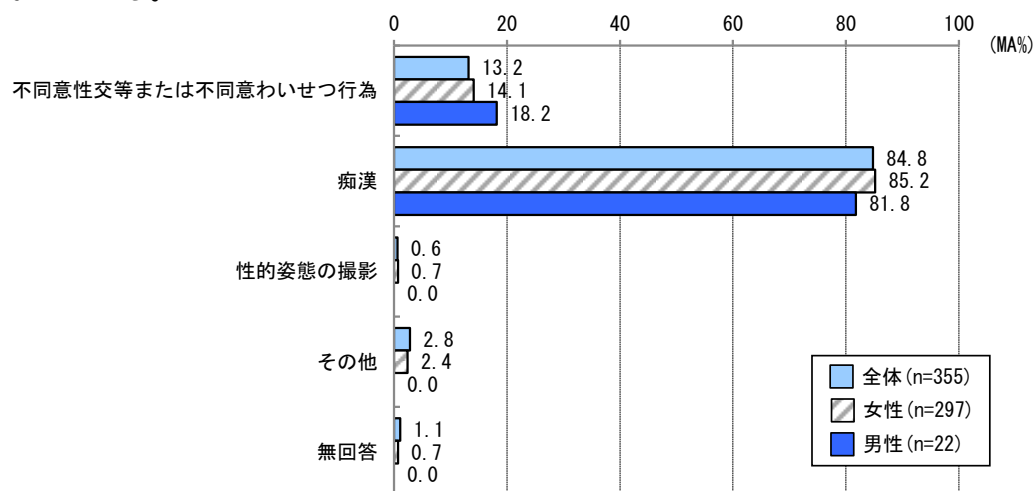
問20-1～4は、問20で「1.ある」と回答した方にお聞きします。

問20-1 あなたは、どのような被害にありましたか。(〇は一つ)

複数被害にあわれた方は、直近のことについてお答えください。

全体は、「痴漢」(84.8%)が最も多く、次いで「不同意性交等または不同意わいせつ行為」(13.2%)となっている。

性別で見ると、男女とも「痴漢」の割合が最も高く、男性より女性のほうが3.4ポイント高い。男性の「不同意性交等または不同意わいせつ行為」の割合は女性より4.1ポイント高くなっている。

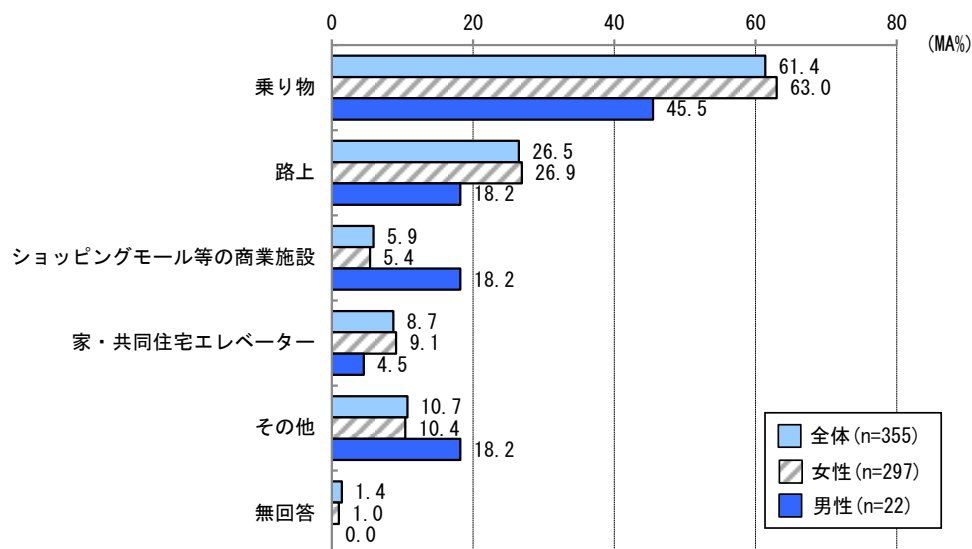


※設問文では「〇は一つ」としているものの、複数選択した回答者が多かったため、複数回答設問として集計している。

## (6) 性暴力被害にあった場所

問20-2 あなたは、どこで被害にありましたか。(〇は一つ)

全体は、「乗り物」(61.4%)が最も多く、次いで「路上」(26.5%)となっている。性別で見ると、男女とも「乗り物」の割合が最も高く、男性より女性のほうが17.5ポイント高い。男性の「ショッピングモール等の商業施設」の割合は女性より12.8ポイント高くなっている。



※設問文では「〇は一つ」としているものの、複数選択した回答者が多かったため、複数回答設問として集計している。

全体で最も被害が多い痴漢は「乗り物」(69.8%)が最も多く、次いで「路上」(29.9%)となっている。不同意性交等または不同意わいせつ行為は「家・共同住宅エレベーター」(42.6%)が最も多い。

(単位: MA%)	n	乗り物	路上	ショッピングモール等の商業施設	家・共同住宅エレベーター	その他	無回答
全体	355	61.4	26.5	5.9	8.7	10.7	1.4
不同意性交等または不同意わいせつ行為	47	25.5	17.0	4.3	42.6	29.8	2.1
痴漢	301	69.8	29.9	6.0	3.3	7.6	-
性的姿態の撮影	2	50.0	50.0	-	50.0	100.0	-
その他	10	20.0	10.0	10.0	30.0	40.0	-

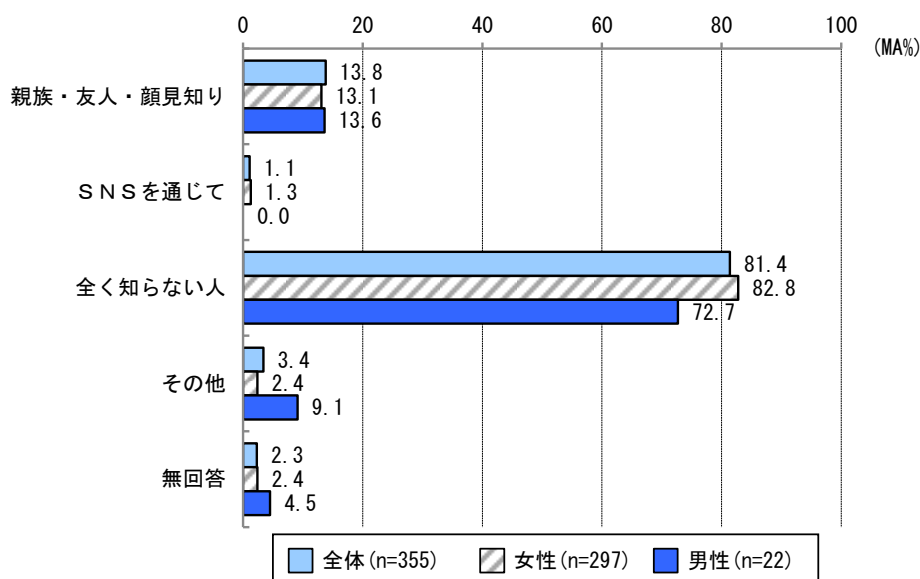
※被害の内容、被害にあった場所とも複数回答

## (7) 加害者と知り合ったきっかけ

問20-3 あなたは、性的な行為を行った者とはどのように知り合いましたか。  
(○は一つ)

全体は、「全く知らない人」(81.4%)で最も多く、次いで「親族・友人・顔見知り」(13.8%)となっている。

性別で見ると、男女とも「全く知らない人」の割合が最も高く、男性より女性のほうが10.1ポイント高くなっている。



※設問文では「○は一つ」としているものの、複数選択した回答者が多かったため、複数回答設問として集計している。

全体で最も被害が多い痴漢は「全く知らない人」(92.0%)が最も多い。不同意性交等または不同意わいせつ行為は「親族・友人・顔見知り」(61.7%)が最も多い。

(単位: MA%)	n	親族・友人・顔見知り	SNSを通じて	全く知らない人	その他	無回答
全体	355	13.8	1.1	81.4	3.4	2.3
不同意性交等または不同意わいせつ行為	47	61.7	6.4	27.7	10.6	2.1
痴漢	301	6.6	0.3	92.0	1.7	1.7
性的姿態の撮影	2	50.0	-	50.0	-	-
その他	10	30.0	-	40.0	30.0	-

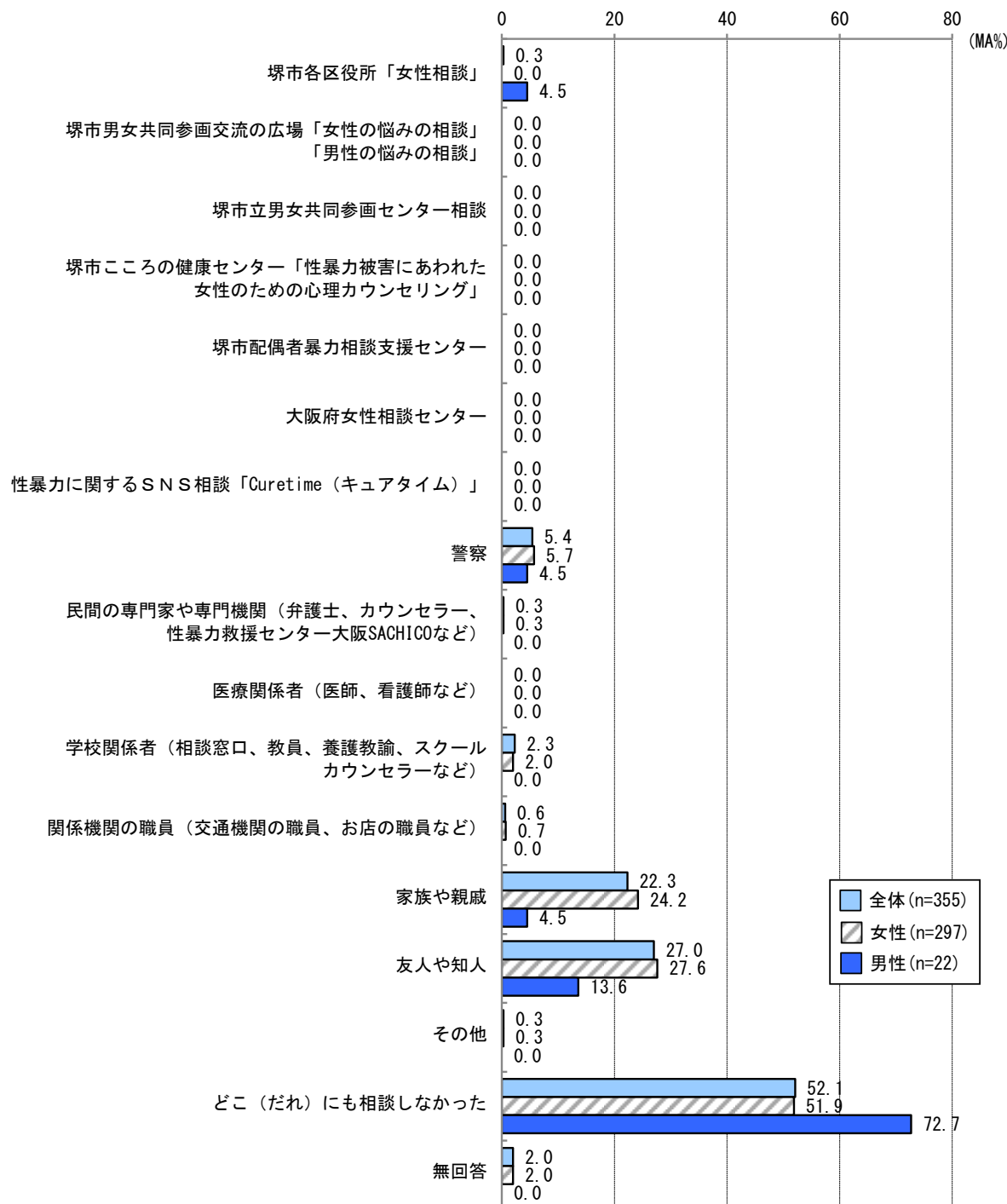
※被害の内容、加害者と知り合ったきっかけとも複数回答

## (8) 性暴力についての相談相手

問20-4 あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

全体は、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(52.1%)が最も多く、次いで「友人や知人」(27.0%)、「家族や親戚」(22.3%)となっている。

性別で見ると、男女とも「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が最も高く、女性より男性のほうが20.8ポイント高い。女性の「家族や親戚」「友人や知人」の割合は男性より10ポイント以上高くなっている。

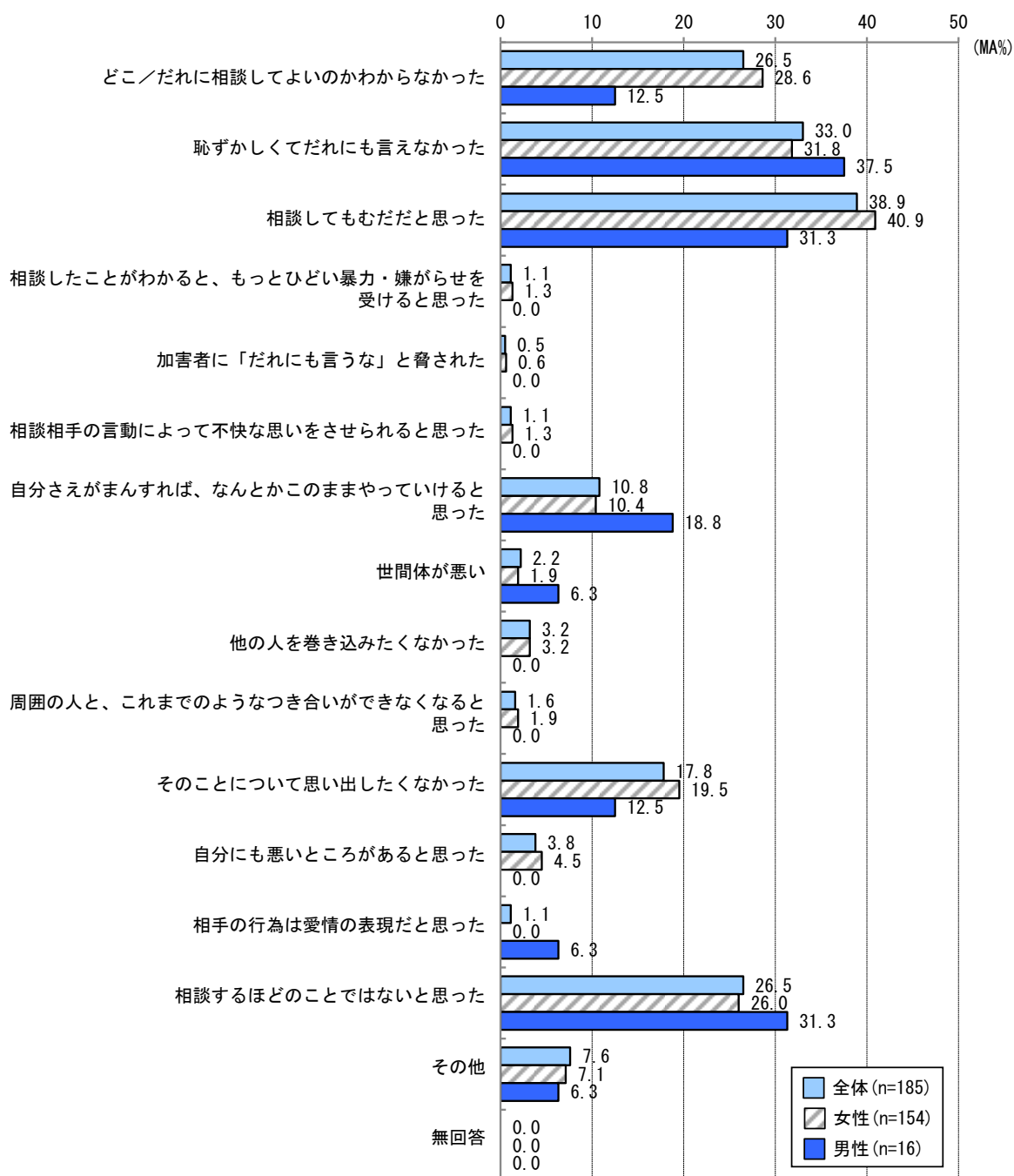


## (9) 相談しなかった理由

問20-5は、問20-4で「16. どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。  
 問20-5 あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。  
 （あてはまるものすべてに○）

全体は、「相談してもむだだと思った」（38.9%）が最も多く、次いで「恥ずかしくてだれにも言えなかった」（33.0%）となっている。

性別で見ると、女性は「相談してもむだだと思った」の割合が40.9%で最も高く、次いで「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が31.8%となっている。



## 8 配偶者や交際相手等からの暴力について

### (1) 「DV防止法」及び「デートDV」の認知度

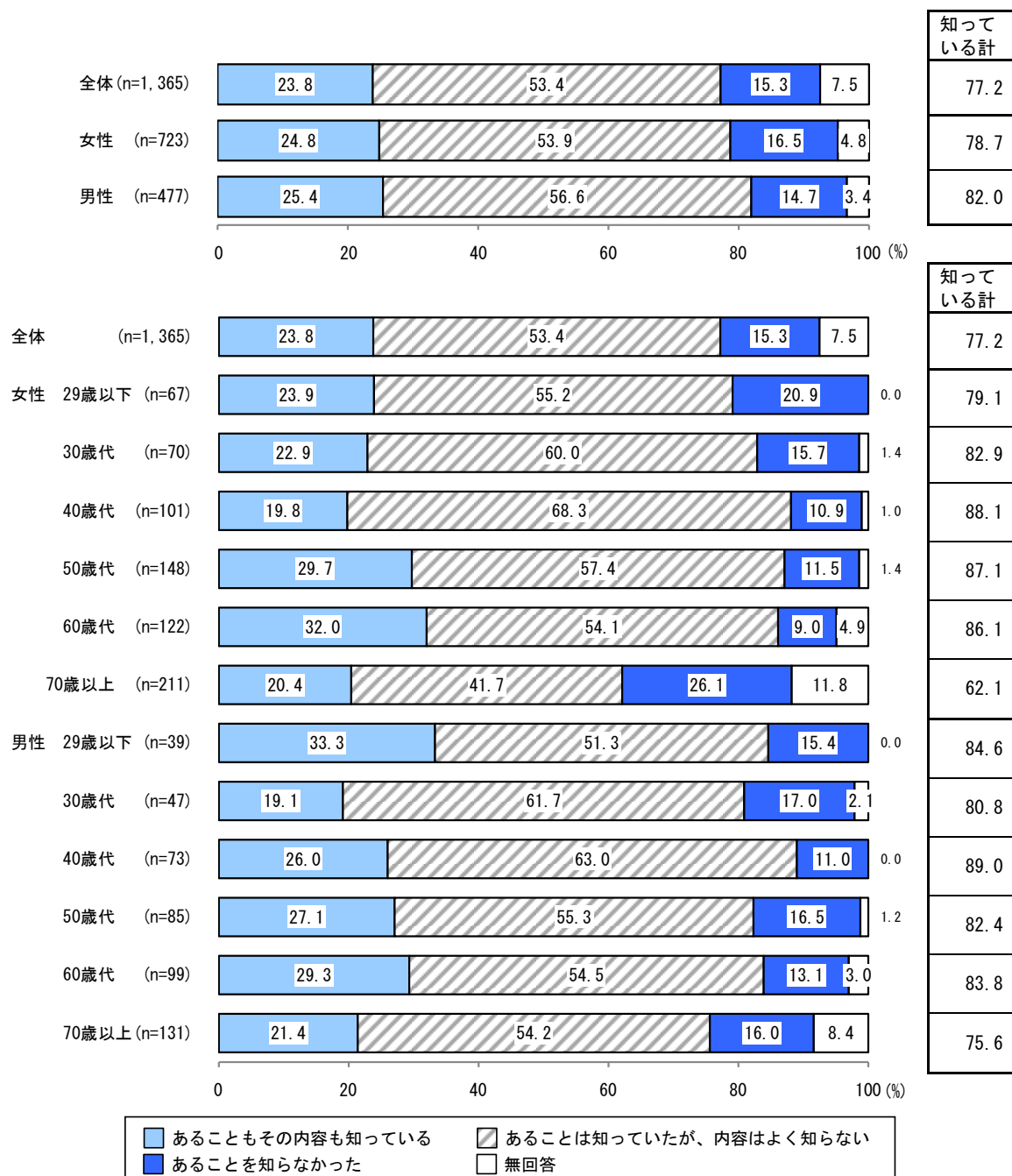
問21 あなたは、①「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」やその内容を知っていますか。また、②結婚していない交際中のパートナー間でおこる暴力を、特に、「デートDV」といいますが、あなたはこの「デートDV」という言葉やその内容を知っていますか。（それぞれ○は一つ）

#### ①「DV防止法」の認知度

全体は、“知っている計”の割合は77.2%となっている。

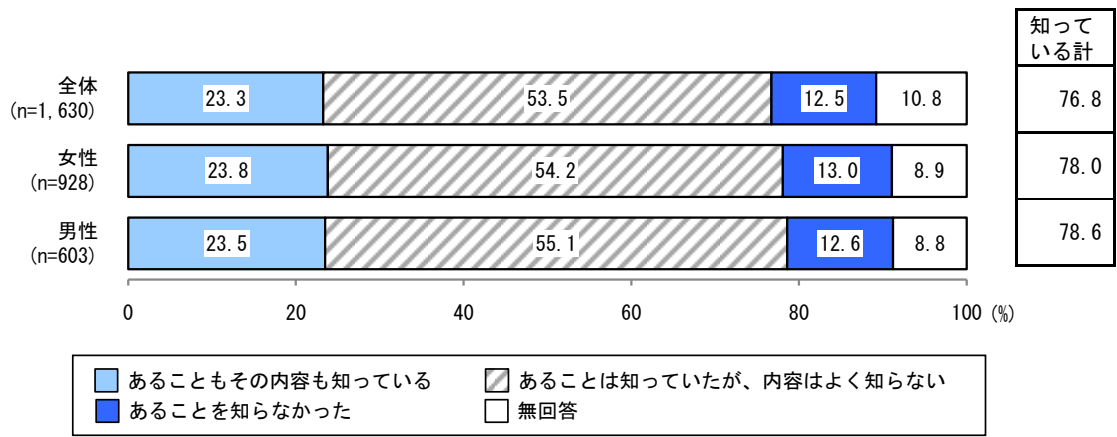
性・年代別で見ると、“知っている計”の割合は男女とも70歳以上で最も低い。

前回調査との比較で見ても大きな差はみられない。



※知っている計：「あることもその内容も知っている」「あることは知っていたが、内容はよく知らない」を合わせた値

【前回調査（令和2年）】

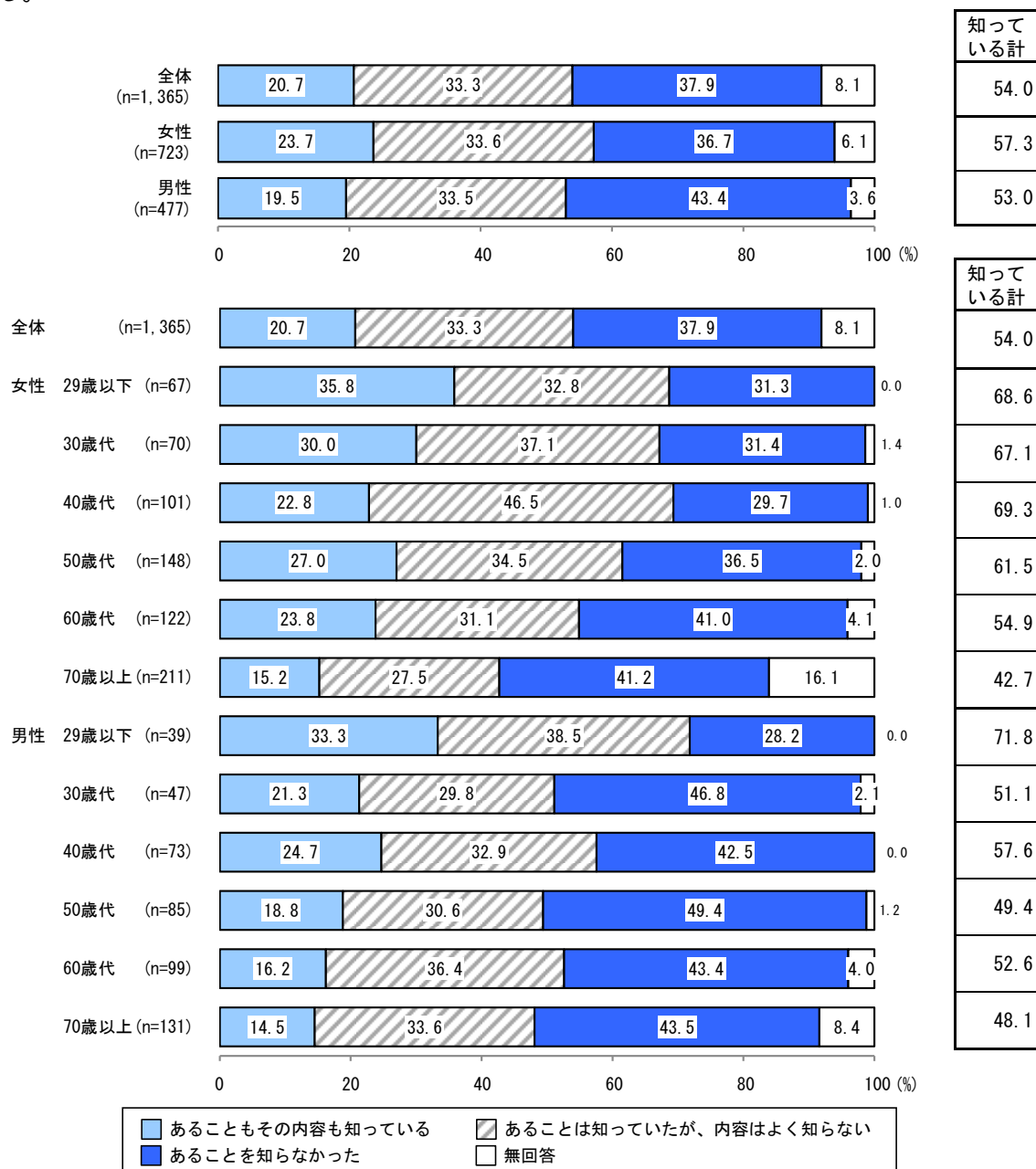


## ②「デートDV」の認知度

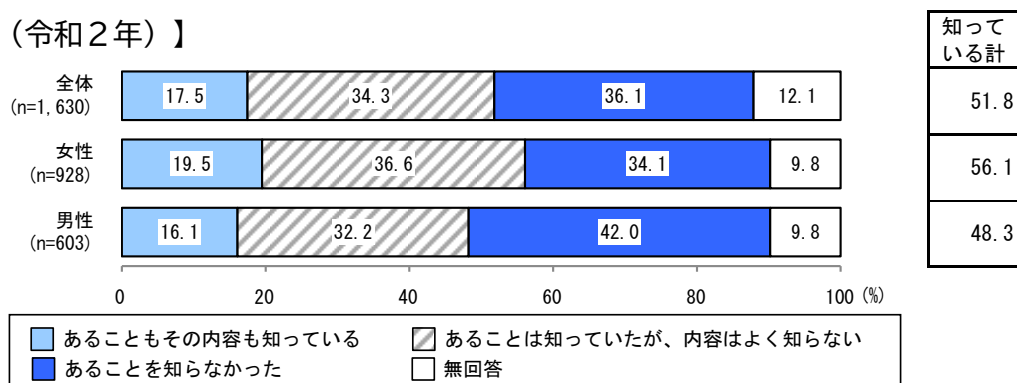
全体は、“知っている計”の割合は54.0%となっている。

性・年代別で見ると、“知っている計”の割合は年代の低い層で高くなっている。男性の「あることを知らなかった」の割合は30歳代から50歳代で女性と比べて高い。

前回調査との比較で見ると、“知っている計”の割合は前回より2.2ポイント高くなっている。



### 【前回調査 (令和2年)】

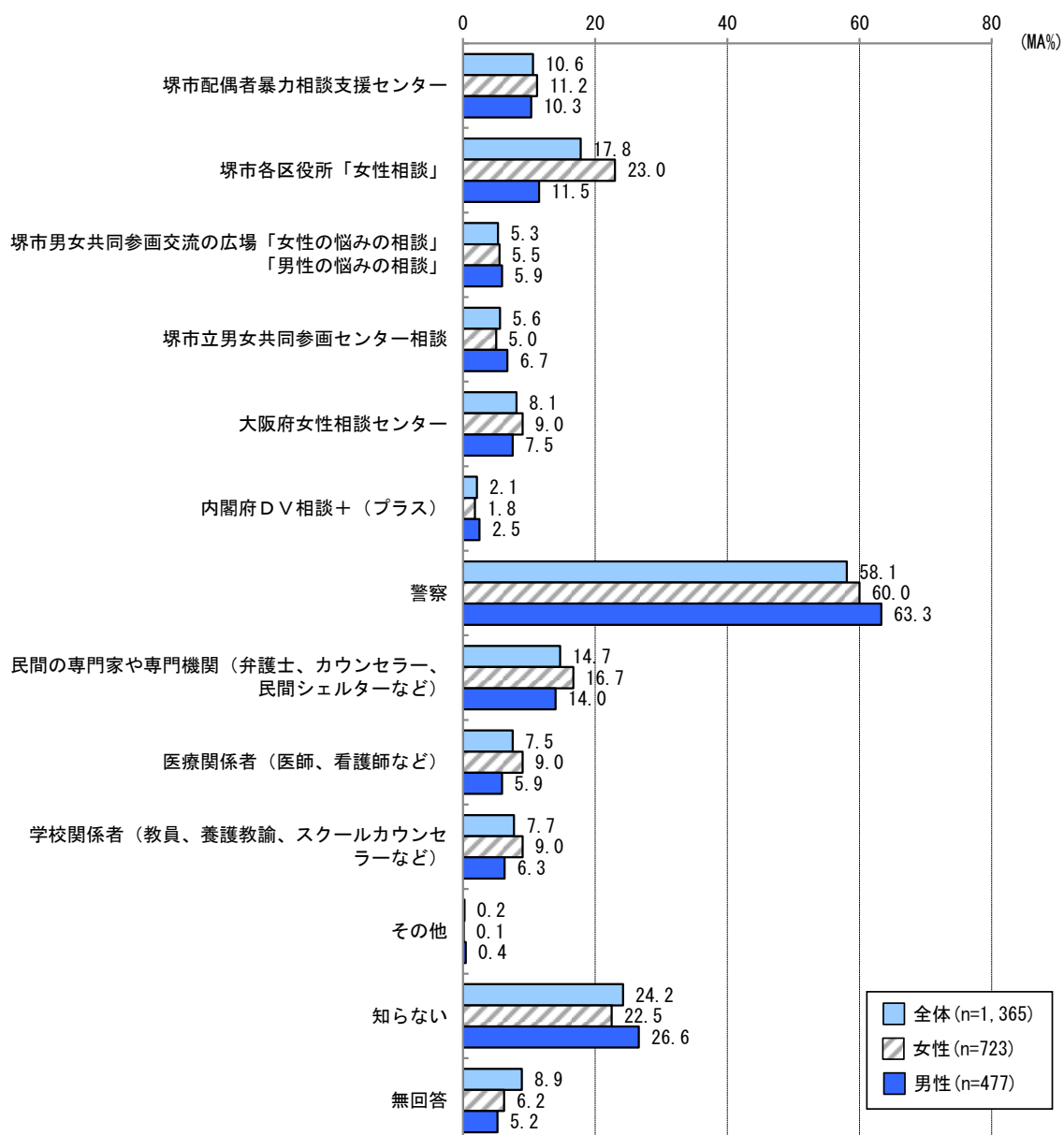


## (2) DVに関する相談窓口で知っているもの

問22 あなたは、配偶者や交際相手からの暴力についてどのような相談窓口を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)  
 なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の配偶者も含まれます。

全体は、「警察」(58.1%)が最も多く、次いで「堺市各区役所「女性相談」」(17.8%)となっている。

性別で見ると、男女とも「警察」の割合が最も高い。女性の「堺市各区役所「女性相談」」の割合は男性より11.5ポイント高くなっている。

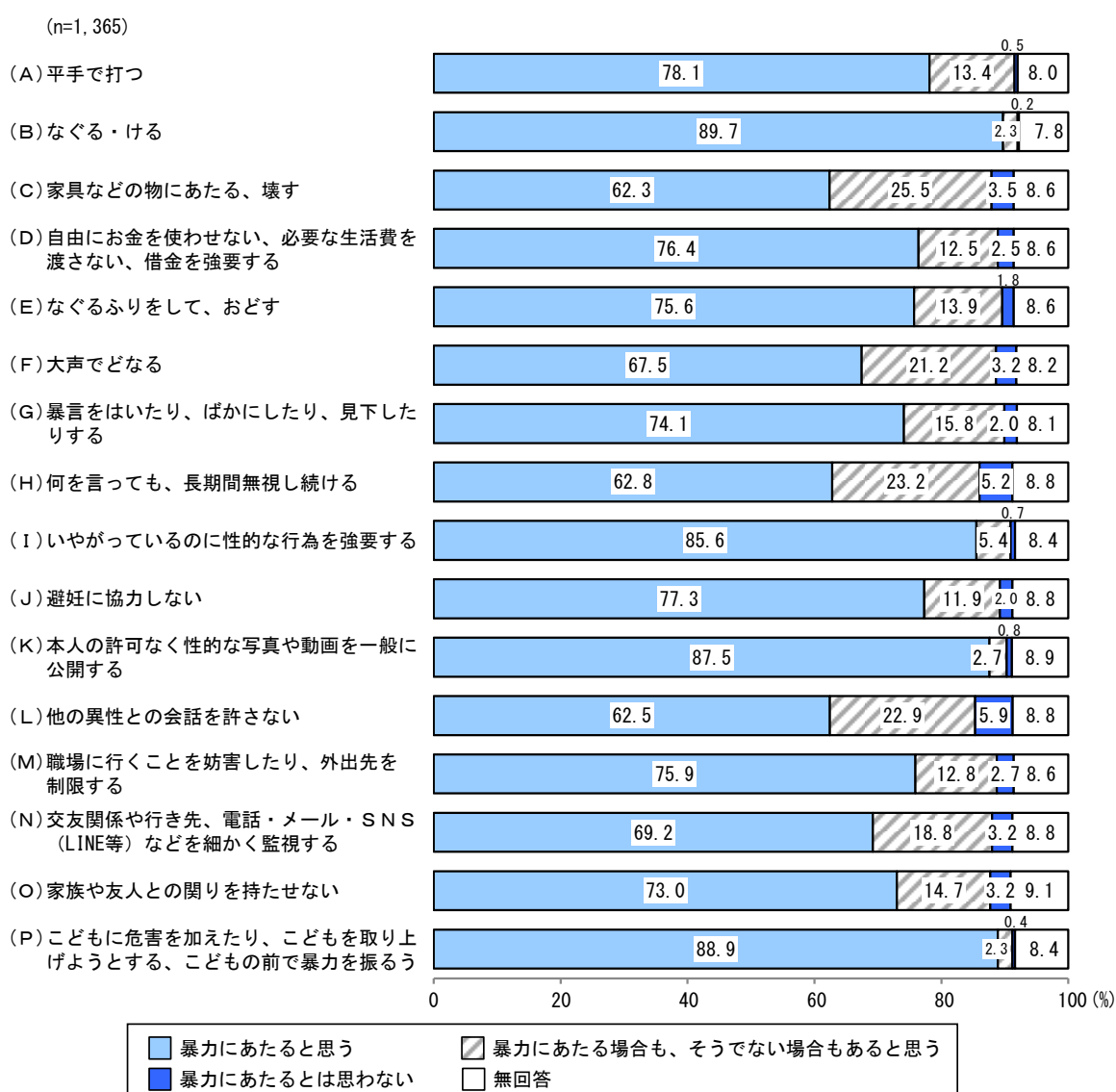


### (3) 暴力と認識される行為

問23 あなたは、配偶者や交際相手から次のようなことが相手に対して行われた場合、それを暴力だと思いますか。なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の配偶者も含まれます。（それぞれ○は一つ）

全体は、「暴力にあたると思う」の割合は『(B) ながる・ける』(89.7%)が最も高く、次いで『(P) こどもに危害を加えたり、こどもを取り上げようとする、こどもの前で暴力を振るう』(88.9%)となっている。

性別で見ると、女性の「暴力にあたると思う」の割合は『(C) 家具などの物にあたる、壊す』『(D) 自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する』『(F) 大声でどなる』で男性に比べて10ポイント以上高くなっている。



【性別】

(単位：%)	女性 (n=723)				男性 (n=477)			
	暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答	暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
(A) 平手で打つ	82.4	11.5	0.4	5.7	79.2	17.0	0.6	3.1
(B) なぐる・ける	92.8	2.1	-	5.1	93.9	2.5	0.2	3.4
(C) 家具などの物にあたる、壊す	69.2	22.5	2.2	6.1	57.9	32.9	5.0	4.2
(D) 自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する	84.0	8.6	1.2	6.2	71.9	19.5	4.4	4.2
(E) なぐるふりをして、おどす	80.4	11.9	1.5	6.2	75.9	18.0	2.1	4.0
(F) 大声でどなる	73.9	17.8	2.6	5.7	63.3	28.7	4.2	3.8
(G) 暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする	80.1	12.7	1.7	5.5	71.9	22.0	2.3	3.8
(H) 何を言っても、長期間無視し続ける	67.8	21.2	4.8	6.2	61.4	28.1	5.7	4.8
(I) いやがっているのに性的な行為を強要する	88.9	4.7	0.6	5.8	88.5	7.5	0.2	3.8
(J) 避妊に協力しない	81.3	10.9	1.2	6.5	78.8	14.3	2.9	4.0
(K) 本人の許可なく性的な写真や動画を一般に公開する	90.9	1.7	0.6	6.9	91.0	4.0	1.0	4.0
(L) 他の異性との会話を許さない	66.9	22.3	4.3	6.5	60.8	27.5	7.8	4.0
(M) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	79.3	12.0	2.4	6.4	77.6	15.5	3.1	3.8
(N) 交友関係や行き先、電話・メール・SNS (LINE等)などを細かく監視する	72.6	18.1	3.0	6.2	69.4	22.6	3.8	4.2
(O) 家族や友人との関りを持たせない	77.2	13.1	2.9	6.8	73.0	19.5	3.4	4.2
(P) こどもに危害を加えたり、こどもを取り上げようとする、こどもの前で暴力を振るう	91.8	1.9	0.1	6.1	92.7	2.9	0.6	3.8

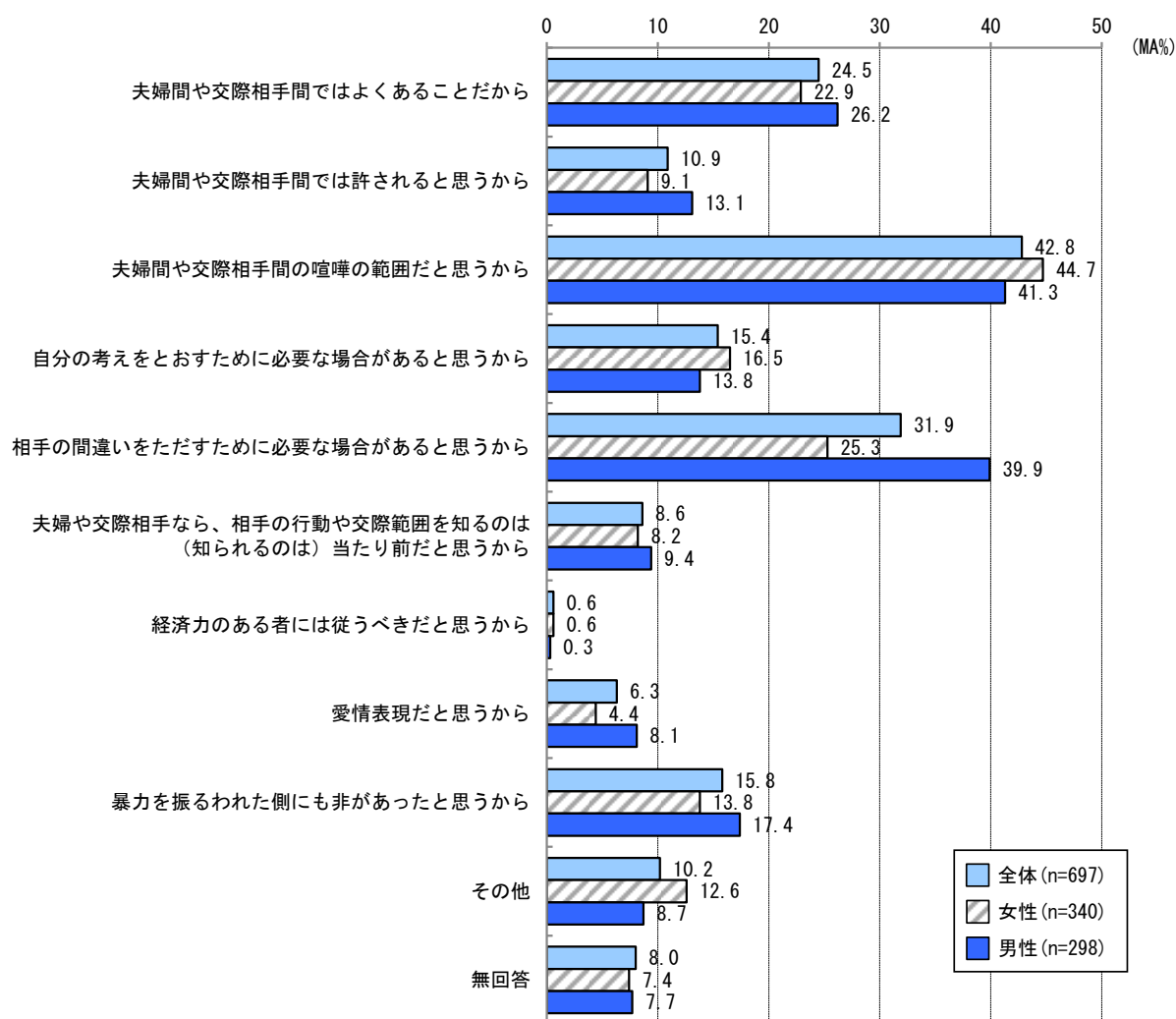
#### (4) 暴力にあたらない場合があると思う理由

問23-1は、問23で一つでも「2. 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「3. 暴力にあたるとは思わない」と回答した方にお聞きします。

問23-1 そのような行為が「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と思ったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

全体は、「夫婦間や交際相手間の喧嘩の範囲だと思うから」(42.8%)が最も多く、次いで「相手の間違いをただすために必要な場合があると思うから」(31.9%)となっている。

性別でみると、男性は「相手の間違いをただすために必要な場合があると思うから」の割合が女性に比べて14.6ポイント高い。

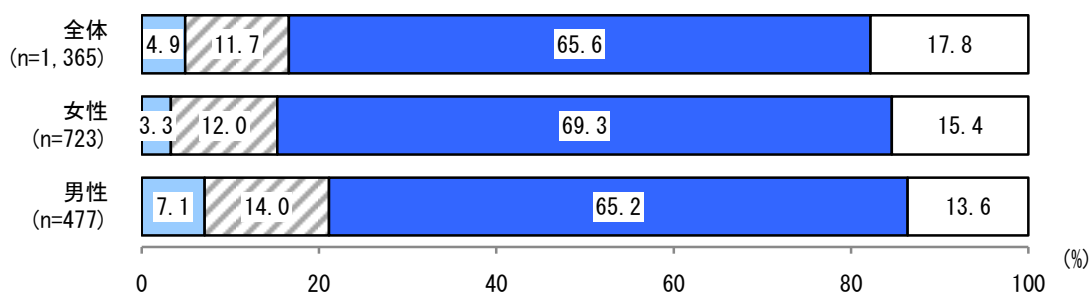


## (5) 結婚経験・交際経験の有無

問24 あなたは、結婚した経験、交際相手があった経験がありますか。なお、ここでの「結婚」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の配偶者も含まれます。  
(○は一つ)

全体は、「既婚（現在、夫または妻がいる）、または離別（結婚していたが、離婚した）、または死別（結婚していたが、死別した）」（65.6%）が最も多く、次いで「未婚（結婚したことはない）で、現在交際相手がいる、または過去に交際相手があった」（11.7%）となっている。

性別で見ると、女性の「既婚（現在、夫または妻がいる）、または離別（結婚していたが、離婚した）、または死別（結婚していたが、死別した）」の割合は男性に比べ4.1ポイント高くなっている。



- 未婚（結婚したことはない）で、現在も過去も交際相手があった経験はない
- 未婚（結婚したことはない）で、現在交際相手がいる、または過去に交際相手があった
- 既婚（現在、夫または妻がいる）、または離別（結婚していたが、離婚した）、または死別（結婚していたが、死別した）
- 無回答

## (6) 配偶者からの暴力の被害経験の有無

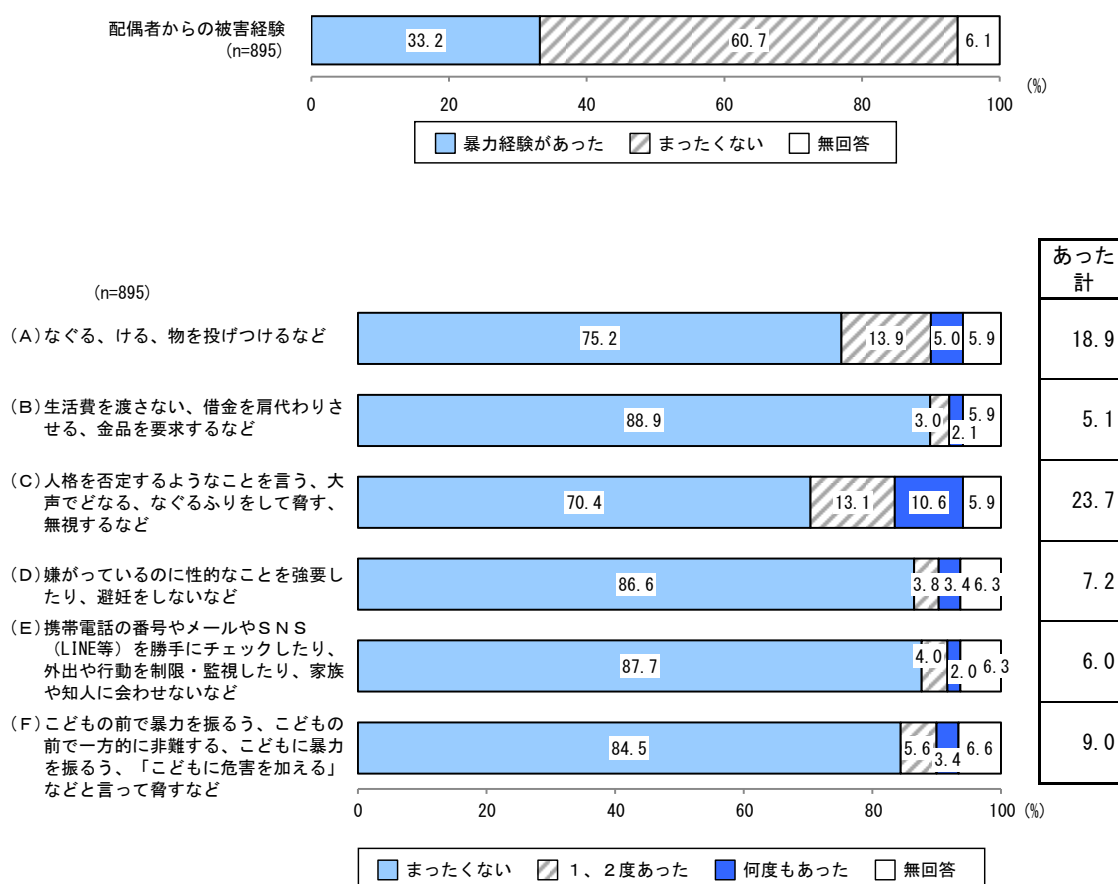
問24で「3. 既婚、または離別、または死別」と回答された方にお聞きします。  
 問25 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。また「①これまで」で「1, 2度あった」「何度もあった」と回答した方は、「②この1年間」についてもお答えください。(それぞれ○は一つ)

### ①これまでの配偶者からの暴力の被害経験の有無

全体は、“あった計”の割合は『(C)人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど』(23.7%)が最も高くなっている。

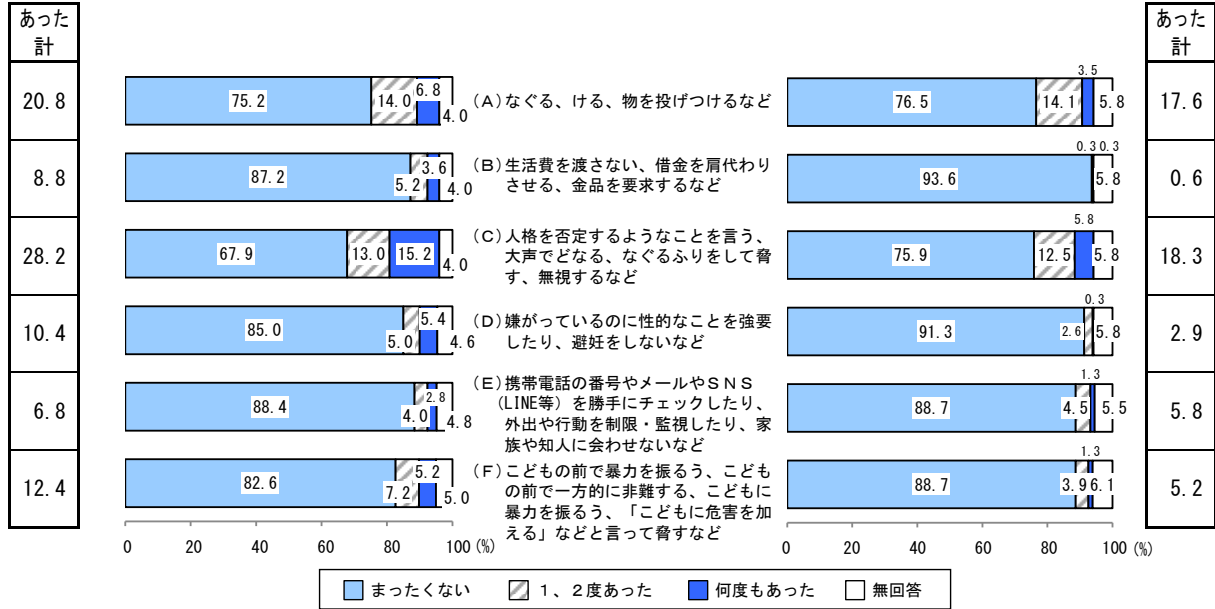
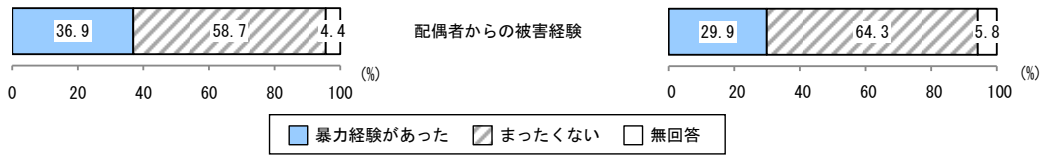
性別で見ると、“あった計”の割合はすべての項目で女性が男性に比べて高くなっており、『(C)人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど』の割合が9.9ポイント高い。

前回調査との比較で見ると、全体の“あった計”の割合は『(B)生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど』と『(D)嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど』の割合は前回より低いが、それ以外の項目では前回より高くなっている。



【女性(n=501)】

【男性(n=311)】



\*あつた計：「何度もあった」「1、2度あった」をあわせた値

### 【前回調査 (令和2年)】

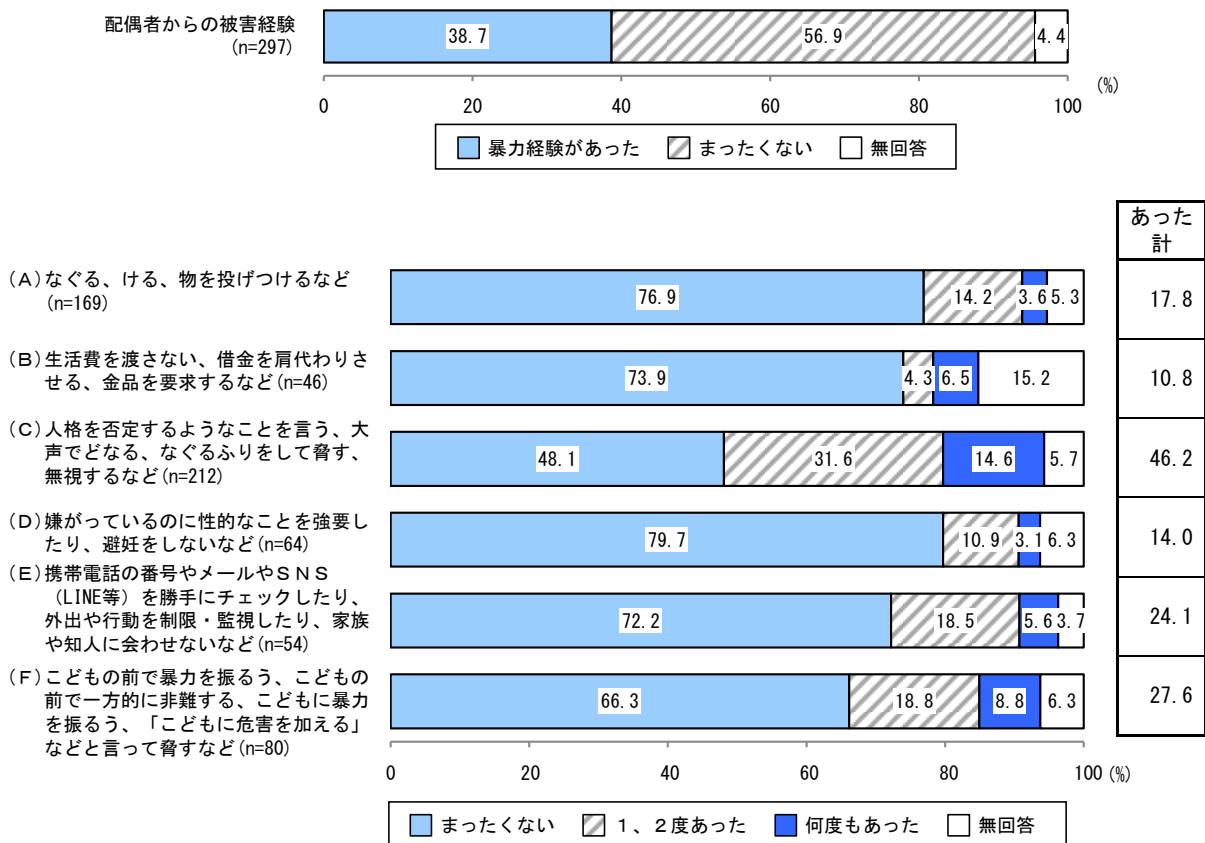
(単位：%)	全体 (n=1,169)				女性 (n=684)				男性 (n=422)			
	まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答	まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答	まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答
(A) ながる、ける、物を投げつけるなど	70.1	13.2	4.2	12.6	68.6	15.1	5.0	11.4	74.6	10.2	3.1	12.1
(B) 生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど	81.5	2.5	3.0	13.0	80.8	2.9	4.4	11.8	86.0	1.4	0.7	11.8
(C) 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、ながるふりをして脅す、無視するなど	66.4	11.7	8.3	13.6	63.6	13.3	10.8	12.3	73.0	9.5	5.0	12.6
(D) 嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど	79.0	4.9	3.0	13.1	76.2	7.2	5.0	11.7	86.5	1.4	0.0	12.1
(E) 携帯電話の番号やメールやSNS (LINE等) を勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど	82.3	2.8	1.7	13.2	82.3	3.7	2.0	12.0	85.5	1.7	0.9	11.8
(F) こどもの前で暴力を振るう、こどもの前で一方的に非難する、こどもに暴力を振るう、「こどもに危害を加える」などと言って脅すなど	79.1	3.4	4.0	13.4	78.5	3.8	5.4	12.3	82.7	2.8	2.4	12.1

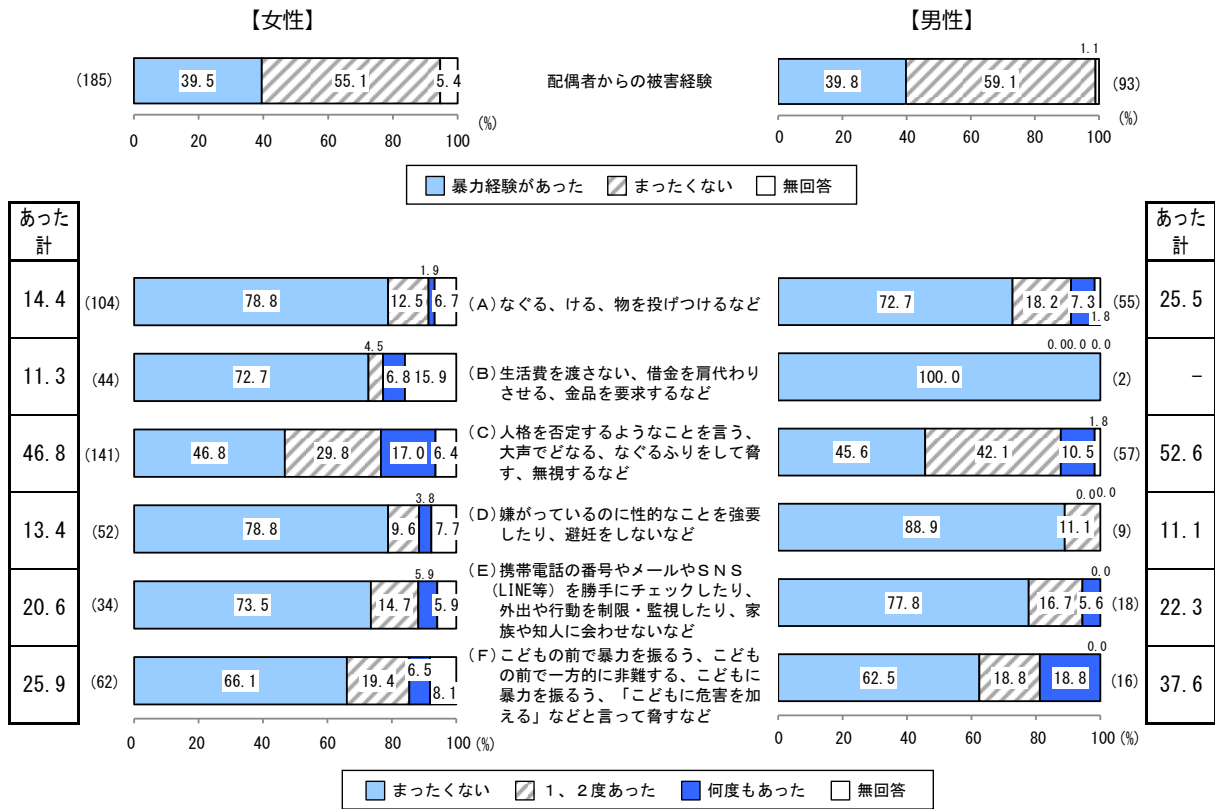
## ②過去1年以内の配偶者からの暴力の被害経験の有無

全体は、“あった計”の割合は『(C) 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど』(46.2%)が最も高くなっている。

性別で見ると、男性の“あった計”の割合は『(A) なぐる、ける、物を投げつけるなど』『(F) こどもの前で暴力を振るう、こどもの前で一方的に非難する、こどもに暴力を振るう、「こどもに危害を加える」などと言って脅すなど』は女性に比べて10ポイント以上高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体の“あった計”の割合は『(B) 生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど』が前回より9.6ポイント低くなっている。



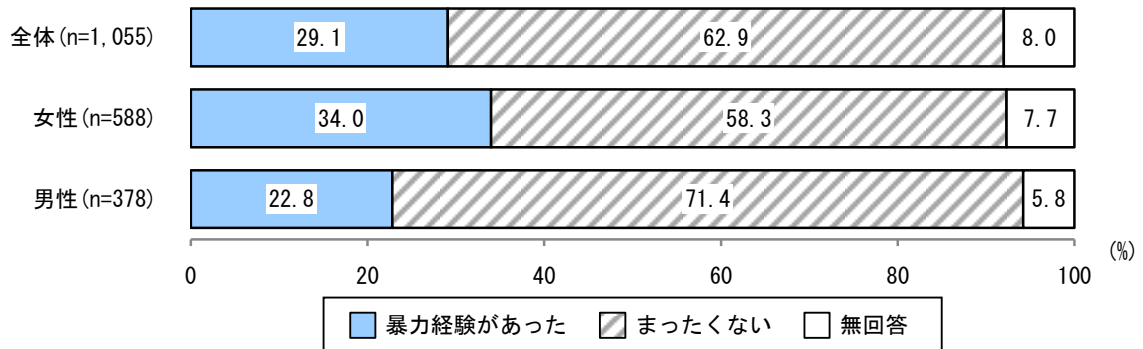


【前回調査（令和2年）】

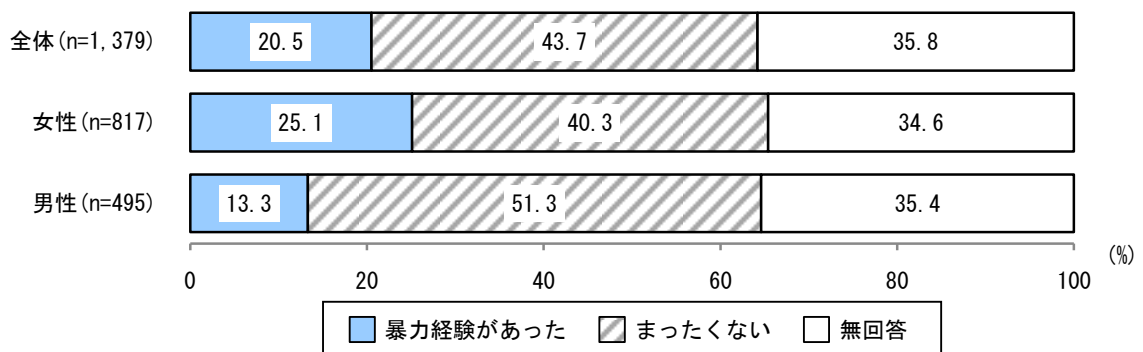
(単位：%)	全体				女性				男性			
	まったく ない	1、2度 あった	何度も あった	無回答	まったく ない	1、2度 あった	何度も あった	無回答	まったく ない	1、2度 あった	何度も あった	無回答
(A) なぐる、ける、物を投げつけるなど (n=203)	74.4	13.8	3.0	8.9	74.5	14.6	2.2	8.8	75.0	14.3	5.4	5.4
(B) 生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、 金品を要求するなど (n=64)	64.1	6.3	14.1	15.6	68.0	4.0	14.0	14.0	55.6	22.2	22.2	-
(C) 人格を否定するようなことを言う、大声でど なる、なぐるふりをして脅す、無視するなど (n=234)	48.3	26.5	17.5	7.7	46.1	26.7	18.8	8.5	54.1	26.2	16.4	3.3
(D) 嫌がっているのに性的なことを強要したり、 避妊をしないなど (n=92)	69.6	14.1	6.5	9.8	69.9	13.3	7.2	9.6	66.7	16.7	-	16.7
(E) 携帯電話の番号やメールやSNS (LINE等) を勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視 したり、家族や知人に会わせないなど (n=53)	67.9	17.0	7.5	7.5	74.4	12.8	5.1	7.7	45.5	36.4	18.2	-
(F) こどもの前で暴力を振るう、こどもの前で一 方的に非難する、こどもに暴力を振るう、「こども に危害を加える」などと言って脅すなど (n=87)	58.6	20.7	11.5	9.2	58.7	22.2	9.5	9.5	54.5	18.2	18.2	9.1

## (7) 交際相手からの暴力の被害経験の有無

既婚、未婚に関わらず、現在・過去に交際相手がいる・いた人すべてにお聞きします。  
 問26 あなたは、現在及び過去に交際相手から次のようなことをされたことがありますか。また、それは何歳の頃にされましたか。(それぞれあてはまるものすべてに○)

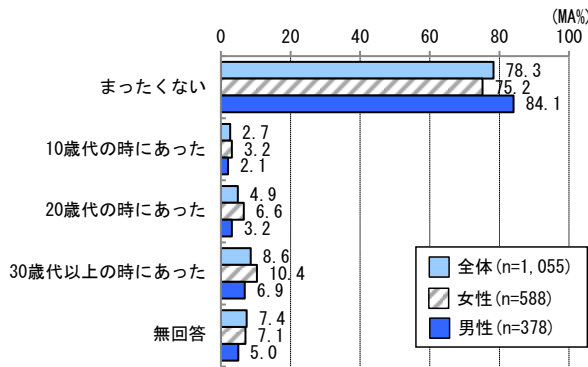


### 【前回調査 (令和2年)】

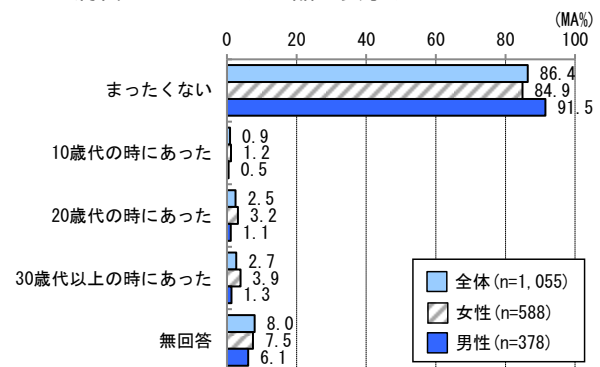


全体及び女性では、「20歳代の時にあった」「30歳代以上の時にあった」の割合は『(C) 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど』が最も高く、「10歳代の時にあった」の割合は『(D)嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど』が最も高い。

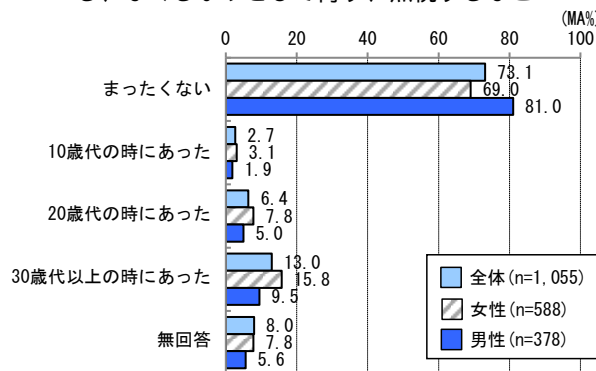
(A)なぐる、ける、物を投げつけるなど



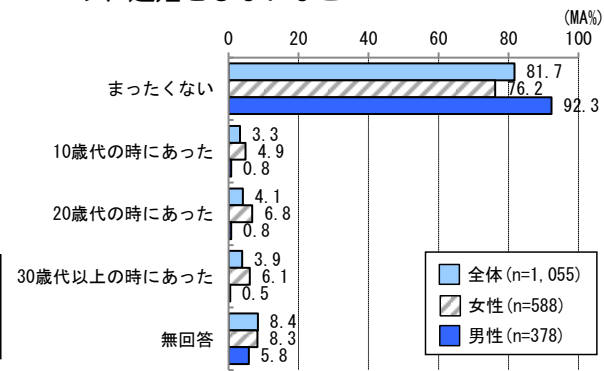
(B)給料・バイト代や貯金を勝手に使われる、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど



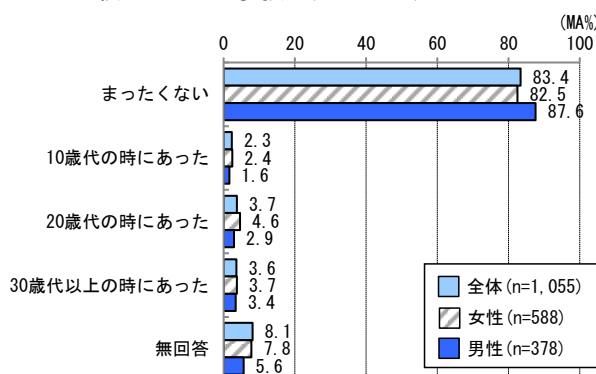
(C)人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど



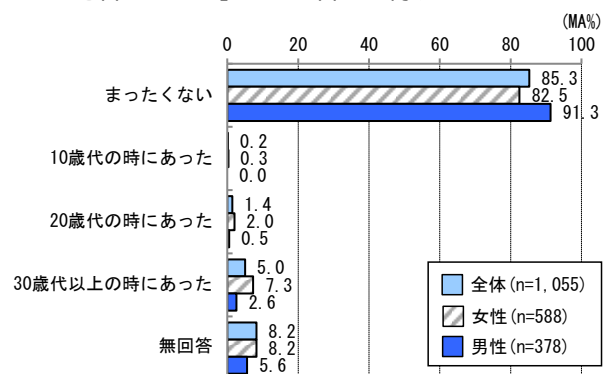
(D)嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど



(E)携帯電話の番号やメールやSNS(LINE等)を勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど



(F)こどもの前で暴力を振るう、こどもの前で一方的に非難する、こどもに暴力を振るう、「こどもに危害を加える」などと言って脅すなど



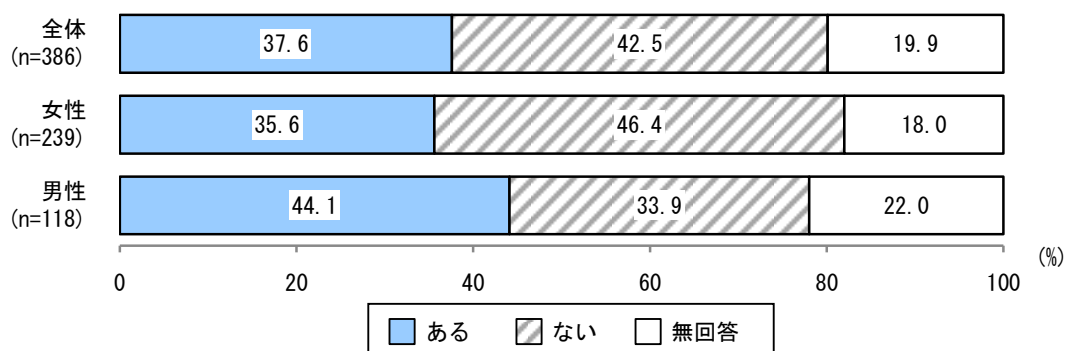
## (8) 同棲経験の有無

問26-1は、配偶者や交際相手から暴力を受けた経験があると回答された方にお聞きします。

問26-1 あなたは、現在及び過去に交際相手と同居した経験（いわゆる「同棲経験」）がありますか。（○は一つ）

全体は、「ある」が37.6%、「ない」が42.5%となっている。

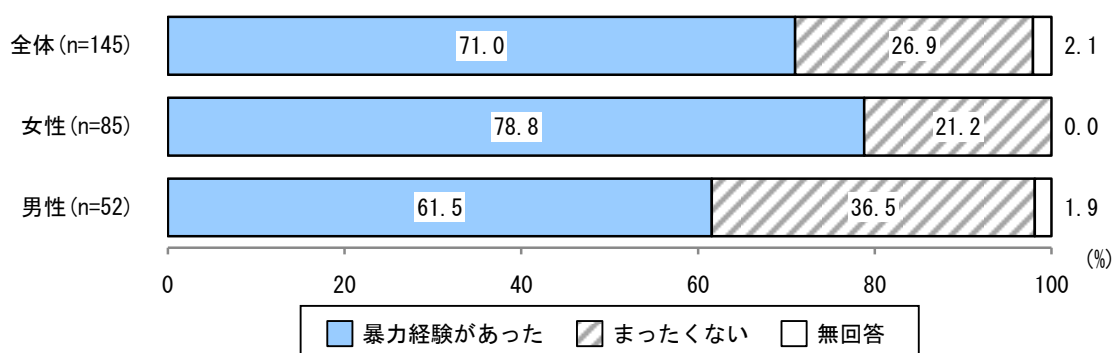
性別でみると、「ある」の割合は女性より男性のほうが8.5ポイント高くなっている。



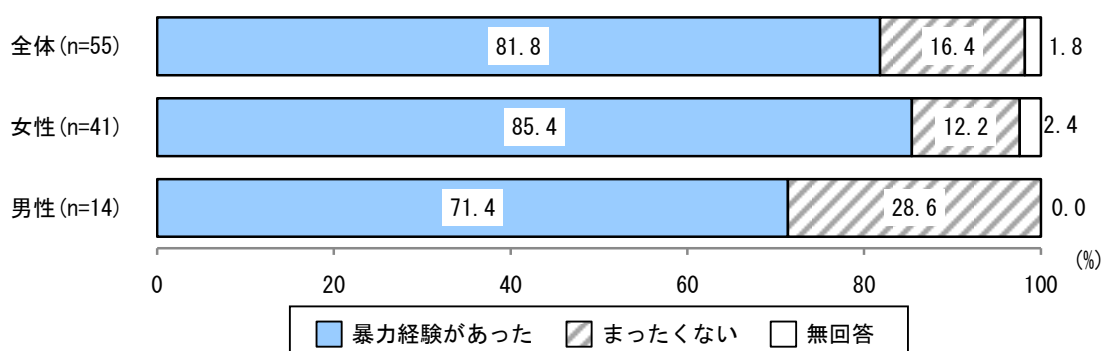
## (9) 同棲相手からの暴力の被害経験の有無

問26-2は、問26-1で「1. ある」と回答された方にお聞きします。

問26-2 あなたは、過去に同居していた交際相手や現在同居している交際相手（いわゆる同棲相手）から同居（同棲）中に次のようなことをされたことがありますか。また、それは何歳の頃にされましたか。（それぞれあてはまるものすべてに○）



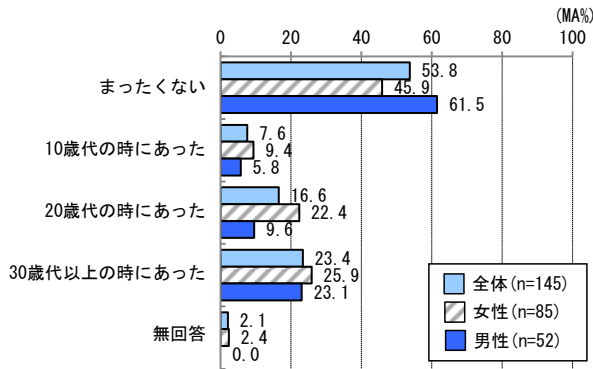
### 【前回調査（令和2年）】



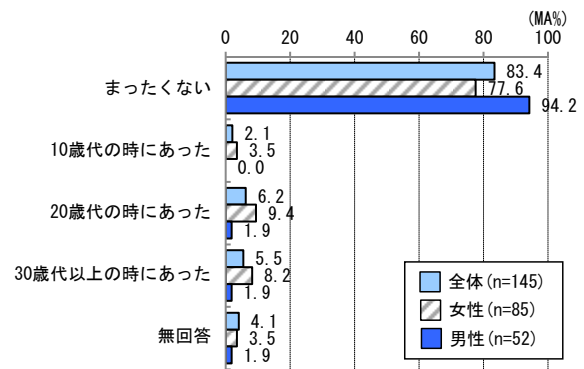
全体は、「20歳代の時にあった」「30歳代以上の時にあった」の割合は『(C)人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど』で最も高くなっている。

性別で見ると、すべての項目であった割合は男性より女性のほうが高くなっている。

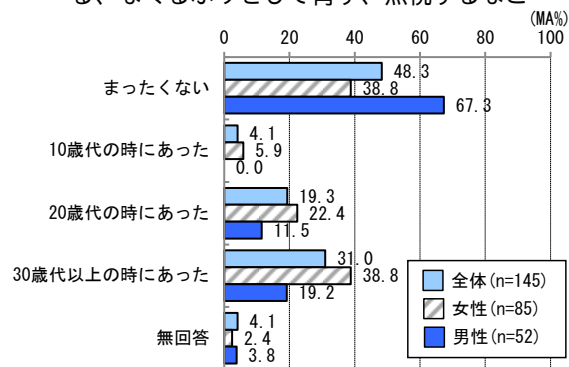
(A) なぐる、ける、物を投げつけるなど



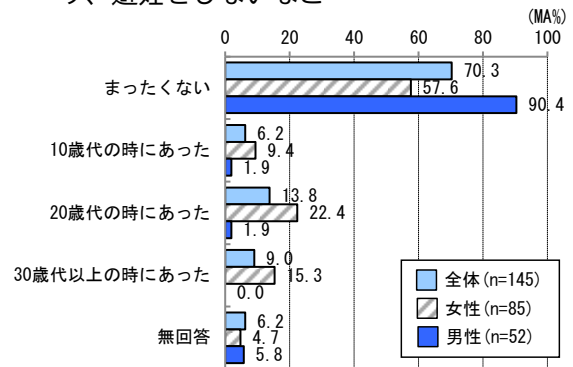
(B) 給料・バイト代や貯金を勝手に使われる、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど



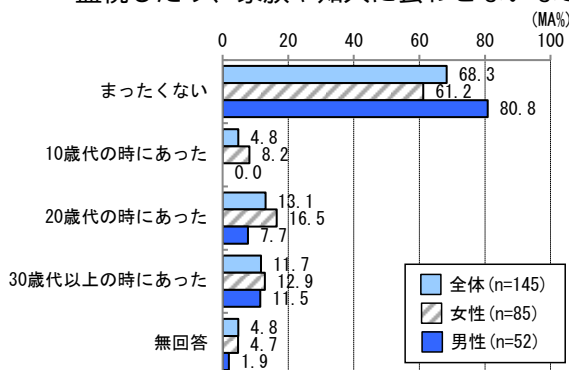
(C) 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど



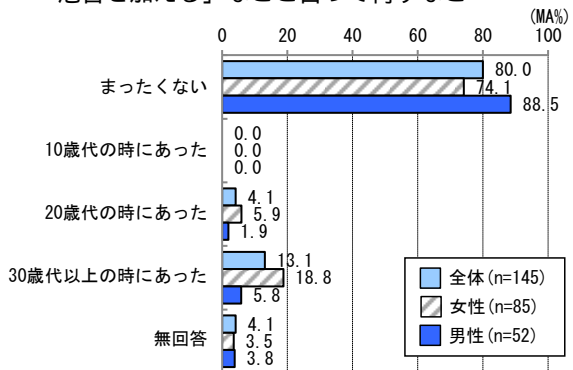
(D) 嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど



(E) 携帯電話の番号やメールやSNS(LINE等)を勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど



(F) こどもの前で暴力を振るう、こどもの前で一方的に非難する、こどもに暴力を振るう、「こどもに危害を加える」などと言って脅すなど



## (10) 配偶者や交際相手からの暴力の相談相手

問27は、配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある方にお聞きします。

問27 あなたはこれまでに、あなたの①配偶者や②交際相手から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（あてはまるものすべてに○）

### ①配偶者からの暴力

全体は、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（41.4%）が最も多く、次いで「友人や知人」（15.5%）となっている。

性別で見ると、女性の「家族や親戚」「友人や知人」の割合は男性に比べ10ポイント以上高くなっている。一方、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合は女性に比べ男性は11.1ポイント高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体は「家族や親戚」の割合が前回より4.2ポイント低くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査（令和2年）		
	全体 (n=297)	女性 (n=185)	男性 (n=93)	全体 (n=328)	女性 (n=227)	男性 (n=87)
堺市配偶者暴力相談支援センター	0.7	-	2.2	0.6	-	1.1
堺市各区役所「女性相談」	1.0	1.1	1.1	2.1	2.6	1.1
堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」	0.3	-	1.1	0.6	0.4	1.1
堺市立男女共同参画センター相談	0.3	-	1.1	0.3	-	1.1
大阪府女性相談センター	0.7	0.5	1.1	1.2	1.3	1.1
内閣府DV相談+（プラス）	0.3	-	1.1			
警察	2.7	1.6	5.4	2.4	2.2	2.3
民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）	2.4	3.8	-	1.5	1.8	1.1
医療関係者（医師、看護師など）	1.3	1.1	2.2	1.8	1.8	2.3
学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）	-	-	-	0.6	0.4	1.1
家族や親戚	13.8	18.9	5.4	18.0	23.3	5.7
友人や知人	15.5	20.0	8.6	14.6	17.6	5.7
その他	0.3	0.5	-	0.3	-	1.1
どこ（だれ）にも相談しなかった	41.4	37.3	48.4	34.5	32.2	40.2
無回答	31.6	28.1	36.6	36.9	31.7	51.7

## ②交際相手からの暴力

全体は、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（29.0%）で最も多く、次いで「友人や知人」（20.8%）となっている。

性別で見ると、女性の「友人や知人」の割合は男性に比べ16.7ポイント高くなっている。一方、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合は女性に比べ男性は25.2ポイント高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体は「友人や知人」の割合が前回より11.3ポイント高くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査（令和2年）		
	全体 (n=307)	女性 (n=200)	男性 (n=86)	全体 (n=283)	女性 (n=205)	男性 (n=66)
堺市配偶者暴力相談支援センター	-	-	-	0.4	0.5	-
堺市各区役所「女性相談」	-	-	-	0.7	1.0	-
堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」	-	-	-	-	-	-
堺市立男女共同参画センター相談	-	-	-	-	-	-
大阪府女性相談センター	0.3	0.5	-	-	-	-
内閣府DV相談+（プラス）	-	-	-			
警察	0.3	0.5	-	1.1	1.5	-
民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）	-	-	-	-	-	-
医療関係者（医師、看護師など）	-	-	-	0.4	0.5	-
学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）	-	-	-	-	-	-
家族や親戚	6.5	8.0	4.7	3.2	3.9	1.5
友人や知人	20.8	26.0	9.3	9.5	12.7	1.5
その他	0.3	0.5	-	0.4	0.5	-
どこ（だれ）にも相談しなかった	29.0	22.5	47.7	20.5	19.5	25.8
無回答	48.5	49.5	41.9	67.5	64.4	72.7

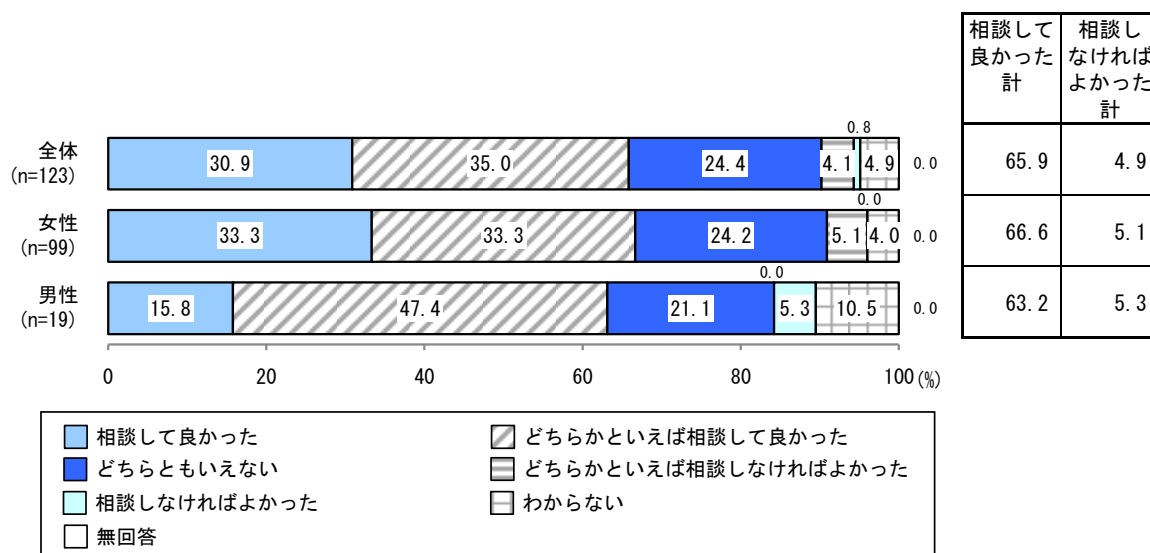
## (11) 配偶者や交際相手からの暴力について相談後の評価

問27-1は、配偶者や交際相手から暴力を受けた行為について相談した経験がある方にお聞きします。

問27-1 相談後のあなたのお気持ちに一番近いものはどれですか。(○は一つ)

全体は、“相談して良かった計”の割合は65.9%となっている。

性別で見ると、“相談して良かった計”の割合は男性に比べ女性がやや高く、「相談して良かった」の割合は男性より女性のほうが17.5ポイント高くなっている。



※相談して良かった計：「相談して良かった」「どちらかといえば相談して良かった」を合わせた値

相談しなければよかった計：「相談しなければよかった」「どちらかといえば相談しなければよかった」を合わせた値

## (12) 相談しなかった理由

問27-2は、問27で「N どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。  
問27-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに○）

### ①配偶者からの暴力

全体は、「相談するほどのことではないと思ったから」（51.2%）が最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」（23.6%）となっている。

性別で見ると、女性で「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」「相談してもむだだと思ったから」の割合が男性に比べて10ポイント以上高い。

前回調査との比較で見ると、全体は「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が前回より11.8ポイント低くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査（令和2年）		
	全体 (n=123)	女性 (n=69)	男性 (n=45)	全体 (n=113)	女性 (n=73)	男性 (n=35)
どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから	8.1	13.0	2.2	10.6	11.0	5.7
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	8.1	10.1	6.7	10.6	13.7	5.7
相談してもむだだと思ったから	22.0	26.1	15.6	21.2	26.0	11.4
自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	10.6	13.0	6.7	17.7	21.9	8.6
相手の仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）	2.4	4.3	-	2.7	4.1	-
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	2.4	2.9	2.2	0.9	1.4	-
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	22.0	26.1	17.8	19.5	19.2	17.1
世間体が悪いと思ったから	5.7	5.8	6.7	7.1	8.2	5.7
他人を巻き込みたくなかったから	6.5	7.2	4.4	9.7	11.0	5.7
他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから	1.6	1.4	2.2	0.9	1.4	-
そのことについて思い出したくなかったから	4.1	7.2	-	4.4	4.1	2.9
自分にも悪いところがあると思ったから	23.6	24.6	26.7	35.4	28.8	51.4
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	2.4	2.9	2.2	9.7	6.8	17.1
相談するほどのことではないと思ったから	51.2	53.6	46.7	58.4	50.7	80.0
その他	1.6	1.4	2.2	2.7	2.7	2.9
無回答	15.4	5.8	26.7	4.4	5.5	-

## ②交際相手からの暴力

全体は、「相談するほどのことではないと思ったから」（42.7%）が最も高く、次いで「相談してもむだだと思ったから」（13.5%）となっている。

性別で見ると、女性で「そのことについて思い出したくなかったから」の割合が男性に比べて11.1ポイント高い。男性で「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が女性に比べて22.6ポイント高い。

前回調査との比較で見ると、全体は「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が前回より22.7ポイント低くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査（令和2年）		
	全体 (n=89)	女性 (n=45)	男性 (n=41)	全体 (n=58)	女性 (n=40)	男性 (n=17)
どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから	4.5	6.7	2.4	15.5	20.0	5.9
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	6.7	11.1	2.4	15.5	17.5	11.8
相談してもむだだと思ったから	13.5	15.6	12.2	15.5	17.5	11.8
自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	3.4	4.4	2.4	22.4	27.5	11.8
相手の仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）	1.1	2.2	-	5.2	5.0	5.9
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	3.4	-	7.3	-	-	-
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	4.5	2.2	7.3	22.4	22.5	23.5
世間体が悪いと思ったから	2.2	2.2	2.4	6.9	5.0	11.8
他人を巻き込みたくなかったから	1.1	-	2.4	13.8	12.5	17.6
他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから	1.1	-	2.4	5.2	5.0	5.9
そのことについて思い出したくなかったから	5.6	11.1	-	10.3	12.5	5.9
自分にも悪いところがあると思ったから	10.1	6.7	14.6	32.8	32.5	35.3
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	4.5	2.2	4.9	20.7	17.5	29.4
相談するほどのことではないと思ったから	42.7	31.1	53.7	44.8	40.0	52.9
その他	-	-	-	-	-	-
無回答	38.2	44.4	34.1	8.6	10.0	5.9

### (13) 配偶者や交際相手から暴力を受けた時の行動

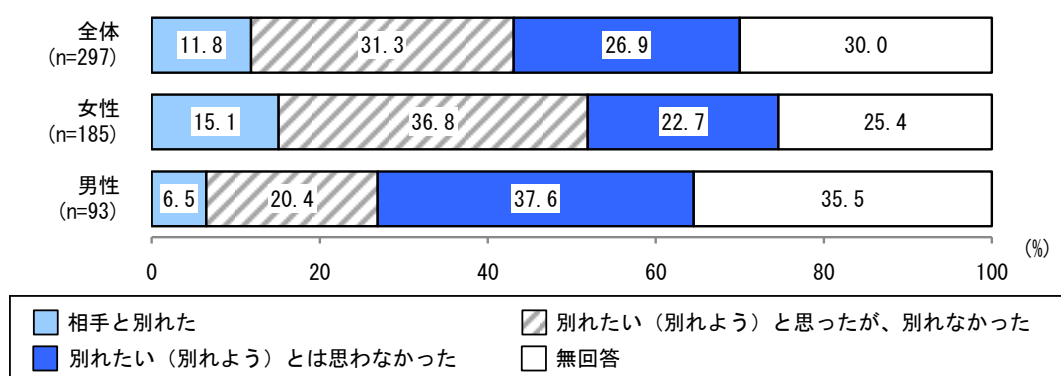
問28は、配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある方に改めてお聞きします。  
 問28 あなたは、あなたの配偶者や交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。①配偶者からと②交際相手から、それぞれでお答えください。  
 (それぞれ○は一つ)

#### ①配偶者からの暴力

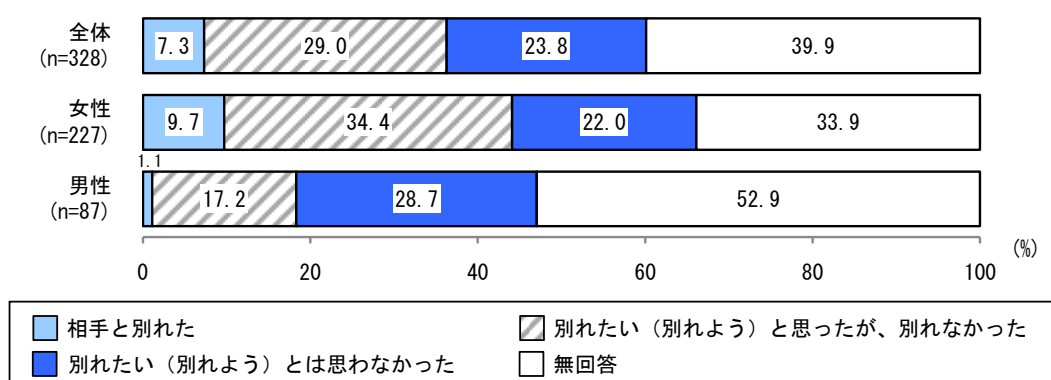
全体は、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」（31.3%）が最も多く、次いで「別れたい（別れよう）とは思わなかった」（26.9%）となっている。

性別で見ると、女性は「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」の割合が男性に比べて16.4ポイント高い。

前回調査との比較で見ると、「相手と別れた」の割合は前回より4.5ポイント高くなっている。



#### 【前回調査（令和2年）】

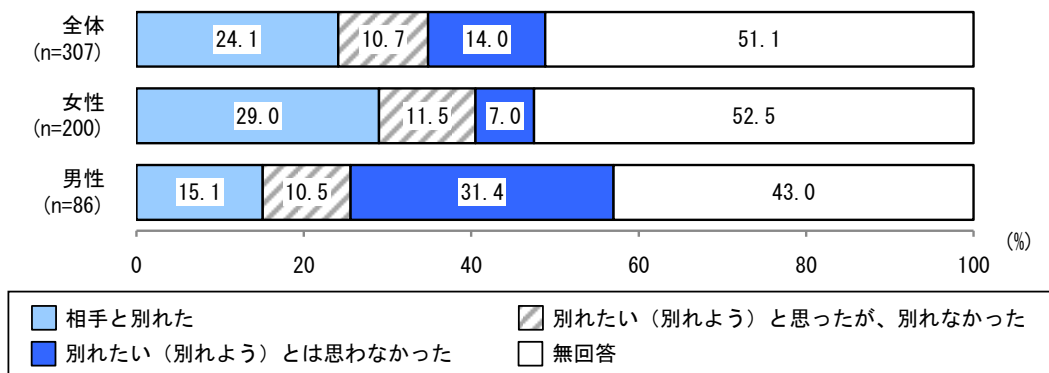


## ②交際相手からの暴力

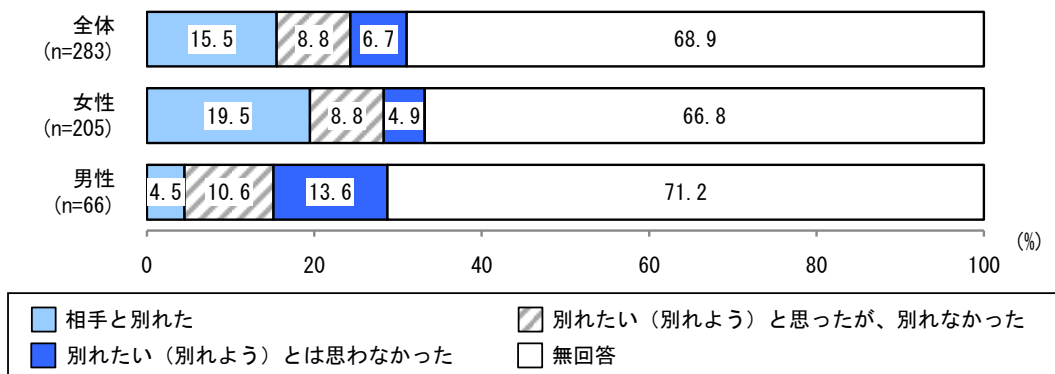
全体は、「相手と別れた」(24.1%)が最も多く、次いで「別れたい(別れよう)とは思わなかった」(14.0%)となっている。

性別で見ると、女性は「相手と別れた」の割合が男性に比べて13.9ポイント高い。

前回調査との比較で見ると、「相手と別れた」の割合は前回より8.6ポイント高くなっている。



### 【前回調査(令和2年)】



## (14) 相手と別れなかった理由

問28-1は、問28で「B. 別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きします。

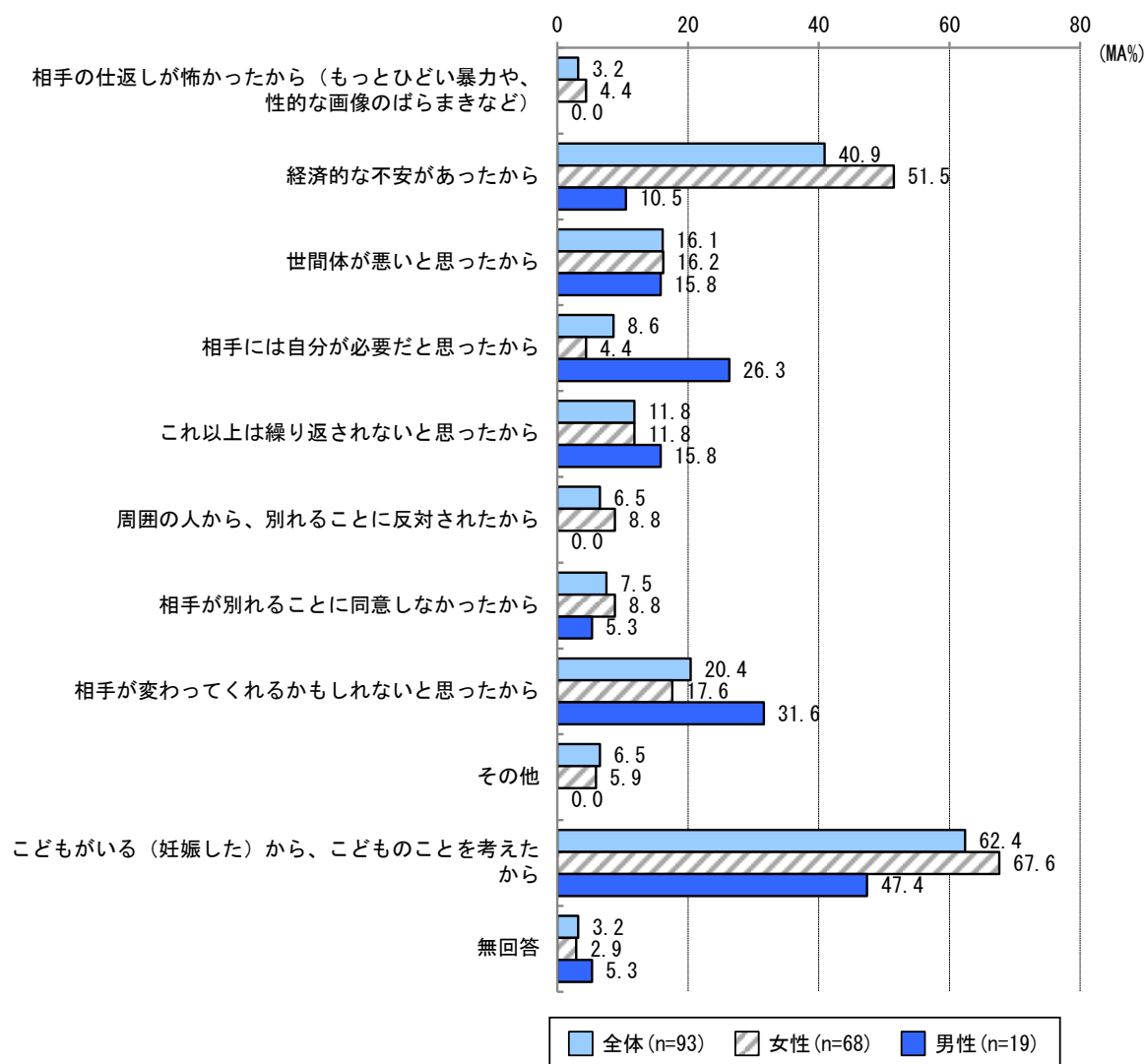
問28-1 あなたが、相手と別れなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

### ①配偶者からの暴力

全体は、「子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから」（62.4%）が最も多く、次いで「経済的な不安があったから」（40.9%）となっている。

性別で見ると、女性では「子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから」の割合が67.6%で最も高く、次いで「経済的な不安があったから」が51.5%となっている。男性のサンプル数が少ないため、一概に言えないが、「子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから」が47.4%（9人）で最も高く、次いで「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」が31.6%（6人）となっている。

前回調査との比較で見ると、全体は「世間体が悪いと思ったから」の割合が前回より7.7ポイント高くなっている。



【前回調査（令和2年）】

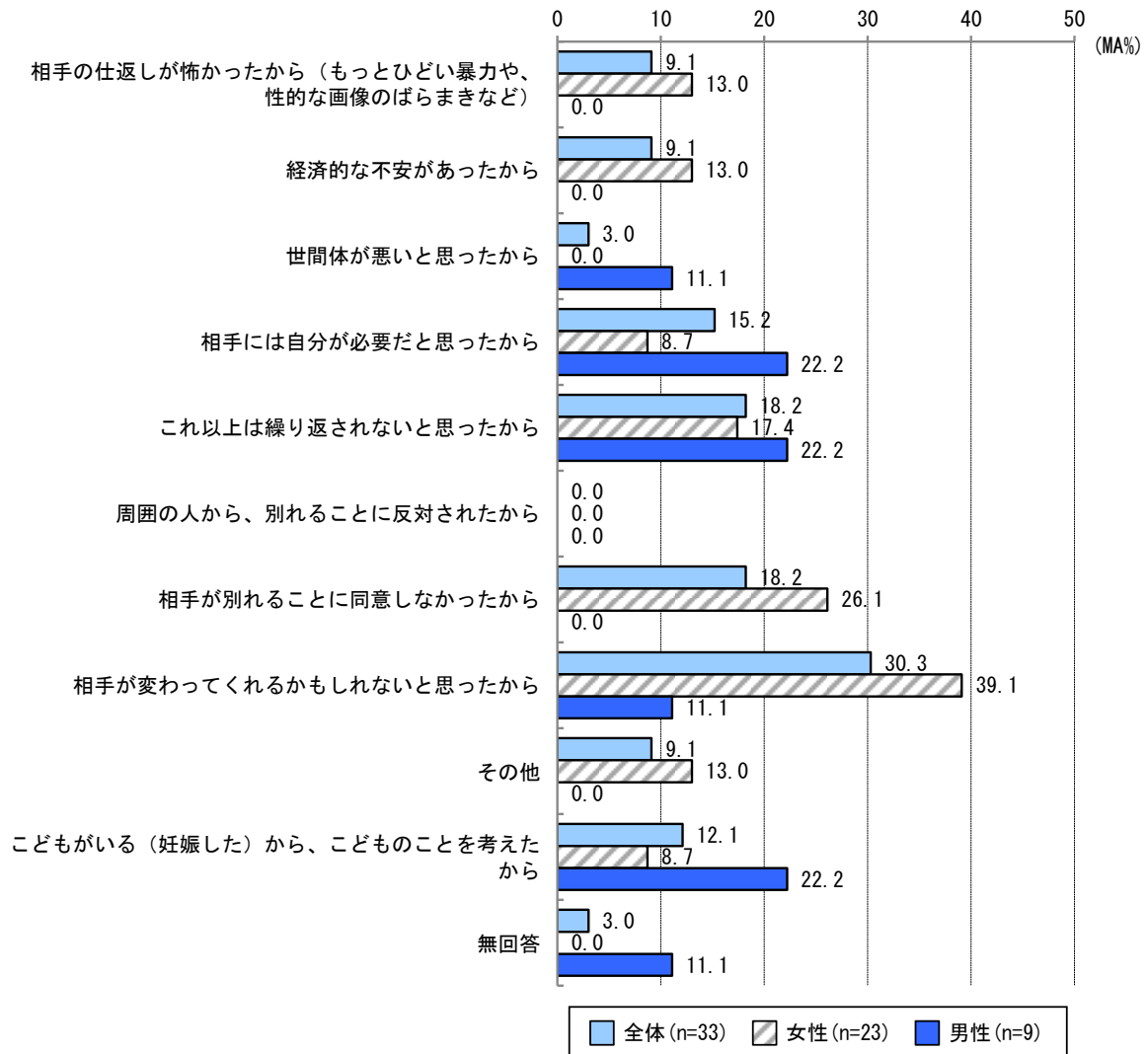
(単位：MA%)	前回調査（令和2年）		
	全体 (n=95)	女性 (n=78)	男性 (n=15)
相手の仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）	4.2	5.1	-
経済的な不安があったから	42.1	50.0	-
世間体が悪いと思ったから	8.4	9.0	-
相手には自分が必要だと思ったから	11.6	6.4	33.3
これ以上は繰り返されないと考えたから	10.5	10.3	13.3
周囲の人から、別れることに反対されたから	8.4	9.0	6.7
相手が別れることに同意しなかったから	20.0	16.7	40.0
相手が変わってくれるかもしれないと思ったから	16.8	16.7	13.3
その他	2.1	2.6	-
子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから	63.2	69.2	40.0
無回答	5.3	5.1	6.7

## ②交際相手からの暴力

全体は、「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」（30.3%・10人）が最も多く、次いで「これ以上は繰り返されないと考えたから」と「相手が別れることに同意しなかったから」がそれぞれ18.2%（6人）となっている。

性別で見ると、サンプル数が少ないため、一概に言えないが、女性では「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」の割合が39.1%（9人）で最も高い。

前回調査との比較で見ると、全体は「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」の割合が前回より21.7ポイント低くなっている。



【前回調査（令和2年）】

(単位：MA%)	前回調査（令和2年）		
	全体 (n=25)	女性 (n=18)	男性 (n=7)
相手の仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）	8.0	11.1	-
経済的な不安があったから	4.0	5.6	-
世間体が悪いと思ったから	-	-	-
相手には自分が必要だと思ったから	24.0	22.2	28.6
これ以上は繰り返されないと考えたから	16.0	16.7	14.3
周囲の人から、別れることに反対されたから	-	-	-
相手が別れることに同意しなかったから	28.0	27.8	28.6
相手が変わってくれるかもしれないと思ったから	52.0	55.6	42.9
その他	4.0	5.6	-
子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから	16.0	-	57.1
無回答	8.0	5.6	14.3

## (15) こどものことで相手と別れなかった最も大きな理由

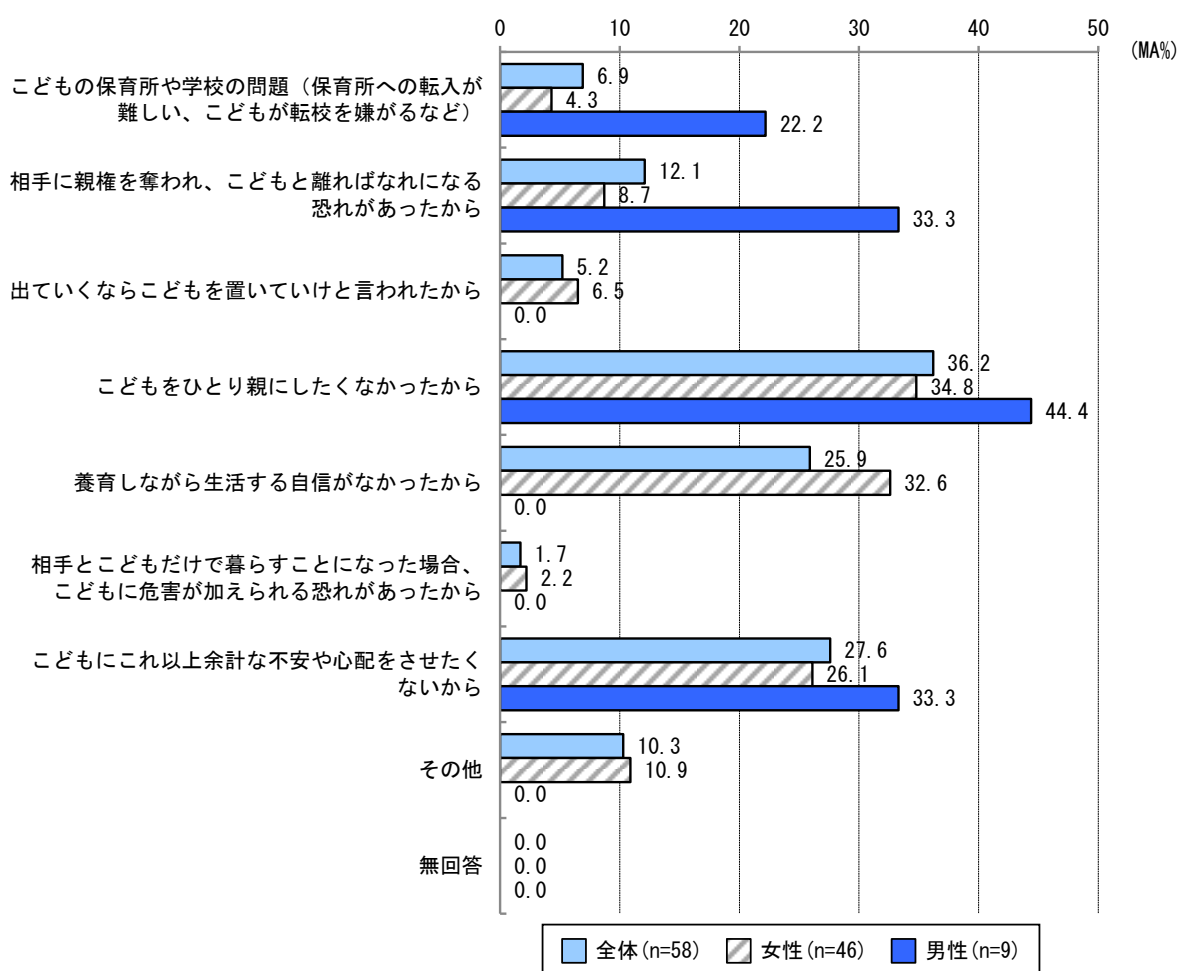
問28-2は、問28-1で「J. こどもがいるから、こどものことを考えたから」と回答した方にお聞きします。

問28-2 あなたが、こどものことで相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。(〇は一つ)

全体は、「こどもをひとり親にしたくなかったから」(36.2%)が最も多く、次いで「こどもにこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから」(27.6%)となっている。

性別で見ると、男性のサンプル数が少ないため、一概に言えないが、男女とも「こどもをひとり親にしたくなかったから」の割合が最も高く、女性は34.8%(16人)、男性が44.4%(4人)となっている。

前回調査との比較で見ると、全体は「こどもをひとり親にしたくなかったから」の割合が前回より16.8ポイント高くなっている。



※設問文では「〇は一つ」としているものの、複数選択した回答者が多かったため、複数回答設問として集計している。

【前回調査（令和2年）】

(単位：MA%)	前回調査（令和2年）		
	全体 (n=62)	女性 (n=54)	男性 (n=8)
こどもの保育所や学校の問題（保育所への転入が難しい、こどもが転校を嫌がるなど）	-	-	-
相手に親権を奪われ、こどもと離ればなれになる恐れがあったから	3.2	-	25.0
出ていくならこどもを置いていけと言われたから	1.6	1.9	-
こどもをひとり親にしたくなかったから	19.4	20.4	12.5
養育しながら生活する自信がなかったから	30.6	35.2	-
相手とこどもだけで暮らすことになった場合、こどもに危害が加えられる恐れがあったから	-	-	-
こどもにこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから	21.0	18.5	37.5
その他	4.8	3.7	12.5
無回答	19.4	20.4	12.5

## (16) 命の危険を感じた経験

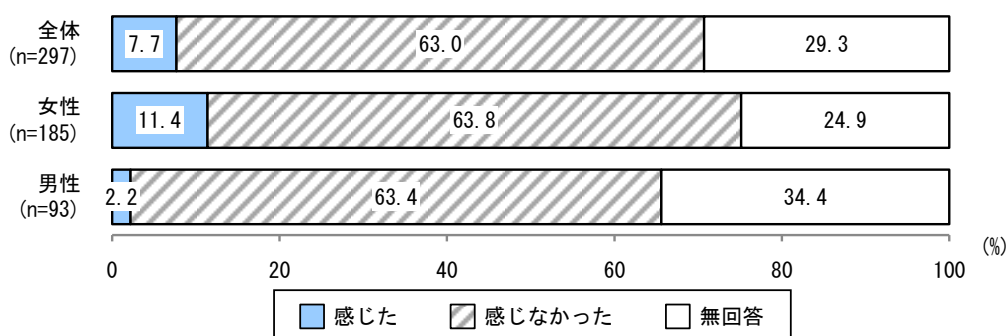
問29、問30は、配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある方に改めてお聞きします。  
 問29 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手から受けた暴力等によって、命の危険を感じたことがありますか。①配偶者から②交際相手からそれぞれでお答えください。（それぞれ○は一つ）

### ①配偶者からの暴力

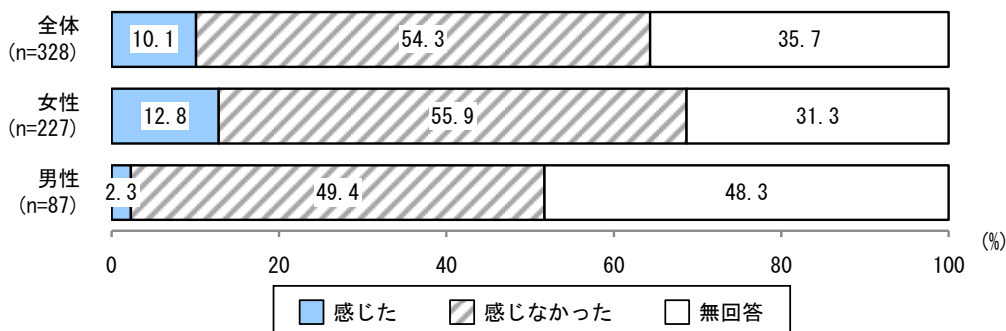
全体は、「感じた」が7.7%、「感じなかった」が63.0%となっている。

性別で見ると、女性の「感じた」の割合は男性に比べ9.2ポイント高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体は「感じた」の割合は前回より2.4ポイント低くなっている。



### 【前回調査（令和2年）】

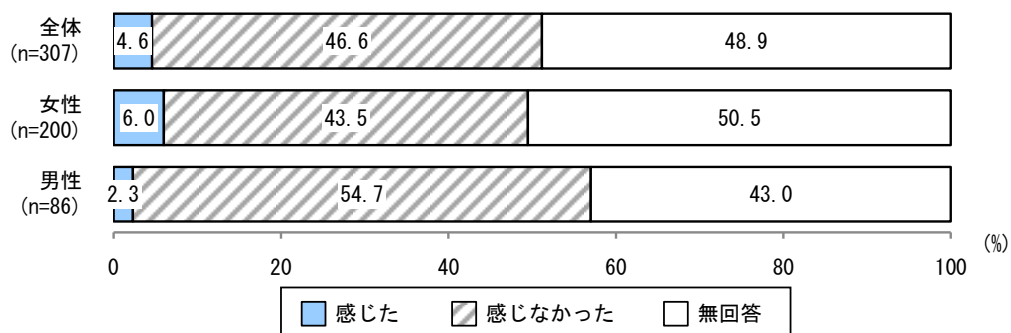


## ②交際相手からの暴力

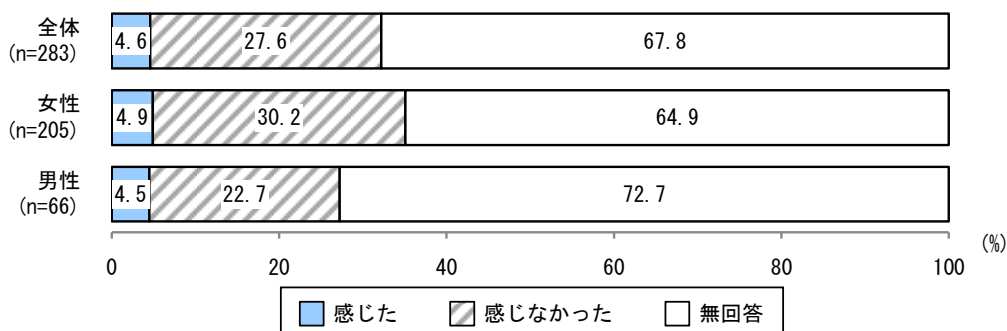
全体は、「感じた」が4.6%、「感じなかった」が46.6%となっている。

性別で見ると、女性の「感じた」の割合は男性に比べ3.7ポイント高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体は「感じなかった」の割合は前回より19.0ポイント高くなっている。



### 【前回調査（令和2年）】



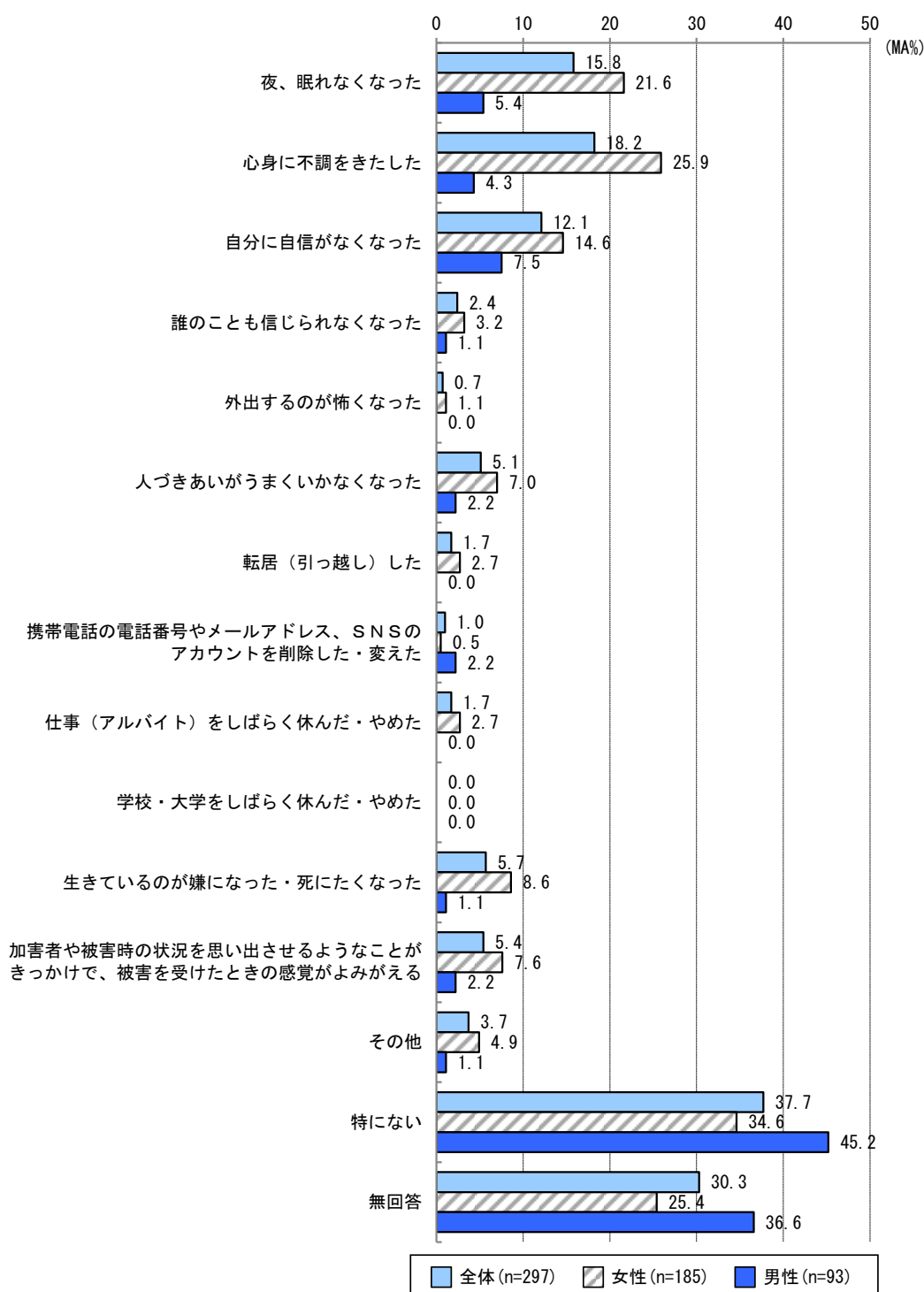
## (17) 配偶者や交際相手からの被害による生活上の変化

問30 あなたは、配偶者や交際相手から受けたそのような行為によって、生活上の変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

### ①配偶者からの暴力

全体は、「特にない」「無回答」を除くと、「心身に不調をきたした」(18.2%)が最も多く、次いで「夜、眠れなくなった」(15.8%)となっている。

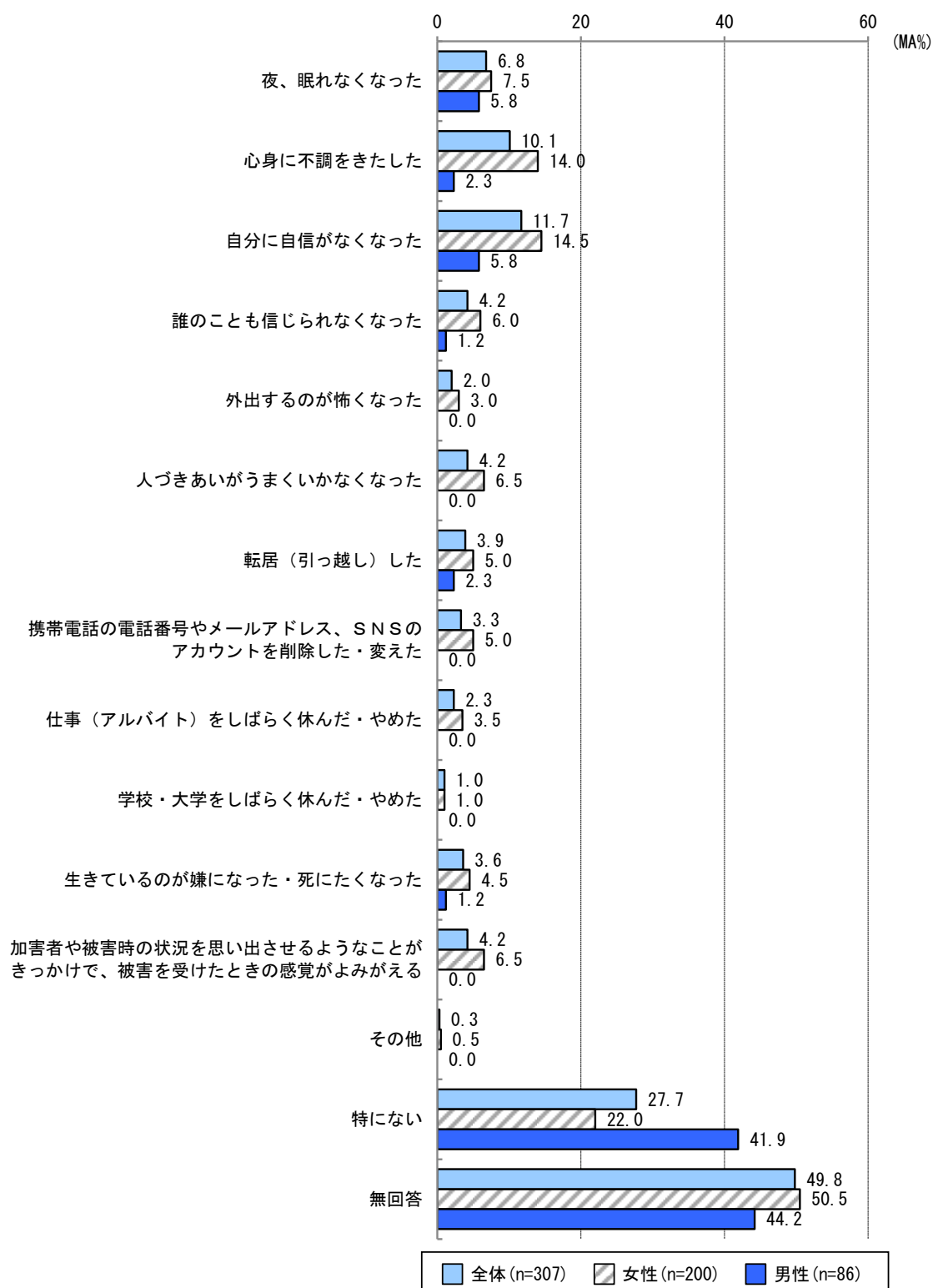
性別で見ると、女性の「夜、眠れなくなった」「心身に不調をきたした」の割合は男性に比べ10ポイント以上高くなっている。



## ②交際相手からの暴力

全体は、「特にない」「無回答」を除くと、「自分に自信がなくなった」(11.7%)で最も多く、次いで「心身に不調をきたした」(10.1%)となっている。

性別で見ると、すべての項目で男性より女性の割合が高く、女性の「心身に不調をきたした」の割合は男性に比べ11.7ポイント高くなっている。

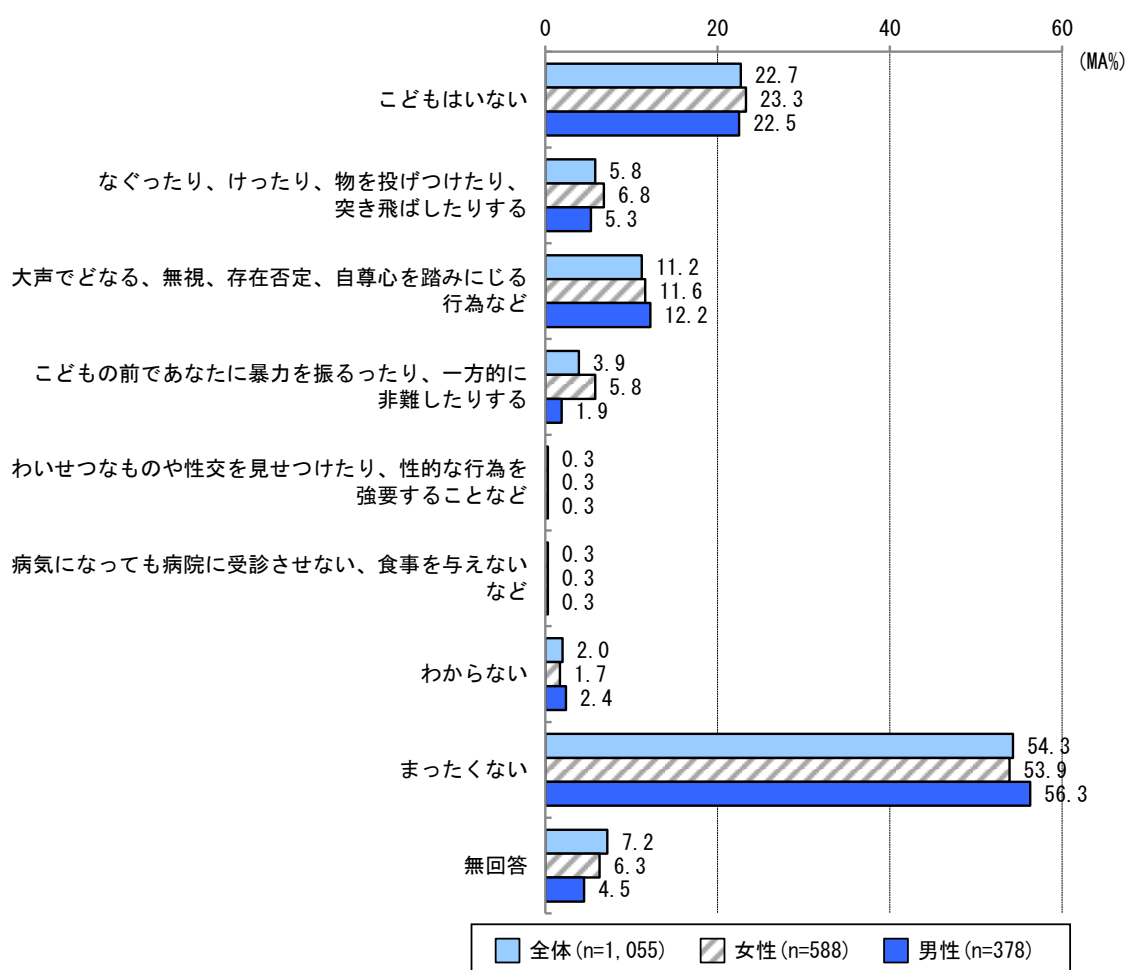


## (18) こどもの被害経験

既婚、未婚に関わらず、現在・過去に交際相手がいる・いた人すべてにお聞きします。  
 問31 あなたの配偶者や交際相手は、お子さん（ご自身の子どもだけでなく、配偶者や交際相手の子どもを含みます）に次のようなことをしたことがありますか。  
 （あてはまるものすべてに○）

全体は、「まったくない」(54.3%)が最も多く、次いで「子どもはいない」(22.7%)、「大声でどなる、無視、存在否定、自尊心を踏みにじる行為など」(11.2%)となっている。

性別で見ると、男女とも「まったくない」の割合が50%台で最も高い。女性の「子どもの前であなたに暴力を振るったり、一方的に非難したりする」の割合は男性に比べ3.9ポイント高くなっている。

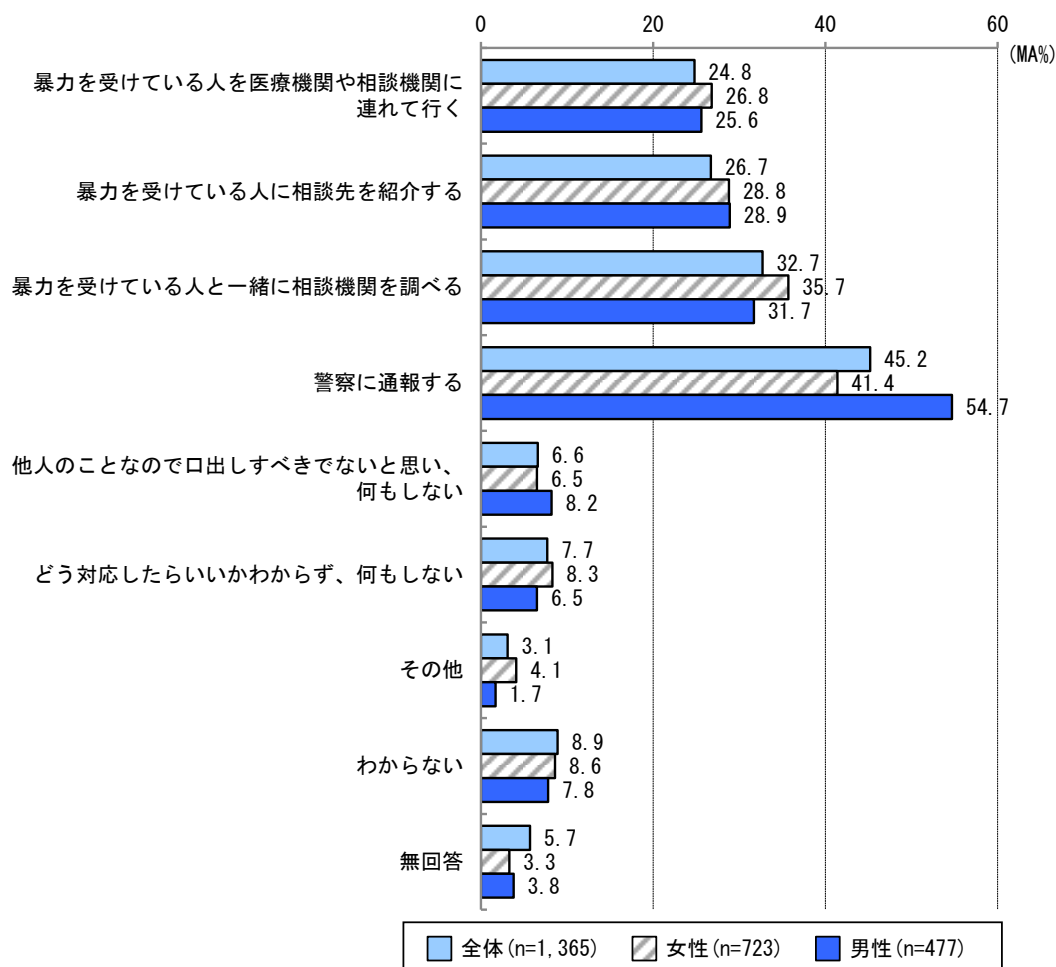


## (19) 周囲に配偶者や交際相手から暴力を受けている人がいた場合にできること

問32 もしあなたの周囲に、配偶者や交際相手から下記の（参考）で挙げているような暴力を受けている（かもしれない）人がいた場合、あなたはどんなことができると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

全体は、「警察に通報する」（45.2%）が最も多く、次いで「暴力を受けている人と一緒に相談機関を調べる」（32.7%）となっている。

性別で見ると、男女とも「警察に通報する」の割合が最も高く、女性の割合が男性に比べて13.3ポイント低くなっている。



### (参考)

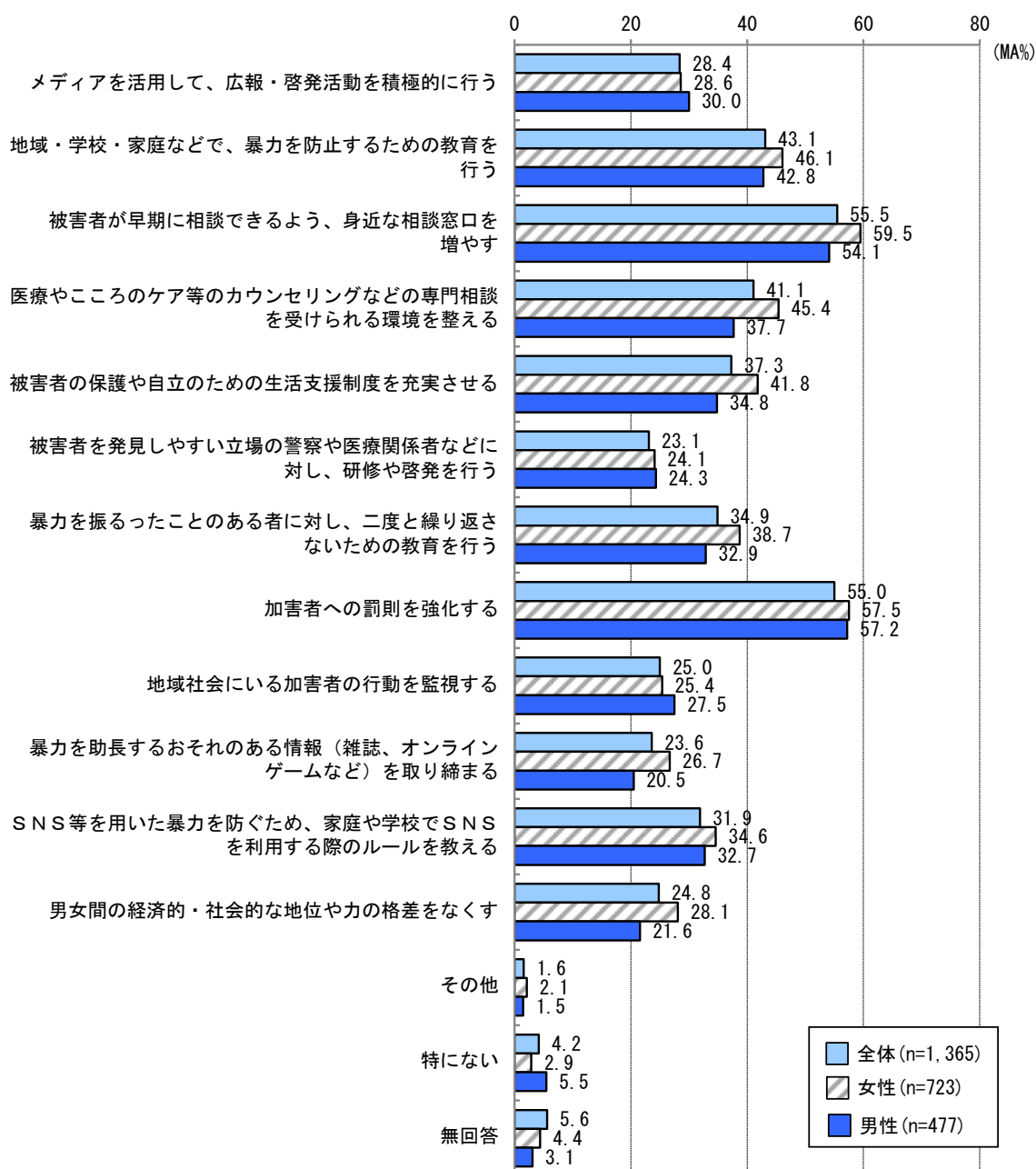
- A 身体的な暴力（なぐる、ける、物を投げつけるなど）
- B 経済的な暴力（給料・バイト代や貯金を勝手に使われる、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど）
- C 精神的な暴力（人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど）
- D 性的な暴力（嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど）
- E 社会的な暴力（携帯電話の番号やメール・SNS（LINE等）を勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど）
- F こどもを巻き込んだ暴力（こどもの前で暴力を振るう、こどもの前で一方的に非難する、こどもに暴力を振るう、「こどもに危害を加える」などと言って脅すなど）

## (20) 男女間における暴力防止に必要なこと

問33 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。  
(あてはまるものすべてに○)

全体は、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(55.5%)が最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」(55.0%)となっている。

性別で見ると、女性で「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」「医療やこころのケア等のカウンセリングなどの専門相談を受けられる環境を整える」「被害者の保護や自立のための生活支援制度を充実させる」「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、オンラインゲームなど)を取り締まる」「男女間の経済的・社会的な地位や力の格差をなくす」の割合が男性に比べて5ポイント以上高い。



## 9 防災対策について

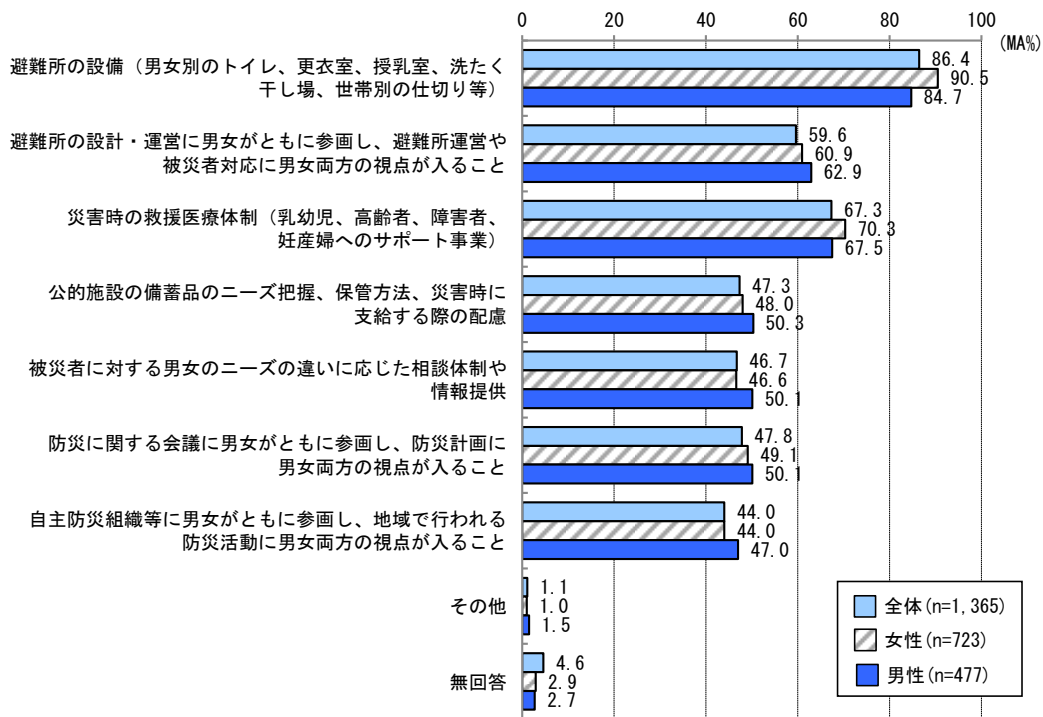
### (1) 性別に配慮した対応が必要な防犯対策

問34 防災対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何だと思えますか。  
(あてはまるものすべてに○)

全体は、「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗たく干し場、世帯別の仕切り等）」（86.4%）が最も多く、次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート事業）」（67.3%）となっている。

性別で見ると、女性の「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗たく干し場、世帯別の仕切り等）」の割合は男性に比べて5.8ポイント高くなっている。

前回調査との比較で見ると、いずれの項目も前回より割合が高くなっている。



#### 【前回調査（令和2年）】

(単位：MA%)	前回調査（令和2年）		
	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗たく干し場、世帯別の仕切り等）	82.0	85.3	80.9
避難所の設計・運営に男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること	52.3	54.6	52.6
災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート事業）	62.5	64.7	61.2
公的施設の備蓄品のニーズ把握、保管方法、災害時に支給する際の配慮	36.9	37.0	39.5
被災者に対する男女のニーズの違いに応じた相談体制や情報提供	37.1	37.8	38.5
防災に関する会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること	37.1	37.8	38.5
自主防災組織等に男女がともに参画し、地域で行われる防災活動に男女両方の視点が入ること	36.9	37.0	39.5
その他	1.9	1.4	2.5
無回答	6.1	4.8	3.8

## 10 男女共同参画に関する言葉や施策について

### (1) 男女共同参画に関する言葉や法律で知っているもの

問35 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

全体は、「ストーカー規制法」(75.0%)が最も多く、次いで「ジェンダー(社会的・文化的性別)」となっている。

性別で見ると、女性で「子ども・子育て支援法」の割合が男性に比べて4.7ポイント高くなっており、男性で「男女共同参画社会基本法」の割合が女性に比べて9.5ポイント、「リベンジポルノ防止法」の割合が女性に比べて8.0ポイント高い。

前回調査と比較すると、全体では「ジェンダー(社会的・文化的性別)」の割合が22.1ポイント、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の割合が12.0ポイント、「子ども・子育て支援法」の割合が11.3ポイント高くなっている。

(単位: MA%)	今回調査			前回調査(令和2年)		
	全体 (n=1,365)	女性 (n=723)	男性 (n=477)	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
男女共同参画社会基本法	33.7	31.0	40.5	30.7	27.5	38.5
女子差別撤廃条約	14.5	14.5	17.4	17.1	16.3	19.4
ポジティブ・アクション(積極的差別是正措置)	6.5	5.9	8.0	7.0	7.7	6.5
ジェンダー(社会的・文化的性別)	74.9	79.9	77.1	52.8	55.5	52.7
男女雇用機会均等法	74.1	74.6	79.5	72.8	74.0	76.6
ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	44.1	44.8	49.1	32.1	32.0	35.2
LGBTQ	58.0	59.8	62.7	54.0	57.0	53.9
SOGI(性的指向、性自認)	5.6	4.8	6.9	4.0	4.0	3.8
ダイバーシティ	43.2	41.2	52.2			
子ども・子育て支援法	61.5	66.1	61.4	50.2	54.0	47.4
育児・介護休業法	51.3	55.5	52.0	43.7	46.1	42.8
配偶者暴力防止法(DV防止法)	52.4	53.8	56.4	78.5	79.8	80.1
ストーカー規制法	75.0	75.2	82.2	71.3	72.4	74.3
リベンジポルノ防止法(私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関する法律)	45.3	44.8	52.8	40.2	38.8	46.3
女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)	18.5	18.1	22.4	16.3	15.2	17.7
候補者男女均等法(政治分野における男女共同参画の推進に関する法律)	7.2	5.5	10.9	7.7	5.8	10.0
こども基本法	24.3	22.0	30.4			
LGBT理解増進法(性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律)	17.7	16.0	22.6			
「刑法及び刑事訴訟法の一部を改正する法律」及び「性的な姿態を撮影する行為等の処罰及び押収物に記録された性的な姿態の影像に係る電磁的記録の消去等に関する法律」	7.5	6.2	10.9			
困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	4.1	4.1	3.4			
見たり聞いたりしたものはない	3.0	2.4	2.7	2.5	2.0	2.7
無回答	5.6	3.5	3.8	4.8	3.2	3.0

※「ダイバーシティ」「こども基本法」「LGBT理解増進法(性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律)」「刑法及び刑事訴訟法の一部を改正する法律」及び「性的な姿態を撮影する行為等の処罰及び押収物に記録された性的な姿態の影像に係る電磁的記録の消去等に関する法律」「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」は今回調査の新規項目。

※前回調査の「LGBT」は、今回調査では「LGBTQ」に変更。

## (2) 男女共同参画に関する堺市の施策や取組で知っているもの

問36 次の施策、取組のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

全体は、「見たり聞いたりしたものはない」(56.6%)が最も多く、次いで「さかい男女共同参画プラン」(13.3%)となっている。

性別で見ると、女性の「さかい男女共同参画プラン」「堺市配偶者暴力相談支援センター」「堺自由の泉大学」の割合は男性に比べて5ポイント以上高くなっている。一方、「見たり聞いたりしたものはない」の割合は男女とも50%を超えており、男女とも前回調査より高くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査(令和2年)		
	全体 (n=1,365)	女性 (n=723)	男性 (n=477)	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
堺市男女平等社会の形成の推進に関する条例	7.4	7.3	7.1	7.4	7.0	8.3
さかい男女共同参画プラン	13.3	15.9	10.1	15.4	16.3	14.9
堺市男女平等に関する苦情・相談処理制度	4.6	4.6	4.6	6.0	5.1	7.0
堺市パートナーシップ宣誓制度	9.5	11.9	7.8	8.7	8.9	9.0
堺市配偶者暴力相談支援センター	11.0	13.6	8.4	12.8	13.7	11.1
堺市男女共同参画交流の広場	7.5	8.6	6.3	7.2	7.8	6.8
女と男がいきるのやSAKAI宣言	1.1	1.5	0.6	2.1	2.0	1.7
セーフシティさかい(堺セーフシティ・プログラム)	7.3	9.0	5.5	5.7	5.8	5.8
堺自由の泉大学	7.5	10.2	3.8	15.0	20.2	6.8
見たり聞いたりしたものはない	56.6	52.7	66.7	48.9	46.7	56.4
無回答	9.9	7.5	7.1	11.0	9.2	8.6

※前回調査の「堺市配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護に関する基本計画(DV防止基本計画)」は今回設けていない。

### (3) 男女共同参画社会実現のために国や府、堺市が力を入れるべきこと

問37 女性も男性もともにいきいきと暮らせる男女共同参画社会実現のために、国や大阪府、堺市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

全体は、「育児・介護等を支援する施設、サービスを充実する」(59.9%)が最も多く、次いで「育児・介護中の仕事の継続や再就職を支援する」(55.9%)となっている。

性別で見ると、女性の「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」「幼少期からの生涯を通じた健康増進や性に関する教育・相談事業を推進する」の割合は男性に比べて5ポイント以上高くなっている。

前回調査との比較で見ると、いずれの項目も前回より高い割合となっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査(令和2年)		
	全体 (n=1,365)	女性 (n=723)	男性 (n=477)	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
男女が平等になっていない法律や制度の見直しを行う	49.2	49.9	53.5	45.3	47.7	45.3
審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する	30.3	31.4	32.5	27.4	29.4	26.0
企業などが女性の積極的な登用や男女の均等な取扱いを進めるよう働きかける	35.9	38.6	36.1	32.4	34.8	30.2
育児・介護等を支援する施設、サービスを充実する	59.9	64.7	60.8	59.4	65.2	55.2
育児・介護中の仕事の継続や再就職を支援する	55.9	60.2	58.3	50.1	55.5	45.1
ひとり親家庭や生活困難家庭の相談事業などの支援を充実する	40.7	43.6	42.6	40.4	43.6	37.6
仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める	46.6	52.7	44.9	41.9	46.1	39.3
セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力等の防止や被害者への支援を充実する	33.9	36.0	34.6	30.2	31.8	30.3
幼少期からの生涯を通じた健康増進や性に関する教育・相談事業を推進する	30.0	33.3	27.9	26.0	28.7	23.7
学校教育や生涯学習の場で男女共同参画に向けた学習を充実する	36.6	39.4	37.3	29.0	30.2	29.5
政策・方針決定に関わる者や管理職の意識改革を進める	25.4	25.6	28.3	21.4	21.4	22.7
男女共同参画に関する広報、情報提供、啓発活動を充実する	26.2	25.7	30.0	20.6	20.8	21.7
その他	1.4	1.0	1.5	1.8	1.5	2.5
特になし	5.7	3.7	8.4	4.5	3.7	6.1
無回答	5.7	3.3	2.9	7.7	4.8	5.3

## 11 自由意見

問38 男女共同参画社会の実現にあたってご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

122名から延べ139件の意見が寄せられた。意見分類ごとの件数は以下のとおりである。

(単位：件)	全体	女性	男性	無回答※
男女共同参画の推進の方法	20	8	9	3
性別役割分担意識の肯定・根強さ（区別は必要、男・女らしさは必要等）	17	8	9	-
教育の重要性	15	10	3	2
意識啓発の必要性（啓蒙・広報・PR）	13	11	1	1
ワーク・ライフ・バランスの重要性（労働時間・育児・育児休業取得）	11	6	5	-
本調査への意見	9	4	3	2
女性登用について（実力で選ぶべき等）	8	4	3	1
堺市への意見	8	6	2	-
男女平等社会実現の難しさ	7	2	5	-
男女平等への意識	7	4	2	1
男女というより人間として尊重すること、多様性を認めることが重要	5	3	2	-
賃金の引き上げ（一人でも暮らせる・女性が働かなくても暮らせる）	5	3	2	-
企業における男女の意識・理解を深める	4	-	3	1
夫婦別姓の必要性	2	2	-	-
その他	8	7	1	-
延べ件数	139	78	50	11

※無回答…回答者の性別（FI）において無回答であった回答者

## IV 調査結果からみられる現状と課題 .....

調査結果に基づき、堺市民の男女共同参画、及び男女間における暴力に関する実態と意識の現状を考察し、課題を確認する。

今回の回収率は34.1%で、前回調査(40.9%)から6.8ポイント下がっている。今回はウェブによる回答を導入したが、紙による回答が7割以上を占め、ウェブによる回答は27.3%であった。各区ごとの回答率は概ね人口比に一致しており、大きな偏りはない【p.4】。

### (1) 回答者の属性にみる現状

回答者の構成は女性が53.0%、男性が34.9%と、女性の割合が多い【p.4】。堺市の調査対象者抽出時の人口構成は女性が52.7%で、男性が47.3%であることから、性別の偏りは男性の回答が少ないこと、及び無回答者が12.0%いることによるものと考えられる(前回調査6.1%)。

年齢階層分布については、30歳代以下が人口比(26.6%)に比較して17.2%と、9.4ポイント低く、50歳代以上が人口比(58.5%)に比較して66.5%と、8.0ポイント高く、高齢層への偏りがある【p.5】。

本調査の回答者の特徴として、前回調査同様に、①男女の学歴格差が大きい、②個人収入の男女間格差と勤務形態の違いが大きい、③高齢女性のひとり暮らしが多いという3点が挙げられる。

最終学歴は男女間には大きな違いがあり、大学・大学院卒業者の割合は男性の53.2%(前回調査40.5%)に対して女性は25.4%(前回調査19.3%)で、男性の上昇が著しい。短大などを加えても、男性は64.9%、女性は61.1%と、男性の方が割合は高い【p.6】。

収入については、世帯収入は、全体及び男女ともに200万円以上400万円未満が最も多く、400万円以上600万円未満がそれに続いて多い。全般的に男女間に目立って大きな差はないが、200万円未満層については男性10.7%に対して女性が15.6%と、差がある【p.10】。個人の収入については女性の39.3%が103万円未満で、130万円未満までを入れると48.3%と、5割に近い【p.11】。

勤務形態は、男性は常時雇用の正社員または正職員が45.9%と最も多く、30~40歳代では80%前後、50歳代も70%を超えているのに対し、女性は臨時雇用、パート・アルバイト、非常勤、派遣等の非正規社員(職員)が28.2%、専業主婦が20.2%で、常時雇用の正社員または正職員は22.4%にとどまる【問10(p.9)】。個人収入と勤務形態には大きな男女差があり、男性が世帯の稼ぎ手である傾向が顕著である。

同居の家族構成の特徴としては、70歳以上の女性のひとり暮らしの割合が26.1%と、同年齢の男性15.3%に比べて10.8ポイント高いことが挙げられる【p.8】。なお、70歳代以上の女性の世帯収入は33.6%が、個人収入は69.7%が200万円未満であり、70歳代以上の男性の世帯年収の16.0%、個人収入は32.0%が200万円未満であることとは大きな格差がある【p.10-11】。

こどものいる回答者は全体で68.0%であるが、そのうち高校卒業前までのこどものいる人は37.3%である。こどものいる人のうち未就学児は10.6%、小学生は11.3%である【p.7】。<sup>1</sup>

<sup>1</sup> なお母と子の2世代は7.4%、父と子の2世代が1.6%である。18歳以下のこどもと暮らす母子世帯は、母子世帯総数の10.0%(実数6)にとどまり、分析は困難である。

## (2) 男女共同参画社会に関する意識と現状・課題

男女共同参画社会に関する意識は前回調査時に比べて変化しており、特に女性及び若年層のジェンダー平等意識の進展は大きい。しかし属性や生活時間などに示されるように、生活実態は依然として性別役割分業に基づいており、意識と実態のギャップは女性に顕著である。29歳以下及び30歳代では労働時間の男女の差が縮小しているものの、育児や介護に費やしている時間をみると、平日・休日ともに女性の方が費やしている時間が長く、負担感につながっている可能性もあることが推察される。男性は29歳以下でジェンダー平等意識が浸透しているが、同時に現状を女性優遇であるとする認識もみられる。性別にかかわらず自分らしく生きることのできる男女共同参画社会の実現に向けて、学校教育や市民啓発活動の推進、労働環境の改善、育児介護への社会的支援が更に求められる。

### ■男女の役割や地位に関する意識について全体に「平等」の認識が増えているが、若年層に新しい傾向がみられる【問1 (p.13-22) , 問3 (p.34)】

全体に「平等である」が増えている。「家庭生活」「就職活動の場や職場」など人々の生活に身近な場については、男女の認識の差は依然として大きく、女性の男性優遇感は男性より10ポイント以上高い項目が多い。「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」については男女の認識が近づく傾向がみられる。一方、女性の女性優遇感が若年層を中心に増加していることは特徴的である。

「家庭生活」は女性の側にも女性優遇感が29歳以下に顕著に現れている(16.4%)が、30歳代以上の女性では男性優遇感は60%を超えている。男性では30歳代から60歳代以下の年齢階層で女性優遇感が前回調査から上昇し、30歳代では19.2%に及んでいる。「就職活動の場や職場」は、女性では、男性優遇感が微減して平等が増加しているのに対し、男性では女性優遇感が増加している。年齢階層別にみると、29歳以下の男性では23.1%、30歳代の男性では23.4%と顕著に高く、40歳代、50歳代も前回調査から上昇している。「学校教育の場」は、男性の29歳以下では女性優遇感が25.6%と、前回調査(14.1%)から10ポイント以上上昇し、30歳代も上昇傾向を示している。「政治の場」においても29歳以下及び30歳代男性で、女性優遇感が10%以上に及んでいる。しかし「政治の場」は、女性の男性優遇感は86.3%と前回調査(86.2%)と同様に高く、男性の男性優遇感も30歳代及び50歳代を除いて前回調査から上昇し、74.5%に達している。つまり、男性においては女性優遇感が上昇し、また男性優遇感も上昇するという二極分解傾向がみられる。

また、女性が増えた方がよいと思う職業については、国会議員・地方議員が59.8%で、前回調査最多の医師の56.7%を超えた。大臣や閣僚、首長など、政治関連職がそれに続き、政治における男女格差の解消を求める傾向は前回調査から更に強くなっている【問3 (p.34)】。

「法律や制度の上」でも29歳以下の男性では、女性優遇感が35.9%と、前回調査の17.2%から倍増している。一方「社会通念・慣習・しきたりなど」は、29歳以下の男性では、男性優遇感が64.1%と、前回調査の50.0%から10ポイント以上上昇し、30歳代、40歳代も増えている。女性は29歳以下で平等感が増えているが、30歳代以上は従来通り男性優遇感が強い。「社会全体として」では、女性の83.4%が「男性が優遇されている」と回答したのに対し、男性は66.3%にとどまっており、その差は15ポイント以上に及ぶ。29歳以下及び

30歳代男性は女性優遇感が20%を超えている。社会の男性優遇についての男女間の認識の差は依然として顕著である。

■ジェンダー平等意識は高まっているが、矛盾もある。【問2 (p.23-33), 問4～8 (p.35-56)】

●性別役割分担意識の動向【問2-A (p.25-26)】

夫婦の性別役割分業「夫は外で働き、妻は家庭をまもるべきである」についての評価は長年ジェンダー意識の指標として使用されてきた。今回は女性の回答は「そう思わない計」が74.4%と前回調査の68.4%を更に上回り、男性も前回調査の54.7%から64.6%と、60%を超えた。世代別にみると女性では、30歳代以上のすべての年齢階層で上昇し、特に50歳代以上では前回調査に比べて大幅な上昇がみられるのに対し、29歳以下では85.5%から76.1%に減少した。男性は29歳以下が82.1%と、前回調査の75.0%から更に7.1ポイント上昇し、40歳代は78.0%と前回調査の56.0%から22.0ポイントの大幅な上昇を示した。50歳代以降も10ポイント前後の上昇をみせているが、30歳代だけが68.1%と、前回調査の82.5%から14.4ポイントも減少している。29歳以下は男性が82.1%に対して女性は76.1%と逆転し、30歳代は女性が80.0%に対して男性は68.1%と10ポイント以上高い。

勤務形態別にみると、男女とも正社員(職員)で「そう思わない」が最も高い(女性87.1%, 男性68.5%)。

●夫婦別姓には女性の7割、男性も6割近くが賛成しているが、若年層では減少傾向がみられる【問2-G (p.32)】

女性は70.0%が、男性は58.3%が「希望すれば夫と妻が別姓を名乗っても構わない」に賛成している。男女とも前回調査(女性65.6%, 男性53.6%)から更に上昇し、特に40歳代以上での上昇傾向は共通している。しかし、29歳以下及び30歳代については、男女とも前回調査より減少している。女性29歳以下が86.7%から79.1%、30歳代が85.1%から80.0%へ、男性29歳以下が前回調査の75.0%から61.6%、30歳代が61.4%から55.3%へと大幅に落ち込み、40歳代以上の上昇とは対照的な動きをみせている。

●育児・介護についての認識はジェンダー平等化に向かっている【問2-C (p.28), 問2-D (p.29)】

「介護は男性よりも女性がするべきである」について、全体で82.4%、40歳代以下では女性の9割以上、男性も9割近くが「そう思わない」と回答している【問2-D (p.29)】。

「育児は父親よりも母親がするべきである」についても「そう思わない」が女性の72.9%、男性の59.7%と、前回調査(女性66.4%, 男性53.4%)から増加した【問2-C (p.28)】。

後述する男性の育児・介護など休業の取得についての質問でも、性や年齢階層にかかわらず、ほぼ9割前後が「取得した方がよい計」と答えている【問13 (p.74-75)】。

家庭における役割についてもほとんどの項目は男女とも「(夫婦)同じ程度の役割」という回答が最多である。「生活費を稼ぐ」は男女とも「夫の役割」とする回答の方が多く、特に男性は64.6%が「夫の役割」としている。また「育児(乳幼児の世話)」については、男性の回答は「妻の役割」とするものが50.9%で、「同じ程度」の47.6%より多い【問4

(p. 35-46)】。

「同じ程度」及び「妻の役割」が拮抗する状況は男女それぞれの回答にもみられる。

全般的に家庭生活での役割についての意識はジェンダー平等に向かっているが、次の生活時間の分布の状況から、実態は依然として女性の負担が大きい状況がみられる。

#### ■生活時間の分布は根強い性別役割分業を示し、現状は依然として女性が担う割合が大きい【問17 (p. 84-87)】

男性の家事時間は「なし」～「1時間未満」が平日で62.5%、休日は42.5%である。それに対して女性は平日「1時間～4時間未満」で63.2%に達し、休日でも62.9%で平日とそれほど変わることはない。

育児時間は若年層ほど長い。末子年齢6歳未満のこどもがいる男性の平日「5時間以上」0%、休日「5時間以上」51.5%に対して、女性は平日「5時間以上」が46.3%、休日は83.3%で、依然として女性が主に担っていると考えられる実態がある。上記でみたように、20～30歳代の育児観はジェンダー平等化しつつあるが、実態は男性の育児参加が困難な状況であることがわかる。

#### ●男性の家事・育児・介護などへの参加に必要な対策【問18 (p. 88)】

全体ではどの項目も前回調査を上回っている。男性の参加が必要であるという認識は男女ともに高まっている。最も多いのは「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が、全体で56.6%（前回調査52.8%）、女性は62.1%、男性は53.2%である。続いて多いのは、「小さいときから男女ともに、家事や育児に関わるしつけ・教育をすること」（49.9%：女性58.9%、男性42.1%、前回調査39.7%）、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」（49.6%：女性57.7%、男性45.5%、前回調査43.5%）である。「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」（46.2%：女性51.2%、男性43.0%、前回調査45.7%）、「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」（39.3%：女性44.4%、男性35.6%、前回調査36.9%）、「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」（38.8%：女性38.6%、男性44.2%、前回調査32.4%）、「家事、子育て、介護、地域活動の社会的な評価を高めること」（34.0%：女性34.0%、男性36.7%、前回調査31.9%）など、社会の変化を求める項目についても、いずれも前回調査を上回っている。しかし、女性と男性との差は10ポイント前後に及ぶものが少なくない。

#### ●こどもの教育については男女ともに性別役割を重視する傾向が強い【問5 (p. 47) , 問6 (p. 48-54) , 問7 (p. 55)】

こどもに受けさせたい教育程度は全体では前回調査より高学歴化しているが、こどもの性別による差は依然として大きい。女の子に対する希望が大学卒65.6%、大学院卒6.5%に対して、男の子に対する希望は大学卒72.8%、大学院卒9.2%と、合計すると約10ポイントの差がある。なお、回答者の性別による違いに差はなく、男女とも男の子に対する学歴期待は女の子に比べて高い。また、男性の回答は女性に比べて子の性別にかかわらず学歴期待が高い傾向が出ている。29歳以下男性の回答のうち、大学院卒は、女の子は12.8%に対

し男の子は17.9%と高い特徴がある【問5 (p.47)】。

こどもに身につけてほしいこと【問6 (p.48-54)】のうち「必ず身につけてほしい」ことは、最も多いのは、男の子は「自立できる経済力」(79.3%)、女の子は「自立心」(64.0%)である。女の子の「自立できる経済力」を「必ず身につけてほしい」とする回答が男女とも50%を超え、男性の51.6%に比べて女性は57.8%と、6.2ポイント高い。特に29歳以下及び30歳代女性の70%以上、40～50歳代女性の60%以上が「必ず身につけてほしい」と回答している。「家事・育児の能力」については、男女とも「必ず身につけてほしい」は男の子より女の子に対しての方が多く、40歳代以下の男性は男の子も「必ず身につけてほしい」が50%を超えており、同年代の女性よりも多い。「自立心」「個性を伸ばすこと」については全般的に女の子より男の子への期待がかなり大きく、その傾向は女性の回答も男性の回答も共通である。

学校教育への期待についての質問では、「男女が互いを尊重し合うことの大切さを教えるなど、男女平等の意識を育てる授業をする」が男性では67.3%と最も多いが、女性で最も多いのは「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する」で75.0%である。「DVやデートDVや性暴力の防止に向けた教育を行う」(女性64.2%、男性54.3%)、「性の多様性について正しく理解するための教育を充実する」(女性59.1%、男性47.8%)について女性の回答は男性に比べて約10ポイント高い【問7 (p.55)】。

#### ●こどもの育てかたについての矛盾【問2-B (p.27) , 問2-F (p.31)】

「こどもは、性別にとらわれずその子らしく育てるのがよい」について、「そう思う計」は男性の83.0%、女性の91.7%に達している【問2-F (p.31)】。しかし、それとは矛盾する「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい」は女性の35.0%、男性の58.5%が「そう思う計」と回答している【問2-B (p.27)】。女性より男性の方が、若年層より中高年層の「そう思う計」の回答は多い。女性はすべての年齢階層で、男性も29歳以下及び30歳代では50%以上が「らしく」を支持しない。「性別にとらわれず」という一般的な教育方針は中高年男性も含めて支持されるようになってきたが、「男らしく、女らしく」という具体的な考え方は変化しづらいと考えられる。大きな目標、抽象的な理念には合意する人が増えているが、具体的な場面ではジェンダー意識が依然として根強い傾向が推察される。

#### ●男性とは異なり、女性は夫に介護を期待しない【問8 (p.56)】

誰に介護されたいかは男女の回答が大きく異なる。男性の回答では「配偶者・パートナー」の50.3%が最も多いのに対し、女性は「ヘルパー等の専門家」が35.0%と最も多く、「施設での介護」が28.8%とそれに続き、「配偶者・パートナー」は20.9%にとどまる。続いて多いのが「娘」(女性13.7%、男性4.0%)で、「息子の配偶者・パートナー」は男女とも1%にも満たない。男性は29歳以下を除いて「配偶者・パートナー」が40%を超え、40歳代、50歳代、70歳以上では50%を超える。一方、女性は「ヘルパー等の専門家」と「施設での介護」がほとんどの年代で30%～40%代に及んでいる。

## ■仕事の平等には多くの課題がある

### ●女性の働き方の希望と実際の違い【問9 (p.57-60) , 問10 (p.9)】

女性の働き方についての希望と実際、男性には女性パートナーの働き方について尋ねている。女性の37.5%、男性の31.7%が、女性の就業継続を希望している。男性より女性の方が、また若年層ほど就業継続の希望する割合が高い。

男女とも29歳以下及び30歳代は、就業継続の希望が40%を超えている。一方、実際に就業継続できている者の割合は希望を大きく下回り、女性が就業継続できているとの回答は、女性23.2%、男性21.4%にとどまる。前回調査(女性28.7%、男性21.7%)に比べて女性の就業継続の希望する割合が男女とも高くなっており、実際とのギャップは依然として大きい。実際は「子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職している(再就職した)」が最多(女性27.0%、男性26.8%)である。なお、希望として「子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する(再就職したかった)」(女性22.0%、男性25.6%)は「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けたかった)」の次に多い。実際には「子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する(再就職したかった)」は少なく(男女とも10%未満)、常勤職による再就職が現在もなお困難であることがわかる。

実際に「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(続けていた)」との回答が最も多いのは30歳代女性の48.6%で希望の42.9%を上回っている。

現在専業主婦である人の中には「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けたかった)」と考える就業継続希望者は27.4%にのぼる。一方、実際は「結婚するまでは仕事をもち、結婚後は家事に専念している(専念していた)」とする者が32.2%と最も多く、一方、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(続けていた)」という就業継続者は5.5%にとどまっている。

### ●仕事についての認識は男女のギャップが大きい【問11 (p.62-72)】

前回調査に比べると全般的に「平等である」が増え、「男性が優遇されている」が減少している。特に「研修の機会や内容」の「平等である」が前回調査の50.7%から8.0ポイント増えて58.7%となっている。しかし、男女の認識の差は大きく、「研修の機会や内容」についても「平等である」は女性54.1%、男性70.9%と16.8ポイントの差があり、「男性優遇」については、女性38.9%、男性23.9%と15.0ポイントの差がある。「(A)募集・採用」から「(I)育児・介護などの休暇や休業の取得のしやすさ」に至るまで、女性の「男性優遇」の認識は男性に比べると高く、「募集・採用」(6.7ポイント)、「仕事の内容」(12.6ポイント)、「育児・介護などの休暇や休業の取得のしやすさ」(5.2ポイント)以外は男女間に15~20ポイント前後の差がある。特に「賃金」(17.1ポイント)、「昇進・昇格」(17.8ポイント)、「能力評価(業績評価・人事考課など)」(20.8ポイント)は男女差が大きい。「育児・介護などの休暇や休業の取得のしやすさ」は女性優遇が53.6%である唯一の項目であるが、「平等である」が前回調査の22.1%から6.7ポイント増えて28.8%となっている。

### ●対等に働くためには職場環境の整備が必要【問12 (p.73)】

男女が対等に働くために必要なことについては、「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場環境の整備」が69.5%と最も多く、女性では76.3%に達している。続いて「男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする」が67.0%、「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」が63.4%、「賃金・昇級の男女の格差をなくす」が62.4%と続く。半数の項目において、男女の回答には10ポイント程度の差があり、女性の方が必要性をより強く認識している。一方、「女性自身の職業に対する自覚・意欲を高める」は33.5%と、前回調査の32.2%と比較してほとんど変化はなく、女性の自覚・意欲といった女性個人の意識より職場環境の整備が重視される傾向は継続していると考えられる。

### ●男性の育児休業取得に関する意識の変化【問13 (p.74-75) , 問13-1 (p.76-78)】

男性の育児休業については、前回調査では介護、看護に比べて育児休業だけが、「取らない方がよい計」は11.9%と10%を超えていたが、今回はすべての休暇、休業について男女とも90%以上が「取った方がよい計」と回答している。育児休業について年代別にみると、男性の50歳代、70歳代がやや低く、80%代となっている。50歳代は「取らない方がよい計」が10.6%である。男性が休業や休暇を取得しないほうがよいと考える理由は「男性より女性がとるべきである」が全体では40.8%と最も多く、男性の回答では44.1%である。男性の回答でそれに続くのは「仕事の評価や配慮に影響する」が29.4%である。前回調査で「男性より女性がとるべきである」について多かった「職場の理解が得られない」は17.6%とは前回調査の31.9%に比べて大きく減少している。

## (3) 地域と安全に関する意識と課題

地域活動への参加意欲は、参加経験の有無にかかわらず前回調査と比較し低下している。その一方で防災活動への関心は高い。

自治会や町内会、老人会・女性会・青年会・こども会、学校のPTA活動、民生委員などの公的委員といった、地域活動について、参加経験の有無にかかわらず今後は参加したくないとする回答がいずれも40%を超えている【問14 (p.79-80)】。女性の参加経験は「自治会や町内会など」が54.5%、「老人会、女性会、青年会、こども会など」が40.4%、「学校のPTA活動」が44.8%といずれも男性より10ポイント以上多い。また参加経験者のうち、「今後は参加したくない」と回答した方は半数以上に及んでいる。「民生委員などの公的委員」の参加経験者は女性11.7%、男性7.7%で、女性の方が多いが、「わからない」が全体で41.2%に及び、活動の理解を深める必要がある。

参加したくない理由で最も多いのは「人間関係がわずらわしい」で全体53.3%、男女に差はなく、2番目に多い「仕事が忙しい」は29.7%と、23.6%の差がある。「性別や役割によって個人の負担が違う」は男性の9.5%、女性の10.1%が選択している。

一方、「防災訓練や講演会など地域での防災活動」については女性の45.7%、男性の44.6%が「参加したい」と答えている。また、「趣味・スポーツ・学習などのサークル活動」も女性の43.6%、男性の42.3%が「参加したい」と答えている。

防災対策への男女双方の視点の導入については、「避難所の設計・運営に男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」「防災に関する会議に男

女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること」「被災者に対する男女のニーズの違いに応じた相談体制や情報提供」「自主防災組織等に男女がともに参画し、地域で行われる防災活動に男女両方の視点が入ること」のいずれにおいても前回調査時より高くなり、関心が高まっている【問34 (p.134)】。地域における男女共同参画の視点を生かした防災活動は、女性や若者をはじめとする多様な市民の幅広い経験と意見を活かした地域活動のきっかけになることが期待される。

#### ■地域の安全に関する男女差について

「地域の安全・安心」に関するすべての項目で男性より女性の方が「そう思う計」の回答が少ない。【問15 (p.82)】「安心して子どもが外出や外遊びをすることができる」は男性の「そう思う計」が76.7%に対して女性は68.6%である。「夜道でも安心して歩くことができる」は男性の「そう思う計」が69.4%に対して女性は52.7%と、16.7ポイントの差がある。また日頃から取り組んでいる防犯対策について、「暗い夜道等はなるべく避けるようにしている（させている）」との答えは、男性が42.6%であるのに対し女性は71.2%と28.6ポイントの差がある。「地域の防犯活動により、安心して生活できる」は男性の55.5%、女性では49.1%と、男女間での差がみられた【問16 (p.83)】。

#### (4) ジェンダーに関連する暴力について：現状、意識、課題

暴力及び法律についての知識・認識は前回調査と比べ、より浸透している。しかし、依然として被害経験者は女性が多く、また、暴力と認識される行為に対する男女の差も大きい。また、配偶者や交際相手等からの暴力が暴力にあたらない場合があると思う理由について、「相手の間違いを正すために暴力が必要」という誤った認識も、女性が25.3%、男性は39.9%ある。【問23 (p.102-103)】有効な啓発、教育の検討が必要である。

配偶者や交際相手等からの暴力について、相談しなかった理由として、「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかった」の割合は前回調査からいずれも改善したものの、「相談してもむだだと思ったから」の割合は前回調査から横ばいであるなど、公的相談機関への期待が希薄であり、さらなる周知・啓発が必要である。

配偶者や交際相手等からの暴力被害による生活上の変化は女性の方が深刻である。男性の被害者は相談しない傾向が強い。今回の調査では、配偶者からの暴力の女性被害者が加害者である夫と別れたくても別れられない傾向は存在するが、別れることに踏み切れる女性は増加している。なお、被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やすことが求められている。また、地域・学校・家庭などで、暴力を防止するための教育を求めることも望まれている。暴力を防止するための教育は加害の抑止を可能にし、被害者も加害者も減らす抜本的な問題解決の可能性を開くものである。

#### ■暴力の経験

##### ●セクシュアル・ハラスメントなど、様々な暴力【問19 (p.89)】

いずれかの被害経験者は回答者全体の17.0%で、女性回答者の19.9%、男性回答者の13.2%である【問19-1 (p.90)】。被害経験者は女性が多く、場所はそのほとんどが職場である。

### ●性暴力【問20 (p.92)】

被害経験者は女性41.1%、男性4.6%である【問20 (p.92)】。女性は前回調査の13.1%に比べて大幅に増加しているが、これは今回の調査で初めて痴漢を対象としたことによるもので【問20-1 (p.93)】、女性の被害内容の85.2%が痴漢である。痴漢被害経験者は女性回答者全体の35.0%を占め、男性被害者も男性回答者全体の3.8%である。痴漢という、人の尊厳を踏みにじり心身に深刻な被害をもたらす性暴力に35.0%もの女性が晒され、男性にも被害者がいるという実態を深刻に受け止める必要がある。不同意性交等または不同意わいせつ行為は女性の被害内容の14.1%、男性の被害内容の18.2%を占めている。

痴漢の被害に遭った場所は「乗り物」(69.8%)、「路上」(29.9%)が大半を占める。不同意性交等または不同意わいせつ行為は「家・共同住宅エレベーター」が最も多い(42.6%)

【問20-2 (p.94)】。加害者との関係について、痴漢は「全く知らない人」が92.0%を占めるが、不同意性交等または不同意わいせつ行為は「親族・友人・顔見知り」が最も多く、61.7%を占めている【問20-3 (p.95)】。

### ●配偶者・交際相手等からの暴力(ドメスティック・バイオレンス)【問25 (p.106-109), 問26 (p.110-111)】

結婚経験者の中での配偶者からの暴力の被害経験者は回答者全体では33.2%、女性回答者では36.9%、男性回答者では29.9%である【問25 (p.106-109)】。被害内容は「人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど」が女性の28.2%、「なぐる、ける、物を投げつけるなど」が女性の20.8%、「嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど」が女性の10.4%である。すべての項目で男性に比べて女性が多く、特に「嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど」は女性の10.4%に対し男性2.9%である。

「こどもの前で暴力を振るう、こどもの前で一方的に非難する、こどもに暴力を振るう、こどもに危害を加える」などと言って脅すなどは女性12.4%(前回調査9.2%)、男性5.2%(前回調査5.2%)となっている。また被害経験者の中の、この1年間の被害経験については全体で「人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど」が46.2%と最も多いが、次に多いのが「こどもの前で暴力を振るう、こどもの前で一方的に非難する、こどもに暴力を振るう、「こどもに危害を加える」などと言って脅すなど」(27.6%)である。配偶者によるこどもへの暴力も全体で「大声でどなる、無視、存在否定、自尊心を踏みにじる行為など」が11.2%、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりする」が5.8%ある。「こどもの前であなたに暴力を振るったり、一方的に非難したりする」の回答は男性1.9%に対して女性が5.8%と高い【問31 (p.131)】。

交際相手からの暴力は、女性の34.0%、男性の22.8%が被害の経験がある【問26 (p.110-111)】。また全体では同居経験者の71.0%が、被害経験があると回答している【問26-2 (p.112-113)】。ただし、無回答者が2.1%あり、同居経験者のサンプル数も少ない。無回答者が多いことの背景には交際相手からの暴力についての知識がまだ十分とは言えず関心が必ずしも高くないという状況があると思われる。

配偶者からの暴力被害経験者の中で、「命の危険を感じた」ことのある人は女性の11.4%、

男性の2.2%、交際相手からの暴力被害経験者については女性の6.0%、男性の2.3%である【問29 (p. 127-128)】。

●配偶者・交際相手等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）被害女性が経済的困難により別れようとしても別れられない状況は続いているが、相手と別れた女性も増えている

配偶者からの暴力の被害経験者の中で「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が女性で36.8%と、前回調査の34.4%から高くなっている【問28 (p. 119-120)】。

別れなかった理由は、女性の67.6%が「子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから」、51.5%が「経済的な不安があったから」をあげている【問28-1 (p. 121-124)】。しかし「子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから」という理由については、「子どもをひとり親にしたくなかったから」が34.8%、「養育しながら生活する自信がなかったから」が32.6%を占めており、女性の「別れたいが別れない」理由の多くが経済的不安であることがわかる【問28-2 (p. 125-126)】。この傾向は前回調査とほぼ同じ結果で、女性の経済的困難への不安は依然として大きいことがわかる。一方、交際相手からの暴力の被害経験者の中で「相手と別れた」について女性は前回調査の19.5%から今回29.0%へと増えている。

●配偶者や交際相手からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）被害経験のある女性の深刻な生活上の変化【問30 (p. 129-130)】

配偶者からの暴力の被害経験者の生活上の変化については（「特にない」及び「無回答」除く）、男性18.2%に比べ、女性の40.0%が変化があったと回答している。女性の変化の内容は、「夜、眠れなくなった」21.6%、「心身に不調をきたした」25.9%、「自分に自信がなくなった」14.6%、「生きているのが嫌になった・死にたくなった」8.6%などで、「携帯電話の電話番号やメールアドレス、SNSのアカウントを削除した・変えた」を除く各項目で男性よりかなり高い。

交際相手からの暴力の被害経験者で生活上の変化があったのは（「特にない」及び「無回答」除く）女性の27.5%、男性の13.9%で、その内容も含めて、女性の割合が高い。

■暴力の認識【問23 (p. 102-103)】

暴力の認識については、すべての項目について「暴力に当たると思う」が男女とも50%以上であるが、ほとんどの項目において女性が男性を上回っている。

その中で、一つでも「暴力にあたるとは思わない」あるいは「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と答えた人は、女性の47.0%、男性の62.0%である【問23-1 (p. 104)】。

その理由として最も多いのは「夫婦間や交際相手間の喧嘩の範囲だと思うから」が女性44.7%、男性41.3%であるが、それに続くのが、「相手の間違いをただすために必要な場合があると思うから」で、男性の39.9%、女性の25.3%である。この項目は男女差が大きい。男女の対等な関係や女性の人権についての教育・啓発の必要性・重要性を示していると言える。

## ■暴力に関する相談

### ●セクシュアル・ハラスメントなど、様々な暴力【問19-1 (p.90)】

「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も多く、全体は52.2%、女性は43.1%、男性は74.6%である。相談しなかった理由は男女とも「相談するほどのことではないと思った」（全体56.2%、女性54.8%、男性59.6%）が最も多く、「相談してもむだだと思った」（全体35.5%、女性32.3%、男性40.4%）「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかった」（全体13.2%、女性14.5%、男性14.9%）が続いている。「相談してもむだだと思った」は女性は前回調査の45.1%から32.3%とかなり減少し、男性は前回調査の26.7%から40.4%と増加している。

相談先は、「友人や知人」（全体26.7%、女性34.7%、男性9.5%）、「家族や親戚」（全体16.4%、女性20.1%、男性9.5%）がほとんどを占めており、「職場の相談窓口」（全体5.2%、女性6.3%、男性3.2%）がそれに続く。いずれも女性に比べて男性の割合は低い。職場における対策や研修が重要であると同時に相談窓口の効果的な周知方法を検討する必要がある。なお、「自分さえがまんすれば、このままやっていけるといった」は全体で13.2%と前回調査の19.6%から大幅に減少している【問19-2 (p.91)】。

### ●性暴力【問20-4 (p.96)】

相談先は、「友人や知人」（全体27.0%、女性27.6%、男性13.6%）、「家族や親戚」（全体22.3%、女性24.2%、男性4.5%）が多いが、全体は52.1%、女性の51.9%、男性の72.7%が「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答している。男性は「友人や知人」、「家族や親戚」についても女性より10ポイント以上低く、相談しない傾向は女性以上に顕著である。公的機関では警察（全体5.4%、女性5.7%、男性4.5%）が多い。多くの相談先等が利用されていない状況については何らかの対策が必要と考える【問20-4 (p.96)】。

相談しなかった理由【問20-5 (p.97)】は、「相談してもむだだと思った」（全体38.9%、女性40.9%、男性31.3%）、「恥ずかしくてだれにも言えなかった」（全体33.0%、女性31.8%、男性37.5%）につづいて「どこ／だれに相談してよいかわからなかった」（全体26.5%、女性28.6%、男性12.5%）が多い。公的相談機関が十分認知されていないことがうかがえる。

### ●配偶者からの暴力/交際相手からの暴力【問27 (p.114-115)】

配偶者からの暴力については「どこ（だれ）にも相談しなかった」人が全体で41.4%、女性7.3%、男性48.4%である。相談先は他の暴力経験者と同様に、「友人や知人」（全体15.5%、女性20.0%、男性8.6%）、「家族や親戚」（全体13.8%、女性18.9%、男性5.4%）が大半を占めている。「警察」については全体は2.7%、男性5.4%に対して女性は1.6%にとどまる。女性は「民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）」が前回調査の1.8%から3.8%と増加している。

交際相手からの暴力については、「どこ（だれ）にも相談しなかった」人は全体で29.0%、女性の22.5%、男性の47.7%である。相談先は「友人や知人」（全体20.8%、女性26.0%、男性9.3%）、「家族や親戚」（全体6.5%、女性8.3%、男性4.7%）にとどまる。

配偶者や交際相手からの暴力についての相談後の評価について「相談してよかった計」が女性の66.6%、男性の63.2%である【問27-1 (p.116)】。配偶者からの暴力について相

談しなかった理由として、前回調査では、「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」が女性21.9%、男性8.6%であったが、今回女性13.0%、男性6.7%と、減少している【問27-2 (p.117-118)】。

#### ■DV防止法/デートDVについての認知度等【問21 (p.98-100)】

「DV防止法」については、全体では77.2%が「知っている」と回答し、男女の差はほとんどない。しかし、「あることは知っていたが、内容はよく知らない」が53.4%を占めており、さらなる周知が必要である。

「デートDV」については、「知っている」という回答は女性が57.3%で、男性の53.0%に比べて多い。また若い世代の方が知っている人が多く、29歳以下では「知っている」が女性も男性も70%前後に達している。

#### ■DVに関する相談窓口の認知度【問22 (p.101)】

DVについての相談窓口は女性の22.5%(前回調査45.4%)、男性の26.6%(前回調査53.6%)が「知らない」と回答している。「知らない」と回答した者は、前回調査に比べて、女性で22.9ポイント、男性で27.0ポイントも下がっている。

知っている相談窓口で最も多いのは男女とも「警察」で、60%を超えている。警察以外では、「堺市各区役所「女性相談」」は女性23.0%、男性11.5%が、「民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）」は女性16.7%、男性14.0%）である。

公共の相談機関の周知に引き続き取り組む必要がある。

#### ■男女間の暴力防止に必要なこと【問33 (p.133)】

女性で最も多いのは「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(59.5%)で、男性は「加害者への罰則を強化する」(57.2%)である。「地域・学校・家庭などで、暴力を防止するための教育を行う」がそれらに続く(女性46.1%、男性42.8%)。

### (5) 男女共同参画に関する言葉や施策について

国や行政の男女共同参画関係の制度や施策は前回調査と比べて認知度は増しているが、堺市の施策や取組について、「見たり聞いたりしたものはない」の割合が、前回調査と比べ、全体で56.6%(前回調査48.9%)、女性は52.7%(前回調査では46.7%)、男性は66.7%(前回調査56.4%)と増加。実施している施策や取組について周知が必要である。

#### ■男女共同参画に関する言葉や法律の認知度【問35 (p.135)】

全体では「ストーカー規制法」(75.0%)が最も多く、「ジェンダー(社会的・文化的性別)」(74.9%)、「男女雇用機会均等法」(74.1%)が続いている。「ジェンダー(社会的・文化的性別)」は前回調査の52.8%から22.1ポイント上昇している。配偶者暴力防止法(DV防止法)は前回調査の78.5%から52.4%に減少している。

男女共同参画施策の根拠である「男女共同参画社会基本法」は前回調査の30.7%から33.7%とやや上昇した。「女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する

法律)」は18.5%と、前回調査の16.3%から2.2ポイント増加したものの、「女子差別撤廃条約」は14.5%（前回調査17.1%）、「ポジティブ・アクション（積極的差別是正措置）」は6.5%（前回調査7.0%）と前回調査と比較しても低く、男女共同参画の趣旨と意義の浸透を図る必要がある。近年に制定された新たな法律では、「こども基本法」は24.3%、「LGBT理解増進法（性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律）」は17.7%、「刑法及び刑事訴訟法の一部を改正する法律」及び「性的な姿態を撮影する行為等の処罰及び押収物に記録された性的な姿態の影像に係る電磁的記録の消去等に関する法律」は7.5%、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」は4.1%という状況であり、さらなる周知が必要である。

#### ■堺市の男女共同参画に関する施策の認知度【問36（p.136）】

全体では「さかい男女共同参画プラン」（13.3%）、「堺市配偶者暴力相談支援センター」（11.0%）、女性では「堺市パートナーシップ宣誓制度」（11.9%）、「堺自由の泉大学」（10.2%）などが高い。しかしその他は低くとどまり、「見たり聞いたりしたものはない」が全体で56.6%と過半数を占めており、さらなる周知が必要である。

#### ■男女共同参画社会実現のために国や府、堺市が力を入れるべき施策【問37（p.137）】

全体では、「育児・介護等を支援する施設、サービスを充実する」が59.9%と最も多く（女性64.7%、男性60.8%）、「育児・介護中の仕事の継続や再就職を支援する」が55.9%（女性60.2%、男性58.3%）とそれに続く。多くの項目で女性が男性を上回る。前回調査と比較すると、女性も男性も多くの項目で増えている。

1 男女の役割や地位に関する意識についておたずねします。

問1 あなたは、次にあげる分野で、男女はどの程度平等になっていると思いますか。  
(それぞれ○は一つ)

	男性が優遇されている	どちらかといえは男性が優遇されている	平等である	どちらかといえは女性が優遇されている	女性が優遇されている
A 家庭生活で	1	2	3	4	5
B 就職活動の場や職場で	1	2	3	4	5
C 地域活動の場で（自治会やPTAなど）	1	2	3	4	5
D 学校教育の場で	1	2	3	4	5
E 政治の場で	1	2	3	4	5
F 法律や制度の上で	1	2	3	4	5
G 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5
H 社会全体として	1	2	3	4	5

問2 次の考え方について、あなたはどのようになりますか。(それぞれ○は一つ)

	そう思う	どちらかといえはそう思う	どちらかといえはそう思わない	そう思わない
A 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4
B 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい	1	2	3	4
C 育児は父親よりも母親がするべきである	1	2	3	4
D 介護は男性よりも女性がするべきである	1	2	3	4
E 理科や数学は、女子よりも男子が向いている	1	2	3	4
F 子どもは、性別にとらわれずその子らしく育てるのがよい	1	2	3	4
G 希望すれば夫と妻が別姓を名乗っても構わない	1	2	3	4
H 性の多様性（下記参考）を認めるべきである	1	2	3	4

※性の多様性…身体だけでなく、心の性（性自認、自分が感じている性）、好きになる性（性的指向、誰を好きになるか）、社会的な性（社会的にどうふるまうか）などがあります。性のあり方は一人ひとりに個性があるように、その表れ方や割合も人によって異なります。

令和7年度堺市男女共同参画に関する市民意識・実態調査

2025年（令和7年）7月

■本調査について

本調査は、市民の皆さまの男女共同参画に関する日頃の意識や行動をはじめ、男女共同参画施策に対するご意見やお考えなどを把握するために実施するものです。

■回答にあたってのお願い

- この調査は、18歳以上の市民の皆さまの中から、無作為に4,000人の方を選ばせていただきます。調査票をお送りしています。回答はあて名のご本人のお考えをお願いします。
- 令和7年8月7日(木)までに投函ください。  
調査票に直接ご記入いただき返信用封筒（切手不要）に入れ、ポストに投函ください。  
※郵送によるご回答の場合は、ボールペンまたは鉛筆であてはまる番号を選んで○をつけてください。（記述を必要とする箇所もございます）  
※パソコン・スマートフォン・タブレットをご使用いただき、専用の回答ページからも回答いただけます。その場合は本調査票による回答（投函）は不要です。

回答専用サイトはコチラから  
  
<https://src.webcas.net/form/pub/src/271403dj>

※回答専用サイトへのログインの際には、次のID・パスワードを入力してください。

◇ID  ◇パスワード

\*ID・パスワードは、回答専用画面に入るための認証キーで、紙の調査票とインターネットで同じ方による二重回答を防ぐために付いています。どの方にもID・パスワードを送付したのには一切関係してあらず、回答者個人を特定することはできません。

- この調査への回答は任意です。設問によって、回答できない場合または回答したくない場合は、次の設問にお進みください。
- 上記方法でご回答が難しい方は、下記<お問い合わせ>に記載の連絡先へご相談ください。

■個人情報の取扱いについて

- 調査票および返信用封筒には、氏名、住所の記入は不要です。
- 調査票の送付に使用した氏名、住所は、本調査票の送付のためにのみ使用し、それ以外の目的には一切使用いたしません。

<お問い合わせ>

堺市 市民権局 ダイバーシティ推進部 ダイバーシティ企画課  
 電話：(072) 228-7408  
 FAX：(072) 228-8070  
 E-mail：daikicity.sakai.lg.jp

問3 あなたが、今後女性がもっと増えた方がよいと思う職業や役職はどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 大臣や閣僚                | 2. 地方自治体の首長 (知事、市長など) |
| 3. 国会議員、地方議員などの政治家      | 4. 国家公務員・地方公務員の管理職    |
| 5. 裁判官・検察官・弁護士          | 6. 大学教授               |
| 7. 企業の管理職               | 8. 起業家・経営者            |
| 9. 団体 (組合、NPO、自治会等) の役員 | 10. 学校長・大学学長          |
| 11. 新聞、放送の記者            | 12. 医師                |
| 13. 科学者                 | 14. その他 (具体的に )       |
| 15. 特にない                |                       |

2 家庭生活についておたずねします。

問4 家庭における役割について、あなたはどのようなようにお考えですか。配偶者・パートナーがいない方は、仮にしていることを想定してお答えください。(それぞれ○は一つ)

※「配偶者・パートナー」には、婚姻届を出していない事実婚の相手も含みます。

	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両向き程度の役割	妻の役割	どちらかといえば主として妻の役割
A 生活費をかせぐ	1	2	3	4	5
B 日々の家計の管理をする	1	2	3	4	5
C 日常の家事 (炊事、買物、洗濯、掃除など)	1	2	3	4	5
D 老親や病身者の介護や看護	1	2	3	4	5
E こどもの教育としつけ	1	2	3	4	5
F 育児 (乳幼児の世話)	1	2	3	4	5
G 自治会、PTAなど地域活動への参加	1	2	3	4	5

3 こどもの教育についておたずねします。

問5 あなたのことにも、どの程度までの教育を受けさせたいと思いますか。女の子、男の子それぞれについてお答えください。子育てをしていない方も、子育てをしていると想定してお答えください。(それぞれ○は一つ)

	女の子	男の子
1. 中学校	1. 中学校	
2. 高等学校	2. 高等学校	
3. 専門・専修学校	3. 専門・専修学校	
4. 短期大学、高等専門学校	4. 短期大学、高等専門学校	
5. 大学	5. 大学	
6. 大学院	6. 大学院	
7. その他 (具体的に )	7. その他 (具体的に )	

問6 あなたのことにも、次のことをどのくらい身につけてほしいと思いますか。女の子、男の子それぞれについてお答えください。子育てをしていない方も、子育てをしていると想定してお答えください。(それぞれ○は一つ)

	女の子	男の子
A 自立できる経済力	1	2
B 家事・育児の能力	1	2
C 家族や周囲の人と円満に暮らす力	1	2
D 個性を伸ばすこと	1	2
E 自立心	1	2

問7 男女平等を推進するために、学校で行うとよいと思うものはどれですか。

(あてはまるものをすべてに○)

1. 学校生活の中で、性別による役割分担をなくす(性別による役割分担の例：リーダー的役割は男子で、女子は補佐役など)
2. 進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する
3. 男女が互いを尊重し合うことの大切さを教えるなど、男女平等の意識を育てる授業をする
4. 男女平等についての理解が深まるように教職員に研修を行う
5. 校長や教頭に女性を増やす
6. 保護者に対して、様々な機会を通じて男女平等に対する理解を促す
7. 性の多様性について正しく理解するための教育を充実する
8. ※DVやデートDV(下記参考)や性暴力の防止に向けた教育を行う
9. その他(具体的に )
10. 学校教育の中でする必要はない

※DV(ドメスティック・バイオレンス)…配偶者等からの暴力  
 デートDV…結婚していない交際の男女間等でおこる暴力

4. 介護についておたずねします。

問8 もしあなた自身に介護が必要になった場合、一番介護されたい方をおひとり選んで、お答えください。(○は一つ)

1. 配偶者・パートナー
2. 息子
3. 娘
4. 息子の配偶者・パートナー
5. 娘の配偶者・パートナー
6. 自分のきょうだい
7. ヘルパー等の専門家(在宅サービス)
8. 施設での介護
9. その他(具体的に )

5. 仕事についておたずねします。

問9 「女性の働き方」について、あなたの①希望と②実際はどれにあてはまりますか。(それぞれ○は一つ)

※女性の方はご自身について、男性の方はご自身の配偶者・パートナー(女性)に対しての①希望、②実際についてお答えください。配偶者・パートナーがいない方は、仮にこのことを想定してお答えください。

※選択肢内の( )は過去に結婚や出産・子育ての時期を経験された方を想定しています。

①希望

1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けたかった)
2. 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(専念したかった)
3. こどもができるまで仕事をもち、こどもができたら家事や子育てに専念する(専念したかった)
4. 子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する(再就職したかった)
5. 子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職する(再就職したかった)
6. 仕事には就かない
7. その他(具体的に )

②実際

1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(続けていた)
2. 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念している(専念していた)
3. こどもができるまで仕事をもち、こどもができたら家事や子育てに専念している(専念していた)
4. 子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職している(再就職した)
5. 子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職している(再就職した)
6. 仕事には就いていない
7. 配偶者・パートナーがいない及び結婚や出産・子育ての時期を経験していない
8. その他(具体的に )

問10 あなたの現在の勤務形態はどれに当てはまりますか。(○は一つ)

また現在、専業主婦・主夫、無職等で働いていない方は、問10-1の現在働いていない理由についてもお答えください。

1. 常時雇用の正社員または正職員	
2. 臨時雇用、パート・アルバイト、非常勤、派遣等の非正規社員（職員）	
3. 自営業主または家族従業員者	
4. 学生	
5. 専業主婦・主夫	
6. 無職（専業主婦・主夫を除く）	
7. その他（具体的に）	

「5」「6」と回答した方→問10-1△  
それ以外の方→問11△

問10-1は、問10で「5. 専業主婦・主夫」、「6. 無職」と回答した方にお聞きします。(あてはまるものすべてに○)

問10-1 現在働いていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 保育施設に入所できなかったから
2. 延長保育や一時預かり、休日保育などの保育サービスが身近にないから
3. 仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないから
4. 家事・育児について、配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから
5. 介護・看護について、配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから
6. 介護・看護について、施設やサービスを利用できなかったから
7. 働くことについて配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから
8. 働くことで家族に迷惑がかけると感じるから
9. 仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないから
10. 仕事に必要な知識や能力が備わっているか不安を感じるから
11. 家事・育児に専念したかったから
12. 介護・看護に専念したかったから
13. 今は働きたいとは思わないから
14. 失業したから
15. 年金収入等により働かなくても生活できるから
16. 高齢のため
17. その他（具体的に）

ここからはすべての方にお聞きします。

問11 あなたは、仕事に関する次のことについて、性別による差があると思いますか。(それぞれ○は一つ)

	男性が優遇されている	男女が平等である	女性が優遇されている
A 募集・採用	1	2	3
B 賃金	1	2	3
C 仕事の内容	1	2	3
D 昇進・昇格	1	2	3
E 管理職への登用	1	2	3
F 能力評価（業績評価・人事考課など）	1	2	3
G 研修の機会や内容	1	2	3
H 働き続けやすい職場環境の整備	1	2	3
I 育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ	1	2	3

問12 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 女性の採用を拡大する
2. 賃金、昇給の男女の格差をなくす
3. 男性中心の組織運営を見直し、女性の管理職への登用を進める
4. 男女ともに、能力を発揮できる配置を行う
5. 男女ともに、教育・研修機会を充実する
6. 結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場環境の整備
7. 男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする
8. 育児・介護の施設や支援制度の充実
9. 職場におけるセクシュアル・ハラスメントなどをなくす
10. 職場において男女が対等であるという意識を普及させる
11. 女性自身の職業に対する自覚・意欲を高める
12. 男性自身の意識を変える
13. 短時間勤務、フレックスタイム（時差出勤）、テレワーク（在宅勤務等）など時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の普及
14. 長時間労働を見直し、仕事と家事・育児等との両立（ワーク・ライフ・バランス）を実現する
15. その他（具体的に）
16. わからない

問13 男性が、休業や休暇を取得することについてどう思いますか。(それぞれ〇は一つ)

	取 り ま た よ い	と ら か た い き は 取 ら な い 方 が よ い	と ら か た い き は 取 っ た 方 が よ い	取 ら な い 方 が よ い
A 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）	1	2	3	4
B 子の看護休暇（病気等のこどもの看護のための年5日程度の休暇）	1	2	3	4
C 介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）	1	2	3	4
D 介護休暇（短期の介護のための年5日程度の休暇）	1	2	3	4

「3」「4」と回答した方→問13-1へ  
それ以外の方→問14へ

問13-1は、問13で取らない方がよい（「3」）または「4」と回答した方にお聞きします。

問13-1 それぞれ取らない方がよいと考える理由は何ですか。

問13 A～Dで「3」または「4」と回答した項目のみお答えください。  
(それぞれあてはまるものすべてに〇)

経済的に苦しくなる	1	2	3	4	5	6	7	8
職場の理解が得られない	1	2	3	4	5	6	7	8
仕事の進捗や配属に影響する	1	2	3	4	5	6	7	8
男性より女性が取るべきである	1	2	3	4	5	6	7	8
男性が育児や介護の地域ネットワークに参加しにくい	1	2	3	4	5	6	7	8
男性は育児・介護に慣れていない	1	2	3	4	5	6	7	8
周囲に取得した男性がいない	1	2	3	4	5	6	7	8
その他（具体的に）	1	2	3	4	5	6	7	8

6 地域・生活全般についておたずねします。

問14 あなたは、現在お住まいの地域で、次の活動に参加したことはありますか。また、今後参加したいと思えますか。(それぞれ〇は一つ)

	参加したことがある		参加したことがない		
	今後参加したい	今後参加したくない	今後参加したい	今後参加したくない	
A 自治会や町内会など	1	2	3	4	5
B 老人会、女性会、青年会、こども会など	1	2	3	4	5
C 学校のPTA活動	1	2	3	4	5
D 民生委員などの公的委員	1	2	3	4	5
E NPO（民間非営利組織）やボランティアなど	1	2	3	4	5
F 趣味・スポーツ・学習などのサークル活動	1	2	3	4	5
G 防災訓練や講演会など地域での防災活動	1	2	3	4	5
H その他（具体的に）	1	2	3	4	5

一つでも「2」「4」と回答した方→問14-1へ  
それ以外の方→問15へ

問14-1は、問14で一つでも今後参加したくない（「2」）または「4」と回答した方にお聞きします。

問14-1 今後参加したくない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 仕事忙しい
2. 家事・育児・介護などで暇がない
3. 健康に自信がない
4. 人間関係がわずらわしい
5. 自分の意見や地域のニーズが反映されない
6. 自分の意見が男女平等に扱われない
7. 活動について情報が得られない
8. 性別や役割によって個人の負担が違う
9. 関心がない
10. 活動時間（時間帯）が合わない
11. その他（具体的に）

ここからはすべての方にお聞きします。

問15 地域の安全・安心に関する下記の項目についてお答えください。(それぞれ○は一つ)

	そう思う	ある程度そう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない
A お住まいの地域は犯罪が少なく、住みやすい	1	2	3	4	5
B 安心して電車や公園等の公共の場を利用できる	1	2	3	4	5
C 安心して子どもが外出や外遊びをすることができる	1	2	3	4	5
D 高齢者が安心して生活できる	1	2	3	4	5
E 夜道でも安心して歩くことができる	1	2	3	4	5
F 地域の防犯活動により、安心して生活できる	1	2	3	4	5

問16 あなたやあなたの家族が日頃から気にしている、または取り組んでいる防犯対策は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 防犯ブザーまたはホイッスルを携帯している (させている)
2. 「大阪府警察安まちメール」等で地域の犯罪発生情報に注意している
3. 防犯パトロールや子どもの見守り活動へ参加している
4. 暗い夜道等はなるべく避けるようにしている (させている)
5. その他 (具体的に )
6. 特にしていない

問17 あなたは普段、1日のうちで、以下の活動にどれくらいの時間を費やしていますか。平日、休日それぞれについて平均どのくらい費やしているかお答えください。(○はそれぞれ一つ)

(1) 仕事・学校 (通勤・通学時間を含む)

①平日 (仕事や学校がある日) (○は一つ)	②休日 (仕事や学校がない日)
1. なし (0分) 2. 4時間未満 3. 4時間～6時間未満 4. 6時間～8時間未満 5. 8時間～10時間未満 6. 10時間～12時間未満 7. 12時間以上	

(2) 家事 (炊事、買物、洗濯、掃除など)

①平日 (仕事や学校がある日) (○は一つ)	②休日 (仕事や学校がない日) (○は一つ)
1. なし (0分) 2. 30分未満 3. 30分～1時間未満 4. 1時間～2時間未満 5. 2時間～3時間未満 6. 3時間～4時間未満 7. 4時間～5時間未満 8. 5時間以上	1. なし (0分) 2. 30分未満 3. 30分～1時間未満 4. 1時間～2時間未満 5. 2時間～3時間未満 6. 3時間～4時間未満 7. 4時間～5時間未満 8. 5時間以上

(3) 育児

①平日 (仕事や学校がある日) (○は一つ)	②休日 (仕事や学校がない日) (○は一つ)
0. 育児の必要なこともない 1. なし (0分) 2. 30分未満 3. 30分～1時間未満 4. 1時間～2時間未満 5. 2時間～3時間未満 6. 3時間～4時間未満 7. 4時間～5時間未満 8. 5時間以上	0. 育児の必要なこともない 1. なし (0分) 2. 30分未満 3. 30分～1時間未満 4. 1時間～2時間未満 5. 2時間～3時間未満 6. 3時間～4時間未満 7. 4時間～5時間未満 8. 5時間以上

(4) 介護

①平日（仕事や学校がある日）（○は一つ）	②休日（仕事や学校がない日）（○は一つ）
0. 介護の必要な家族がいない	0. 介護の必要な家族がいない
1. なし（0分）	1. なし（0分）
2. 30分未満	2. 30分未満
3. 30分～1時間未満	3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満	4. 1時間～2時間未満
5. 2時間～3時間未満	5. 2時間～3時間未満
6. 3時間～4時間未満	6. 3時間～4時間未満
7. 4時間～5時間未満	7. 4時間～5時間未満
8. 5時間以上	8. 5時間以上

(5) 地域活動(自治会やPTAなど)

①平日（仕事や学校がある日）（○は一つ）	②休日（仕事や学校がない日）（○は一つ）
1. なし（0分）	1. なし（0分）
2. 30分未満	2. 30分未満
3. 30分～1時間未満	3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満	4. 1時間～2時間未満
5. 2時間～3時間未満	5. 2時間～3時間未満
6. 3時間～4時間未満	6. 3時間～4時間未満
7. 4時間～5時間未満	7. 4時間～5時間未満
8. 5時間以上	8. 5時間以上

問18 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
2. 家事、子育て、介護、地域活動の社会的な評価を高めること
3. 夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと
4. 労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
5. 男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること
6. 小さいときから男女ともに、家事や育児に関わるしつけ・教育をすること
7. 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
8. その他（具体的に）
9. 特に必要ない

7 様々な暴力についてお答えください。

問19 あなたは、最近3年の間に、職場・学校・地域などの身近なところで、**セクシュアル・ハラスメント**や職場における**妊娠・出産に関するハラスメント**、**育児休業等に関するハラスメント**を受けたことがありますか。

(1と2)に関しては、あなた自身及びパートナーについてお答えください。

※セクシュアル・ハラスメント…職場や学校などで相手の意に反した性的な発言や行動を行い、周囲に不快感を与えること。  
 ※職場における妊娠・出産に関するハラスメント…職場において行われる上司・同僚からの言動により、妊娠・出産した女性労働者の就業環境が悪されること。  
 ※職場における育児休業等に関するハラスメント…職場における上司・同僚からの言動により、育児休業を申請・取得した男女労働者の就業環境が悪されること。

(あてはまるものすべてに○)

	あなた		パートナー	
	職場を受けた	学校を受けた	職場を受けた	学校を受けた
A 地位や権限を利用して、性的な関係を迫られた	1	2	3	4
B 食事やデートにこきつけられた	1	2	3	4
C さわる、抱きつくなど肉体的接触を受けた	1	2	3	4
D 性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけられたり、性的な噂をたてられたりした	1	2	3	4
E 宴席で、お酌を強要された	1	2	3	4
F 異性との交際や結婚予定、出産予定などブライベートなことについてたびたび聞かれた	1	2	3	4
G しろしろ見られたり、容姿や年齢のことを話題にされた	1	2	3	4
H 「男のくせに」「女のくせに」などの性差別的な言葉をかけられた	1	2	3	4
I 妊娠・出産・育児休業の取得などをきっかけに、精神的・肉体的な嫌がらせを受けた	1	2	3	4
J 妊娠・出産・育児休業の取得などを理由に、解雇や雇い止め、自主退職の強要を受けた	1	2	3	4

一つでも「1」～「13」と回答した方→問19-1へ

すべて「14」と回答した方→問20へ

問19-1は、問19で一つでも「1」～「3」(ハラスメントを受けたことがある)と回答した方にお聞きします。

問19-1 あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 堺市各区役所「女性相談」
2. 堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」
3. 堺市立男女共同参画センター相談
4. 大阪府女性相談センター
5. 労働局の雇用環境・均等部(室)
6. 警察
7. 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラーなど)
8. 医療関係者(医師、看護師など)
9. 学校関係者(相談窓口、教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど)
10. 職場の相談窓口
11. 家族や親戚
12. 友人や知人
13. その他(具体的に.....)
14. どこ(だれ)にも相談しなかった

「14. どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した方→問19-2へ  
それ以外の方→問20へ

問19-2は、問19-1で「14.どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。

問19-2 あなたが、どこ(だれ)にも相談しなかったのはなぜですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. どこ/だれに相談してよいかわからなかった
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかった
3. 相談してもむだだと思った
4. 相談したことがわかると、もっとひどい暴力・嫌がらせを受けると思った
5. 加害者に「だれにも言うな」と脅された
6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った
7. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った
8. 世間体が悪い
9. 他の人を巻き込みたくなかった
10. 周囲の人と、これまでのようなつき合いができなくなると思った
11. そのことについて思い出しにくかった
12. 自分にも悪いところがあると思った
13. 相手の行為は愛情の表現だと思った
14. 相談するほどではないと思った
15. その他(具体的に.....)

問20は、すべての方にお聞きします。

問20 あなたはこれまで(こどものころを含めて)に、望まないのに性的な行為(※痴漢を含みます)をされたことがありますか。(○は一つ)

1. ある.....→問20-1へ
2. ない.....→問21へ

※痴漢…路上や商業施設などの公共の場所または電車やバスなどの公共の乗物において、衣服の上からまたは直接接触されたり、同意がなされたわいせつな行為。なお、ぶつかられた、怒鳴られた、じっと見られたなどの迷惑行為は除きます。

問20-1～4は、問20で「1.ある」と回答した方にお聞きします。

問20-1 あなたは、どのような被害にあいましたか。(○は一つ)

複数被害にあわれた方は、直近のことについてお答えください。

1. ※不同意性交等または不同意わいせつ行為
2. 痴漢
3. 性的姿勢の撮影
4. その他(具体的に.....)

※不同意性交等または不同意わいせつ行為…同意しない意思を形成したり、表明したり、全うすることか難しい状態で行われる性交等やわいせつ行為。

問20-2 あなたは、どこで被害にあいましたか。(○は一つ)

1. 乗り物
2. 路上
3. ショッピングモール等の商業施設
4. 家・共同住宅エレベーター
5. その他(具体的に.....)

問20-3 あなたは、性的な行為を行った者とはどのような方に知り合いましたか。(○は一つ)

1. 親族・友人・顔見知り
2. SNSを通じて
3. 全く知らない人
4. その他(具体的に.....)

問20-4 あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 堺市各区役所「女性相談」
2. 堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」
3. 堺市立男女共同参画センター相談
4. 堺市こころの健康センター「性暴力被害にあわれた女性のための心理カウンセリング」
5. 堺市配偶者暴力相談支援センター
6. 大阪府女性相談センター
7. 性暴力に関するSNS相談「Cure time (キュアタイム)」
8. 警察
9. 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラー、性暴力支援センター大阪SACHI(0)など)
10. 医療関係者(医師、看護師など)
11. 学校関係者(相談窓口、教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど)
12. 関係機関の職員(交通機関の職員、お店の職員など)
13. 家族や親戚
14. 友人や知人
15. その他(具体的に )
16. どこ(だれ)にも相談しなかった

「16.どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した方→問20-5へ  
それ以外の方→問21へ

問20-5 あなたが、どこ(だれ)にも相談しなかったと回答した方にお聞きします。

(あてはまるものすべてに○)

1. どこ/だれに相談してよいかわからなかった
2. 助すかしくてだれにも言えなかった
3. 相談してもむだと思った
4. 相談したことがわかると、もっとひどい暴力・嫌がらせを受けると思った
5. 加害者に「だれにも言うな」と脅された
6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った
7. 自分さえかまわずれば、なんとかこのままやっていけると思った
8. 世間体が悪い
9. 他人を巻き込みたくなかった
10. 周囲の人と、これまでのようなつき合いができなくなると思った
11. そのことについて悪い出しにくかった
12. 自分にも悪いところがあると思った
13. 相手の行為は愛情の表現だと思った
14. 相談するほどのことではないと思った
15. その他(具体的に )

8 配偶者や交際相手等からの暴力についておたずねします。

問21 あなたは、①「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」やその内容を知っていますか。また、②結婚していない交際中のパートナー間で起こる暴力を、特に、「デートDV」といいますが、あなたはこの「デートDV」という言葉やその内容を知っていますか。(それぞれ○は一つ)

	あることもその内容も知っている	あることは知っていたが、内容はよく知らない	あることを知らなかった
① DV防止法	1	2	3
② デートDV	1	2	3

問22 あなたは、配偶者や交際相手からの暴力についてどのような相談窓口を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)  
なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の配偶者も含まれます。

1. 堺市配偶者暴力相談支援センター
2. 堺市各区役所「女性相談」
3. 堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」
4. 堺市立男女共同参画センター相談
5. 大阪府女性相談センター
6. 内閣府DV相談+(プラス)
7. 警察
8. 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラー、民間シエルターなど)
9. 医療関係者(医師、看護師など)
10. 学校関係者(教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど)
11. その他(具体的に )
12. 知らない

問23 あなたは、配偶者や交際相手から次のようなことが相手に対して行われた場合、それを暴力だと思えますか。なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の配偶者も含まれます。(それぞれは一つ)

	暴力にあたる と思う	暴力にあたる 場合も、そう でない場合も あると思う	暴力にあたる とは思わない
A 平手で打つ	1	2	3
B なぐる・ける	1	2	3
C 家具などの物にあたる、壊す	1	2	3
D 自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する	1	2	3
E なぐるふりをし、おどす	1	2	3
F 大声でどなる	1	2	3
G 暴言をいったり、ばかにしたり、見下したりする	1	2	3
H 何を言っても、長期無視し続ける	1	2	3
I いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
J 避妊に協力しない	1	2	3
K 本人の許可なく性的な写真や動画を一般に公開する	1	2	3
L 他の異性との会話を許さない	1	2	3
M 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	1	2	3
N 交友関係や行き先、電話・メール・SNS (LINE 等) などを細かく監視する	1	2	3
O 家族や友人との関わりを持たせない	1	2	3
P 子どもに危害を加えたり、子どもを取り上げようとする、子どもの前で暴力を振るう	1	2	3

すべて「1」と回答した方→問24

一つでも「2」「3」と回答した方→問23-1

問23-1は、問23で一つでも「2. 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「3. 暴力にあたるとは思わない」と回答した方にお聞きします。

問23-1 そのような行為が「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と思ったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 夫婦間や交際相手間ではよくあることだから
2. 夫婦間や交際相手間では許されると思うから
3. 夫婦間や交際相手間の喧嘩の範囲だと思うから
4. 自分の考えをとおすために必要な場合があると思うから
5. 相手の間違いをただすために必要な場合があると思うから
6. 夫婦や交際相手なら、相手の行動や交際範囲を知るの(知られるのは)当たり前だと思うから
7. 経済力のある者には従うべきだと思うから
8. 愛情表現だと思うから
9. 暴力を振るわれた側にも非があったと思うから
10. その他 (具体的に )

問24は、すべての方にお聞きします。

問24 あなたは、結婚した経験、交際相手があった経験がありますか。なお、ここでの「結婚」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の配偶者も含まれます。(○は一つ)

1. 未婚 (結婚したことはない) で、現在も過去も交際相手があった経験はない  
...→ 問32
2. 未婚 (結婚したことはない) で、現在交際相手がいる、または過去に交際相手があった  
...→ 問26
3. 既婚 (現在、夫または妻がいる)、または離別 (結婚していたが、離婚した)、または死別 (結婚していたが、死別した)  
...→ 問25

問24で「3. 既婚、または離婚、または死別」と回答された方にお聞きします。

問25 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。  
 また「①これまで」で「1, 2度あった」「何度もあった」と回答した方は、「②この1年間」についてもお答えください。(それぞれ○は一つ)

	① これまで			② この1年間		
	まったく ない	1 2 3	何 度 も あ っ た	ま た く た く な い	1 2 3	何 度 も あ っ た
A なぐる、ける、物を投げつけるなど	1	2	3	1	2	3
B 生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど	1	2	3	1	2	3
C 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐる、なぐるふりをして脅す、無視するなど	1	2	3	1	2	3
D 嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど	1	2	3	1	2	3
E 携帯電話の番号やメールアドレスやSNS (LINE等) を勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど	1	2	3	1	2	3
F こどもの前で暴力を振るう、こどもの前でも「こどもに危害を加える」などと言って脅すなど	1	2	3	1	2	3

既婚、未婚に関わらず、現在・過去に交際相手がいる・いた人すべてにお聞きします。

問26 あなたは、現在及び過去に交際相手から次のようなことをされたことがありますか。  
 また、それは何歳の頃にされましたか。(それぞれあてはまるものすべてに○)

	10歳代の時にあった			20歳代の時にあった			30歳代以上の時にあった			
	ま た く た く な い	1 2 3	4	1 2 3	4	4	1 2 3	4	4	
A なぐる、ける、物を投げつけるなど		1	2	3	4		1	2	3	4
B 給料・バイト代や貯金を勝手に使われる、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど		1	2	3	4		1	2	3	4
C 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐる、なぐるふりをして脅す、無視するなど		1	2	3	4		1	2	3	4
D 嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど		1	2	3	4		1	2	3	4
E 携帯電話の番号やメールアドレスやSNS (LINE等) を勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど		1	2	3	4		1	2	3	4
F こどもの前で暴力を振るう、こどもの前でも「こどもに危害を加える」などと言って脅すなど		1	2	3	4		1	2	3	4

問25 (配偶者からの暴力)、問26 (交際相手からの暴力) で、暴力を受けた経験が  
 まったくない方→問31A  
 それ以外の方→問26-1A



問27-2は、問27で「Nどこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。

問27-2 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

	①配偶者から	②交際相手から
A どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから	1	1
B 恥ずかしくてだれにも言えなかったから	2	2
C 相談してもむだだと思ったから	3	3
D 自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	4	4
E 相手の仕返しが怖かったから(もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど)	5	5
F 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	6	6
G 自分さえかまわずれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	7	7
H 世間体が悪いと思ったから	8	8
I 他人を巻き込みたくなかったから	9	9
J 他人に知られると、これまで通りの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから	10	10
K そのことについて思い出しなくなかったから	11	11
L 自分にも悪いところがあると思ったから	12	12
M 相手の行為は愛情の表現だと思ったから	13	13
N 相談するほどのことではないと思ったから	14	14
O その他(具体的に)	15	15

問28は、配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある方に改めてお聞きします。

問28 あなたは、あなたの配偶者や交際相手からどのような行為を受けたとき、どうしましたか。①配偶者から②交際相手から、それぞれお答えください。

(それぞれ○は一つ)

	①配偶者から	②交際相手から
A 相手と別れた	1	1
B 別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった	2	2
C 別れたい(別れよう)とは思わなかった	3	3

「B. 別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と回答した方→問28-1へ

問28-1へ

問28-1は、問28で「B. 別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きします。

問28-1 あなたが、相手と別れなかった理由は何か。(あてはまるものすべてに○)

	①配偶者から	②交際相手から
A 相手の仕返しが怖かったから(もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど)	1	1
B 経済的な不安があったから	2	2
C 世間体が悪いと思ったから	3	3
D 相手には自分が必要だと思ったから	4	4
E これ以上は繰り返されたいと思ったから	5	5
F 周囲の人から、別れることに反対されたから	6	6
G 相手が別れることに同意しなかったから	7	7
H 相手が変わってくれるかもしれないと思ったから	8	8
I その他(具体的に)	9	9
J ともがいる(妊娠した)から、このことを考えたから	10	10

「J. ともがいる(妊娠した)から、このことを考えたから」と回答した方→問28-2へ  
それ以外の方→問29へ

問28-2は、問28-1で「J. ともがいるから、このことを考えたから」と回答した方にお聞きします。

問28-2 あなたが、このことで相手と別れなかった最も大きな理由は何か。

(○は一つ)

1. この間の保育所や学校の問題(保育所への転入が難しい、こどもが転校を嫌がるなど)
2. 相手に親権を奪われ、こどもと離れなければならない恐れがあったから
3. 出ていくならこどもを置いていけと言われたから
4. こどもをひとり親にしたくなかったから
5. 養育しながら生活する自信がなかったから
6. 相手とこどもだけで暮らすことになった場合、こどもに危害が加えられる恐れがあったから
7. こどもにこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから
8. その他(具体的に)

問29、問30は、配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある方に改めてお聞きします。

問29 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手から受けた暴力等によって、命の危険を感じたことがありますか。①配偶者から②交際相手からそれぞれでお答えください。（それぞれ○は一つ）

	①配偶者から	②交際相手から
(1) 感じた	1	1
(2) 感じなかった	2	2

問30 あなたは、配偶者や交際相手から受けたそのような行為によって、生活上の変化がありましたか。（あてはまるものすべてに○）

	①配偶者から	②交際相手から
A 夜、眠れなくなった	1	1
B 心身に不調をきたした (具体的に)	2	2
C 自分に自信がなくなった	3	3
D 誰のことも信じられなくなった	4	4
E 外出するのが怖くなった	5	5
F 人づきあいがうまくいかなかった	6	6
G 転居(引越)した	7	7
H 携帯電話の電話番号やメールアドレス、SNSのアカウントを削除した・変えた	8	8
I 仕事(アルバイト)をしばらく休んだ・やめた	9	9
J 学校・大学をしばらく休んだ・やめた	10	10
K 生きているのが嫌になった・死にたくなくなった	11	11
L 加害者や被害時の状況を思い出させるようなことがきっかけで、被害を受けたときの感覚がよみがえる	12	12
M その他(具体的に)	13	13
N 特になし	14	14

既婚、未婚に関わらず、現在・過去に交際相手がいる・いた人すべてにお聞きします。

問31 あなたの配偶者や交際相手は、お子さん(ご自身の子ども)だけでなく、配偶者や交際相手のことを含みます)に次のようなことをしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 子どもはいい
2. なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりする
3. 大声でなる、無視、存在否定、自尊心を踏みにじる行為など
4. 子どもの前であなたに暴力を振るったり、一方的に非難したりする
5. わいせつなものや性交を促せたり、性的な行為を強要することなど
6. 病気になっても病院を受診させない、食事を与えないなど
7. わからない
8. まったくない

ここからはすべての方にお聞きします。

問32 もしあなたの周りに、配偶者や交際相手から下記の(参考)で挙げているような暴力を受けている(かもしれない)人がいた場合、あなたはどんなことができると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 暴力を受けている人を医療機関や相談機関に連れて行く
2. 暴力を受けている人に相談先を紹介する
3. 暴力を受けている人と一緒に相談機関を調べる
4. 警察に通報する
5. 他人のことなので口出しすべきでないと思い、何もしない
6. どう対応したらいいかわからず、何もしない
7. その他(具体的に)
8. わからない

(参考)

- A 身体的な暴力(なぐる、ける、物を投げつけるなど)
- B 経済的な暴力(給料・バイト代や貯金を勝手に使われる、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど)
- C 精神的な暴力(人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど)
- D 性的な暴力(嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど)
- E 社会的な暴力(携帯電話の番号やメール・SNS(LINE等)を勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど)
- F 子どもを巻き込んだ暴力(子どもの前で暴力を振るう、子どもの前で一方的に非難する、子どもに暴力を振るう、「子どもに危害を加える」などと脅すなど)

問33 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
2. 地域・学校・家庭などで、暴力を防止するための教育を行う
3. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
4. 医療やこころのケア等のカウンセリングなどの専門相談を受けられる環境を整える
5. 被害者の保護や自立のための生活支援制度を充実させる
6. 被害者を発見しやすい立場の警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
7. 暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
8. 加害者への罰則を強化する
9. 地域社会にいる加害者の行動を監視する
10. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、オンラインゲームなど）を取り締まる
11. SNS等を用いた暴力を防ぐため、家庭や学校でSNSを利用する際のルールを教える
12. 男女間の経済的・社会的な地位や力の格差をなくす
13. その他（具体的に )
14. 特になし

## 9 防災対策についておたずねします。

問34 防災対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何だと思えますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗たくし場、世帯別の仕切り等）
2. 避難所の設計・運営に男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること
3. 災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、障害者、妊産婦へのサポート事業）
4. 公的施設の備蓄品の二重把握、保管方法、災害時に支給する際の配慮
5. 被災者に対する男女のニーズの違いに応じた相談体制や情報提供
6. 防災に関する会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること
7. 自主防災組織等に男女がともに参画し、地域で行われる防災活動に男女両方の視点が入ること
8. その他（具体的に )

## 10 男女共同参画に関する言葉や施策についておたずねします。

問35 次の言葉のうち、あなたが見たたり聞いたりしたことがあるものはどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 男女共同参画社会基本法
2. 女子差別撤廃条約
3. ポジティブ・アクション（積極的差別是正措置）
4. ジェンダー（社会的・文化的性別）
5. 男女雇用機会均等法
6. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
7. LGBTQ※1
8. SOGI（性的指向、性自認）
9. ダイバーシティ※2
10. 子ども・子育て支援法
11. 育児・介護休業法
12. 配偶者暴力防止法（DV防止法）
13. ストーカー規制法
14. リベンジポルノ防止法（私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関する法律）
15. 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）
16. 候補者男女均等法（政治分野における男女共同参画の推進に関する法律）
17. こと基本法
18. LGBTQ理解増進法（性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律）
19. 「刑法及び刑事訴訟法の一部を改正する法律」及び「性的な姿態を撮影する行為等の処罰及び押収物に記録された性的な姿態の画像に係る電磁的記録の消去等に関する法律」※3
20. 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律※4
21. 見たたり聞いたりしたものはなし

※1 LGBTQ・・・性的少数者の総称の一つ。

L (Lesbian レズビアン：女性として女性を好きになる人。女性同性愛者。)

G (Gay ゲイ：男性として男性を好きになる人。男性同性愛者。)

B (Bisexual バイセクシュアル：好きになる対象が女性・男性の両性である人。両性愛者。)

T (Transgender トランスジェンダー：性自認が出生時の性とは異なる人。)

Q (Questioning クエスチョニング：性的指向や性自認が決まらないう、分らない、決めたくない人。)

(Queer クイア：性的少数者を包括する言葉。元々は「変わった、奇妙な」という意味で同性愛者を侮蔑する言葉だったものが、当事者が前向きな意味で使い出した経緯がある。)

※2 ダイバーシティ・・・ダイバーシティ (Diversity) とは、直訳すれば「多様性」。様々な背景や特性を持つ人々が共存し、互いに尊重しあう状態。

※3 性犯罪により適切に対処できなくなるために、以下の2つの法が令和5年7月13日に施行された。

「刑法及び刑事訴訟法の一部を改正する法律」・・・「暴行」・「脅迫」・「心神喪失」・「抗拒不能」要件の改正、性交同意年齢の引上げ、身体の一部または物を挿入する行為の取扱いの見直し等について改正を行ったもの。

「性的な姿態を撮影する行為等の処罰及び押収物に記録された性的な姿態の画像に係る電磁的記録の消去等に関する法律」・・・性的姿態等撮影罪、性的画像記録提供等罪等の新設を行ったもの。

※4 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」・・・女性が日常生活または社会生活を営むに当たり、女性であることにより様々な困難な問題に直面することが多い「困難な問題を抱える女性」の福祉の増進を図るため、令和6年4月1日施行された。

問36 次の施策、取組のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                           |
|---------------------------|
| 1. 堺市男女平等社会の形成の推進に関する条例   |
| 2. さかい男女共同参画プラン           |
| 3. 堺市男女平等に関する苦情・相談処理制度    |
| 4. 堺市パートナーシップ宣誓制度         |
| 5. 堺市配偶者暴力相談支援センター        |
| 6. 堺市男女共同参画交流の広場          |
| 7. 女と男がいさるのやSAKAI宣言       |
| 8. セーフティさかい(堺セーフティ・プログラム) |
| 9. 堺 自由の泉大学               |
| 10. 見たり聞いたりしたものはない        |

問37 女性も男性もにもいきいきと暮らせる男女共同参画社会実現のために、国や大阪府、堺市は今後どのようなことを入れていくべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                             |
|---------------------------------------------|
| 1. 男女が平等になっていない法律や制度の見直しを行う                 |
| 2. 審議会委員や管理職など、政策、方針決定の場に女性を積極的に登用する        |
| 3. 企業などが女性の積極的な登用や男女の均等な取扱いを進めるよう働きかける      |
| 4. 育児・介護等を支援する施設、サービスを充実する                  |
| 5. 育児・介護中の仕事の継続や再就職を支援する                    |
| 6. ひとり親家庭や生活困難家庭の相談事業などの支援を充実する             |
| 7. 仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める         |
| 8. セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力等の防止や被害者への支援を充実する |
| 9. 幼少期からの生涯を通じた健康増進や性に関する教育・相談事業を推進する       |
| 10. 学校教育や生涯学習の場で男女共同参画に向けた学習を充実する           |
| 11. 政策・方針決定に関わる者や管理職の意識改革を進める               |
| 12. 男女共同参画に関する広報、情報提供、啓発活動を充実する             |
| 13. その他(具体的に )                              |
| 14. 特にない                                    |

問38 男女共同参画社会の実現にあたってご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。


最後に、あなたご自身のことについておたずねします。

F 1 何区にお住まいですか。(○は一つ)

- |       |       |        |
|-------|-------|--------|
| 1. 堺区 | 4. 西区 | 7. 美原区 |
| 2. 中区 | 5. 南区 |        |
| 3. 東区 | 6. 北区 |        |

F 2 あなたの性別をお答えください。

( ) 歳

F 3 あなたの年齢はどれに当てはまりますか。(記入日時点) (○は一つ)

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 18～19歳 | 7. 45～49歳  |
| 2. 20～24歳 | 8. 50～54歳  |
| 3. 25～29歳 | 9. 55～59歳  |
| 4. 30～34歳 | 10. 60～64歳 |
| 5. 35～39歳 | 11. 65～69歳 |
| 6. 40～44歳 | 12. 70歳以上  |

F 4 あなたが最後に通われた学校(中退を含む)はどれに当てはまりますか。  
在学中の方は、現在通学されている学校をお答えください。(○は一つ)

- |                                          |
|------------------------------------------|
| 1. 中学校、旧制小学校、旧制高等小学校                     |
| 2. 高等学校、中卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制中学校          |
| 3. 短大、高等専門学校、高卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制高校、専門学校 |
| 4. 大学、大学院                                |

F 5 あなたにはお子さんがいますか。(別居を含む) (○は一つ)

- |           |       |           |       |               |
|-----------|-------|-----------|-------|---------------|
| 1. いない    | →     | F 6       |       |               |
| 2. 女の子がいる | ..... | 3. 男の子がいる | ..... | 4. 女の子と男の子がいる |

F 5で「2」～「4」(子どもがいる)と答えたと答えた方にお聞きします。

F 5-1 お子さんは何人いますか。(別居を含む)

( ) 人

F 5-2 お子さんの成長段階は。(あてはまるものすべてに○)

- |           |               |
|-----------|---------------|
| 1. 小学校入学前 | 4. 高校生        |
| 2. 小学生    | 5. 高校卒業～19歳まで |
| 3. 中学生    | 6. 20歳以上      |

F 5-3 一番下のお子さんは何歳ですか。(記入日時点)

( ) 歳

ここからはすべての方にお聞きします。

F 6 現在、あなたの家族の構成はどれに当てはまりますか。(○は一つ)

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 1. ひとり暮らし        | 6. 祖父母と親(父と母)と子(三世代) |
| 2. 夫婦・カップルだけ     | 7. 祖父母と親(父)と子(三世代)   |
| 3. 親(父と母)と子(二世代) | 8. 祖父母と親(母)と子(三世代)   |
| 4. 親(父)と子(二世代)   | 9. その他               |
| 5. 親(母)と子(二世代)   | (具体的に)               |

F 7 昨年の、あなたの世帯(生計をともにしている家族全員)の収入の合計額は、税込みでどれくらいですか。(○は一つ)

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 200万円未満        | 5. 800万円以上1,000万円未満   |
| 2. 200万円以上400万円未満 | 6. 1,000万円以上1,500万円未満 |
| 3. 400万円以上600万円未満 | 7. 1,500万円以上          |
| 4. 600万円以上800万円未満 |                       |

F 8 昨年の、あなたの個人の収入は、税込みでどれくらいですか。  
また、あなたの配偶者・パートナーの個人の収入は、税込みでどれくらいですか。  
次の中から、それぞれあてはまるものの番号をご記入ください。

※配偶者・パートナーがいない方は、ご自身の欄だけご記入ください。

(1) 昨年のあなたの収入 ( ) 番  
(2) 昨年のあなたの配偶者・パートナーの収入 ( ) 番

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 収入なし           | 6. 400万円以上600万円未満     |
| 2. 103万円未満        | 7. 600万円以上800万円未満     |
| 3. 103万円以上130万円未満 | 8. 800万円以上1,000万円未満   |
| 4. 130万円以上200万円未満 | 9. 1,000万円以上1,500万円未満 |
| 5. 200万円以上400万円未満 | 10. 1,500万円以上         |

質問は以上です。  
お忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございました。  
調査の分析結果を堺市ホームページ等で皆さまにお知らせし、次期さかい男女共同参画プランに反映させます。

【お願い】記入もれ等がないかご確認のうえ、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、  
8月7日(木)までに郵便ポストに投函をお願いします。

## 相談機関一覧



### 様々な相談窓口

#### 堺市立男女共同参画センター相談

面接、電話、SNS、メール相談  
**面談、電話相談は**  
 TEL/FAX 072-224-8888 (相談専用)  
 火～日曜 午前9時～午後9時15分  
 (年末年始・月曜日を除く、月曜日が祝日のときは閉館)  
**メール、SNS 相談は**  
 コクリコさかい (堺市立男女共同参画センター)  
 HPから

#### 大阪府女性相談センター

面接、電話、FAX等  
 TEL 06-6949-6022, 06-6946-7890  
 FAX 06-6949-0075 (相談専用)  
 平 日 午前9時～20時  
 土・日 午前9時～17時  
 (いずれも祝日・年末年始を除く。)

#### 夜間・祝日DV電話相談

06-6946-7890  
 上記以外の時間

#### 内閣府DV相談+ (プラス)

電話 24時間受付  
 TEL 0120-279-889  
 チャット相談、プラス相談箱は、  
 内閣府 DV相談+HPから

#### 大阪弁護士会《DV・セクハラ・性被害の電話相談》

06-6364-6251  
 第2本曜 午前11時30分～午後1時30分

#### 性暴力に関するSNS相談 「Cure time (キユアタイム)」

SNS、メール相談 毎日17時～21時

#### 堺市各区役所の女性相談

堺 区 072-228-7023  
 中 区 072-270-0550  
 東 区 072-287-8198  
 西 区 072-343-5020  
 南 区 072-290-1744  
 北 区 072-258-6621  
 美原区 072-341-6411  
 ※女性相談員の相談時間は各区にお問い  
 合わせください。  
 月～金曜 午前9時～午後5時30分  
 (祝日・年末年始を除く)

#### 堺市配偶者暴力相談支援センター

072-228-3943  
 月～金曜 午前9時～午後5時30分  
 (祝日・年末年始を除く)

#### 堺市夜間・休日DV電話相談

072-280-2526  
 堺市配偶者暴力相談支援センターの受付時間以外

#### 警察の相談窓口(24時間)

堺 072-223-1234 北堺 072-250-1234  
 西堺 072-274-1234 中堺 072-242-1234  
 南堺 072-291-1234 黒山 072-362-1234

#### 性犯罪・性暴力被害者のための ワンストップ支援

センター 全国共通短番番号 < #8891 >  
 発信場所から最寄りのワンストップ支援センター  
 につながります

#### 性犯罪被害 110 番 (24 時間)

《性犯罪被害にあった方の相談専用電話》  
 0120-548-110 < #8103 >  
 (性犯罪被害相談電話全国共通番号)

### カウンセリング

#### 堺市こころの健康センター 《性暴力被害にあわれた女性 のための心理カウンセリング》

072-245-9192 (面接予約)  
 月～金曜 午前9時～午後5時30分  
 (祝日・年末年始を除く)

#### 堺市男女共同参画交流の広場

女性の悩みの相談 (面接のみ)  
 男性の悩みの相談 (面接及び電話)  
 072-236-8266 (面接相談予約)  
 火～土曜 午前10時～午後9時  
 日曜 午前10時～午後4時30分  
 (祝日・年末年始を除く)

## 性暴力で苦しんでいませんか？



誰にも相談できずに、悩んでいませんか？  
 あなたは、何も悪くありません。  
 あなたには、どんな責任もありません。  
 わたしたちは、あなたのことを心配しています。  
 まずは、相談してください。  
 あなたの秘密は守ります。



堺市 性暴力相談

検 索



## 堺市男女共同参画に関する市民意識・実態調査報告書

2026（令和8）年3月発行

堺市 市民人権局 ダイバーシティ推進部 ダイバーシティ企画課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号

TEL 072-228-7408

FAX 072-228-8070

堺市配架資料番号 1-D3-26-0060